九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)

長尾開拓遺跡

１９８８年3月

佐賀県教育委員会

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)

長尾開拓遺跡

1988年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第88集
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 (8)

長尾開拓遺跡

山王遺跡
長尾開拓遺跡

1988年3月

佐賀県教育委員会

序

この報告書は、佐賀県教育委員会が日本道路公団の委託を受けて、昭和51年度から実施した九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録の一部であります。

今回の報告は、昭和57年度から昭和59年度までに発掘調査を実施した、多久市所在の「山王遺跡」と「長尾開拓遺跡」のものです。これらの遺跡は旧石器時代から縄文時代にわたっていますが、とくに長尾開拓遺跡からは数万点にもおよぶ旧石器時代の石器が出土しており、石器製作場跡の発見として学術上極めて重要な調査となりました。

本報告書を通し、埋蔵文化財に対してなお一層のご理解をいただくとともに、今後の学術研究に少しでも寄与できることを願うものであります。

なお、発刊にあたり、調査にご協力をいただきました地元の多久市教育委員会をはじめ、関係各位に対して心から感謝申し上げます。

昭和63年 3 月

佐賀県教育委員会
教育長 志 岐 常 文

例　　言

1．本書は九州横断自動車道建設に伴う事前調査として昭和56年度から昭和59年度にかけて発掘調査した多久市所在の山王遺跡・長尾開拓遺跡の調査報告書である。
2．発掘調査は、日本道路公団の委託事業として佐賀県教育委員会が実施した。
3．発掘調査にあたっては、多久市・多久市教育委員会、および地元の方々の御協力を得た。
4．本書の執筆は西村隆司が担当した。
5．遺構の実測は調査員並びに調査補助員と多久発掘事務所の江藤敦子・花田悦子・西村明美他が行い、遺物の実測は加藤洋子・坪上章子・山田百合子・山口邦子が行った。製図は帆土美智子・加藤・坪上・山田・山口・西村が行った。遺構の写真撮影は各調査員が、遺物写真撮影は西村が行い、写真の現像は古賀栄子が行い、焼付は古賀、西村が行った。
6．本文の作成・編集は西村隆司が行った。

凡　　例

1．遺構の寸法数字はm単位、遺物の寸法数字はcm単位を原則とした。
2．遺物番号は各遺跡ごとに一連番号を付した。
3．実測図基準は国土座標による。

本 文 目 次

Ⅰ．調査の概要 …… 1
　1．調査に至る経過 …… 3
　2．調査組織 …… 6
Ⅱ．多久市の地理的・歴史的環境 …… 9
　1．地理的環境 …… 11
　2．歴史的環境 …… 13
Ⅲ．山王遺跡 …… 21
　1．遺跡の概要 …… 23
　2．山王遺跡の地形 …… 24
　3．山王遺跡の層序 …… 26
　4．山王遺跡調査区の層位 …… 57
　5．遺構 …… 57
　6．遺物 …… 72
　7．石器の接合 …… 137
　8．小結 …… 139
Ⅳ．長尾開拓遺跡 …… 141
　1．遺跡の概要 …… 143
　2．遺跡 …… 144
　3．遺物 …… 179
　4．小結 …… 222

挿 図 目 次

Fig. 1　多久市の位置 ……11
Fig. 2　多久市の地質図 ……12
Fig. 3　茶園原東の原遺跡のサヌカイト原石露頭……14
Fig. 4　茶園原西畑遺跡遺物出土状態……14
Fig. 5　東の原1630番地遺跡出土緑長石核、剝片……14
Fig. 6　多久市内の主要遺跡分布図（旧石器時代）……15
Fig. 7　大工田遺跡出土縄文土器……16
Fig. 8　牟田辺遺跡出土住居跡群……17
Fig. 9　多久市内の主要遺跡分布図（縄文時代～弥生時代）……17
Fig. 10　多久市内の主要遺跡分布図（古墳時代～歴史時代）……19
Fig. 11　山王遺跡周辺遺跡分布図……22
Fig. 12　山王遺跡周辺地形図……24
Fig. 13　山王遺跡調査区周辺の地形測量図、グリッド区割図……25
Fig. 14　山王遺跡調査区地形断面図２Ｆ21～２Ｆ25・３Ｆ21～３Ｆ25・４Ｆ21～４Ｆ25（西壁）…… 27～28
Fig. 15　山王遺跡調査区地形断面図５Ｆ21～５Ｆ25・６Ｆ21～６Ｆ25・７Ｆ21～７Ｆ22・８Ｆ24～８Ｆ25・９Ｆ21～９Ｆ25（西壁）…… 29～30
Fig. 16　山王遺跡調査区地形断面図５Ｅ20～５Ｅ25・５Ｆ５～５Ｆ25・５Ｇ５～５Ｇ25・５Ｈ５～５Ｈ25（南壁）…… 31～32
Fig. 17　山王遺跡調査区地形断面図５Ｉ５～５Ｉ25・５Ｊ５～５Ｊ25・５Ｋ５～５Ｋ20（南壁）…… 33～34
Fig. 18　山王遺跡地層断面図…… 35～36
Fig. 19　山王遺跡４Ｆ１～４Ｆ４（東壁）・４Ｆ21～４Ｆ25（西壁）・４Ｆ１～４Ｆ21（北壁）・４Ｆ４～４Ｆ24（南壁）グリッド地層断面図…… 37～38
Fig. 20　山王遺跡５Ｆ１～５Ｆ５・５Ｆ６～５Ｆ10・５Ｆ11～５Ｆ15・５Ｆ16～５Ｆ20・５Ｆ21～５Ｆ25（西壁）グリッド地層断面図…… 39～40
Fig. 21　山王遺跡５Ｆ１～５Ｆ21・５Ｆ２～５Ｆ22・５Ｆ３～５Ｆ23.５Ｆ４～５Ｆ24・５Ｆ５～５Ｆ25（南壁）グリッド地層断面図…… 41～42
Fig. 22　山王遺跡６Ｆ１～６Ｆ５・６Ｆ６～６Ｆ10・６Ｆ11～６Ｆ15・６Ｆ16～６Ｆ20・６Ｆ

21～6F25（西壁）地層断面図…… 43～44
Fig. 23 山王遺跡6F21～6F25（西壁）、6F3～6F23・6F4～6F24・6F5・6F25（南壁）グリッド地層断面図…… 45～46
Fig. 24 山王遺跡5G7～5G10・5G12～5G15・5G17～5G20・5G23～5G25（西壁）グリッド地層断面図…… 47～48
Fig. 25 山王遺跡5G2～5G17・5G3～5G23・5G4～5G24・5G5～5G25（北壁）グリッド地層断面図…… 49～50
Fig. 26 山王遺跡7J1～7J5・7J6～7J10・7J11～7J15・7J16～7J20（西壁）グリッド地層断面図…… 51～52
Fig. 27 山王遺跡7J21～7J25（西壁）7J1～7J21・7J2～7J22・7J3～7J23（北壁）グリッド地層断面図…… 53～54
Fig. 28 山王遺跡7J4～7J24・7J5～7J25（北壁）グリッド地層断面図…… 55～56
Fig. 29 山王遺跡土壙配置図……58
Fig. 30 山王遺跡SK001土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図……59
Fig. 31 山王遺跡SK001土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(2)……60
Fig. 32 山王遺跡SK001土壙遺物出土状態平面分布図(1)……61
Fig. 33 山王遺跡SK001土壙遺物出土状態平面分布図(2)……62
Fig. 34 山王遺跡SK001土壙遺物出土状態平面分布図(3)……63
Fig. 35 山王遺跡SK001土壙遺物出土状態平面分布図(4)……64
Fig. 36 山王遺跡SK002土壙遺物出土状態平面分布図(1)……65
Fig. 37 山王遺跡SK002土壙遺物出土状態平面分布図(2)……66
Fig. 38 山王遺跡SK003土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(1)……67
Fig. 39 山王遺跡SK003土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(2)……68
Fig. 40 山王遺跡SK003土壙遺物出土状態平面分布図(1)……68
Fig. 41 山王遺跡SK003土壙遺物出土状態平面分布図(2)……69
Fig. 42 山王遺跡SK003土壙遺物出土状態平面分布図(3)……70
Fig. 43 山王遺跡SK003土壙遺物出土状態平面分布図(4)……71
Fig. 44 山王遺跡出土剝片尖頭器・ナイフ形石器実測図……79
Fig. 45 山王遺跡出土ナイフ形石器、台形様石器実測図……80
Fig. 46 山王遺跡出土台形様石器実測図……81
Fig. 47 山王遺跡出台形様石器実測図……82
Fig. 48 山王遺跡出細石核、細石刃実測図……83
Fig. 49 山王遺跡出土尖頭器実測図……84

Fig. 50　山王遺跡出土尖頭器実測図……85
Fig. 51　山王遺跡出土尖頭器実測図……86
Fig. 52　山王遺跡出土尖頭器実測図……87
Fig. 53　山王遺跡出土尖頭器実測図……88
Fig. 54　山王遺跡出土尖頭器実測図……89
Fig. 55　山王遺跡出土尖頭器実測図……90
Fig. 56　山王遺跡出土尖頭器実測図……91
Fig. 57　山王遺跡出土尖頭器実測図……92
Fig. 58　山王遺跡出土尖頭器実測図……93
Fig. 59　山王遺跡出土尖頭器実測図……94
Fig. 60　山王遺跡出土尖頭器実測図……95
Fig. 61　山王遺跡出土尖頭器実測図……96
Fig. 62　山王遺跡出土尖頭器実測図……97
Fig. 63　山王遺跡出土尖頭器実測図……98
Fig. 64　山王遺跡出土尖頭器実測図……99
Fig. 65　山王遺跡出土尖頭器実測図……100
Fig. 66　山王遺跡出土尖頭器実測図……101
Fig. 67　山王遺跡出土尖頭器実測図……102
Fig. 68　山王遺跡出土尖頭器実測図……103
Fig. 69　山王遺跡出土尖頭器実測図……104
Fig. 70　山王遺跡出土尖頭器実測図……105
Fig. 71　山王遺跡出土尖頭器実測図……106
Fig. 72　山王遺跡出土尖頭器実測図……107
Fig. 73　山王遺跡出土尖頭器実測図……108
Fig. 74　山王遺跡出土尖頭器実測図……109
Fig. 75　山王遺跡出土尖頭器実測図……110
Fig. 76　山王遺跡出土鏃形石器実測図……111
Fig. 77　山王遺跡出土掻器、円形掻器実測図……112
Fig. 78　山王遺跡出土削器、局部磨製石器実測図……113
Fig. 79　山王遺跡出石土匙、石錐実測図……132
Fig. 80　山王遺跡出土尖頭器接合関係平面図……138
Fig. 81　長尾開拓遺跡周辺遺跡分布図……142
Fig. 82　長尾開拓遺跡周辺地形図……143

Fig. 83　長尾開拓遺跡グリッド区割図……145～146
Fig. 84　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区トレンチ・グリッド区割図……147
Fig. 85　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区グリッド区割図……147
Fig. 86　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区グリッド区割図……148
Fig. 87　長尾開拓遺跡３Ｅ４～４Ｅ９、(東西壁) ２Ｄ14～２Ｅ13、３Ｅ22～３Ｆ21（南北壁）グリッド地層断面図……149～150
Fig. 88　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区層序図……152
Fig. 89　長尾開拓遺跡７Ｅ１～６Ｅ１・８Ｅ21～７Ｅ11（北壁）７Ｂ８～７Ｃ10・７Ｄ６～７Ｄ９（東壁）グリッド地層断面図……153～154
Fig. 90　長尾開拓遺跡10Ｅ17～11Ｅ７（南壁）11Ｅ15～12Ｅ10（北壁）９Ｄ18～11Ｄ13（北壁）11Ｅ３～12Ｆ１（西壁）グリッド地層断面図……159～160
Fig. 91　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区９Ｄグリッド上層遺物出土状態平面分布図……161～164
Fig. 92　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｄグリッド上層遺物出土状態平面分布図……165～168
Fig. 93　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｅグリッド上層遺物出土状態平面分布図……169～172
Fig. 94　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区９Ｄグリッド下層遺物出土状態平面分布図……173～174
Fig. 95　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｅグリッド下層遺物出土状態平面分布図……173～174
Fig. 96　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｄグリッド下層遺物出土状態平面分布図……175～176
Fig. 97　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区16Ｇ４～16Ｈ２・16Ｈ３～16Ｉ３・19Ｉ17～19Ｉ20・19Ｊ16～19Ｋ17（東壁）グリッド地層断面図……177～178
Fig. 98　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図……180
Fig. 99　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図……181
Fig. 100　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図……182
Fig. 101　長尾開拓遺跡出土縦長剝片実測図……183
Fig. 102　長尾開拓遺跡出土縦長剝片実測図……184
Fig. 103　長尾開拓遺跡出土縦長剝片実測図……185
Fig. 104　長尾開拓遺跡出土縦長剝片・ナイフ形石器実測図……186
Fig. 105　長尾開拓遺跡出土三陵尖頭器・船底形石器実測図……187
Fig. 106　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……188
Fig. 107　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……189
Fig. 108　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……190
Fig. 109　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……191
Fig. 110　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……192
Fig. 111　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……193

Fig. 112　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……194
Fig. 113　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……195
Fig. 114　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……196
Fig. 115　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……197
Fig. 116　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……198
Fig. 117　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……199
Fig. 118　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……200
Fig. 119　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……201
Fig. 120　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……202
Fig. 121　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……203
Fig. 122　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……204
Fig. 123　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図……205
Fig. 124　長尾開拓遺跡出土台形様石器実測図……205
Fig. 125　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図……206
Fig. 126　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図……207
Fig. 127　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図……208
Fig. 128　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区尖頭器製作工房跡遺構尖頭器接合関係図……208
Fig. 129　長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧実測図……219
Fig. 130　長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧実測図……220
Fig. 131　長尾開拓遺跡出土石鏃・石匙実測図……221

表　目　次

Tab. 1　九州横断自動車道多久市関係文化財調査一覧表……5
Tab. 2　山王遺跡土壌出土遺物層位別組成一覧表……71
Tab. 3　山王遺跡5E調査区出土遺物層位別組成一覧表……72
Tab. 4　山王遺跡4F調査区出土遺物層位別組成一覧表……72
Tab. 5　山王遺跡5F調査区出土遺物層位別組成一覧表……72～73
Tab. 6　山王遺跡6F調査区出土遺物層位別組成一覧表……73～74
Tab. 7　山王遺跡7F調査区出土遺物層位別組成一覧表……75
Tab. 8　山王遺跡4G調査区出土遺物層位別組成一覧表……75
Tab. 9　山王遺跡5G調査区出土遺物層位別組成一覧表……75～76

Tab. 10　山王遺跡６Ｇ調査区出土遺物層位別組成一覧表……76
Tab. 11　山王遺跡７Ｉ調査区出土遺物層位別組成一覧表……77
Tab. 12　山王遺跡７Ｊ調査区出土遺物層位別組成一覧表……77
Tab. 13　山王遺跡出土剝片尖頭器・ナイフ形石器・台形様石器計測表……115
Tab. 14　山王遺跡出土尖頭器計測表……116～130
Tab. 15　山王遺跡出土鏃形石器計測表……130
Tab. 16　山王遺跡出土石鏃計測表……133～137
Tab. 17　山王遺跡出土尖頭器接合資料一覧表……137
Tab. 18　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区１Ｄグリッド出土遺物一覧表……151
Tab. 19　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区１Ｅグリッド出土遺物一覧表……151
Tab. 20　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区２Ｄグリッド上層出土遺物一覧表……151
Tab. 21　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区２Ｄグリッド上層出土遺物一覧表……151
Tab. 22　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区２Ｅグリッド出土遺物一覧表……151
Tab. 23　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区３Ｅグリッド出土遺物一覧表……151
Tab. 24　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区３Ｆグリッド出土遺物一覧表……152
Tab. 58　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区４Ｅグリッド出土遺物一覧表……152
Tab. 26　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区４Ｆグリッド出土遺物一覧表……152
Tab. 27　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区９Ｄグリッド上層出土遺物一覧表……158
Tab. 28　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区９Ｄグリッド下層出土遺物一覧表……158
Tab. 29　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｄグリッド上層出土遺物一覧表……158
Tab. 30　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｄグリッド下層出土遺物一覧表……158
Tab. 31　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｅグリッド上層出土遺物一覧表……158
Tab. 32　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｅグリッド下層出土遺物一覧表……158
Tab. 33　長尾開拓遺出土船底形石器計測表……209
Tab. 34　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区出土尖頭器計測表……210～218

図　版　目　次

（山王遺跡）

PL. 1　山王遺跡遠景、同近景＜航空写真＞
PL. 2　山王遺跡近景＜航空写真＞、同５Ｆ～６Ｆグリッド
PL. 3　山王遺跡７Ｅ土層断面、同

PL. 4　山王遺跡７Ｅ土層断面、同７Ｆ土層断面
PL. 5　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態
PL. 6　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態
PL. 7　山王遺跡ＳＫ001土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 8　山王遺跡ＳＫ001土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 9　山王遺跡ＳＫ001土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 10　山王遺跡ＳＫ001土壙ベルト部分遺物出土状態、同ＳＫ002土壙遺物出土状態
PL. 11　山王遺跡ＳＫ002土壙遺物出土状態
PL. 12　山王遺跡ＳＫ002土壙遺物出土状態
PL. 13　山王遺跡ＳＫ002土壙遺物出土状態
PL. 14　山王遺跡ＳＫ002土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 15　山王遺跡ＳＫ002土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 16　山王遺跡ＳＫ002土壙ベルト部分遺物出土状態
PL. 17　山王遺跡ＳＫ002土壙ベルト部分遺物出土状態、同ＳＫ003土壙遺物出土状態
PL. 18　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態
PL. 19　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態
PL. 20　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態
PL. 21　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態
PL. 22　山王遺跡５Ｆ８Ⅱｄ層遺物出土状態、同５Ｆ４Ⅲｃ層遺物出土状態
PL. 23　山王遺跡出土剝片尖頭器・ナイフ形石器
PL. 24　山王遺跡出土台形様石器
PL. 25　山王遺跡出土細石核・細石刃
PL. 26　山王遺跡出土尖頭器
PL. 27　山王遺跡出土尖頭器
PL. 28　山王遺跡出土尖頭器
PL. 29　山王遺跡出土尖頭器
PL. 30　山王遺跡出土尖頭器
PL. 31　山王遺跡出土尖頭器
PL. 32　山王遺跡出土尖頭器
PL. 33　山王遺跡出土尖頭器
PL. 34　山王遺跡出土尖頭器
PL. 35　山王遺跡出土尖頭器
PL. 36　山王遺跡出土尖頭器

PL. 37　山王遺跡出土尖頭器
PL. 38　山王遺跡出土尖頭器
PL. 39　山王遺跡出土尖頭器
PL. 40　山王遺跡出土尖頭器
PL. 41　山王遺跡出土鏃形石器
PL. 42　山王遺跡出土掻器・円形掻器・削器・局部磨製石器
PL. 43　山王遺跡出土石匙・石鏃
（長尾開拓遺跡）
PL. 44　長尾開拓遺跡遠景（北から）、同（南から）
PL. 45　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区全景（東から）、同（西から）
PL. 46　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区２Ｄ～２Ｅグリッド付近遺物出土状態、同３Ｅ～４Ｅグリッド付近遺物出土状態
PL. 47　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区３Ｅ23付近遺物出土状態、同２Ｅ付近遺物出土状態
PL. 48　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区土層（北壁）、同（南壁）
PL. 49　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区７Ｄ～８Ｄ付近遺物出土状態上面（昭和58年）、同下面（昭和58年）
PL. 50　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区尖頭器製作工房跡遺構（西から）、同（東から）
PL. 51　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態
PL. 52　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態
PL. 53　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区尖頭器製作工房跡遺構下層遺物出土状態、同尖頭器出土状態
PL. 54　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区13Ｆ～13Ｇ付近トレンチ完掘状態（北から）、同（東から）
PL. 55　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区13Ｆ～14Ｆ土層（北壁）
PL. 56　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区上面遺物出土状態（南東部）、同（北西部）
PL. 57　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区16Ｈ～16Ｉ土層、同17Ｈ～17Ｉ土層、同16Ｈ～17Ｈ土層
PL. 58　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区土層（工事中）、同第Ⅲ調査区南側台地土層
PL. 59　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核
PL. 60　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核
PL. 61　長尾開拓遺跡出土縦長剝片
PL. 62　長尾開拓遺跡出土縦長剝片
PL. 63　長尾開拓遺跡出土縦長剝片・ナイフ形石器
PL. 64　長尾開拓遺跡出土三陵尖頭器・船底形石器
PL. 65　長尾開拓遺跡出土船底形石器
PL. 66　長尾開拓遺跡出土船底形石器

PL. 67　長尾開拓遺跡出土船底形石器
PL. 68　長尾開拓遺跡出土船底形石器
PL. 69　長尾開拓遺跡出土船底形石器
PL. 70　長尾開拓遺跡出土船底形石器・同台形様石器
PL. 71　長尾開拓遺跡出土尖頭器
PL. 72　長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧
PL. 73　長尾開拓遺跡出土石鏃・石匙

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ．調査の概要

1．調査に至る経過

佐賀県における九州横断自動車道の建設計画に伴う遺跡の分布調査は昭和44年６月に始まり、昭和45年度・昭和48年度と数次にわたり実施、昭和51年度の路線及び道路幅の決定によって鳥栖～佐賀間27.2kmを踏査、97か所、約563,300㎡におよぶ遺跡を確認した。昭和52年度には佐賀～武雄間26.9kmを踏査、98か所、約537,000㎡の遺跡を確認した。このうち多久市内の工事区間に分布する遺跡は32か所、133,170㎡におよんだ。

多久市内の工事区間は11.3kmと県内最長の距離で、インターチェンジやパーキングエリヤが建設されるため、工事期間の長期化と供用時期の関係から佐賀大和インター以西で最初に工事が発注されることになり、埋蔵文化財の発掘調査も工事に先行し、昭和54年度に開始した。昭和54年11月、南多久町大字下多久字三本松所在の三本松遺跡、多久町字西田、字松瀬所在の松瀬遺跡、南多久町大字長尾字米満所在の米満遺跡（現在の長尾開拓遺跡）と相次いで掘削機を投入、遺構検出のための確認調査を実施した。

昭和55年度は４月から多久インターの南、北多久町大字多久原字大工田所在の大工田Ａ遺跡の本調査を実施、６月には字千里地所在の両ノ原遺跡の確認調査、南多久町大字下多久字十井手所在の十井手遺跡の本調査を実施、８月から東多久町大字別府字池ノ平所在の池ノ平遺跡、字池ノ平、字大平、字堤口所在の山の上古墳群の本調査を実施した。池ノ平遺跡や山の上古墳群は九州横断自動車道に並行して建設される東多久バイパス予定地まで遺跡が広がり、調査も並行して実施した。今出川Ａ遺跡では縄文時代後期～晩期の遺物包含層と古墳時代前期の住居跡３棟を検出した。十井手遺跡は旧石器時代のナイフ形石器、台形様石器、三稜尖頭器、尖頭器などの石器や縄文時代中期の土器片、石鏃、石斧などが出土した。池ノ平遺跡では縄文時代晩期の土器片や石器類、弥生時代の土器片などを出土したが、遺構は検出できなかった。山の上古墳群は16基から成る古墳群で、14基が調査の対象となり、九州横断自動車道分７基、東多久バイパス分７基を発掘、須恵器、土師器、鉄器、装身具などが多量に出土した。

昭和56年度は４月から多久町字向鶴所在の向鶴遺跡の確認調査、山の上古墳群の遺構実測、５月には東多久町大字別府字石亀谷所在の石亀谷遺跡、字射場谷所在の射場谷遺跡、北多久町大字多久原字大工田所在の今出川Ｂ遺跡、字建長寺所在の建長寺遺跡の本調査を実施した。６月から字大工田所在の大工田古墳群を調査し、８月には多久町字山王所在の山王遺跡の調査を開始した。山王遺跡の調査に並行して、１月に北多久町大字多久原字原田所在の原田遺跡、多

久町字湯町所在の撰分遺跡、東多久町大字別府字出口所在の出口Ｂ遺跡、字通原所在の宝蔵寺Ｂ遺跡、２月には字茂手所在の仁位所遺跡の調査を実施した。向鶴遺跡は昭和初期に区画整理が実施された水田で、遺構は消滅、縄文時代晩期～弥生時代の遺物が散布するだけであった。石亀谷遺跡、射場谷遺跡も果樹園に開墾され、古墳は消滅、縄文時代の石鏃や剥片、須恵器片が出土しただけで遺構は検出できなかった。今出川Ｂ遺跡では縄文時代後期の土器片と奈良時代～平安時代の須恵器・土師器の杯、杯蓋や円筒形土器、ふいごの羽口などが土壙や柱穴から出土した。建長寺遺跡は中世末～近世の墓地であったが、すでに移転が完了していた。大工田古墳群の３基の古墳は今出川産出の円礫を用いた古墳でＳＴ002古墳は市内で最初に確認された片袖式の横穴式石室を有した。遺物は鉄器、装身具、須恵器、土師器などの副葬品のほかに、鎌倉時代の白磁椀や土師器杯、瓦器杯が出土した。山王遺跡は旧石器時代～縄文時代の石器類が多数出土。旧石器時代のナイフ形石器、台形様石器、細石核、細石刃、尖頭器、鏃形石器などが出土、茶園原遺跡で特徴的に出土する圭頭形尖頭器も多く含まれ、多久型の尖頭器と黒曜石製石器の層位的関係が注目された。原田遺跡は縄文時代の土壙や弥生時代の甕棺墓、祭祀遺構を検出。甕棺の下に礫石を敷く埋葬法がみられた。撰分遺跡は調査区全体に遺構が広がり、旧石器時代～縄文時代～弥生時代～古墳時代～鎌倉時代～室町時代～江戸時代の遺構、遺物が出土、遺物の種類、量とも豊富であった。西側台地部～裾部に旧石器時代のナイフ形石器や尖頭器、縄文時代の石鏃が散布し、調査区の東側に弥生時代の住居跡や甕棺墓、溝状遺構と古墳時代の住居跡などが集中した。中央部から西側付近に平安時代～鎌倉時代の遺構があり、江戸時代の遺構は西側台地裾部の東側の微高地上に立地、多量の陶磁器類が出土した。出口Ｂ遺跡、宝蔵寺Ｂ遺跡、仁位所遺跡は遺構が削平され、弥生時代～古墳時代の土器片が僅かに出土しただけであった。

昭和57年度は４月に多久町字島田の島田遺跡に掘削器を搬入し、確認調査を実施すると共に、前年度に引き続き山王遺跡、撰分遺跡の調査を続けた。12月に多久町字外鶴、字井手山に所在する山崎遺跡を掘削機で確認調査、１月に仁位所遺跡の残り分、字出口所在の出口Ａ遺跡、２月には字西出口、字岡本、字七ツ枝に所在する西出口遺跡の調査を実施した。島田遺跡は昭和初期の区画整理によって削平され、遺構は検出できなかった。山崎遺跡も遺構、遺物は検出できなかった。仁位所遺跡、出口Ａ遺跡、西出口遺跡では出口Ａ遺跡で土壙内から弥生時代の甕が出土、西出口遺跡では土壙と掘立柱建物跡を検出、古墳時代の土師器が出土した。山王遺跡は調査が終了し、撰分遺跡も一部を残し主要部分の調査を終えた。

昭和58年度は撰分遺跡の西側台地部と前年度の表土置場分の調査を実施。６月に東多久町大字別府字弥平ケ谷所在の中村谷遺跡、字野入と北多久町大字多久原字鴻ノ巣の両町に跨がる鴻ノ巣遺跡の調査を実施。７月に字野入所在の野入遺跡、９月に南多久町大字長尾字松ノ内、字倉富所在の倉富遺跡を掘削機で確認調査。10月には字米満所在の長尾開拓遺跡の調査を開始し

Tab. 1　九州横断自動車道多久市関係文化財調査一覧表

調査年度	遺跡名	調査期間	調査面積(㎡)
54	三本松遺跡	昭和54年11月26日～12月4日	3,000
	松瀬遺跡	昭和54年12月5日～55年1月19日	21,900
	米満遺跡	昭和55年1月21日～3月31日	2,100
55	今出川A遺跡	昭和55年4月2日～6月15日	5,000
	両ノ原遺跡	昭和55年6月16日	1,000
	十井手遺跡	昭和55年6月17日～8月22日	10,500
	池ノ平遺跡	昭和55年8月23日～9月8日	1,640
	山の上古墳群	昭和55年9月9日～56年3月31日	4,000
56	向鶴遺跡	昭和56年4月1日～4月11日	4,200
	山の上遺跡	昭和56年4月12日～4月30日	910
	石亀谷遺跡	昭和56年5月1日～5月16日	2,540
	射場谷遺跡	昭和56年5月18日～5月21日	3,730
	今出川B遺跡	昭和56年5月6日～8月7日	2,200
	建長寺遺跡	昭和56年5月23日～5月29日	1,600
	大工田古墳群	昭和56年6月10日～9月22日	600
	山王遺跡	昭和56年8月17日～57年3月31日	1,400
	原田遺跡	昭和57年1月6日～1月29日	3,000
	撰分A遺跡	昭和57年1月11日～3月31日	6,300
	出口B遺跡	昭和57年1月11日～1月25日	5,930
	宝蔵寺B遺跡	昭和57年1月26日～2月10日	7,460
	仁位所遺跡	昭和57年2月12日～2月27日	3,230
57	島田遺跡	昭和57年4月1日～4月15日	2,900
	山王遺跡	昭和57年4月22日～58年3月31日	3,000
	撰分A遺跡	昭和57年4月1日～58年3月31日	3,000
	山崎遺跡	昭和57年12月13日～58年1月20日	15,000
	仁位所遺跡	昭和58年1月17日～1月29日	6,800
	出口A遺跡	昭和58年1月31日～2月24日	5,000
	西出口遺跡	昭和58年2月25日～3月26日	800
58	撰分B遺跡	昭和58年4月2日～6月28日	13,300
	中村谷遺跡	昭和58年6月8日～7月10日	8,200
	鴻ノ巣遺跡	昭和58年6月29日～11月21日	7,600
	野入遺跡	昭和58年7月10日～7月25日	(7,600) 3,000
	倉富遺跡	昭和58年9月5日～9月10日	11,000
	長尾開拓遺跡	昭和58年10月24日～11月21日	(13,000) 6,500
59	野入遺跡	昭和59年7月1日～7月3日	(7,600) 4,600
	長尾開拓遺跡	昭和59年4月16日～60年3月30日	(13,000) 6,500

た。撰分遺跡の西側台地部では旧石器時代の尖頭器、縄文時代の石鏃や土器片が出土、表土層置場部分では平安時代～鎌倉時代の井戸跡、柱穴群、土壙墓から、青磁椀や土師器杯などが出土した。中村谷遺跡は古墳1基だけが調査の対象になり、石室内と石室前面で須恵器杯などの遺物が出土した。鴻ノ巣遺跡は東多久バイパスと交差する地点で調査も同時に実施し、東多久バイパス用地で弥生時代の住居跡7棟と貯蔵穴を発掘、九州横断自動車道関係で3基の古墳を調査、装身具や須恵器杯などが出土した。野入遺跡、倉富遺跡では遺構は検出できなかった。長尾開拓遺跡は調査区全域にサヌカイトの剥片や石核、石器が堆積、船底形石器や尖頭器が多量に出土、石器製作の工房跡と断定した。

昭和59年度は4月から長尾開拓遺跡の調査を続行し、7月に野入遺跡の残部を確認調査。3月末日、長尾開拓遺跡を最後に6年間におよぶ現場での調査を完了した。

昭和60年、61年度は遺物整理、図面整理、遺物実測など報告書作成のための作業を進め、本報告書の山王遺跡、長尾開拓遺跡を除く遺跡の報告書「撰分遺跡」を3月に刊行した。

2．調査組織

九州横断自動車道関係の多久市内における発掘調査の関係者は下記のとおりである。

総括	佐賀県教育委員会教育長	古藤　浩（昭和54～59年度）	志岐常文（昭和59～61年度）
	教育次長	小西　亘（昭和54年度）	大坪　実（昭和54年度）
		川副道夫（昭和54年度）	野村綱明（昭和55年度）
		宇田川勝之（昭和55～57年度）	村岡　昭（昭和56年度）
		大塚正道（昭和57・58年度）	高橋一之（昭和57～60年度）
		釈　憲正（昭和59年度）	堤　清行（昭和60年度）
		古賀信夫（昭和60・61年度）	野角計宏（昭和61年度）
	文化課長	田中寿義雄（昭和54・55年度）	藤山　厳（昭和56・57年度）
		中島信行（昭和58年度）	北村一義（昭和59～61年度）
	文化課参事	古賀礼三（昭和54年度）	藤山　厳（昭和55年度）
		高島忠平（昭和60年度）	
	文化課課長補佐	川久保松広（昭和54～56年度）	高島忠平（昭和56～59年度）
		山田陸三（昭和57～59年度）	尾形善郎（昭和60・61年度）
		宮原義幸（昭和60・61年度）	
庶務	文化課専門員	広川　昇（昭和55年度）	
	文化課庶務係長	片渕正美（昭和54年度）	広川　昇（昭和55年度）
		中野安正（昭和56～58年度）	菊池文夫（昭和59～61年度）

文化課主査　北島和男（昭和55年度）　　山下行夫（昭和59～61年度）
文化課庶務　森由紀子（昭和54～56年度）　野口茂美（昭和54～56年度）
伊崎憲二（昭和54年度）　　山口　勝（昭和56～58年度）
山下行夫（昭和57・58年度）　東　英明（昭和57～60年度）
井原裕子（昭和57～59年度）　鶴田明美（昭和60年度）
西岡真一（昭和61年度）

調査担当
文化課参事　高島忠平（昭和60年度）
調査第1係長　樋渡敏暲（昭和56・57年度）　中牟田賢治（昭和58～61年度）
文化財主査　田平徳栄（昭和59年度）　天本洋一（昭和60・61年度）
嘱　　託　後中筋正徳（昭和55年度）
堤　安信（昭和56・57年度）（現千代田町教育委員会）
南島敏浩（昭和59年度）
多久市教育委員会　西村隆司（昭和54～61年度）
調査補助員　山口弘、釘本堅太、松尾直子、朝原良寛、熊手達夫、藤木弁昇

整理担当
文化財保護主事　東中川忠美、松尾吉高、高瀬哲郎
指導主事　多々良友博（現佐賀県立佐賀北高等学校）
嘱　　託　堤　圭子、原　葉子
多久市教育委員会　西村隆司、山田百合子、山口邦子、武富桂子

〔参考文献〕

「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報」佐賀県教育委員会　1979
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第3集」佐賀県教育委員会　1981
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第4集」佐賀県教育委員会　1981
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第5集」佐賀県教育委員会　1983
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第6集」佐賀県教育委員会　1983
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第7集」佐賀県教育委員会　1984
「九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第8集」佐賀県教育委員会　1985
「撰分遺跡」佐賀県教育委員会　1987

II　多久市の地理的・歴史的環境

Ⅱ．多久市の地理的・歴史的環境

1．地理的環境

多久市は佐賀県のほぼ中央に位置し、四方を山に囲まれた盆地で、東は小城郡小城町、佐賀郡富士町、北は東松浦郡厳木町、同郡相知町、西は伊万里市、武雄市、南は杵島郡北方町、同郡大町町、同郡江北町、小城郡牛津町と接し、盆地を形成する山々の尾根が境界になっている。

多久盆地は北面に天山（標高1,046m）、西に船山（標高685m）、八幡岳（標高763m）、南に徳連岳（標高444m）、鬼の鼻山（標高434m）、両子山（標高361m）、東に鏡山（標高140m）、峰山（標高161m）が連なり、両子山と鏡山の間の東南部が僅かに開け、佐賀平野の北西部に広がっている。

八幡岳、徳連岳を源流とする牛津川は小さな河川を集め盆地の中央部よりやや南側を西から東に横断し、天山を源流とする今出川と盆地南東部で合流し、盆地が僅かに開けた東南の平坦部から牛津町に抜け、芦刈町を通り、杵島郡の六角川と合流し、有明海に流下する。

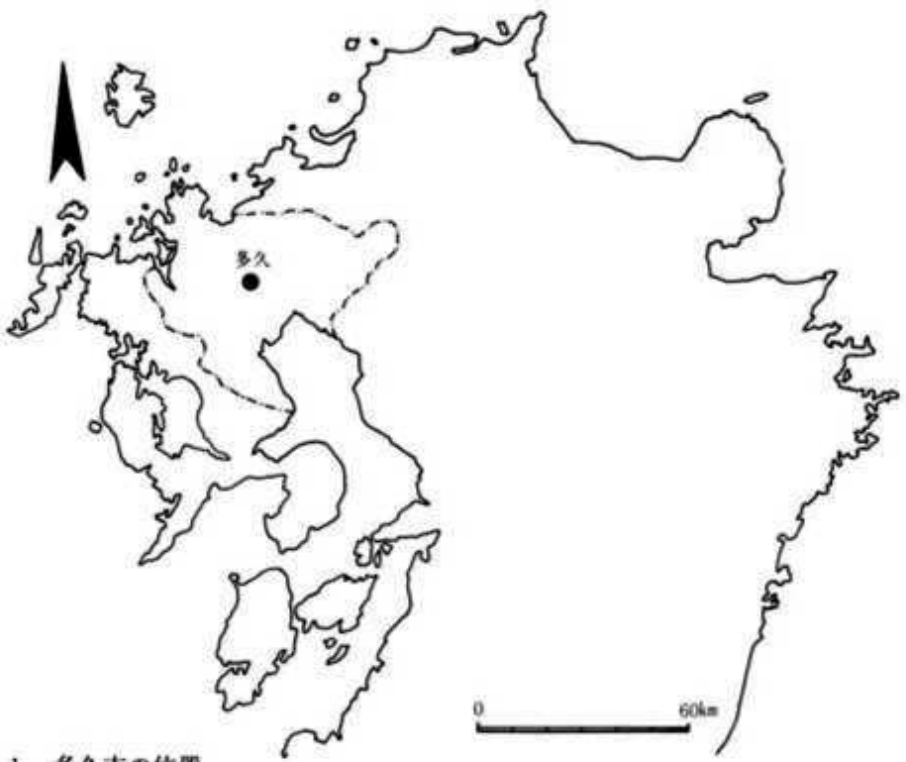


Fig. 1　多久市の位置

盆地中央部には山崎山（標高212m）、陣ノ辻山（標高193m）が連なり、東に坊山（標高102m）が位置し、平坦部は山崎山の北部と西部から牛津川流域に開け、東部の沖積平野に広がるだけで、標高50m以下の平坦地および低丘陵地は多久市の総面積の四分の一にすぎず、標高100m以上の丘陵地や山地が大半を占める。

平野部および低丘陵地は水田として利用され、丘陵地や山地中位は昭和30年代に果樹園に開墾されたが、山地高位の地帯は雑木林のほか、杉・桧の植林が行われ、緑地の占める割合は大きい。

多久市の地質は盆地の北壁になる天山周辺が緑簾石英角閃片岩層、石英閃緑岩で占められ、部分的に蛇紋岩、石英片岩層が混入する。西部の船山、八幡岳周辺は玄武岩で覆われ、畑津頁

Fig. 2　多久市の地質図

岩層、畑津砂岩層、行合野砂岩層の順で玄武岩を囲む。徳連岳周辺も同様である。鬼の鼻山北麓は行合野砂岩層、佐里砂岩層で占められ、鬼の鼻山東側から両子山周辺は玄武岩が主体となり建設資料の採石が行われている。鬼の鼻山から盆地中央部の山崎山周辺は県下最大の讃岐石産出地で良質のサヌカイト原石が転石の状態で深さ１ｍの層をなし、長尾開拓遺跡、茶園原遺跡などの立地の要因となっている。山地の中位～高位の丘陵地は行合野砂岩層で魚貝類の化石が多く発見されている。盆地西北部に相知層群と呼ばれる芳ノ谷層、厳木層があり、多久市の基幹産業であった石炭層が含まれる。河川周辺の平坦地は新期沖積層、旧期沖積層であり、低丘陵地の大部分は新期洪積層で占められる。

火山灰の堆積は盆地中央部から南部の低丘陵地で乳白色・灰白色の軽石を含む粘土層が１～３ｍの層を成している。この粘土層は鳥栖ローム層、八女粘土層と称せられるものと同一で阿蘇外輪山を形成した噴火で噴出した阿蘇４火砕流堆積物（Aso－４）と呼ばれている。また近年の調査で姶良Tn火山灰層（ＡＴ）と呼ばれる姶良カルデラから噴出した広域火山灰特有の火山ガラスも検出されているが、その層は薄い。

気候は盆地特有の内陸的な気候で、夏は熱く、冬は寒い。年間平均の気候は15.5度、最低気温氷点下の冬型気象が年平均51日と冬日が多い。降雨量は夏に多く、冬は極端に少ない。その他の気象では台風の通過も多く、台風により大きな被害も受けてきた。霜は11月初旬～３月中旬まで続き、農作物の被害も大きい。降雪は12月中旬～３月上旬までだが、積雪の回数は２～５日と僅かである。

２．歴史的環境

九州は中国大陸や朝鮮半島に最も近く、大陸文化導入の窓口としての地の利から、遺跡の分布密度は高く、佐賀県は全国でも有数の遺跡の宝庫といわれている。多久市も県内では遺跡数の多い地区の一つで、遺跡の立地は自然的環境に大きな影響を受けている。時代的にも旧石器時代～江戸時代まで、その歴史は途絶えることなく続き、河川流域の丘陵地や台地先端に多くの遺跡が集中している。これらの遺跡を時代別に整理し歴史的環境としたい。

旧石器時代

県内の旧石器時代の遺跡は近年の調査で県東部地区でも発見され、資料数も増加の一途をたどっている。石器の素材になる石質から、県北西部の東松浦半島を中心に唐津・伊万里地方に集中する黒曜石製の石器群と、中央部の多久・小城地区で集中的に出土するサヌカイト製の石器群に大別でき、両地区とも石器の素材となる良質の原石を産出する地質的性格をそなえている。多久盆地の南壁にあたる鬼の鼻山周辺や中央に位置する山崎山一帯は安山岩地帯で、良質のサヌカイト原産地として知られ、サヌカイト製石器が出土する遺跡が数多く立地している。

昭和35年、日本考古学協会の西北九州総合調査特別委員会によって発掘調査がなされた三年山遺跡・茶園原遺跡は共に鬼の鼻山の北麓にあり、両遺跡とも旧石器時代の遺跡としては九州

で最初に学術調査が実施された学史に残る遺跡として著名である。鬼の鼻山北麓一帯にはサヌカイト製の大形尖頭器が出土する遺跡は40か所以上を数える。鬼の鼻山遺跡・柳谷遺跡・聖廟遺上跡・東ノ原1630番地遺跡・下鶴遺跡なども多量の尖頭器が出土、これらの遺跡を総称して多久石器群と呼び、これまでの調査や表面採集による尖頭器の数は10万点を越すといわれている。山崎山周辺にも大形尖頭器が出土する長尾開拓遺跡・長尾松隈遺跡・陣ノ辻遺跡などの大規模な遺跡が立地する。

Fig. 3 茶園原東の原遺跡のサヌカイト原石露頭

昭和53年に調査を実施した茶園原西畑遺跡や本報告書で報告する長尾開拓遺跡での石器の出土状態はサヌカイト原石・石核・剥片・砕片と共に大形尖頭器が出土、茶園原西畑遺跡では0.4～0.6mの層をなし、尖頭器工房跡と断定された。

Fig. 4　茶園原西畑遺跡遺物出土状態

これまで多久で出土するサヌカイト製の石器はほとんど尖頭器に限られ、断片的に縦長剥片やナイフ形石器が出土したにすぎず、尖頭器以外の共伴関係や、近隣地域の遺跡から多久の尖頭器が出土する例はなく、多久の尖頭器の編年的位置づけはできなかった。しかし、最近の調査や開発によって尖頭器に先行する石器群の存在が明らかになった。三年山遺跡と茶園原遺跡の中間に位置する東ノ原1630番地遺跡では尖頭器を含む文化層の下位に無遺物層をはさんで縦長剥片を主とする文化層を確認した。出土した遺物は多量の縦長剥片と半円錐形石核で石器は含まれていなかった。長尾開拓遺跡の調査でも多量の縦長剥片や石核が出土した。これらの遺物は小城郡三日月町岡本遺跡出土の遺物と酷似し、岡本遺跡では縦長剥片を素材としたナイフ形石器や剥片尖頭器などが出土し、両遺跡とも岡本遺跡と同時期であることが予想され、石器の形態・層位の両面から尖頭器文化に先行する石器文化の存在を明確にした。

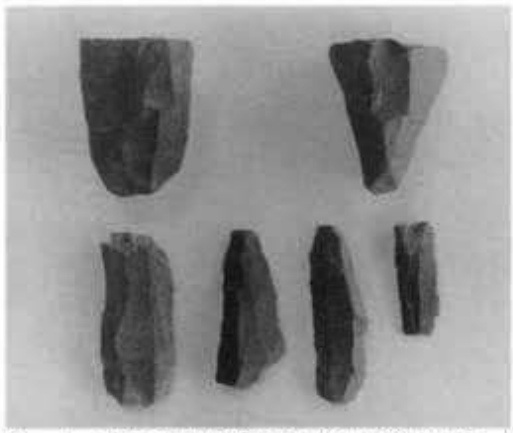


Fig. 5　東の原1630番地遺跡出土縦長石核、剥片

また尖頭器が出土する遺跡のなかに、黒曜石製のナイフ形石器・台形様石器・細石核・細石

刃やサヌカイト製のナイフ形石器が共伴する遺跡も徐々に数を増しはじめた。綿打遺跡・経ノ峰遺跡・八天山遺跡・十井手遺跡・撰分遺跡・山王遺跡などがあり、山王遺跡はナイフ形石器・台形様石器の量も多かったが、尖頭器との層位的な関係を解決する成果を得ることはできなかった。しかし、市内には同種の遺跡も多くあり、近い将来、日本最大の規模といわれる多久石器遺跡群の編年上の位置づけができるものと思われる。

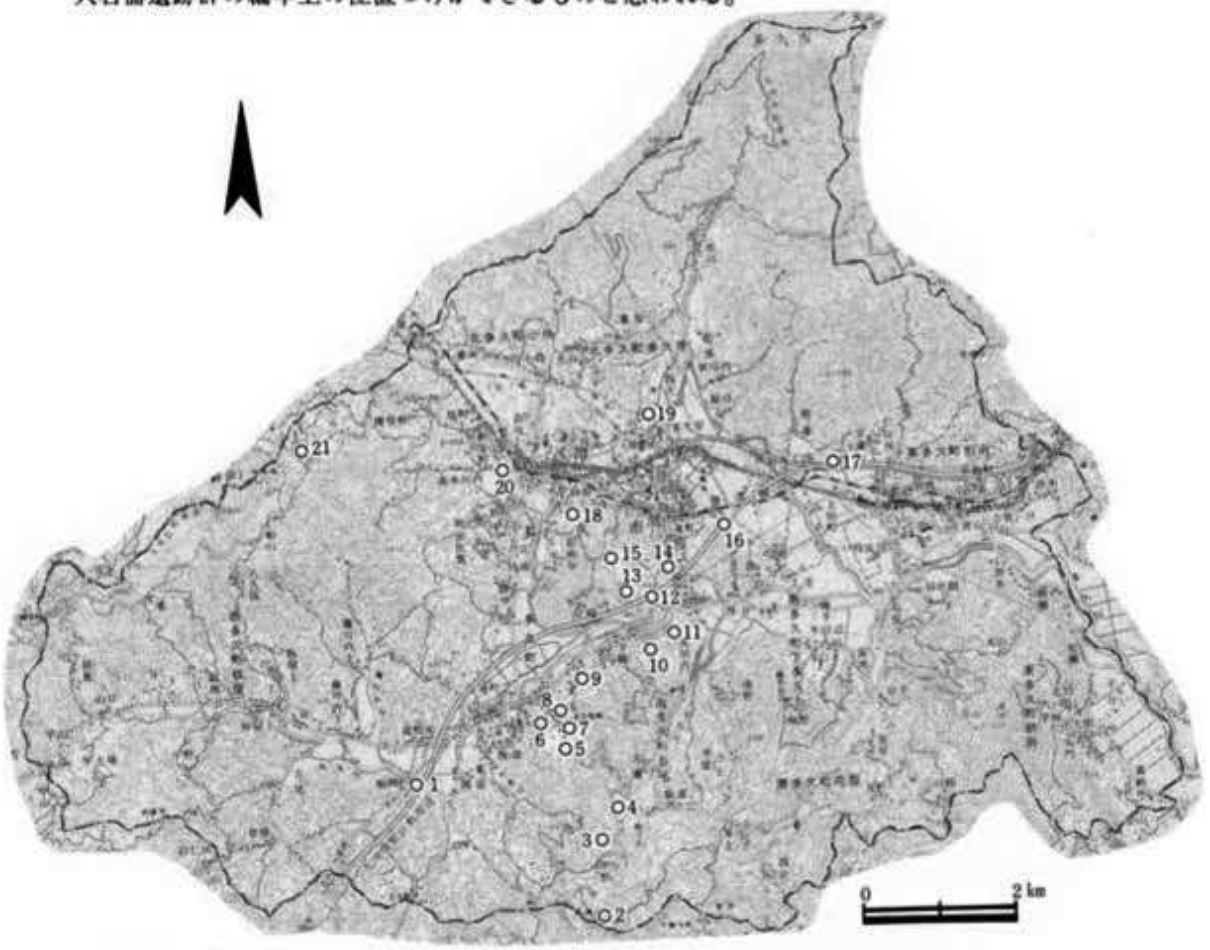


Fig. 6　多久市内の主要遺跡分布図（旧石器時代）

1　山王遺跡	2　鬼の鼻山遺跡	3　柳谷遺跡
4　天ケ瀬遺跡	5　聖光寺上遺跡	6　三年山遺跡
7　聖廟上遺跡	8　東ノ原1630番地遺跡	9　茶園原遺跡
10　下鶴遺跡	11　長尾遺跡	12　長尾開拓遺跡
13　長尾福山遺跡	14　長尾松隈遺跡	15　陣ノ辻遺跡
16　十井手遺跡	17　宝蔵寺溜池遺跡	18　湯端遺跡
19　八天山遺跡	20　経ノ峰遺跡	21　綿打遺跡

縄文時代

県内での縄文時代の遺跡は神埼郡東脊振村の戦場ケ谷遺跡や東松浦郡相知町の千束遺跡・唐津市の唐津海底遺跡など学界で早くから知られている遺跡はあるものの、遺構の存在が明らかでなかったり、九州各県に対し遺跡の数も少なかった。しかし、近年の大規模な調査によって遺跡の数も増加し、遺構の実態も明らかになりつつある。西松浦郡西有田町の坂ノ下遺跡や佐賀市の丸山遺跡・唐津市の菜畑遺跡などがその代表的なものである。

市内でも押型文が出土した西多久町所在の綿打遺跡は著名であるが、それ以外は文献などで報告・発表された遺跡はない。最近の調査でも断片的に遺物は出土するが遺構は検出されていない。その様な中で地元の熱心な研究者によって遺跡の分布調査や表面採集などが行われ、良好な遺跡が次々と発見されている。中期の阿高式土器が出土した多久町西ノ原所在の西ノ原遺跡・南多久町大字下多久字十井手所在の十井手遺跡、南福寺式土器や後期の磨消縄文が出土した北多久町大字多久原字大工田所在の大工田遺跡、晩期の黒川式土器が採集された東多久町大字別府字久保所在の赤子谷遺跡、山の寺式土器や磨製石斧・扁平打製石斧が多量に出土した東多久町大字納所字柳瀬、字天山所在の天山(あまやま)遺跡、網痕土器が出土した東多久町大字別府字宝蔵寺所在の宝蔵寺遺跡など縄文農耕説との関係で注目される遺跡も多く、今後の調査に期待したい。

Fig. 7　大工田遺跡出土縄文土器

弥生時代

県内での弥生時代の遺跡の調査は多く、近年、大規模な遺跡が次々と発掘され、今や甕棺墓の出土数は弥生銀座といわれる福岡県を上回っている。県東部の弥生文化は佐賀平野まで広がり、一大文化圏を形成している。唐津を中心とした松浦文化圏は松浦川流域に広がり著名な遺跡も多い。多久市はこの二つの文化圏から最も距離的に遠く、盆地、狭い平地面積という条件の悪さが重なり、大規模な集落の形成はなされなかったようである。このような条件の中で特筆されるのは南多久町大字下多久字勘太郎所在の牟田辺遺跡である。住居跡69棟、甕棺墓230基、墓域と住居域を区切る長さ150m以上のV字状大溝などが検出され、弥生時代中期の一遺跡での住居跡や墓地のあり方の単位を示す標準的な遺跡として知られている。最近の調査では九州横断自動車道関係で調査を実施、中期の住居跡や中期、後期の甕棺墓が出土した多久町字湯町所在の撰分遺跡、後期の住居跡を検出した北多久町大字多久原字鴻ノ巣、東多久町大字別府字野入の両町に所在する鴻ノ巣遺跡、後期の甕棺墓や祭祀遺構を検出した北多久町大字多久原字原田所在の原田遺跡があり、横断道関係以外では南多久町大字下多久字増富所在の増富遺跡、多久町字茶園所在の茶園原遺跡では中期の住居跡や甕棺

墓が出土している。この他、遺構は不明であるが、約20年前の開発によって甕棺墓が出土した南多久町大字長尾字玉ケ渕所在の長尾玉ケ渕遺跡や同町大字下多久字上田町所在の上田町遺跡がある。多久市内の弥生時代の遺跡から出土した遺物は土器と石器がほとんどで、牟田辺遺跡の230基の甕棺墓のうち副葬品が出土した甕棺墓は1基だけであり、それも勾玉1、管玉76個で、青銅器の出土はなく、多久の弥生文化の性格を示すものといえる。

Fig. 8　牟田辺遺跡出土住居跡群

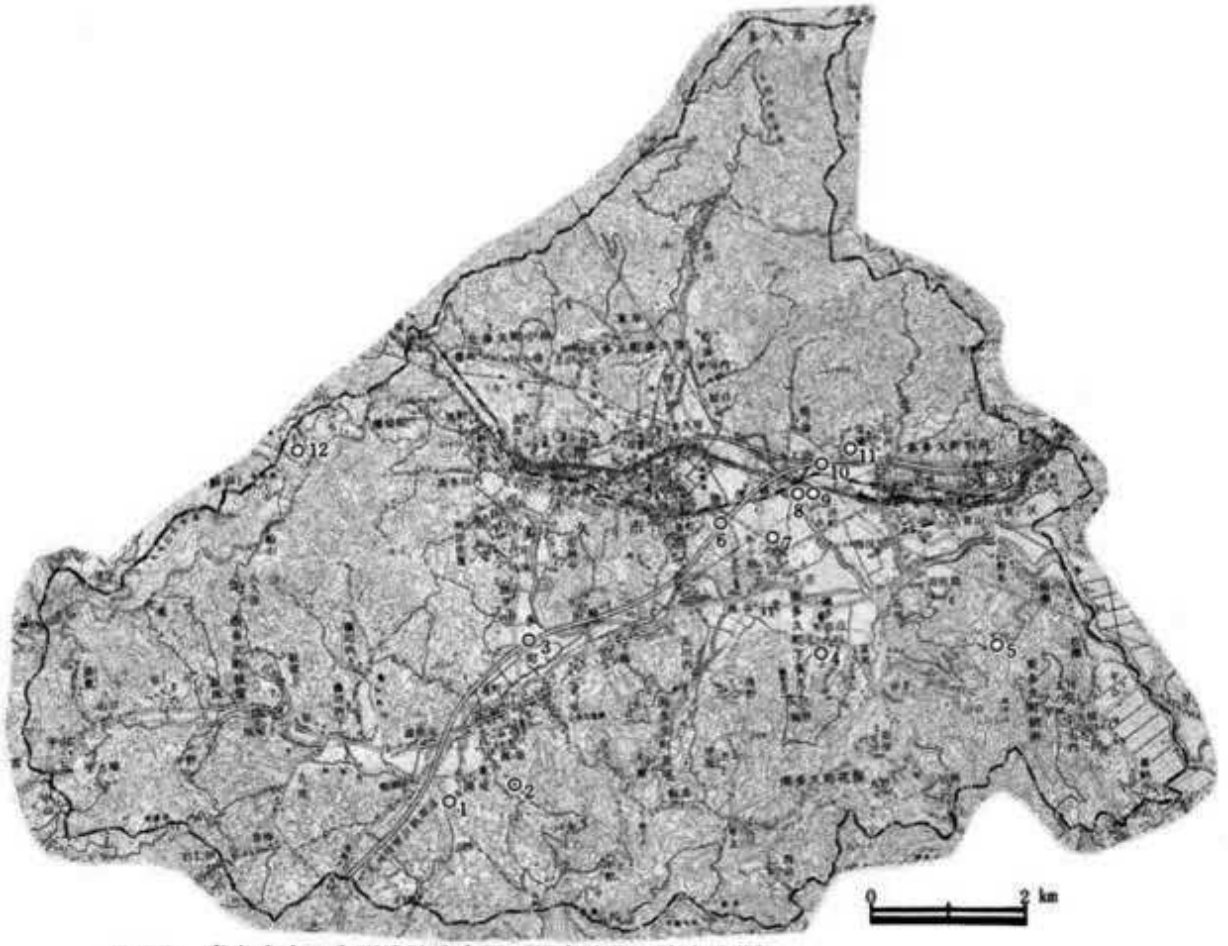


Fig. 9　多久市内の主要遺跡分布図（縄文時代～弥生時代）

1	岡遺跡	2	西ノ原遺跡	3	撰分遺跡	4	牟田辺遺跡
5	天山遺跡	6	十井手遺跡	7	中小路遺跡	8	上田町遺跡
9	大工田遺跡	10	鴻ノ巣遺跡	11	宝蔵寺遺跡	12	綿打遺跡

古墳時代

県内の古墳時代の遺跡は弥生時代同様に東部地区から佐賀平野に古墳時代前期の集落が形成され、巨大古墳が出現し、後期の古墳群の築造と移行する。唐津地方においても大陸文化の影響を受けつつ古墳時代へ移行し著名な古墳が築造され独自の文化圏を形成したようである。多久市内でも近年、布留式土器を伴う住居跡が相次いで検出されている。多久町湯町所在の撰分遺跡、南多久町大字下多久字摺ケ本所在の摺ケ本遺跡、同字木浦町所在の上田町遺跡、北多久町大字多久原字大工田所在の今出川A遺跡の発掘は、これまで空白であった多久の古墳時代前期の時期を一気に埋める好個の資料となり、さらに平野部一帯に遺跡の範囲が広がることが予想される。

古墳の分布は盆地の東部から南部に開けた平野部の先端に突き出た丘陵部に集中する。築造された古墳の総数は500基とも1,000基ともいわれ、弘化4年（1847）に書かれた多久の地誌「丹邱邑誌」の中に古墳の記載がある。しかし東部丘陵地の炭坑住宅の建設や果樹園の開墾、採石、土取り、宅地造成を原因とする開発によって古墳は消滅し、現存する古墳の数は100基にも満たず、その大部分は破壊古墳である。現存する古墳の中で最も規模が大きいものは南多久町大字下多久字富岡所在の富岡古墳で墳形から前方後円墳といわれ、墳丘の主軸は約20m、最大幅8m、墳丘高5mを測る。多久市史跡の東多久町大字別府字古賀山所在の古賀山1号古墳や南多久町大字下多久字永井所在の中小路古墳、東多久町大字納所字北坊所在の北ノ森古墳などは墳丘の直径15～20mを測る円墳で市内では規模の大きな古墳である。東多久町大字納所字平林所在の平林古墳群、同字松瀬所在の松瀬古墳群、同字大畑所在の大畑古墳群、同町大字別府字池上ケ里所在の皆木古墳群、同字渋木所在の渋木古墳群、同字池ノ平ほか所在の山の上古墳群、同字向野所在の向野古墳群、南多久町大字下多久字赤溝ほか所在の牟田辺古墳群、多久町字山崎所在の山崎古墳群などは古墳時代後期～終末期に築造された5～20基の小円墳で、そのほとんどが横穴式石室を有する。東多久町大字納所字皆木山所在の穴大師古墳、山の上14号古墳、古賀山1号古墳、北ノ森古墳は線刻の平行線文・格子文などが刻まれ、隣接する杵島郡や小城郡の線刻文様を持つ古墳と比較され興味深い。北多久町大字多久原字大工田所在の大工田古墳は平野部の低地に築造された唯一の古墳で片袖型横穴式石室を有する古墳である。多久の古墳の規模やその分布状態から察して、多久盆地を支配するような権力を保持した大豪族は出現しなかったと考えられる。

歴史時代

県内の各地で奈良時代～平安時代の遺構・遺物が出土する中で多久でも徐々に遺物の数が増加している。山の上古墳群出土の須恵器の中に8世紀のものがあり、古墳築造の終焉の時期を示すものである。多久に関する記録は「肥前風土記」によれば、小城郡は7郷20里とされている。郷名は不明であるが「和名抄」に4郷が記され、その中の高来郷が現在の多久に比定され

ていることから、肥前風土記の７郷の一つで、当時は小城郡に属していたとの説が有力である。同書の中に「駅壱所」と記されたのは「延喜式」兵部省に記されている高来駅と解釈され、条里地割が分布する東多久町別府付近との説と古墳や経筒が出土した多久町山崎付近との説があるが、決め手になる資料に乏しく、その比定はむずかしい。

条里制の地割は多久市税務課保管の字図によれば、別府地区に一の坪、二ノ坪、西二ノ坪、三ノ坪、十ノ坪、十八、ハタチ、三十六などの字名が残り、別府地区に方六町の大区画が六区画存在していたようである。昭和61年度の圃場整備事業によって消滅した羽佐間四反田地区は条里制区割がほぼ完全な形で残っていた唯一の地区であった。

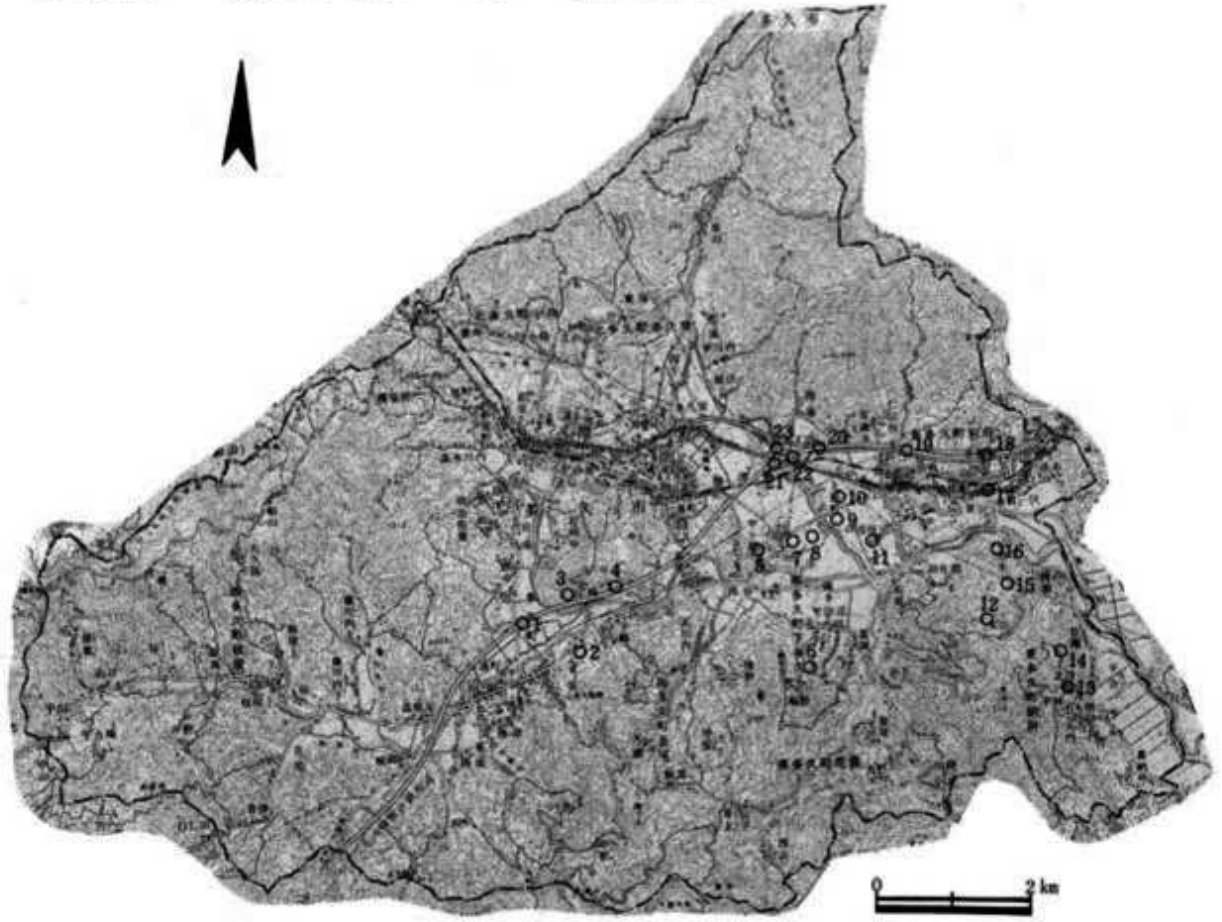


Fig. 10　多久市内の主要遺跡分布図（古墳時代～歴史時代）

1	撰分遺跡	2	茶園原遺跡	3	山崎経塚	4	山崎古墳群
5	中小路古墳	6	牟田辺古墳群	7	増富遺跡	8	摺ケ本遺跡
9	木浦町遺跡	10	上田町遺跡	11	別府条里区割遺跡	12	穴大師古墳
13	北ノ森古墳	14	松瀬古墳群	15	柳瀬古墳群	16	皆木古墳群
17	古賀山一号古墳	18	山の上古墳群	19	中村谷古墳	20	鴻ノ巣遺跡
21	今出川Ａ遺跡	22	大工田古墳群				

奈良時代から平安時代にかけての遺跡や遺物は近年の調査でその実態が明らかになりつつある。北多久町大字多久原字大工田所在の今出川B遺跡では須恵器・土師器のほかに製塩土器といわれる円筒形土器やふいごの羽口が出土し注目された。撰分遺跡では平安時代末の土師器が出土、南多久町大字下多久字増富所在の増富遺跡からは平安時代末の白磁椀・土師器・ふいごの羽口や滑石製品が遺構から出土、同時代の遺跡としては県内有数の遺跡として注目されている。多久町字山崎から出土した県重要文化財の銅製経筒には天治元年（1124）の銘が刻まれ、天山（あまやま）遺跡出土の陶製経筒とともに平安時代を代表する遺物である。

文献から見ると「太宰府政所牒写」の康和3年（1101）の項に高来別府が宇佐八幡宮領であり、翌康和4年、大江匡房が寄進した高来別府は田数130町と記されている。「河上宮造営用途支配惣田数注文」によれば、正応5年（1292）、公田分として高来東郷254町、高来西郷が83町あり、東西2つに区分されていたことが伺える。高木東郷は別府を中心とする現在の東多久町、高来西郷は現在の多久町と推定されている。

鎌倉時代になると源頼朝の御家人、多久太郎宗直が建久4年（1193）摂津から下向し、南多久町下多久に居館（陣内城）を構え、武士による支配が始まったと伝えられている。陣内城跡といわれる字陣内所在の延寿寺前の道路から工事中に青磁椀二個が出土、出土状態から土壙墓のようである。その後、多久氏は本拠地を多久町梶峰城に移すが、多久氏の本拠地移転とつじつまが合うかのように茶園原遺跡や撰分遺跡で青磁椀を副葬品とする土壙墓が発掘されている。

鎌倉時代以降、多久市での政治の舞台は明治時代になるまで多久町が中心となる。市指定の重要文化財、少貳政資・資元の墓や、国史跡および重要文化財「多久聖廟」も多久町に所在し、戦国時代～江戸時代を代表する文化財として知られている。

〔参考文献〕

「佐賀県史」上巻　佐賀県史編纂委員会　1968
「多久の歴史」　多久市史編纂委員会　1964
「佐賀県地質図」　佐賀県
「日本の第四紀研究」　日本第四紀学会　1977
「茶園原遺跡Ⅰ」　多久市教育委員会　1979
「茶園原遺跡Ⅱ」　多久市教育委員会　1980
「牟田辺遺跡」　多久市教育委員会　1975
「牟田辺遺跡Ⅱ」　多久市教育委員会　1977
「牟田辺遺跡Ⅲ」　多久市教育委員会　1978
「佐賀県の歴史と文化論攷」　木下之治　1977
「撰分遺跡」　佐賀県教育委員会　1987

Ⅲ　山　王　遺　跡

遺跡名：山王遺跡（略号ＳＮＯ）
遺跡所在地：多久市多久町字山王

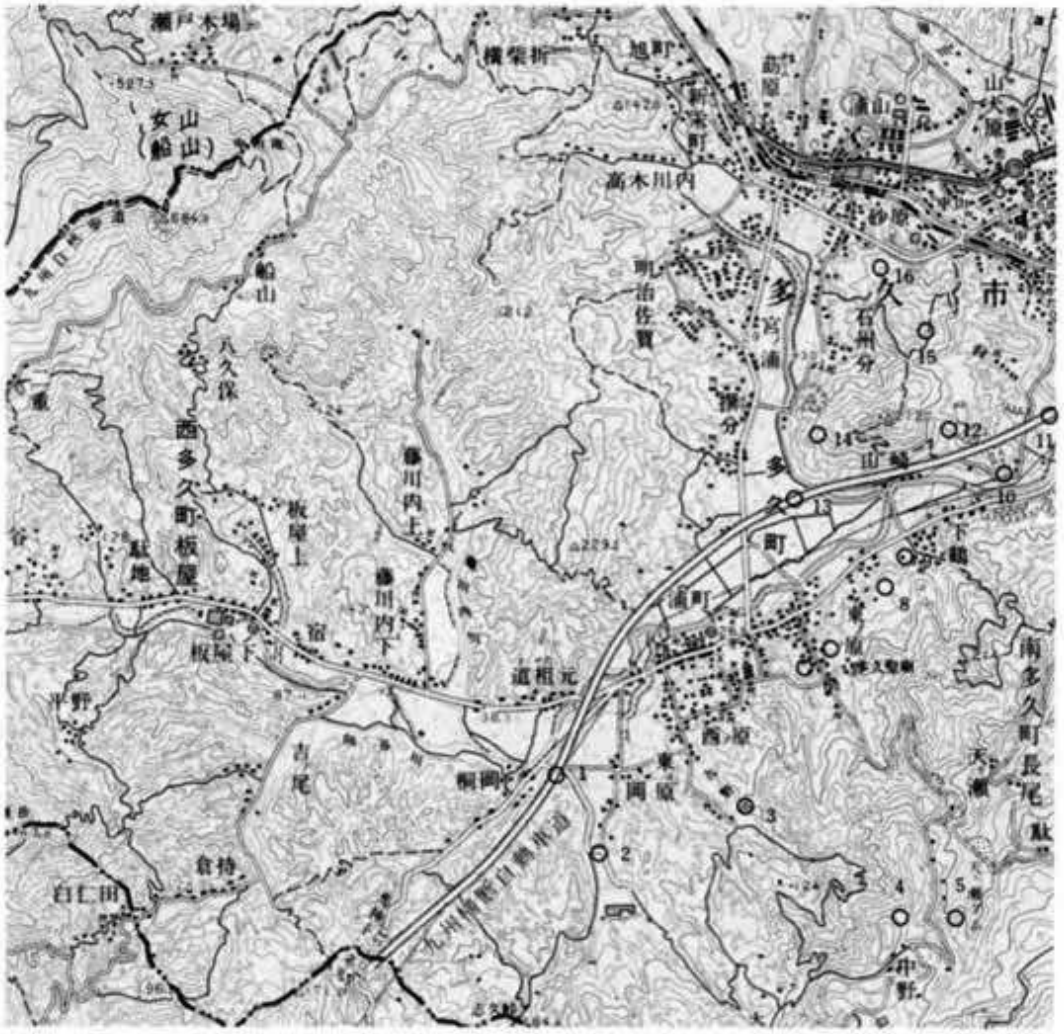


Fig. 11　山王遺跡周辺遺跡分布図

1	山王遺跡	2	岡遺跡	3	西ノ原遺跡	4	柳谷遺跡
5	天ケ瀬遺跡	6	三年山遺跡	7	東ノ原1630番地遺跡	8	茶園原遺跡
9	下鶴遺跡	10	長尾玉ケ渕遺跡	11	長尾開拓遺跡	12	山崎古墳群
13	撰分遺跡	14	山崎経塚	15	陣ノ辻遺跡	16	湯端遺跡

Ⅲ. 山 王 遺 跡

1．遺跡の概要

山王遺跡は多久盆地の南の壁になる鬼の鼻山（434m）から北西に延びた舌状台地に位置し、正確には多久市多久町字山王に所在する。遺跡周辺には旧石器時代の遺跡をはじめとする多くの遺跡が分布している。鬼の鼻山の北麓一帯はサヌカイトを素材とした両面加工の大型尖頭器を製作した工房跡的な遺跡が集中する。遺跡から南東1,200m、鬼の鼻山の東700mの多久町字中野に所在する鬼の鼻山遺跡は標高400m以上に立地し、遺跡群の中で最も高い。鬼の鼻山の北約1,000mの字宇土には柳谷遺跡が所在する。柳谷遺跡の北700mの字宮城の宮城遺跡でも約500点の尖頭器が出土している。山王遺跡の東北東1,700mには昭和35年に日本考古学協会によって発掘が実施された三年山遺跡が所在する。三年山遺跡の東200mに東ノ原1630番地遺跡が所在し、尖頭器に先行する縦長剥片の文化層が確認された。三年山遺跡の北東500～1,000mの間に東ノ原遺跡、茶園原遺跡、下鶴遺跡が並び、多久石器遺跡群の中核をなす。茶園原遺跡から北東約1,200mの字小谷に下鶴小谷遺跡、さらに東500mの南多久町大字長尾辻ノ平には長尾遺跡が所在する。鬼の鼻山に対峙する山崎山（212m）、陣ノ辻山（193m）山麓にもサヌカイト製尖頭器が出土する遺跡は多い。南東傾斜面の字福山に長尾福山遺跡が所在し、北傾斜面山裾の字米満に長尾開拓遺跡が所在し、山王遺跡からは北東4,200mの距離にあたる。長尾開拓遺跡の500m北東に長尾松隈遺跡、北西500mに陣ノ辻遺跡が所在する。陣ノ辻山の北東傾斜面、北多久町大字小侍字砂原に湯端遺跡が所在する。

縄文時代の遺跡は山王遺跡の南600m、多久町字立縄手には岡遺跡が所在し、滑石粉末が混入した後期の土器片や鋸歯状石鏃などが出土した。東1,200mの字西ノ原に所在する西ノ原遺跡からは中期の阿高式土器片が出土している。

山王遺跡は鬼の鼻山の北および北西に延びた6か所の舌状台地の1つで最西部に位置する。舌状部のつけ根となる台地中央部は標高47.2mで、台地先端から広がる水田との比高は約16mを測る。台地は幅50m、長さ50mで南から北に延び、台地西側は狭い谷部で水田に利用されている。台地東側には岡部落が形成された舌状台地があり、台地間の平野部は水田で中央部に岡川が流れている。

山王遺跡が立地する台地は果樹園として利用され、開墾によって削平を受け、平坦部が作り出されていた。果樹園造成のため遺跡の一部は破壊され、尖頭器や石鏃などの石器が地表に散布した状態になったことが遺跡の存在を明らかにした。表面採集された遺物の大部分は尖頭器

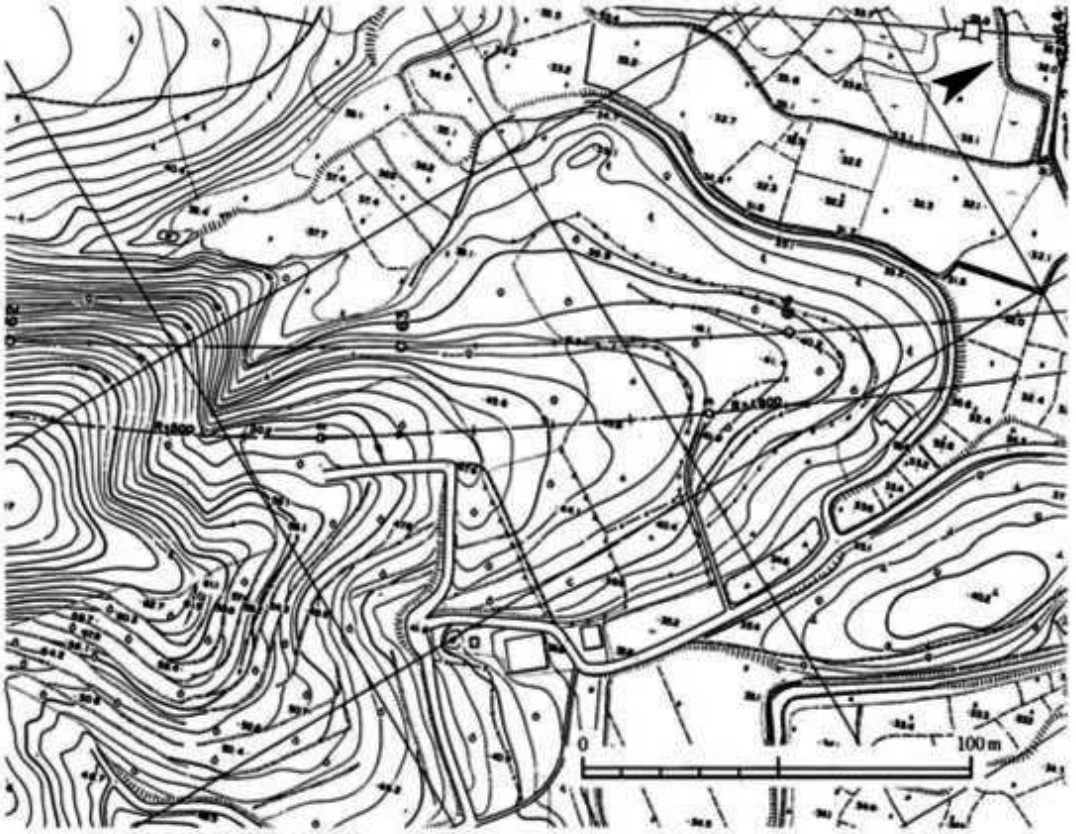


Fig. 12　山王遺跡周辺地形図

で、ほかに黒曜石やサヌカイトの剝片、石鏃などがある。

山王遺跡の調査は国土座標による10×10mの大グリッドを設定し、大グリッドを2×2mに細分した小グリッド設定、5cm掘りによる発掘を実施した。発掘によって検出した遺構は長軸1.2m、短軸0.7m、深さ0.6mと長軸1.3m、短軸0.8m、深さ1.05mの楕円形の土壙が3つだけで、土壙内からはサヌカイトや黒曜石の砕片が多量に出土し、石器製作に関係がある土壙と考えている。土壙以外は包含層の調査で、出土した遺物はナイフ形石器、台形様石器、細石核、細石刃、尖頭器、鏃形石器、削器、局部磨製石器などの旧石器時代の遺物や石匙、石鏃など縄文時代の石器である。

2．山王遺跡の地形 (Fig. 14～17)

山王遺跡が立地する舌状台地は調査区の南西部が標高約50mあり、南から北西方向と西から東方向に傾斜し、北西方向は約100mの距離で約12mの比高差を持ち、東方向への傾斜は約50mで約10mの比高差を持つ。調査区南北方向の地形は2F21～2F22で約7～10°の勾配を持ち、2F22～2F23で約35°を測る。2F23以南は人工的な造成を除き10°内外の勾配で4F25まで続き5F区と6F区は0.7mの人工的な段差を持つがほぼ平坦である。7F区は逆に南側へ斜傾し、勾配は3～5°を測り、土取り場となる。土取り場の南側の8F～9F区では10°

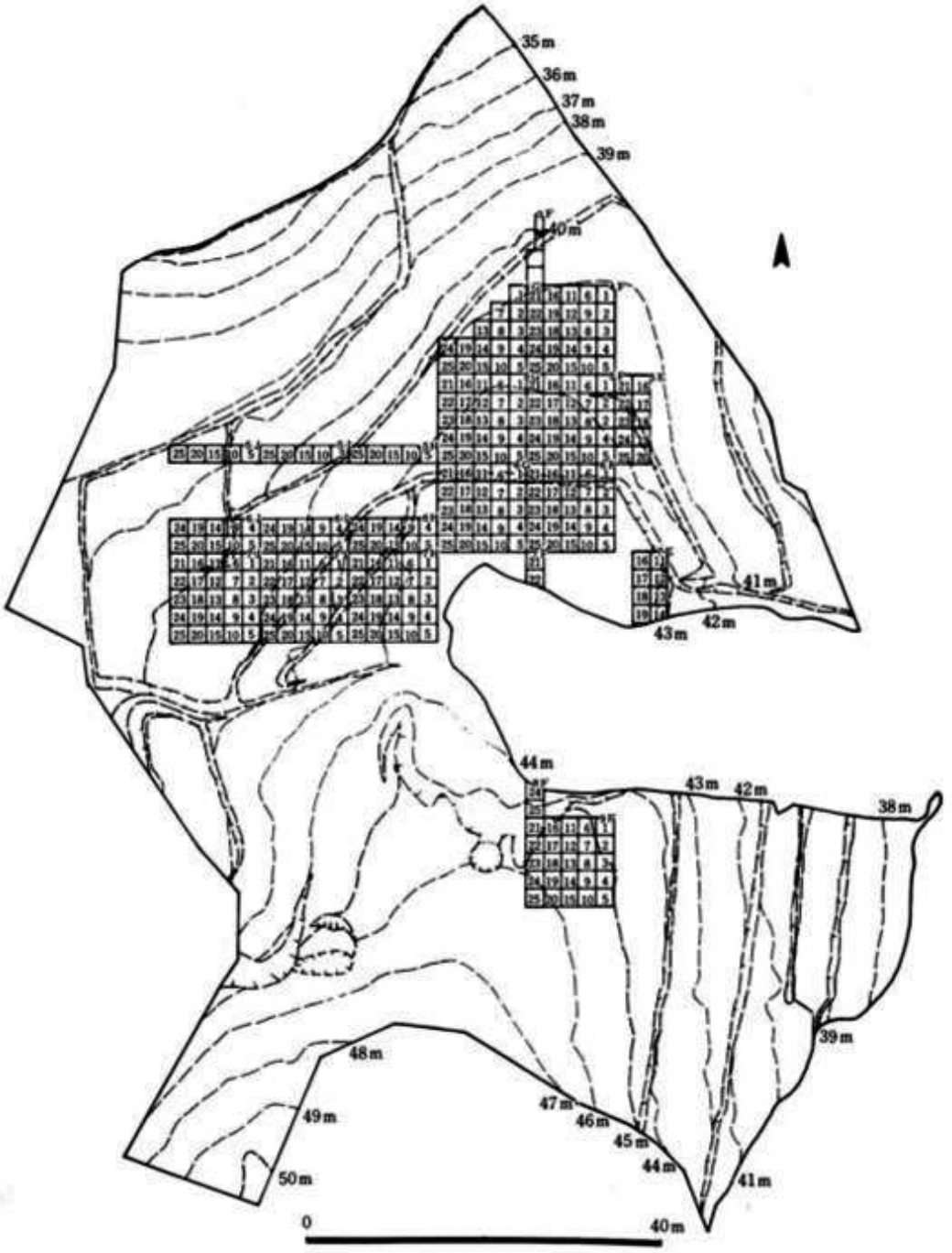


Fig. 13　山王遺跡調査区周辺の地形測量図、グリッド区割図

内外の勾配で台地中央部に達する。表土層を排除したⅡ層直上でも傾斜角度は大差ない。調査区南西方向の傾斜は5E区から5F区に5～10°の勾配で台地中央部に達し、5F25付近では標高42.4mを測り東西方向で最も高い。5F25～5G25間はほぼ平坦な面を持ち、5G25以西は

西に10～15°の勾配で５Ｊ25まで下り、５Ｋ区の平坦面に達する。５Ｋ区は標高38.3ｍになる。Ⅱ層直上の傾斜角度もほぼ同様である。

３．山王遺跡の層序（Fig. 18）

山王遺跡が所在する舌状台地は市道建設や土取りのため７～９ｍの高さが断崖状に切り取られている。台地東の市道側は北～南に約80ｍ、高さ７ｍが削平され、台地中央部から東側が土取りにより幅約11ｍ、長さ約25ｍ、高さ約９ｍが削平され、台地を形成する地質が露出した状態であった。７Ｅ調査区付近で層序確認のため、深さ4.5ｍを発掘し、層序を観察し上層から１～30の層序を決定した。１～４は攪乱層である。１は現耕作土。２は褐色の粘質土。３は明褐色の粘質土。４は旧耕作土。２～３は開墾等によって掘り出された４の旧耕作土下位の粘質土が覆土されたものである。５は赤褐色粘質土で0.2～0.3㎝の炭化物を含む遺物包含層で調査区でのⅡ層に相当し、石鏃が出土した。６は暗い赤褐色粘質土で炭化物を含まない遺物包含層でⅢ・Ⅳ層になる。７は黄褐色粘土である。この層から下層は遺物を含まない。Ⅴ層に相当する。８は褐色粘質土で0.2～0.3㎝の炭化物と0.2㎝の砂粒を含む。Ⅵ層に相当する。９は明褐色粘質土で0.5㎝の炭化物を含む。10は明赤褐色粘質土で0.1㎝の炭化物をやや多く含む。11は褐色粘質土で0.1㎝の炭化物を含み、0.5～0.6㎝の灰色粘土ブロックを含む。12は明褐色粘質土で11に類似する。13は明褐色砂質土で炭化物を含まない。赤色砂粒、灰色粘土粒子を含み、粘質はない。14は黄褐色粘質土で0.2～0.3㎝の炭化物と0.5～0.6㎝の灰色粘土ブロックを含む。15は黄橙色砂質土で0.5㎝の炭化物と１～1.5㎝の灰色粘土ブロックを含む。16は灰黄褐色粘質土で0.1㎝の炭化物と砂粒を含む。17は浅黄橙色砂質土で0.5㎝の炭化物と0.2㎝の赤色砂粒を含む。18は浅黄橙色粘質土で0.5㎝の炭化物を含み、砂粒は含まない。19は黄橙色砂質土で0.5～１㎝の炭化物と５㎝の灰色、浅黄橙色、橙色ブロックを含み、下部は砂粘を多く含む。20は灰白色砂質土で３～４㎝の浅黄橙色ブロック、0.3㎝の赤色粒子を含む。21は淡赤橙色粘質土で0.3～0.5㎝の炭化物と0.1～0.2㎝の砂粒を含み、３～５㎝の橙色、白色、黄灰色ブロックの集合である。22は明褐灰色粘質土で0.2㎝の炭化物と５㎝の灰色を主とした橙色、浅黄橙色ブロックを含む。23は浅黄橙色粘質土で炭化物を含まず0.1㎝以下の砂粒を多く含む。24は灰白色粘質土で0.1～0.2㎝の炭化物と0.1㎝の砂粒を多く含み、１～２㎝の黒色ブロック、５㎝の橙色ブロックを含む。25は浅黄橙色砂質土で炭化物を含まず0.1㎝の砂粒を含む。下層は２㎝の黄橙色になる。26は明褐色砂粒土で0.1～１㎝の砂粒を含む。27は灰白色砂礫混入粘質土で１㎝の砂礫を含む。28は褐色礫混入粘質土で３～５㎝の礫を含む。29は橙色礫混入粘質土で１～４㎝の礫を含む。30は明黄褐色礫層で３～８㎝の礫から成る。以上のように30層について土質の成分を示したが、多久地方での地質の研究はほとんど行われておらず他地区との対比は困難であるが、20～24層については昭和54年度の調査[遺1]で阿蘇４火砕流堆積物（Aso－４）と断定されている。

Fig. 14　山王遺跡調査区地形断面図 2 F 21～2 F 25・3 F 21～3 F 25・4 F 21～4 F 25（西壁）

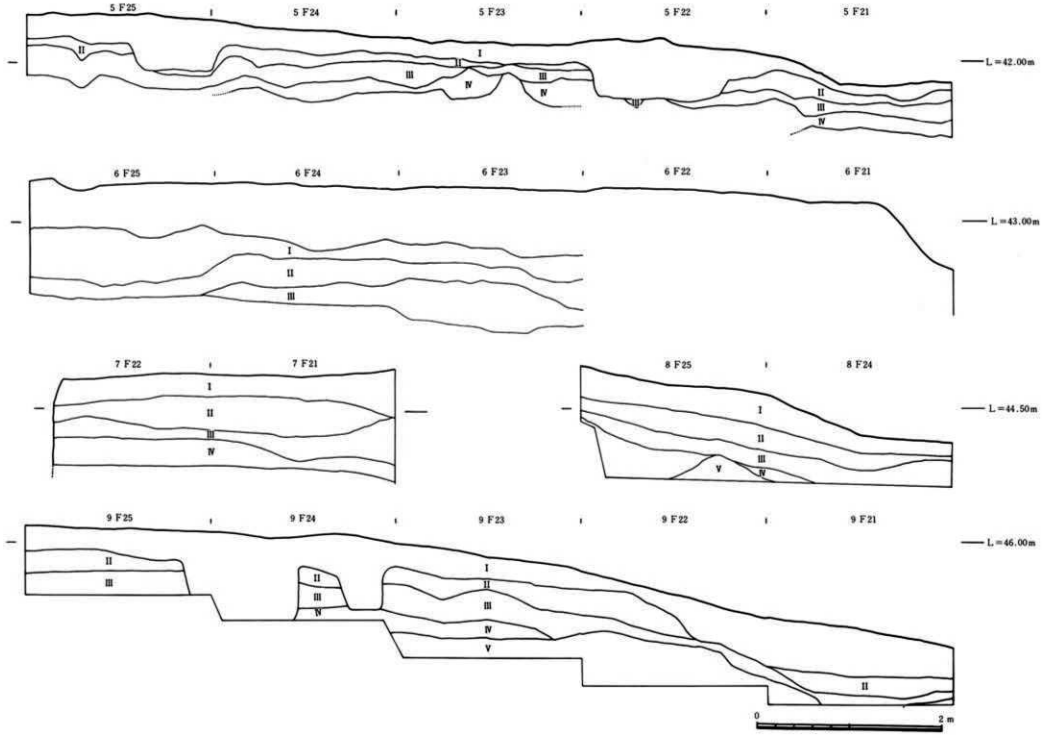


Fig. 15　山王遺跡調査区地形断面図 5 F21～5 F25・6 F21～6 F25・7 F21～7 F22・8 F24～8 F25・9 F21～9 F25（西壁）

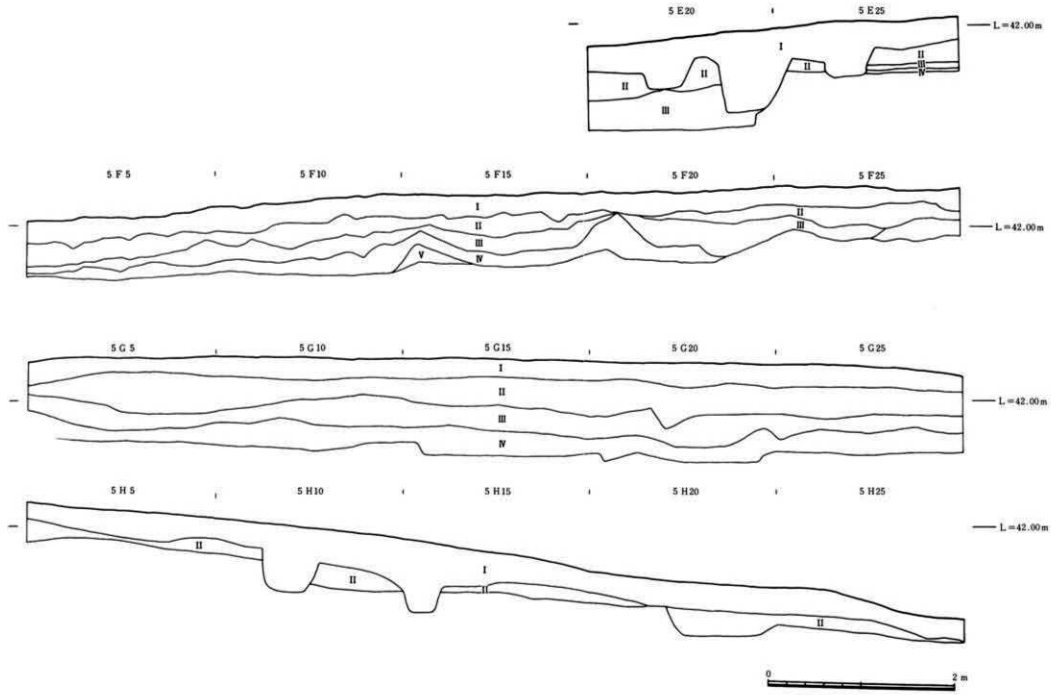


Fig. 16　山王遺跡調査区地形断面図５Ｅ20～５Ｅ25・５Ｆ５～５Ｆ25・５Ｇ５～５Ｇ25・５Ｈ５～５Ｈ25（南壁）

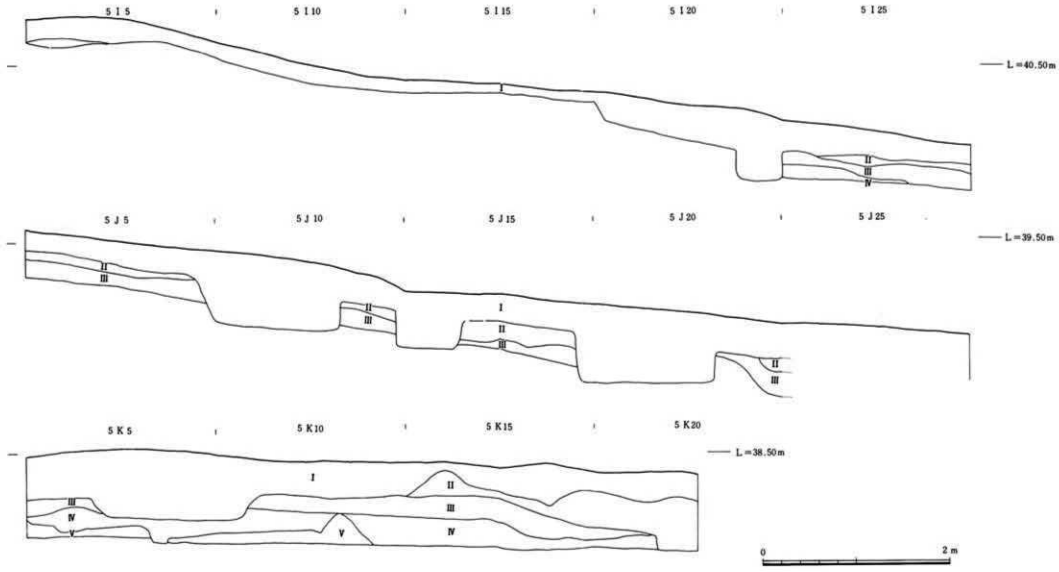


Fig. 17　山王遺跡調査区地形断面図５Ｉ５～５Ｉ25・５Ｊ５～５Ｊ25・５Ｋ５～５Ｋ20（南壁）

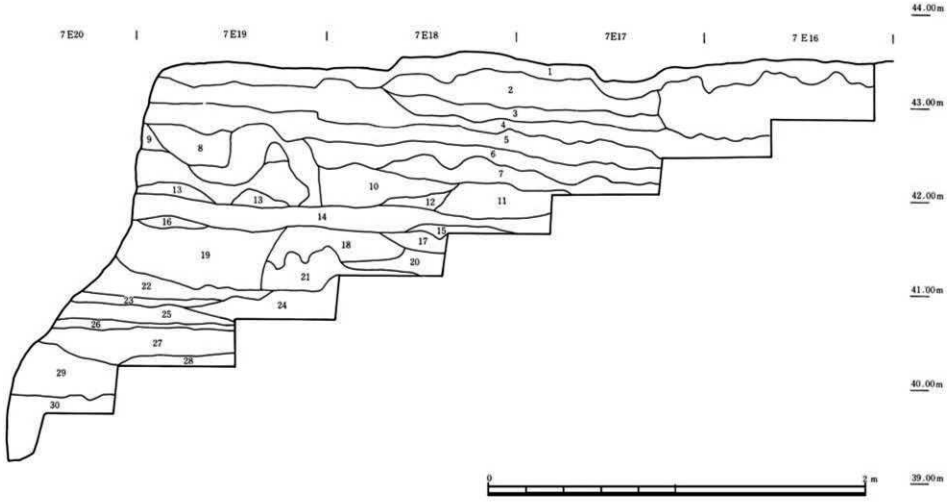


Fig. 18　山王遺跡地層断面図

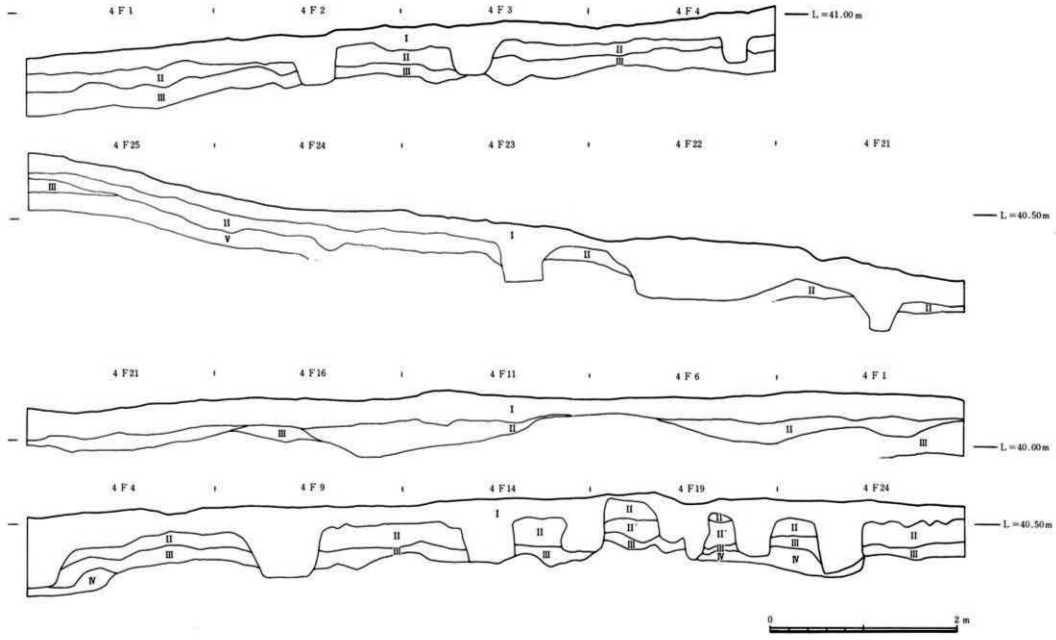


Fig. 19　山王遺跡４Ｆ１～４Ｆ４（東壁）・４Ｆ21～４Ｆ25（西壁）・４Ｆ１～４Ｆ21（北壁）・４Ｆ４～４Ｆ24（南壁）グリッド地層断面図

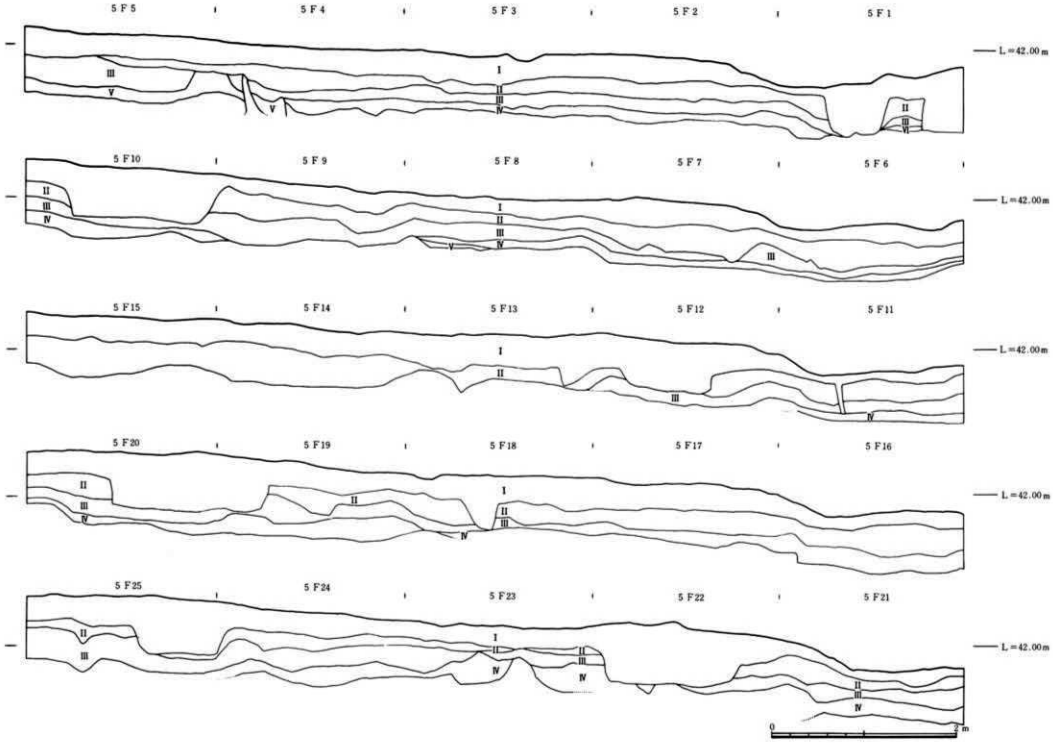


Fig. 20　山王遺跡５Ｆ１～５Ｆ５・５Ｆ６～５Ｆ10・５Ｆ11～５Ｆ15・５Ｆ16～５Ｆ20・５Ｆ21～５Ｆ25（西壁）グリッド地層断面図

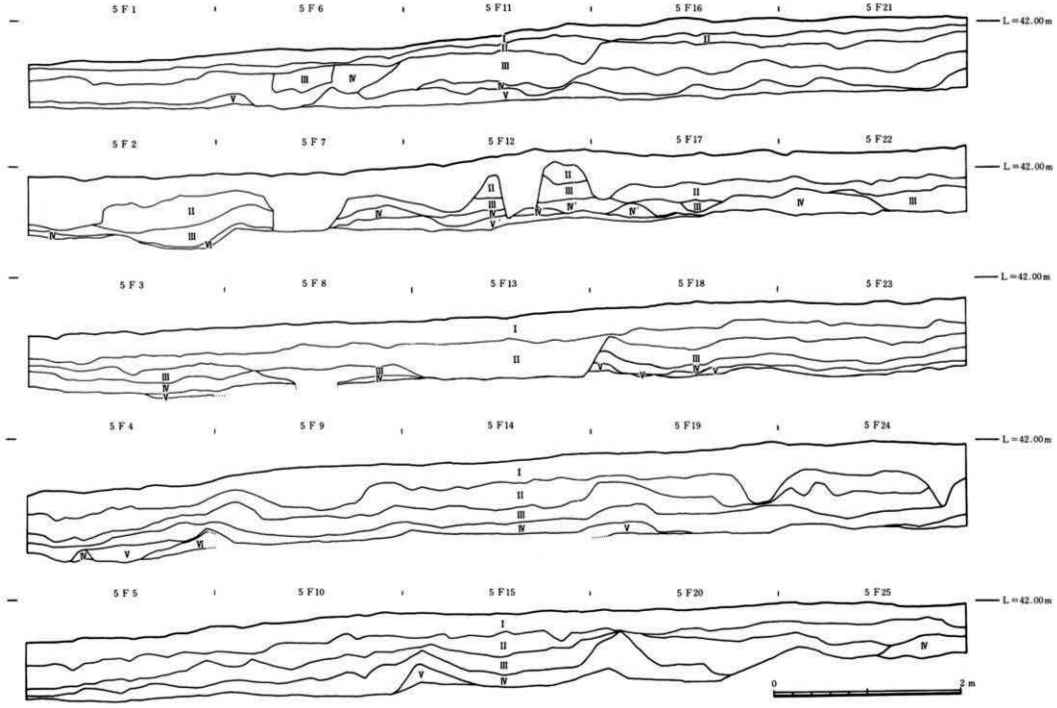


Fig. 21　山王遺跡 5 F 1 ～ 5 F 21・5 F 2 ～ 5 F 22・5 F 3 ～ 5 F 23 5 F 4 ～ 5 F 24・5 F 5 ～ 5 F 25（南壁）グリッド地層断面図

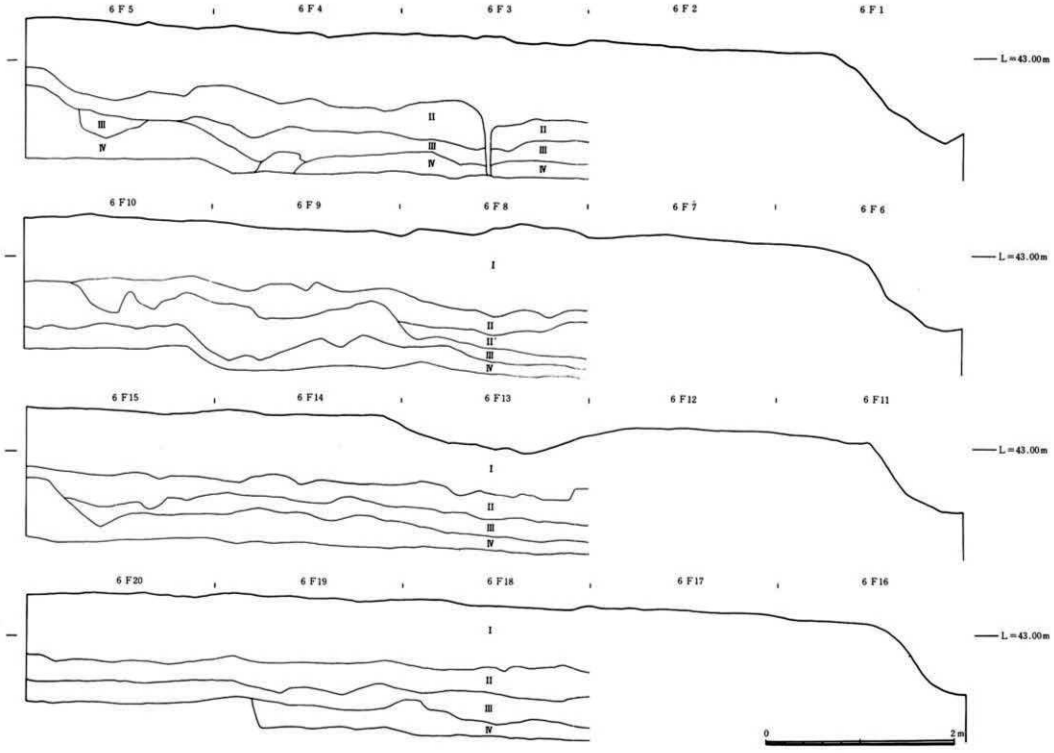


Fig. 22　山王遺跡 6 F 1 ～ 6 F 5 ・ 6 F 6 ～ 6 F 10 ・ 6 F 11 ～ 6 F 15 ・ 6 F 16 ～ 6 F 20 ・ 6 F 21 ～ 6 F 25 （西壁） 地層断面図

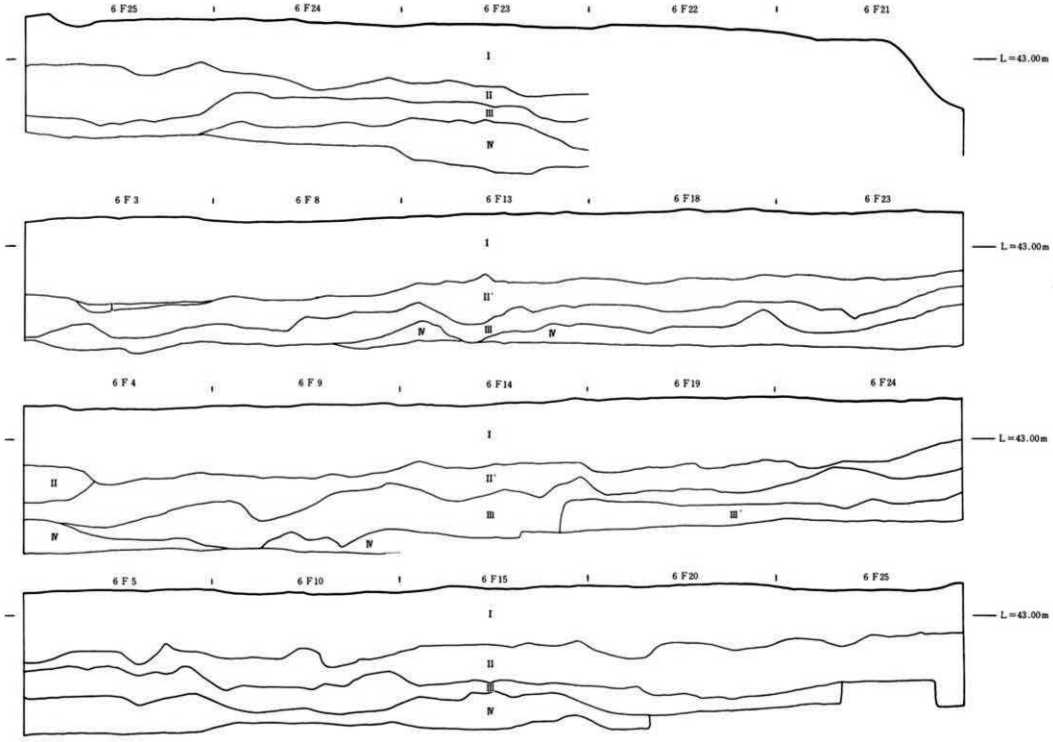


Fig. 23　山王遺跡 6 F 21～6 F 25（西壁）6 F 3～6 F 23・6 F 4～6 F 24・6 F 5・6 F 25（南壁）グリッド地層断面図

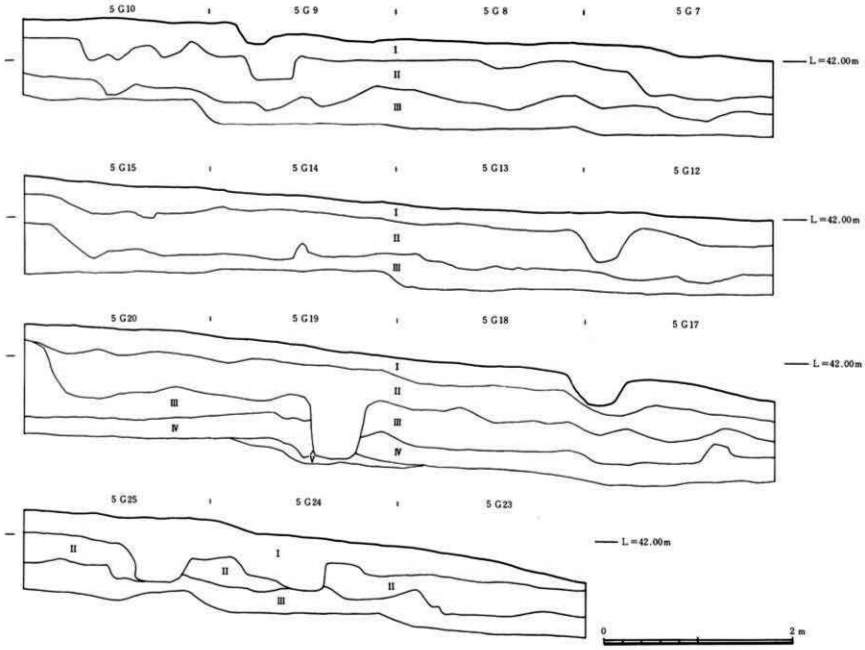


Fig. 24　山王遺跡５Ｇ７～５Ｇ10・５Ｇ12～５Ｇ15・５Ｇ17～５Ｇ20・５Ｇ23～５Ｇ25（西壁）グリッド地層断面図

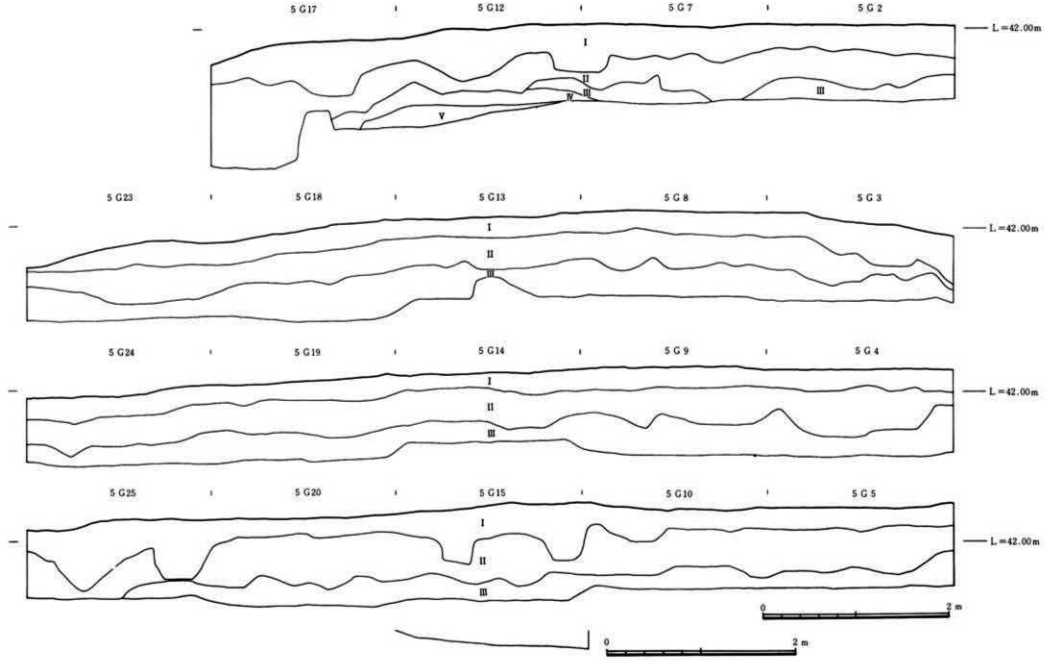


Fig. 25　山王遺跡５Ｇ２～５Ｇ17・５Ｇ３～５Ｇ23・５Ｇ４～５Ｇ24・５Ｇ５～５Ｇ25（北壁）グリッド地層断面図

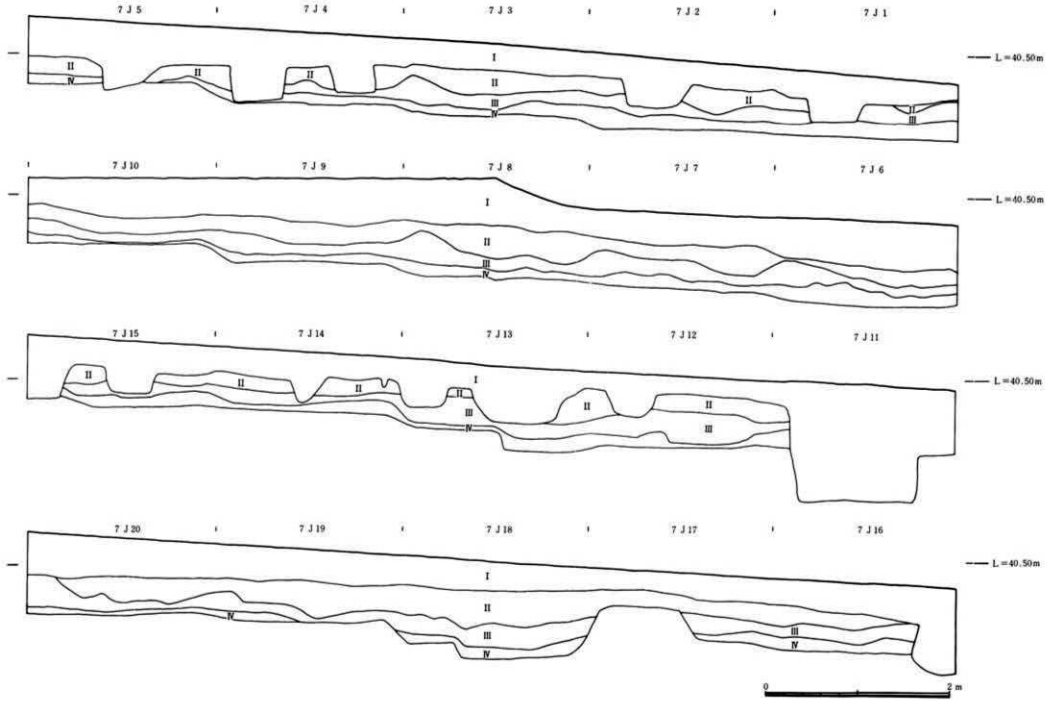


Fig. 26　山王遺跡７Ｊ１～７Ｊ５・７Ｊ６～７Ｊ10・７Ｊ11～７Ｊ15・７Ｊ16～７Ｊ20（西壁）グリッド地層断面図

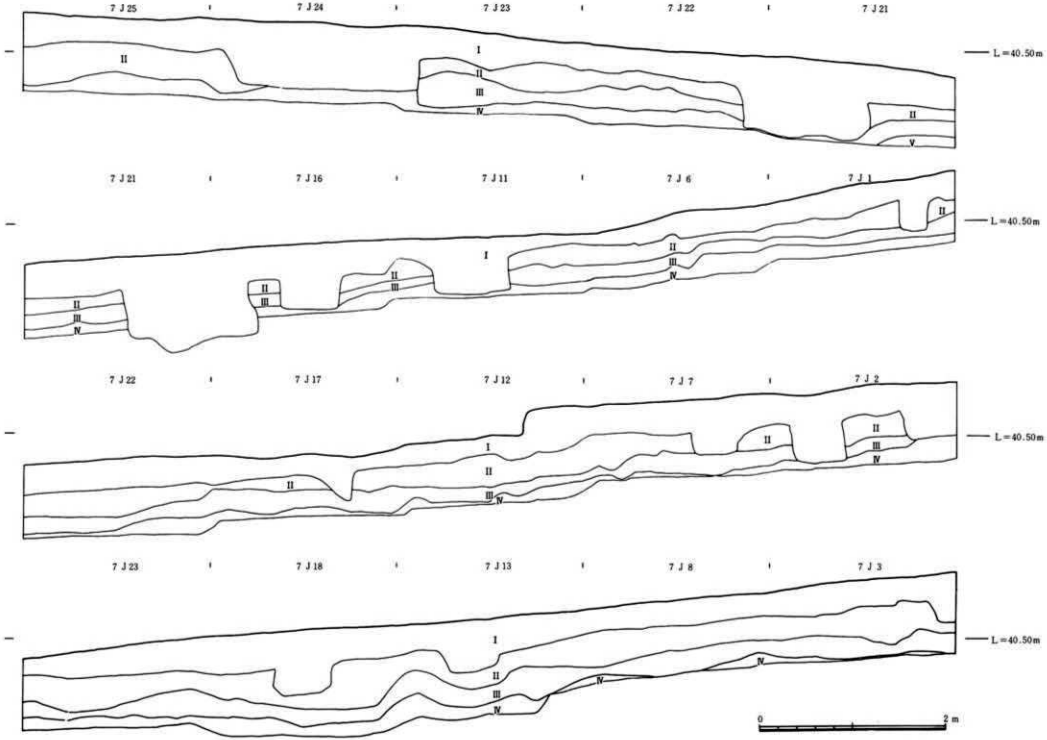


Fig. 27　山王遺跡７Ｊ21～７Ｊ25（西壁）７Ｊ１～７Ｊ21・７Ｊ２～７Ｊ22・７Ｊ３～７Ｊ23（北壁）グリッド地層断面図

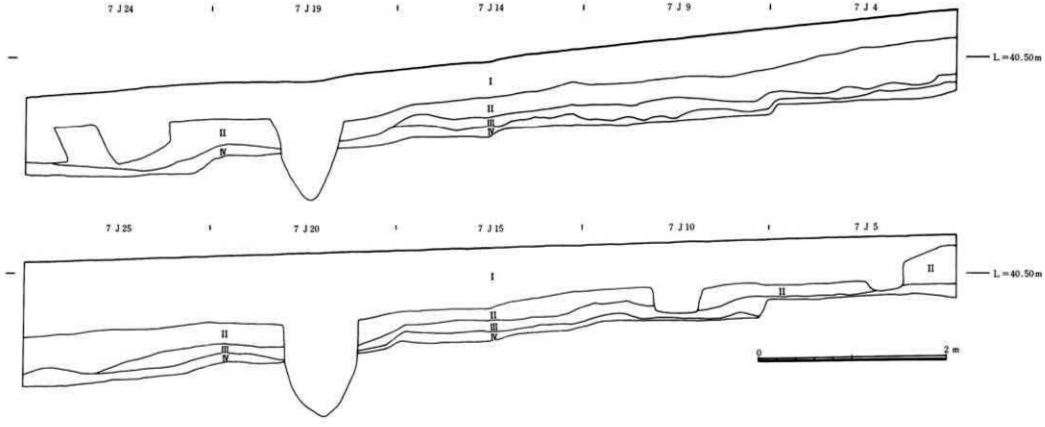


Fig. 28　山王遺跡７Ｊ４～７Ｊ24・７Ｊ５～７Ｊ25（北壁）グリッド地層断面図

4．山王遺跡調査区の層位（Fig. 19～28）

調査区は台地中央の平坦部を中心にグリッドを設定したが、果樹園に利用された地点が多く、直径２ｍ、深さ0.5～1.5ｍのドーナツ状の土壙が約３ｍ間隔で掘られ、部分的には遺物包含層を削平した地点もあった。発掘は無遺物層に達するまで５cm掘りを実施し、Ⅰ～Ⅵ層に区分した。

Ⅰ層　果樹園造成前に耕作されていた旧表土までの0.2～0.8ｍの堆積土と造成によって攪乱された0.5～1.5ｍの埋土。ナイフ形石器・台形様石器・尖頭器・石鏃・石匙・近世陶磁器の破片などが多量に出土した。

Ⅱ層　赤褐色の粘質土で上面はⅠ層の汚れが浸透しやや黒味を帯びるが、混じり気のない微粒子で構成されている。粘質は強いが軟らかい。サヌカイトの砕片・剝片のほかに尖頭器・石鏃が出土した。台地北側斜面には流失のためか存在しない。

Ⅲ層　暗い赤褐色粘質土である。Ⅱ層に比べ粘質が強く硬い。サヌカイトの砕片・剝片・尖頭器・石鏃が出土した。

Ⅲ'層　Ⅲ層と同じ土壌であるが、黄色味が混ざる。Ⅲ層の下部に部分的に存在し、サヌカイト砕片・剝片・尖頭器・石鏃が出土した。

Ⅳ層　茶褐色粘質土でⅢ層に類似した土壌である。サヌカイト砕片・剝片・尖頭器が出土。尖頭器主体の文化層である。

Ⅴ層　黄褐色粘土層である。粘質が強く、硬い。遺物は出土しない。

Ⅵ層　褐色粘質土で0.2cmの砂粒を含み、Ⅴ層に比べ粘質は強い。遺物は出土しない。

5．遺構（Fig. 29）

山王遺跡で検出した遺構は長軸1.05～1.3m、短軸0.6～0.8ｍの楕円形および楕円形状の不定形土壙で５Ｆ大グリッドに集中した。土壙の埋土はⅡ層と同じ赤褐色粘質土であった。土壙内から多量のサヌカイト砕片が出土、砕片を集めて捨てた様な出土状態であった。Ⅱ層から深さ５cmを発掘および遺物取りあげの単位とし、Ⅳ層発掘中に土壙を確認したが、遺物出土状態の平面分布図を見る限り、遺構を検出できなかったⅡ層でも土壙上部に遺物が集中していることから、３か所の土壙ともⅡ層からの掘り込みと考えられる。

ＳＫ001土壙（Fig.30～35、Tab. 2）

５Ｆ４～５Ｆ９グリッドのⅣｅ層で確認した長軸1.3m、短軸0.8ｍの楕円形状の土壙である。埋土は赤褐色粘質土で軟らかい。５cm掘りで21回、深さ1.05ｍを発掘し、出土した遺物は3,379点であった。うちサヌカイト砕片は3,342点で約99％を占めた。黒耀石の遺物は４点だけと少ない。石器は尖頭器がNo. 3、No. 9、No.14、No.17の層で１点ずつ出土、No. 7で黒耀石

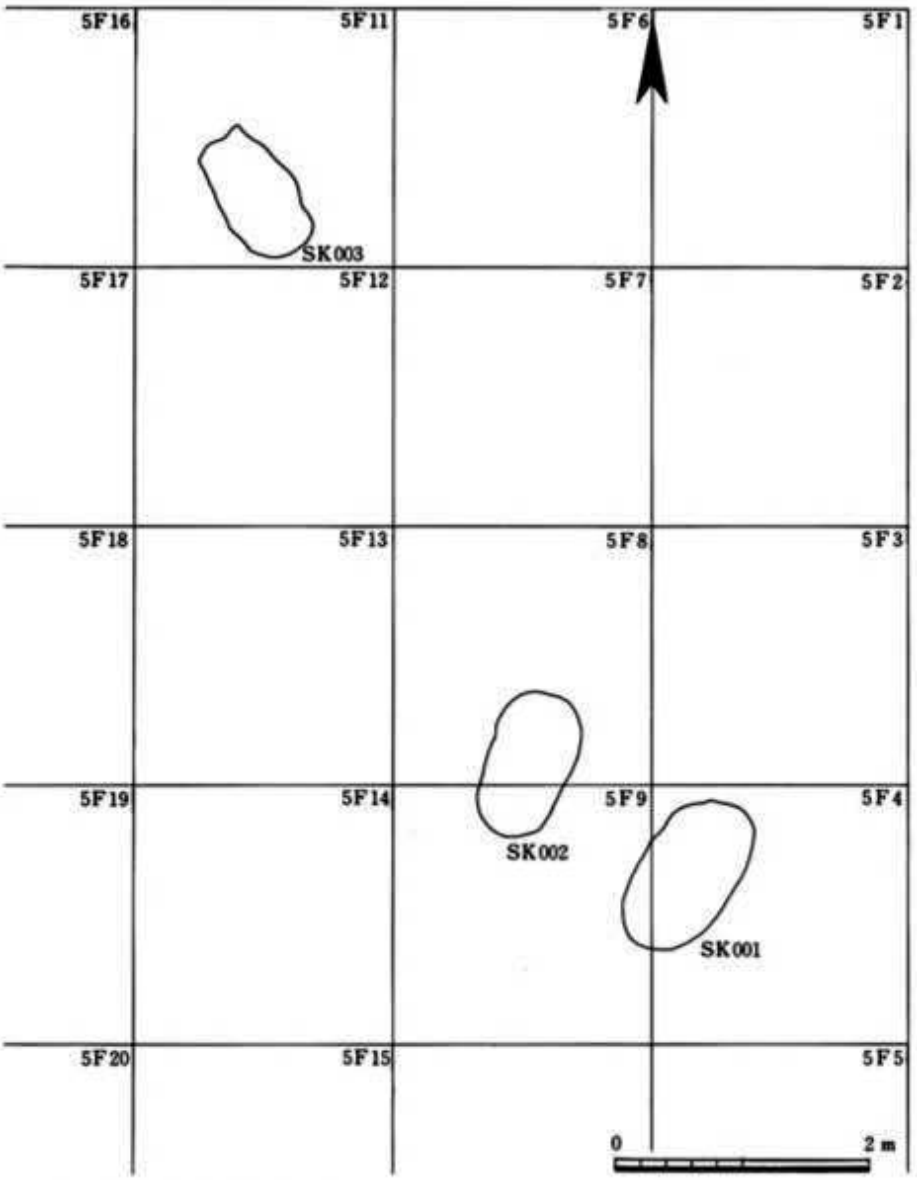


Fig. 29　山王遺跡土壙配置図

の台形様石器１点が出土した。土壙検出前の土壙上部ではⅡ層から遺物が集中し、Ⅱ層からの掘り込みと断定した。土壙上面での石器はⅢａ層で尖頭器１点、Ⅲｂ層で尖頭器２点、Ⅳｄ層で尖頭器１点が出土した。土壙内の出土遺物は旧石器時代のものと考えられるが、山王遺跡の層位における遺物の出土状態ではⅡ・Ⅲ層から石鏃が出土し、土壙の埋土もⅡ層と同一であるため、土壙の時期の決定はできない。

ＳＫ002土壙（Fig.36・37、Tab.2）

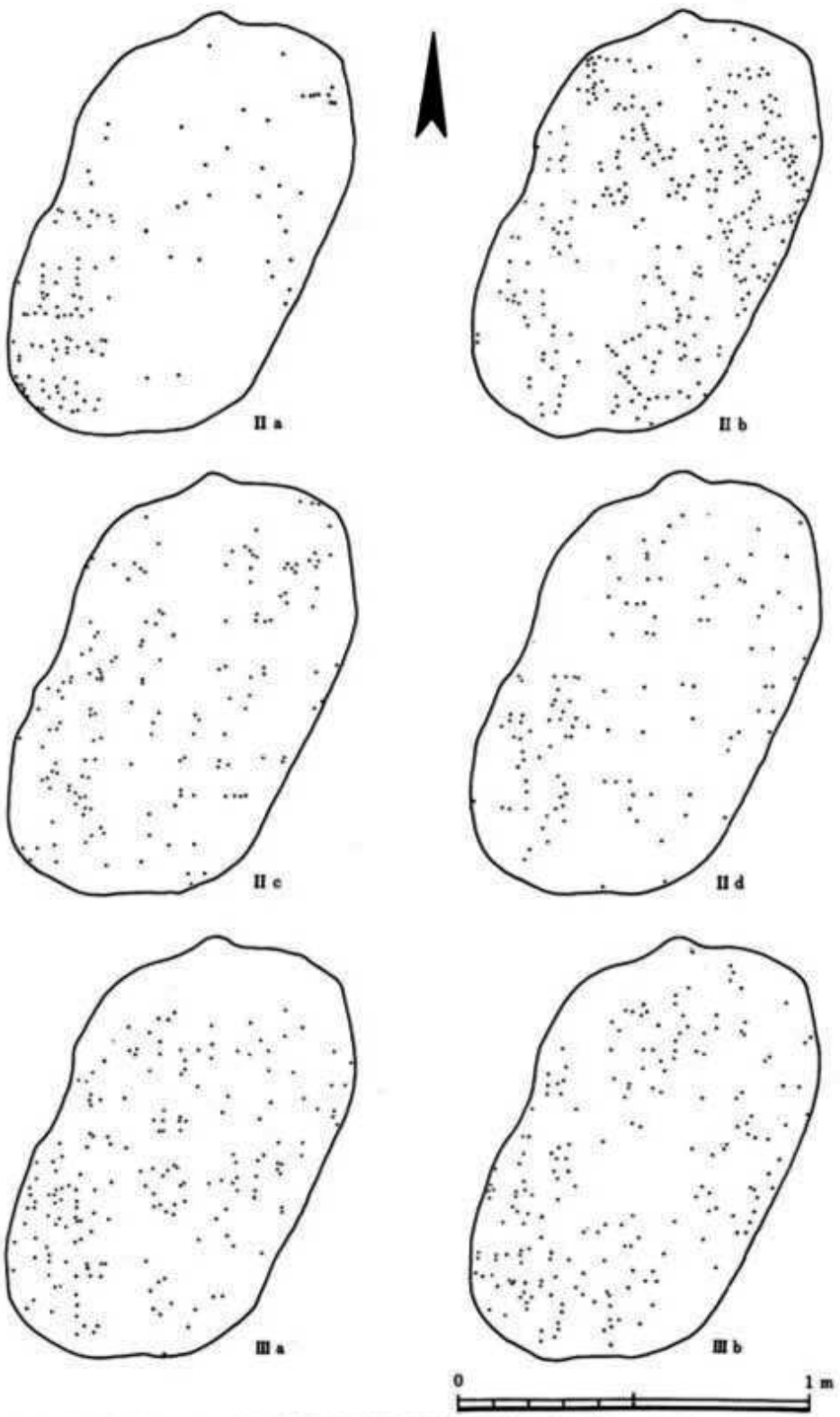


Fig. 30　山王遺跡ＳＫ001土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図

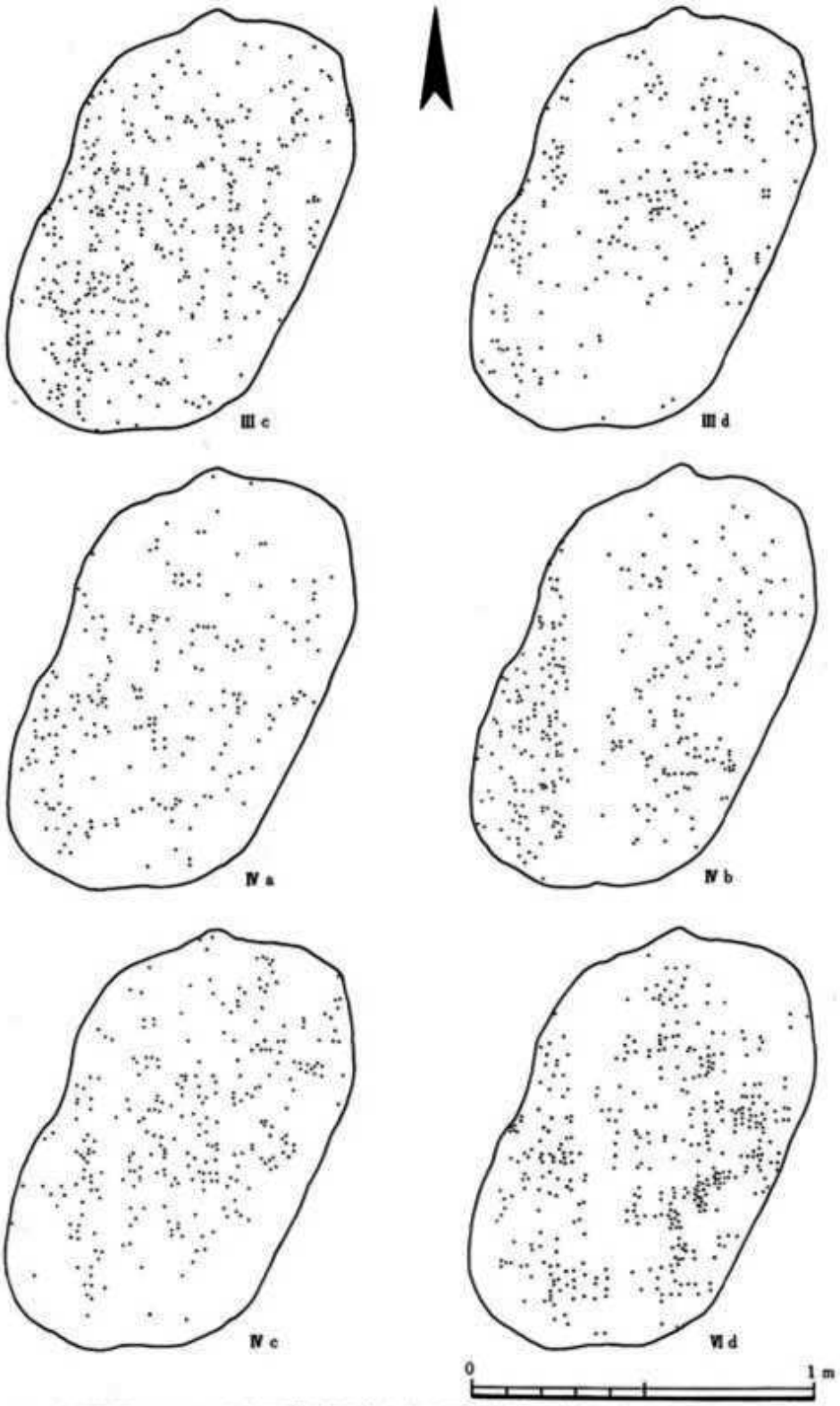


Fig. 31　山王遺跡ＳＫ001土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(2)

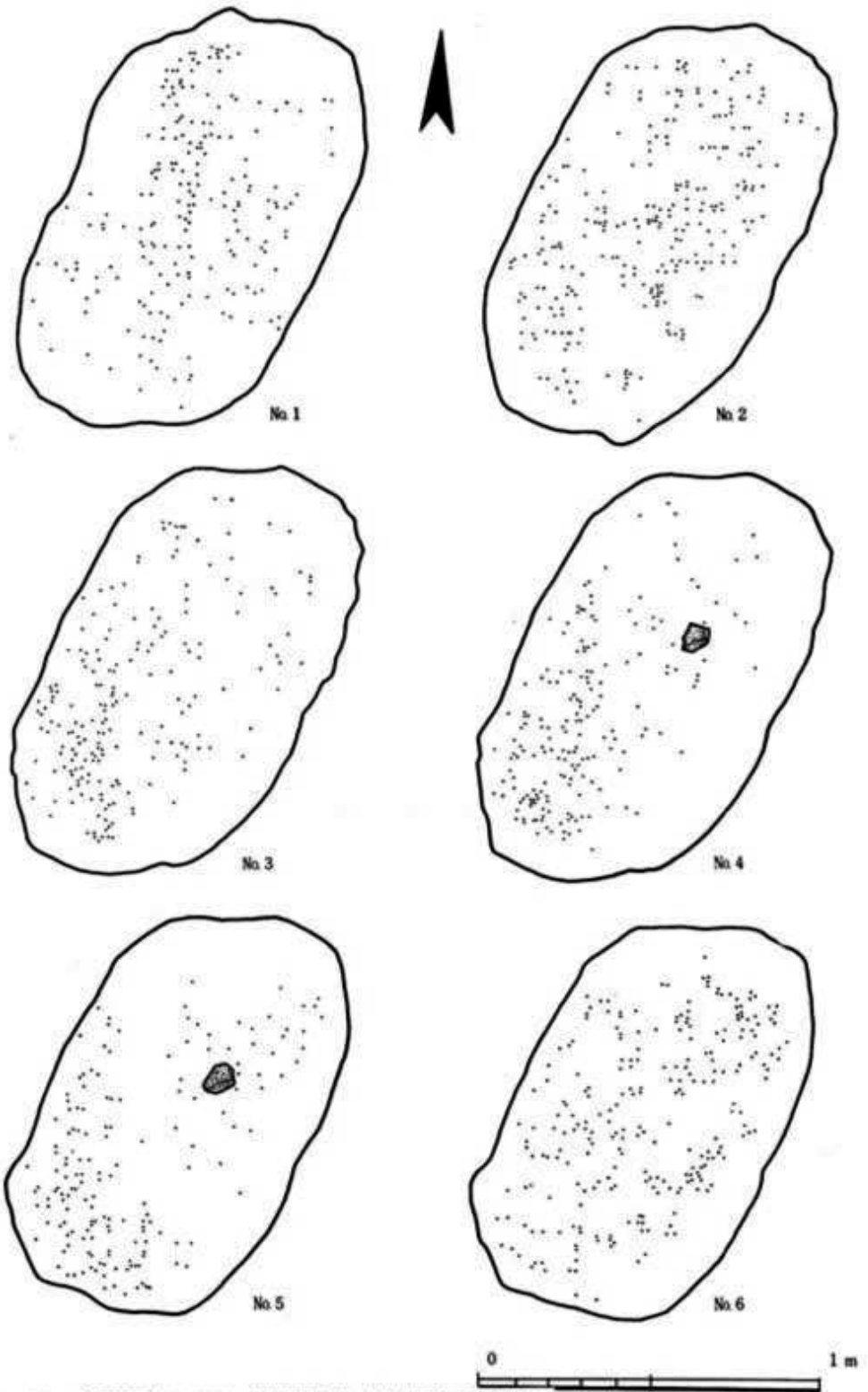


Fig. 32　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態平面分布図(1)

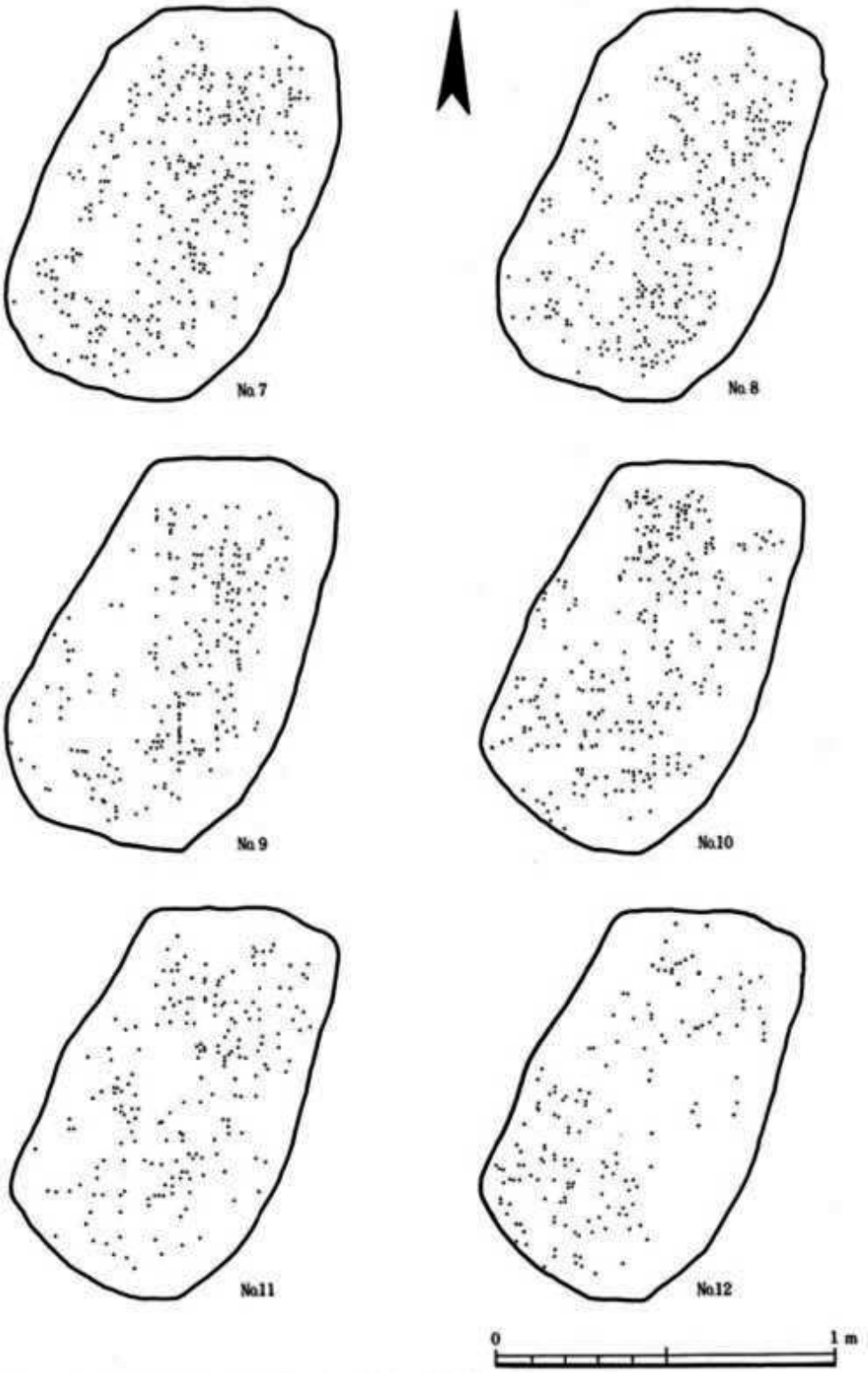


Fig. 33　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態平面分布図(2)

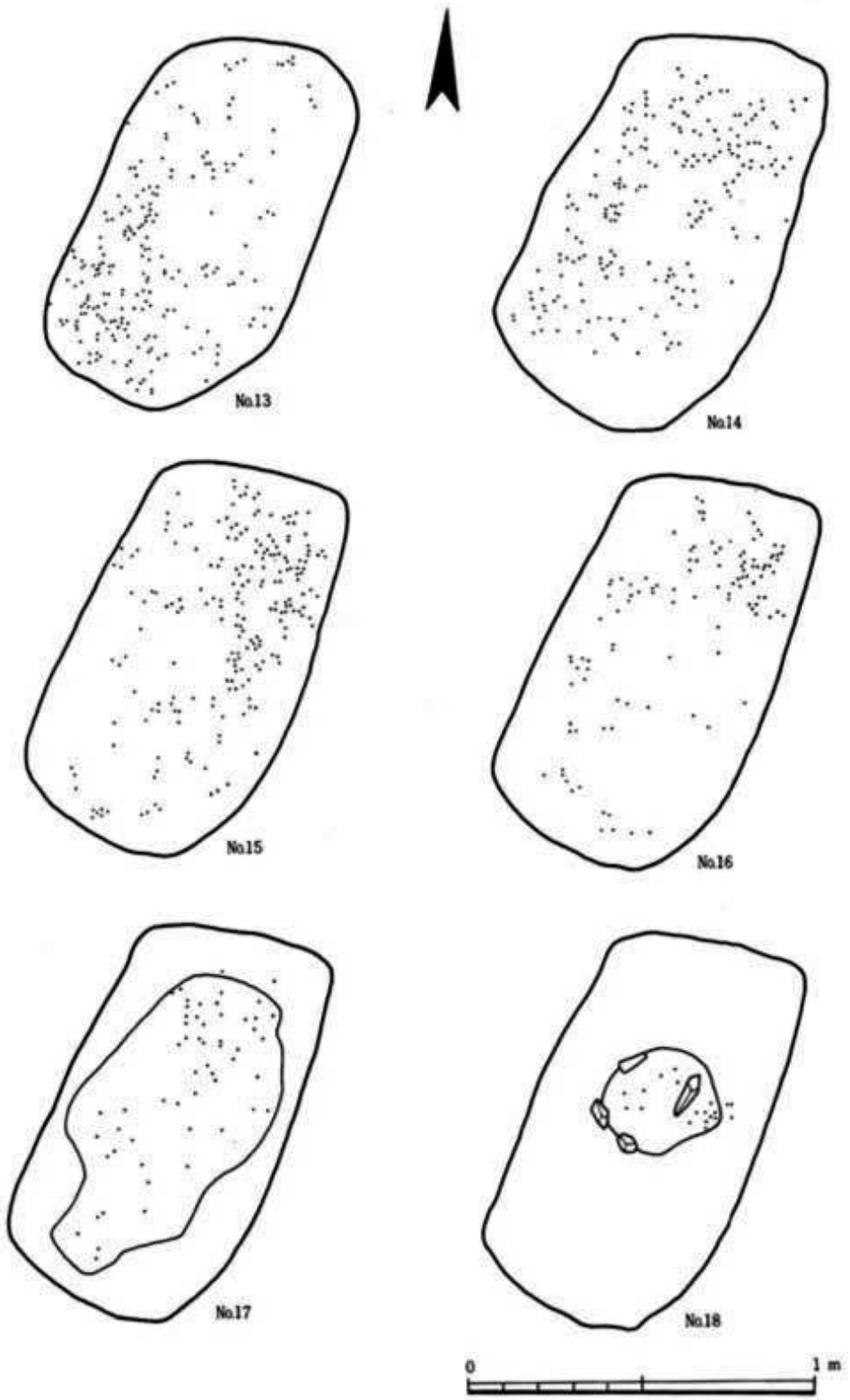


Fig. 34　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態平面分布図(3)

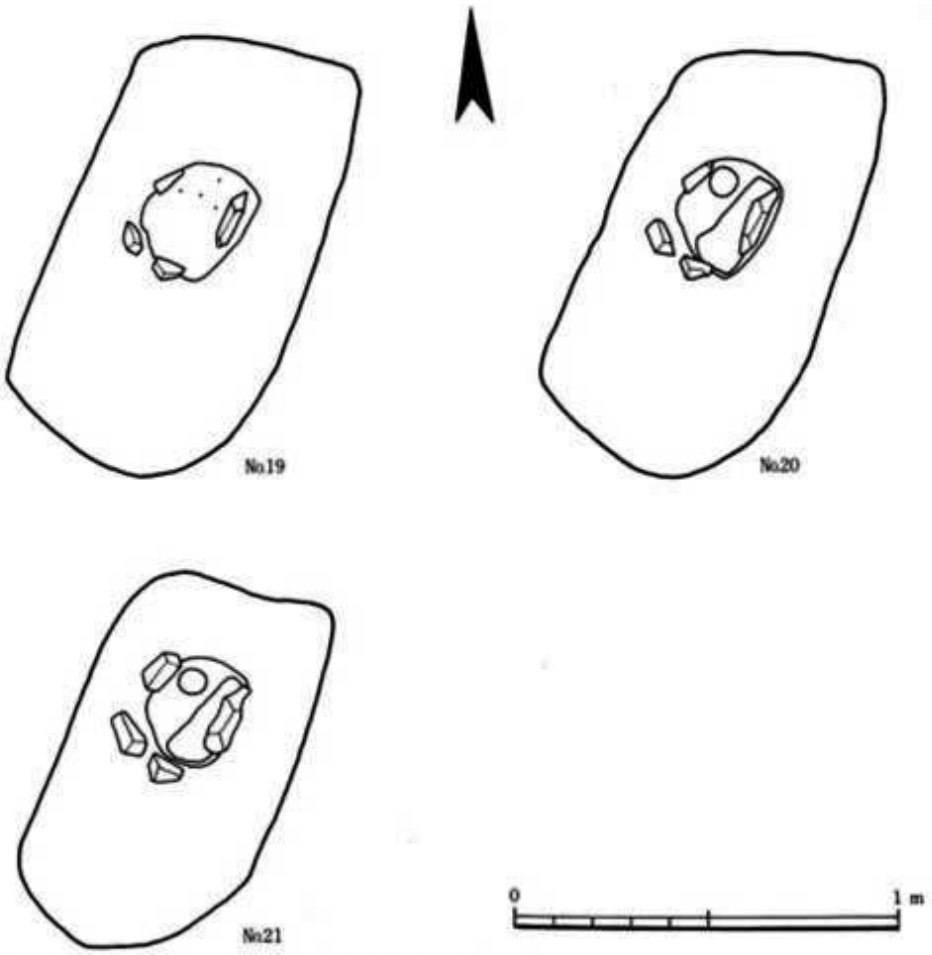


Fig. 35　山王遺跡ＳＫ001土壙遺物出土状態平面分布図(4)

５Ｆ８～５Ｆ９グリットでⅣｄ層発掘中に確認した長軸1.3ｍ、短軸0.75ｍの楕円形状の土壙である。埋土は赤褐色粘質土で、Ⅱ層と同じ土壙である。５cm掘りで12回、深さ0.6ｍを発掘し、遺物は2,406点が出土、うちサヌカイト砕片が2,374点、98.6％を占めた。黒耀石は小剝片と砕片の３点だけである。石器は尖頭器がNo.１、No.３で１点ずつ出土した。土壙確認前の土壙上面Ⅱ層でもサヌカイト砕片が集中し、Ⅱ層から掘り込まれた土壙であろう。土壙上面での石器はⅡａ層で尖頭器１点が出土した。土壙内から出土した遺物は旧石器時代のものと考えられ、ＳＫ001土壙同様、時期の決定はできない。

ＳＫ003土壙（Fig.38～43、Tab.２）

５Ｆ11グリッドⅣｄ層で確認した長軸1.0ｍ、短軸0.6ｍの不定形土壙である。埋土は赤褐色粘質土でⅡ層と同じ土壙である。５cm掘りで16回、深さ0.8ｍを発掘し、出土した遺物は891点でＳＫ001、ＳＫ002土壙に比べ少ない。うちサヌカイト砕片は867点で97.3％を占める。黒耀

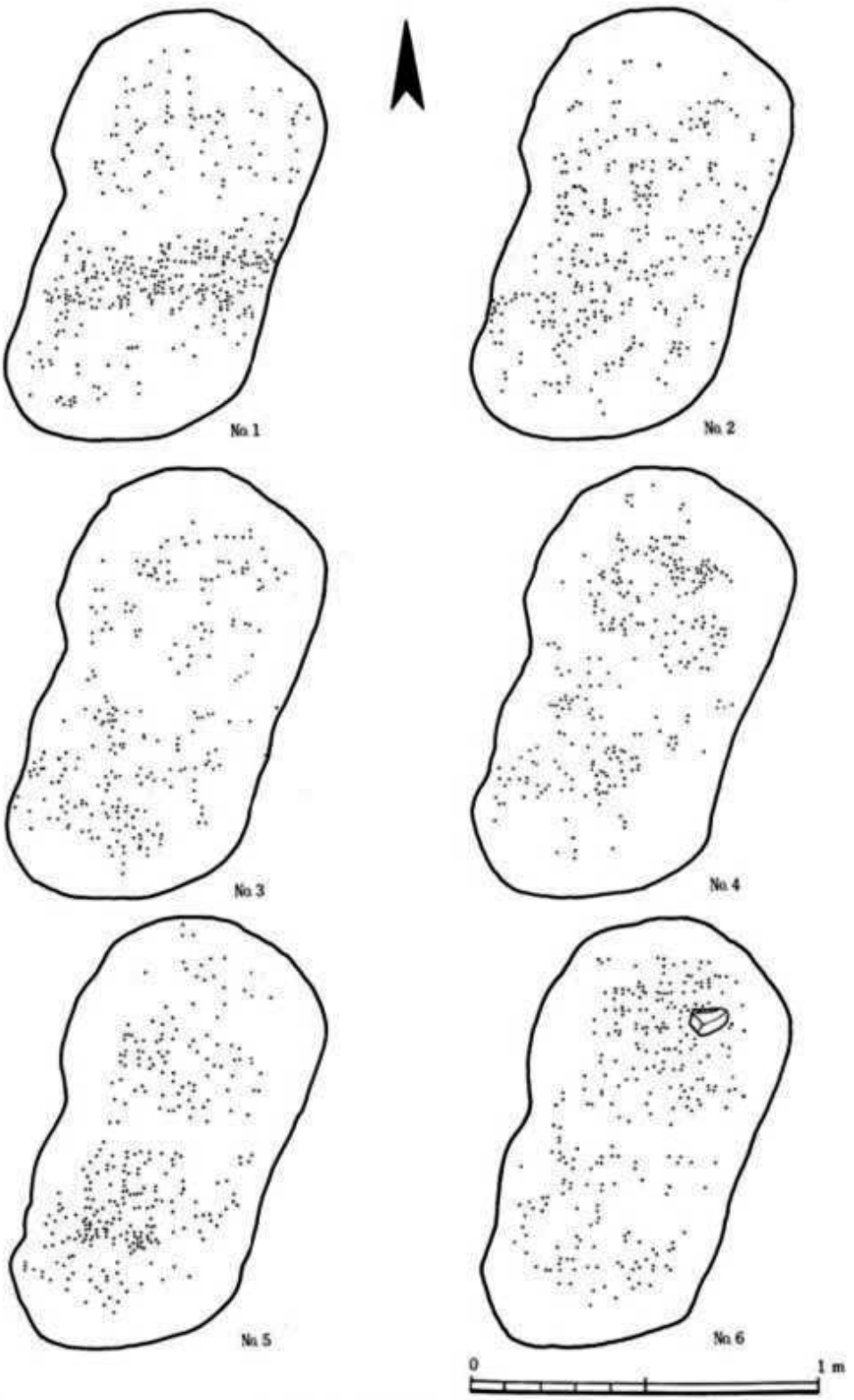


Fig. 36　山王遺跡ＳＫ002土壙遺物出土状態平面分布図(1)

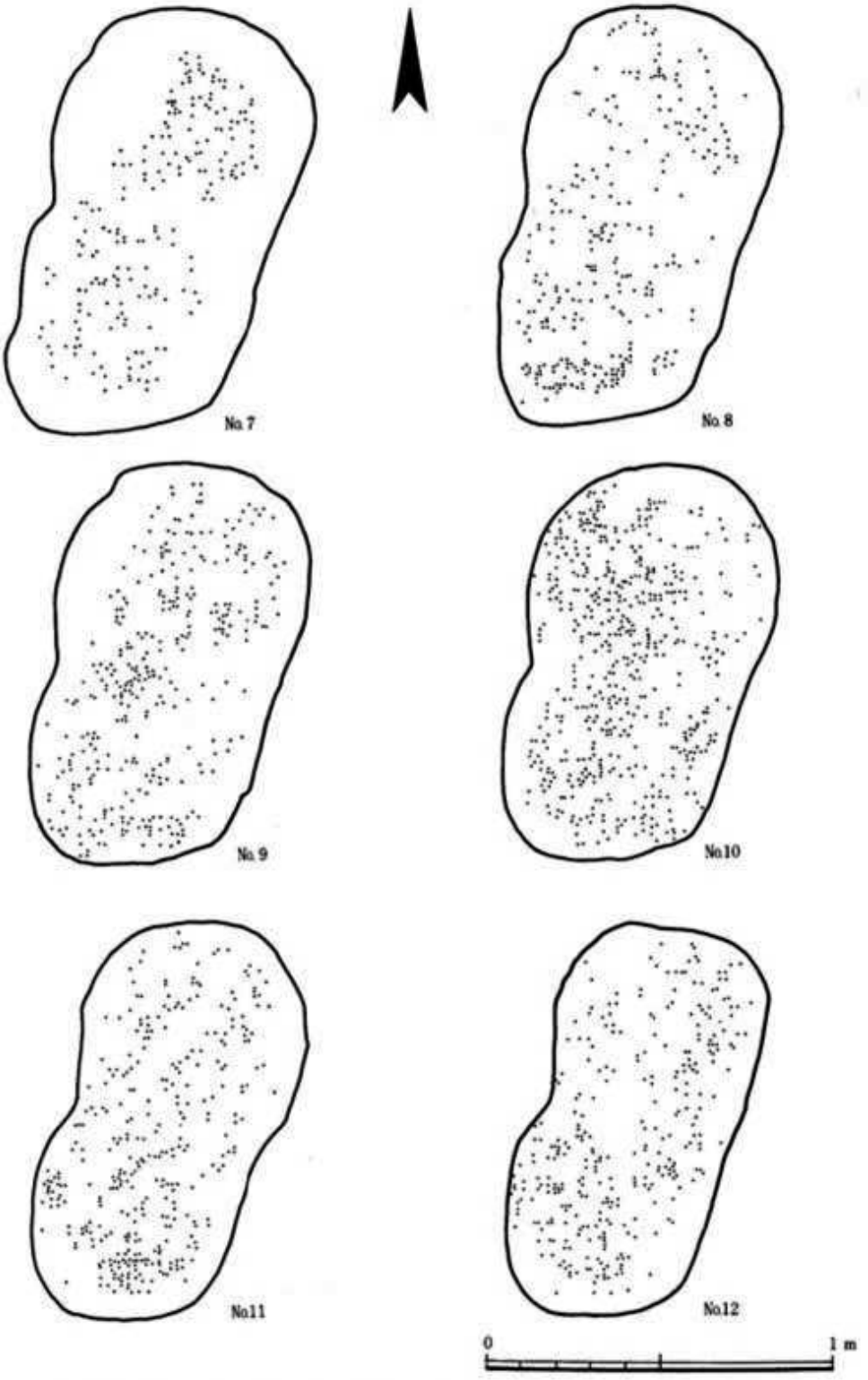


Fig. 37　山王遺跡ＳＫ002土壙遺物出土状態平面分布図(2)

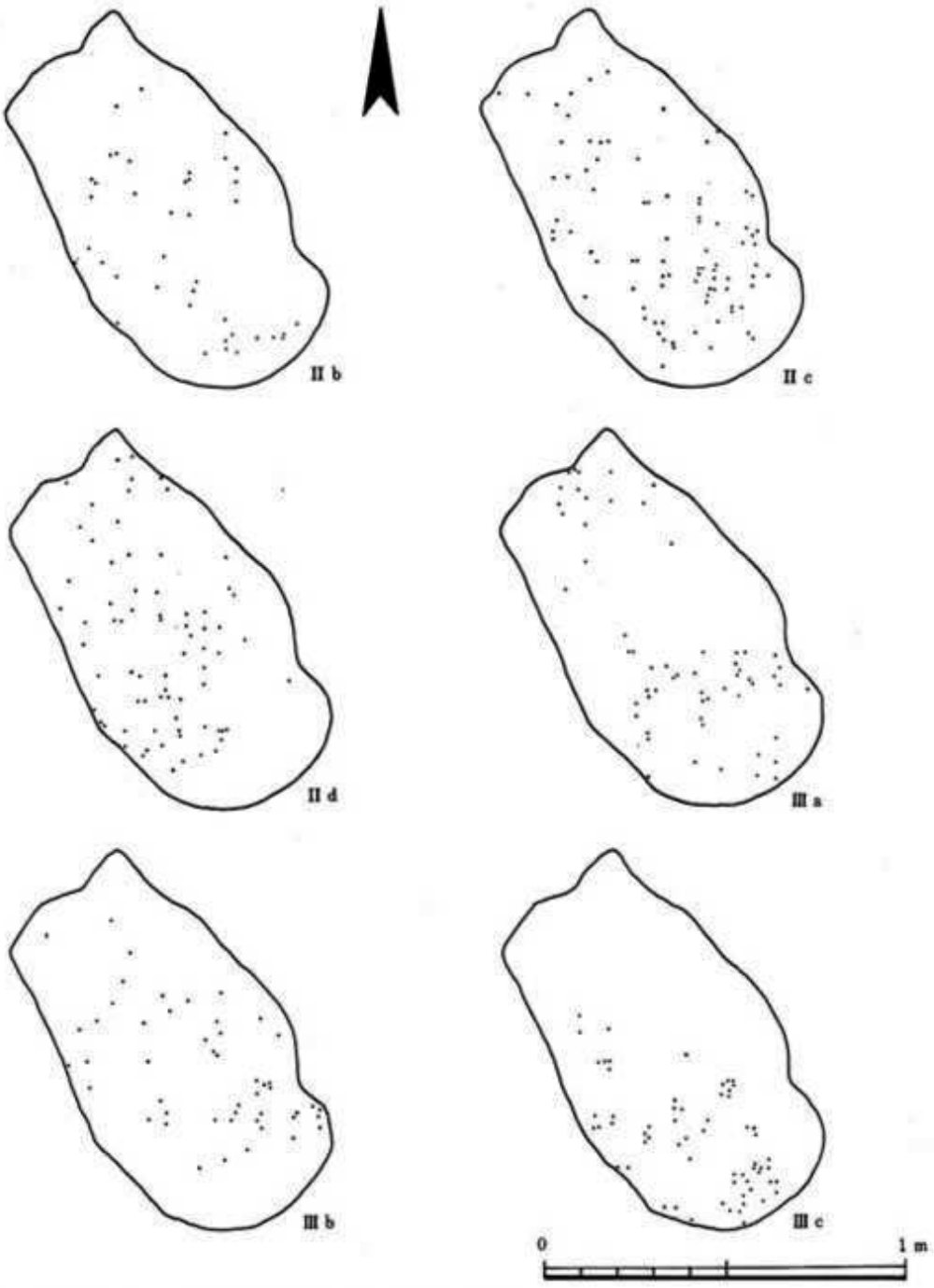


Fig. 38　山王遺跡ＳＫ003土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(1)

石は剝片５点、砕片７点が出土、1.3%である。石器はNo.10でサヌカイト石鏃が出土、尖頭器は出土しなかった。Ⅱ層上面から土壙確認面のⅣｃ層までサヌカイト砕片が集中し、Ⅱ層からの掘り込みである。土壙上面ではⅡｃ層で尖頭器１点が出土した。ＳＫ001、ＳＫ002土壙との

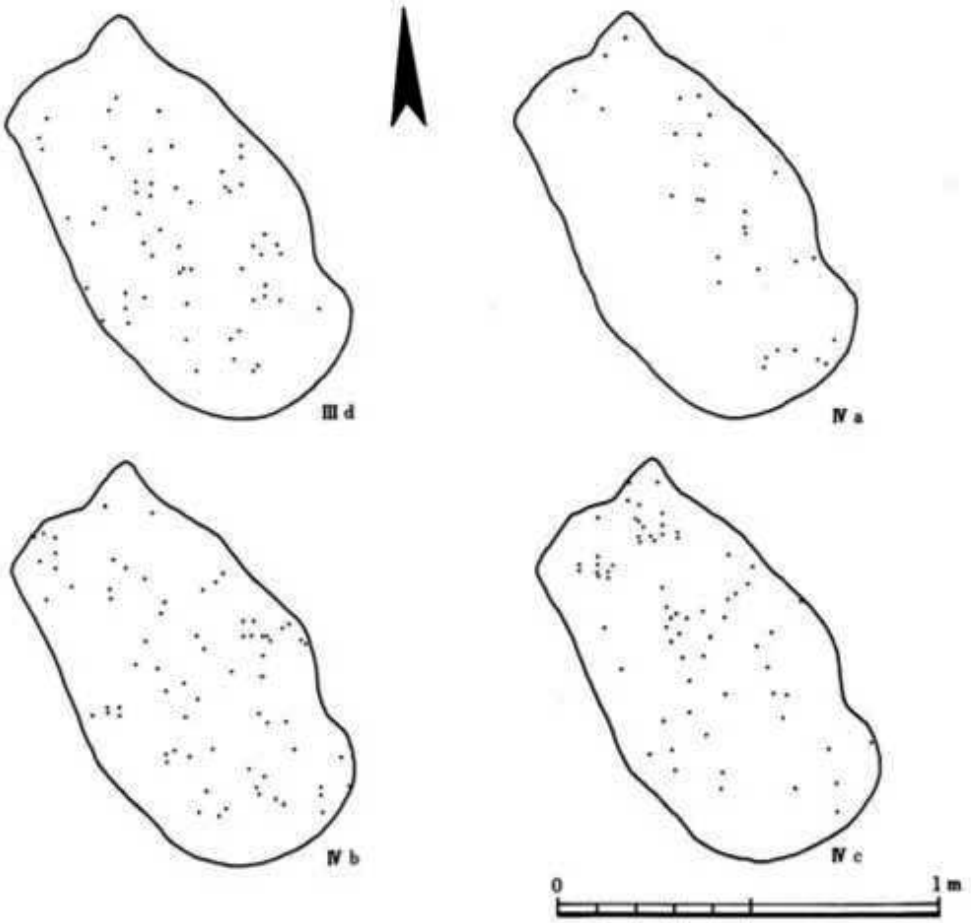


Fig. 39　山王遺跡ＳＫ003土壙遺構確認前土壙上面遺物出土状態平面分布図(2)

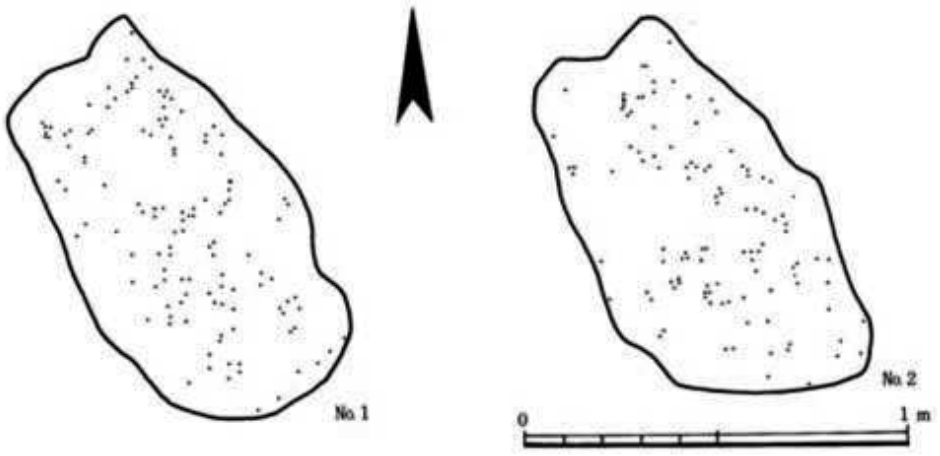


Fig. 40　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態平面分布図(1)

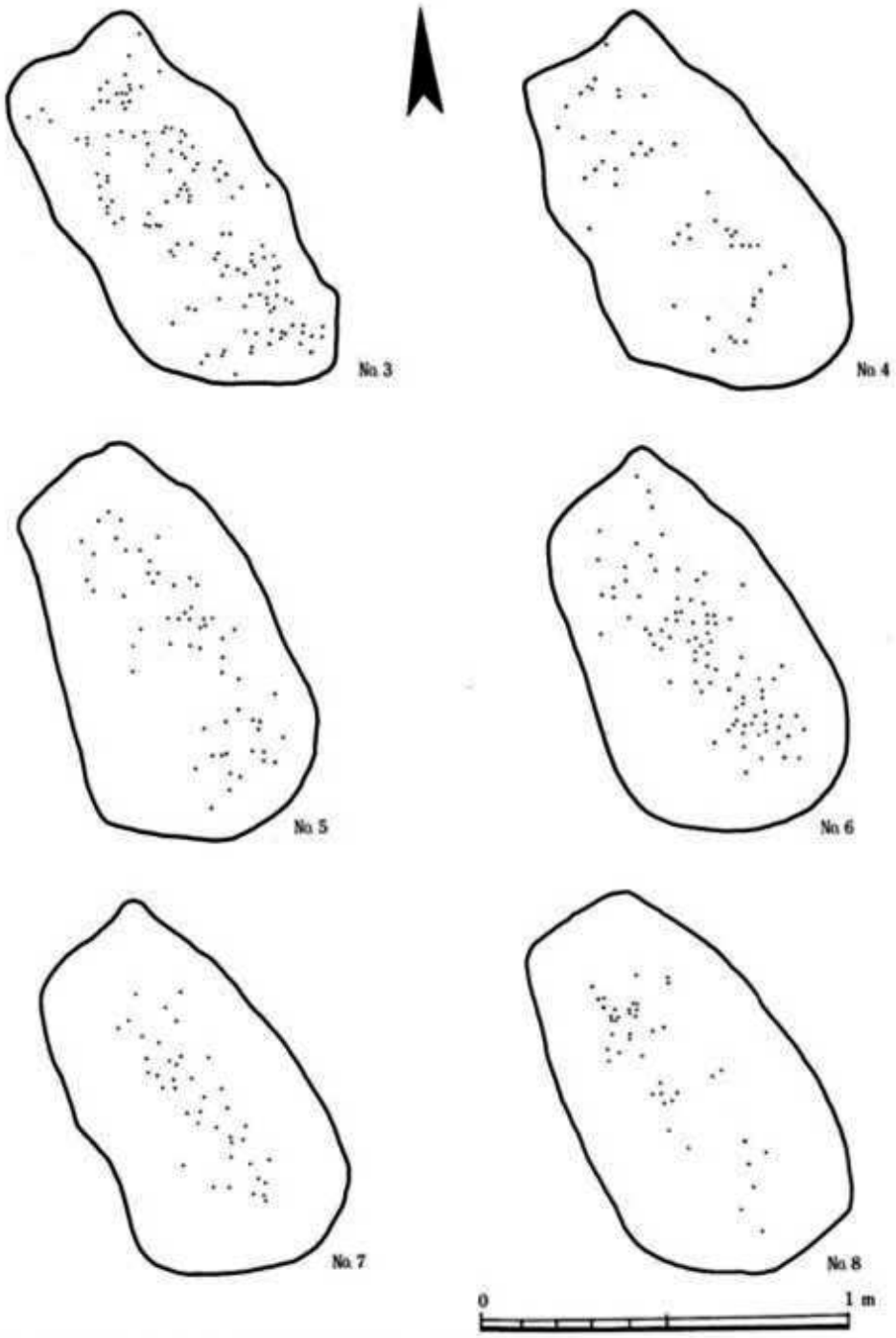


Fig. 41　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態平面分布図(2)

相違点はNo.10で出土した石鏃と黒耀石の占める割合の増加である。石鏃を除く遺物は旧石器時代のものと考えられ、石鏃の出土によってＳＫ003土壙が縄文時代の土壙とは断定できない。

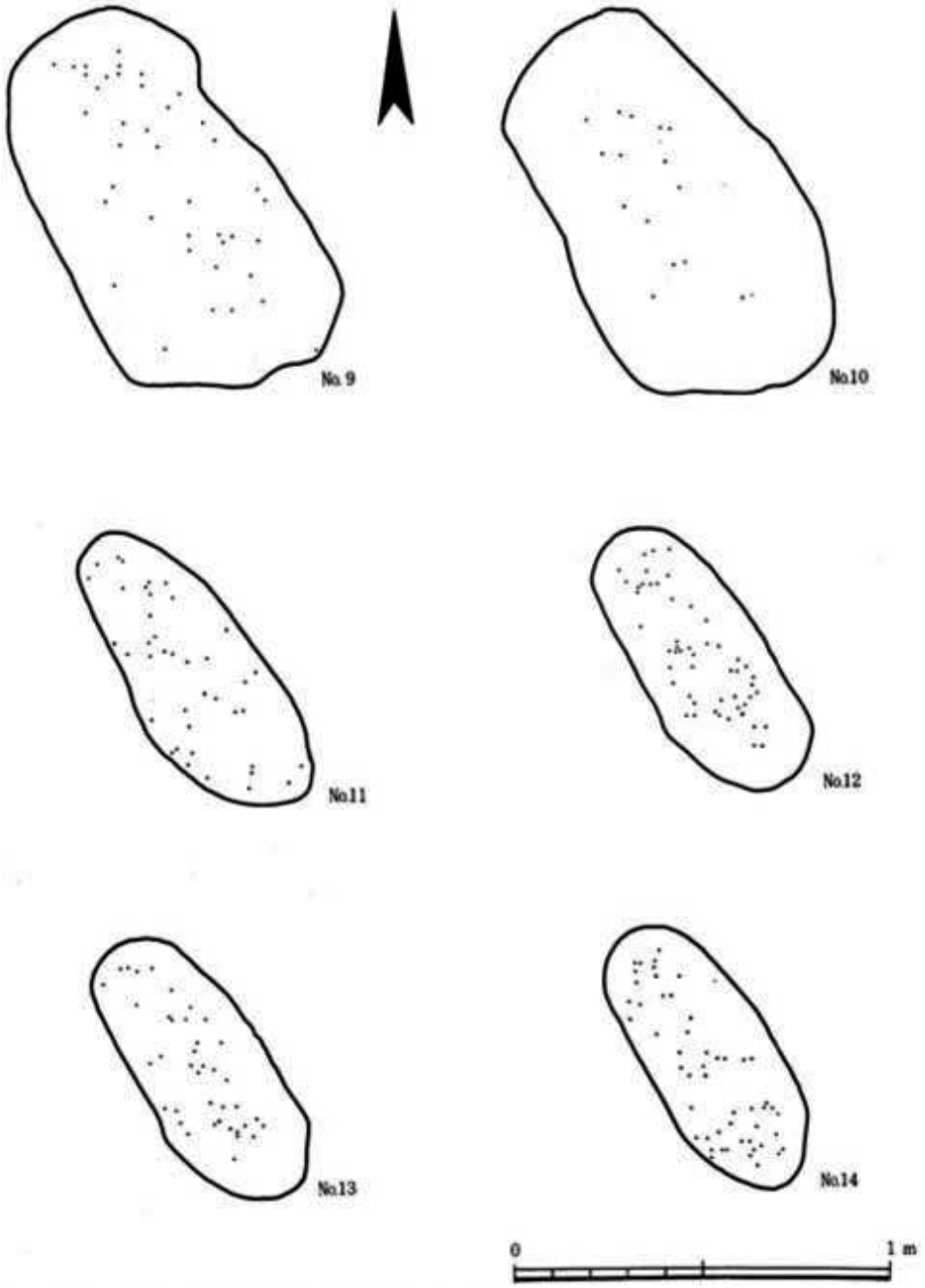


Fig. 42　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態平面分布図(3)

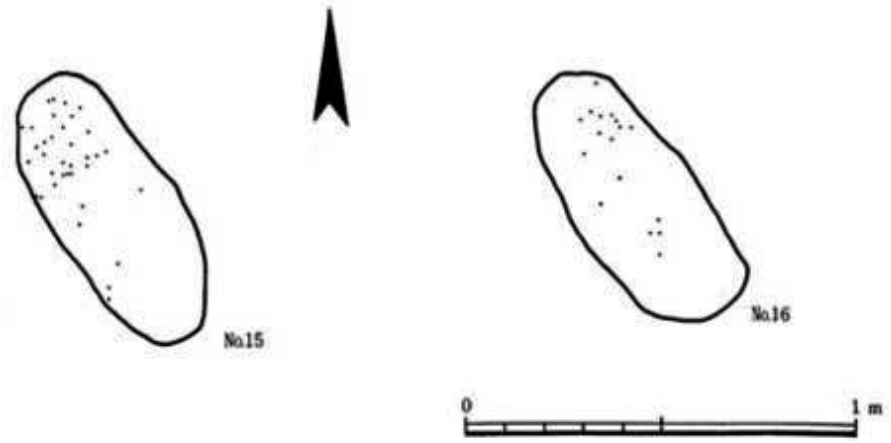


Fig. 43　山王遺跡ＳＫ003土壙遺物出土状態平面分布図(4)

Tab. 2　山王遺跡土壙出土遺物層位別組成一覧表

土壙名 / 遺物名 / 層位	S K 001							S K 002						S K 003				
	サヌカイト				黒曜石			サヌカイト				黒曜石		サヌカイト			黒曜石	
	尖頭器	剥片(大)	剥片(小)	砕片	台石形器	剥片(小)	砕片	尖頭器	剥片(大)	剥片(小)	砕片	剥片(小)	砕片	石鏃	剥片(大)	砕片	剥片(大)	砕片
No.1			1	270				1		2	213					142		2
No.2		3	1	181						2	222				1	112	2	
No.3	1	1	1	150				2	1		248					144		2
No.4		1		173		1	1		3		294		1			49		
No.5		2		163							205		1			58	1	1
No.6		2		382			1		1		168				1	88	1	1
No.7		2		175	1				1	8	242	1			1	41		
No.8			1	160					1	3	106				3	39		
No.9	1	3	1	246						1	290				1	39		
No.10				131					1	1	227			1		14		
No.11		2	1	304							116				1	39		
No.12		1		189						1	43					52		
No.13				144												40		
No.14	1			291											2	52		
No.15			2	74												34	1	1
No.16				118											1	16		
No.17	1		2	122														
No.18			2	44														
No.19				13														
No.20				4														
No.21				8														

6．遺物

山王遺跡で出土した遺物は尖頭器を主体とした旧石器時代の石器が最も多く、石鏃や石匙など縄文時代の石器も出土した。遺物は表面採集を含め膨大な数になるが調査区ごとに遺物の種類と出土層別の表を作成した。

Tab．3　山王遺跡５Ｅ調査区出土遺物層位別組成一覧表

石材 / 遺物 / 層位	サヌカイト								黒曜石								その他		
	尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
Ⅰ	3			1			41	769				1	1		5	5	1			
Ⅱ	6						59	4,168							2	8	1			

Tab．4　山王遺跡４Ｆ調査区出土遺物層位別組成一覧表

石材 / 遺物 / 層位		サヌカイト								黒曜石								その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
Ⅰ		62			4	1	22	154	1,042							18	23				
Ⅱ	a	12			2	2	19	37	1,002							4	6	2		1	
	b	3		1	1		5	25	812					1		5	9	8			1
	c			1	1		5	7	850		2					2	3	4			2
	d	1		1			6	20	515				1			5	4	5			
Ⅲ	a	3					2	17	501				1			3	3				
	b	1		1	1		5	6	291							3	5	1			2
	c	1		1			2	12	188							1	3	3			
	d	3			1		2	9	192							2	1	1			
Ⅳ	a	2		2			1	7	188							3	2	5			1
	b								29								1				
	c								2												
	d						3	2	92				2			2	2	1			1
	e						1	1	69									1			
	f							2	36												

Tab．5　山王遺跡５Ｆ調査区出土遺物層位別組成一覧表

石材 / 遺物 / 層位	サヌカイト								黒曜石								その他		
	尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
Ⅰ	125	1		7	2	77	494	10,743						2	35	61	39	1		1

層位		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
II	a	56		1	1	1	136	178	8,374				7		1	30	24	44	1		
	b	53		1	4		97	174	9,694		1	1		1	1	27	3	33			2
	c	59			2		89	222	9,070			1				20	10	25			1
	d	52		3			79	194	7,861		1		1			15	17	10	1		
III	a	50		1	4	1	75	129	6,167		1		2	1		13	21	11			
	b	19					55	57	3,862				2		1	9		2			
	c	15		1	1	2	43	29	3,362				1			9	6	7			
	d	8		1	1		49	53	2,668		1			1		12	2	4			
IV	a	6		2			43	11	2,288							6	2	7			
	b	4					24	13	2,485				1			9	2	9			
	c	3			1		16	8	1,744							6	1	2			
	d	2		1			17	8	1,433							3		4			
	e	6					11	25	1,522							3	4	2			
	f	1					8	2	620									3			
	g	2					7	1	645							3					
	h	1					14		434					1		1	1	4			
	i						9	8	423							1		3			
	j	1					3	1	765							1		1			
	k						10		262		1										
	l	1					3	1	140												
	m	1					4	1	244							1					
	n	3					2		229							1					
	o						2		381												
	p						2		347												
	q						2		222							1					
	r								113							1		1			
	s						1	1	38												
	t								1												

Tab. 6　山王遺跡６Ｆ調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位	サヌカイト								黒曜石								その他		
	尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
I	69		1			53	547	6,900					1	4	21	54	18			

層位		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
II	a	17		1			17	138	4,140				3			14	16	6	2		
	b	5			1		39	106	2,545	1						8	8	1			
	c	9		2	1		24	107	4,185		2		1		1	10	16	5			
	d	13		1			23	23	1,025				1			4	3	2			
	e	4			1		43	17	1,119			1	1	1	2	12	10	5			
	f	8					40	30	1,818	1	1		1		1	21	9	14			
	g	12			2		46	47	1,596				1			11	6	4			1
	h	14		2			20	34	1,707				1	3	1	3	2	1			1
	i	13			1		40	35	2,631			1	2			5	2	3			
	j	6			1		20	22	2,497				1	1		6		5			
	k	13				1	35	22	1,900							4	3	1			
	l	3					7	5	460							2	1	1			
III	a	22		1	2		74	26	3,574				1			12		5			1
	b	14	1				53	22	3,096					1		6		5			1
	c	9	1		2		43	28	3,471				1	1		5	1	1			
	d	6					43	23	3,342							3	3	1			
	e	5			1		19	15	2,887							5		1			
	f	3					36	11	1,905				1			3					
	g						7	1	1,052							2		1			
	h	3					10		884							1					
	i	2					8	2	696					1		1		1			
	j						1		4												
IV	a	5					5	2	554									1			
	b	2					8	2	544	1						2	1	3			
	c	2					4	1	563							2		1			
	d	4					4		247									1			
	e	4					4		242									5			
	f							4	404									1			
	g						2		93							1					
	h						1		9												

Tab. 7　山王遺跡７Ｆ調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位		サヌカイト 尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	黒曜石 ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	その他 石器	剥片	その他
I		2					8	84	1,071						1	5	18	7			
II	a	6					1	59	1,585							1	2	2			
	b	2		1				70	2,577							5	10	1			
III	a							6	193												
	b							3	297								1				
	c							4	164												
	d							3	207												
	e							4	168								3				
	f	1						11	351							1	3	1			

Tab. 8　山王遺跡４Ｇ調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位		サヌカイト 尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	黒曜石 ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	その他 石器	剥片	その他
I		2					2	10	59							5	6				
II	a							1	83								4	2			
	b							1	76												
	c								10												

Tab. 9　山王遺跡５Ｇ調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位		サヌカイト 尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	黒曜石 ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	その他 石器	剥片	その他
I		32		1	2		5	159	4,010						1	30	71	10	1		1
II	a	4					1	95	3,563							5	6	2			
	b							26	2,055								2	1			
	c							31	1,719								2	2			
	d							9	1,576												
	e							10	1,241									2			
	f							5	1,131								2	1			
	g							6	970								1	1			

層位		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
II	h							8	711									1			
	i	1						3	590									1			
	j							2	436									1			
	k							1	285								2	1			
	l							1	344												
	m								170												
	n								143								1	1			
	o								155												
	p								65												
	q								27												
III		3															7	2			

Tab. 10　山王遺跡6G調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
I		17			3		7	135	3,306				1	1	1	21	33	5			4
II	a	7						47	3,196								1				
	b	3						62	4,000								2			1	
	c	7						57	4,348								1	5			
	d	4						42	3,421							1	3				
	e	3						30	2,948								4				
	f	3						12	2,209								1	4			
	g							12	1,846								1				
	h							14	1,596												
	i							6	938								1				
	j							7	647												
	k	1						2	555												
	l								213												
III									39												

Tab. 11　山王遺跡７Ｉ調査区出土遺物層位別一覧表

層位＼石材＼遺物		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
I				1			9	37	12				3	1		17	2				1
II	a	1						16	1,000							2	2	2			
	b	12		1	2		4	128	3,780							4	13	2			
	c	13				1		87	2,462	1					1	2	2				
	d	1						13	910							2	2	2			

Tab. 12　山王遺跡７Ｊ調査区出土遺物層位別組成一覧表

層位＼石材＼遺物		サヌカイト								黒曜石									その他		
		尖頭器	ナイフ	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	ナイフ	台石形器	細石刃	石鏃	その他	石核	剥片(大)	剥片(小)	砕片	石器	剥片	その他
I		8		1				118	2,660				1			9	4	2			
II	a	2		1				49	2,675							3	1	2			
	b	1						48	1,696									1			
	c	4			1			32	1,511								1	1			
	d							32	1,184								2				
	e	1						18	1,165								2	1			
	f			1	1			18	1,215								2	4			
	g	2						16	1,129							1	5				
	h	1		1				23	1,013			1	1				1	2			
	i							12	898			1						2			
	j	2						6	687							1	2				
	k	2		1				15	687								1	1			
	l	2			1			6	727												
	m							4	492												
	n							4	246												
	o								41												
	p							2	100												
	q								129												
	r							2	85												
	s								25												

旧石器時代

山王遺跡から出土した遺物は石鏃、石匙、石錐を除き、大部分が旧石器時代の遺物である。発掘によって出土した石器は剝片尖頭器２点、ナイフ形石器６点、台形様石器12点、削器８点、掻器２点、尖頭器992点、二次加工を施した剝片９点のほか局部磨製石器、敲石などがある。これに表面採集によって得たナイフ形石器、台形様石器、尖頭器などを加えると膨大な量の石器が出土したことになる。

剝片尖頭器（Fig.44－１、PL.23）

剝片尖頭器は２点出土したが１点は基部のみである。１は先端部が欠損し、開墾によって二点に折れたもので基部が６Ｆ19、中間部が６Ｆ18で出土した。サヌカイトの縦長剝片を素材とし、打瘤側の基部両側に腹面からノッチ状の加工を施し、茎部を作り出している。基部加工によって打面および打瘤は除去している。長さ8.1cm。

ナイフ形石器（Fig.44－２～９、45－10～12、PL.23）

ナイフ形石器は15点が出土した。石材はサヌカイト３点、黒曜石12点である。２は６Ｆ８で出土した。サヌカイトの縦長剝片を素材とし、打面から片側縁に腹面から直角に近いブランティング加工が施され、ブランティング加工後、打面とし腹面に小さな剝離を施している。打面はブランティング加工によって除去されているが、打瘤の一部は残る。３～12は黒曜石の縦長剝片を素材としたナイフ形石器である。腹面よりブランティング加工を施す。３・５・８・11・12は基部両側と片側縁にブランティング加工を施し明確に刃部を作り出している。４・６・７・９・10は片側縁だけにブランティング加工を施し刃部を作り出している。３・７・８・10・11・12のやや幅広のものは打面側に刃部を持ち片側縁のブランティング加工によって打面および打瘤を除去している。４・５・６・９の小型のものは打面側に基部を作り出し、基部加工によって打面および打瘤を除去している。

台形様石器（Fig.45－13～19、46－20～29、47－30～33、PL.24）

台形様石器は21点が出土した。石材の内訳は黒曜石18点、サヌカイト３点になり、ナイフ形石器とともに黒曜石を素材とした割合の高い石器である。台形様石器は整形加工および形状から３形態に分類できる。

Ａ類　縦長剝片を折断し、両側縁にブランティング加工を施し、両側辺に角を持つ。基部に折断加工を残す。従来、百花台型と称されるものである。（石器番号13）

Ｂ類　横広の剝片を背面から折断し、折断部を打面として、背面に平坦剝離を施す。全体の形状が撥形または逆二等辺三角形になるもので、従来、枝去木型と称される一群である。整形加工の方法からさらに３類に細分した。

Ｂ$_1$類　腹面に剝離がないもの。（石器番号14・23・24）

Ｂ$_2$類　腹面に折断部とは逆の側縁から剝離を施したもの。石器番号（15～18・20～22・

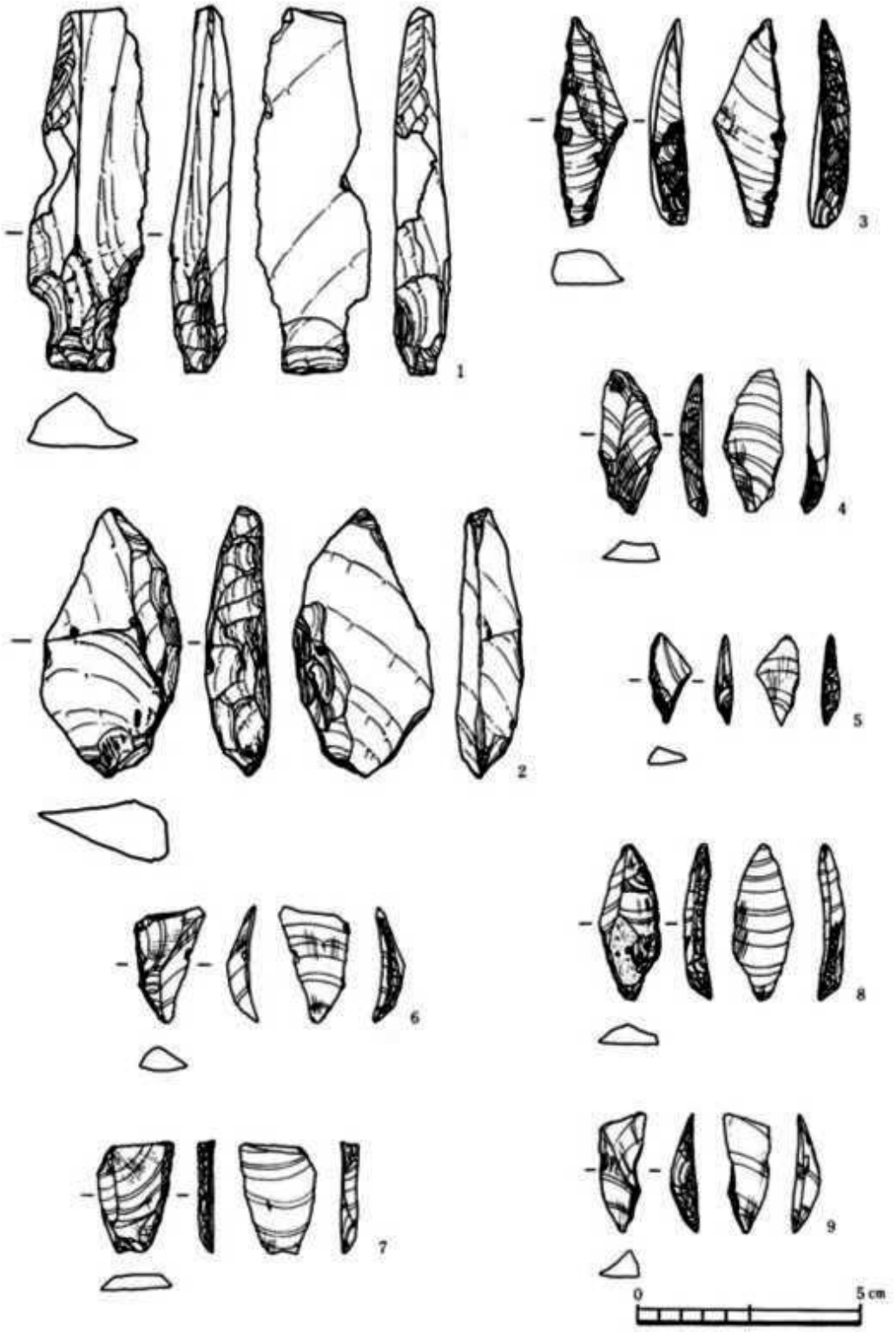


Fig. 44　山王遺跡出土剥片尖頭器・ナイフ形石器実測図

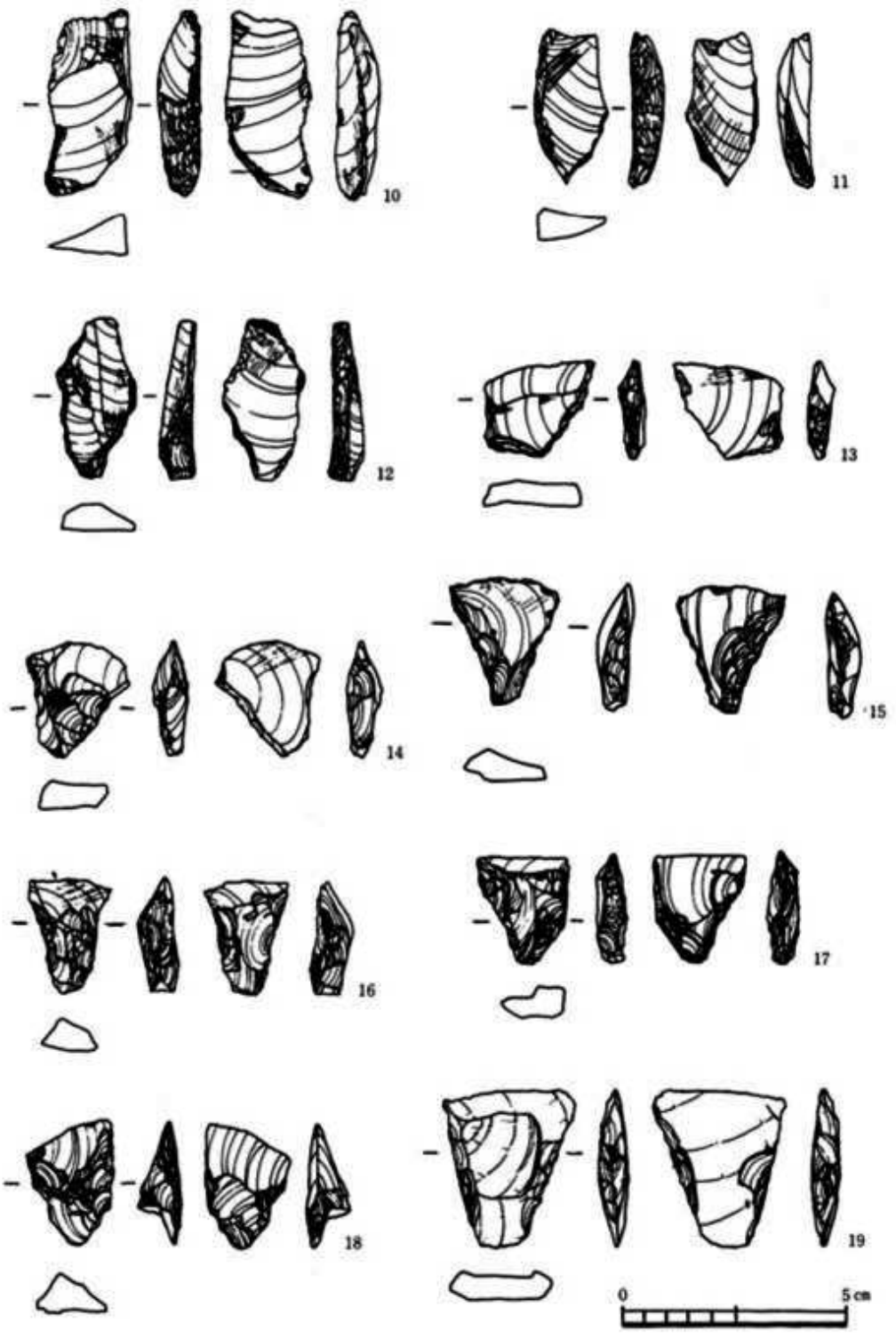


Fig. 45　山王遺跡出土ナイフ形石器、台形様石器実測図

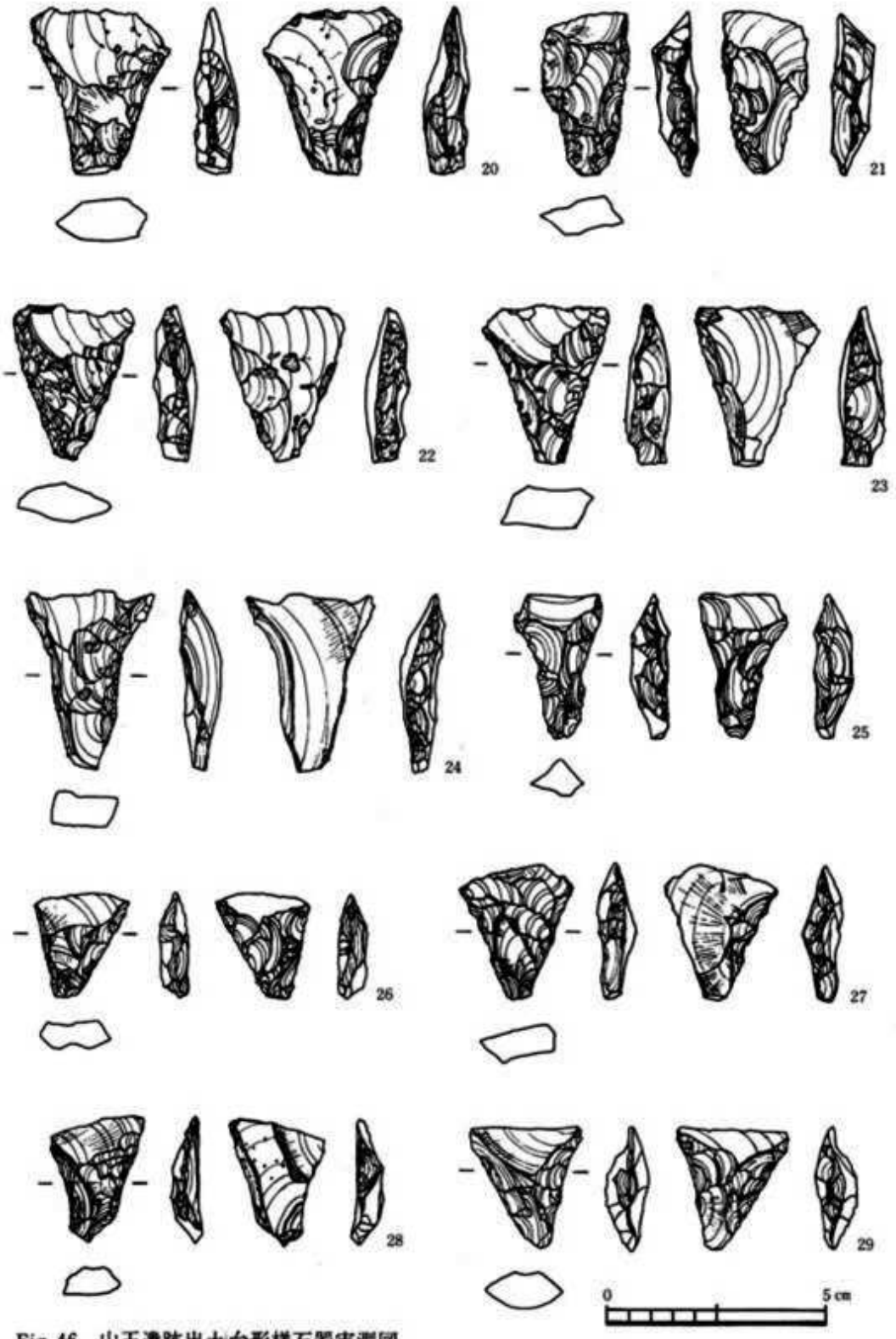


Fig. 46　山王遺跡出土台形様石器実測図

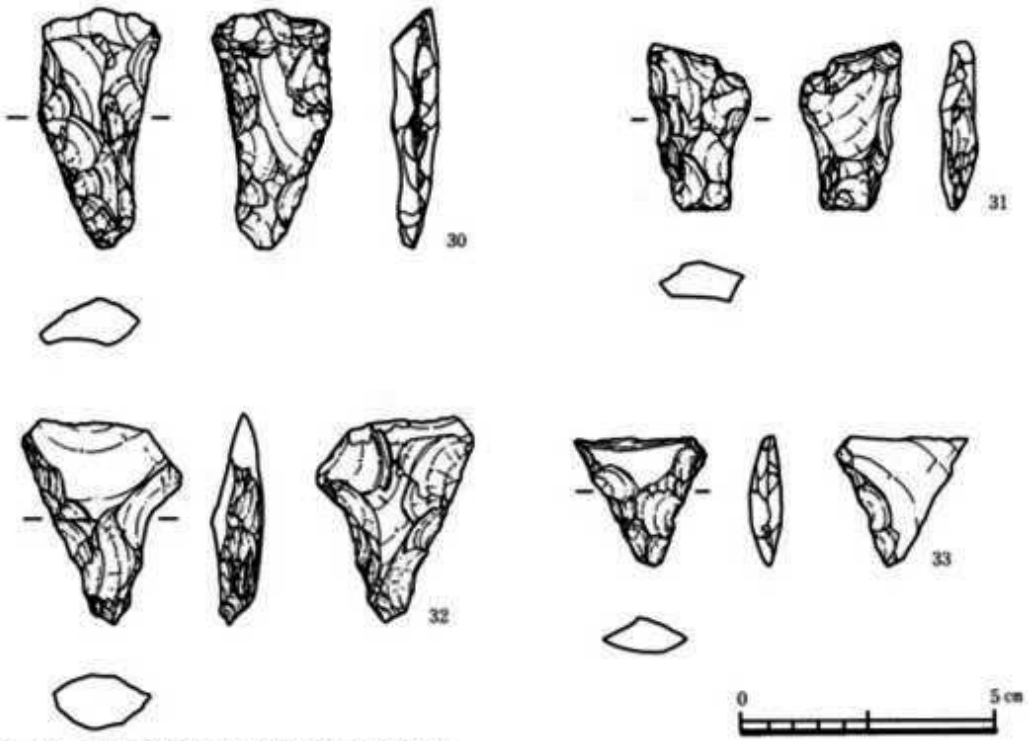


Fig. 47　山王遺跡出土台形様石器実測図

27・28・31～33)

B_3類　腹面から両側縁に剝離を施したもの。(石器番号19・26)

C類　剝片の形状が判断できないほど背面、腹面とも剝離を施し、基部が尖頭器状に整形されたもの。(石器番号25・29・30)

以上の3類に分類したがB類が16点ともっとも多く76%を占める。13は縦長剝片を素材とした台形石器で両側辺に角を持つ。刃部に使用痕が著しい。14・23・24は横広の剝片を素材とし打面側を折断し、打面および打瘤を除去、折断部を打面とし背面に平坦剝離を施し、片側縁は腹面からプランティング加工を施している。腹面には剝離を施さない。14・23は基部に礫面を残す。15～18・20～22・27・28・31はプランティング加工を施した側縁から腹面に平坦剝離を施す。17は折断部に礫面を残し、20・23は基部に礫面を残す。21は基部までプランティング加工と平坦剝離が施されている。32はサヌカイトである。19・26は背面・腹面ともに剝離が加えられている。19はサヌカイトである。25・29・30・33は背面・腹面とも平坦な剝離によって整形されて、基部が尖頭器状に尖る。25はB_3類に類似する。33はサヌカイトである。

細石核(Fig. 48－32、PL. 25)

細石核は表面採集によって1点が出土した。34は両面調整の素材を使っているが片面の一部に礫面を残し、円礫を用いている。打面調整は細石刃剝出面から行われ、打面の一部に擦痕が

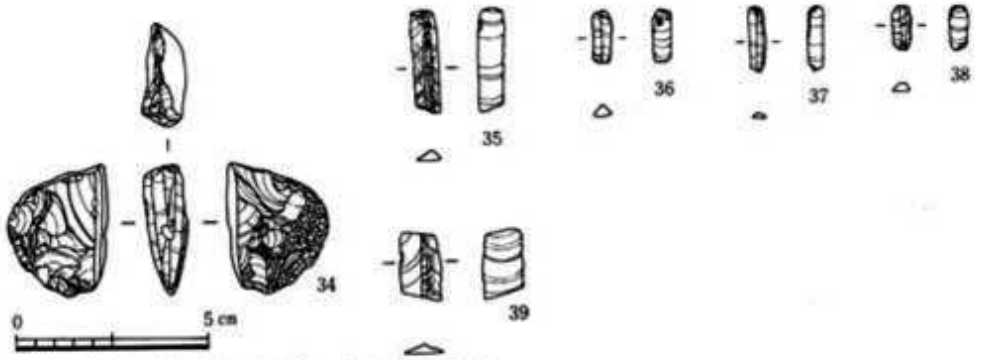


Fig. 48　山王遺跡出土 細石核、細石刃実測図

みられる。福井型と称される細石核である。

細石刃（Fig. 48－35～39、PL. 25）

小型の石刃を含めて６点が出土した。35・36は打面、打瘤を残す頭部である。37・38は両端が折れた中間部である。黒耀石製。39は小型石刃で両端を失う。灰白色の黒耀石を用いている。

尖頭器（Fig.49～75、Tab.PL.26～40）

山王遺跡から出土した石器群の主流をなすのは両面調整の尖頭器である。発掘によって992点が出土、約500点を表面採集した。尖頭器が出土する層はⅠ～Ⅳ層の遺物包含層すべてからで、特にⅠ・Ⅱ層で774点が出土、Ⅲ層168点、Ⅳ層50点を上回り、表面採集分を加えると尖頭器の85％以上が原位置を保っておらず、開墾をはじめとする諸現像によって浮いたものであろう。尖頭器の大部分は２～４点に折損し、完形品は少なかった。これまで多久石器遺跡群で出土する尖頭器のほとんどが中央部付近で折れ、木葉形や柳葉形の形状をなすものが少なかったことから複数の尖頭器を得るため、木葉形、柳葉形の尖頭器を故意に折ったとする説もあったが、近年の調査で、同一遺跡内での接合資料の増加や折損部の観察から、製作中や使用中に大きな衝撃を受けて折損したと考えられ、山王遺跡で出土する尖頭器も基本的には木葉形、柳葉形、圭頭形に分類することができるが、三年山遺跡や茶園原遺跡などの石器生産遺跡で出土する大型の尖頭器や製作中途の未製品はほとんど含まれていない。

木葉形尖頭器　横長の剝片を素材に用いたもので、全体的に丸味を持ち、長さに対し、幅が広い。形状や調整の方法、によって３類に分けられる。

Ⅰ類　15cm前後の大型で幅が広く、長さと幅は３：１以上あり、先端部は丸味を持ち、両側に調整加工を施す。厚味は薄い。先端部に礫面を残すものもある。槍先としての機能を持たない。中央部から折損しているものが多い。（石器番号40・60～65）

Ⅱ類　長さ５～20cm、幅２～５cm、厚味は薄く、全面に調整加工が施され、先端は鋭く尖る。槍先形石器である。中央部付近で２～３点に折損しているものが多い。（石器番号41・44・45・47～59・72～91・130～135）

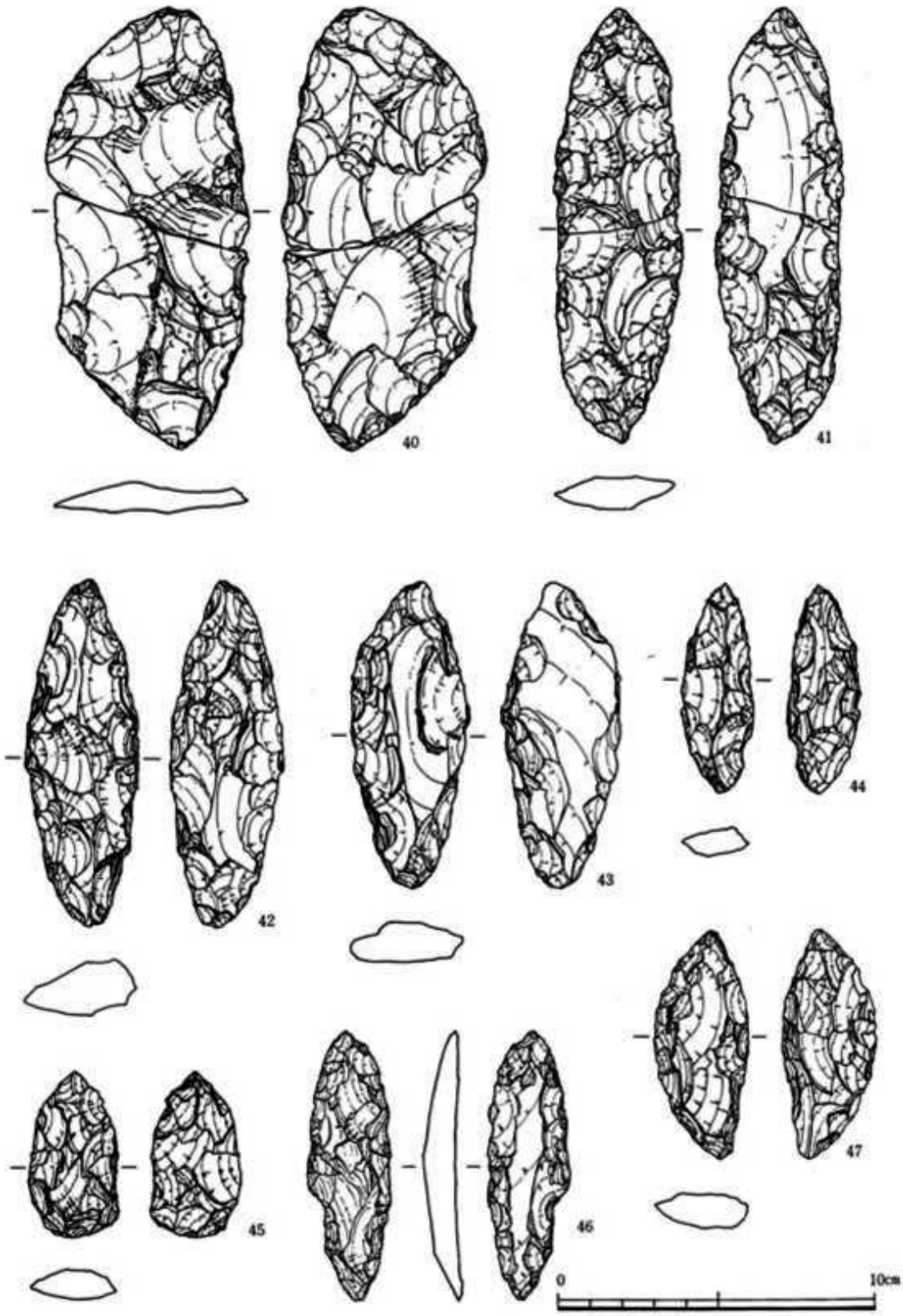


Fig. 49　山王遺跡出土尖頭器実測図

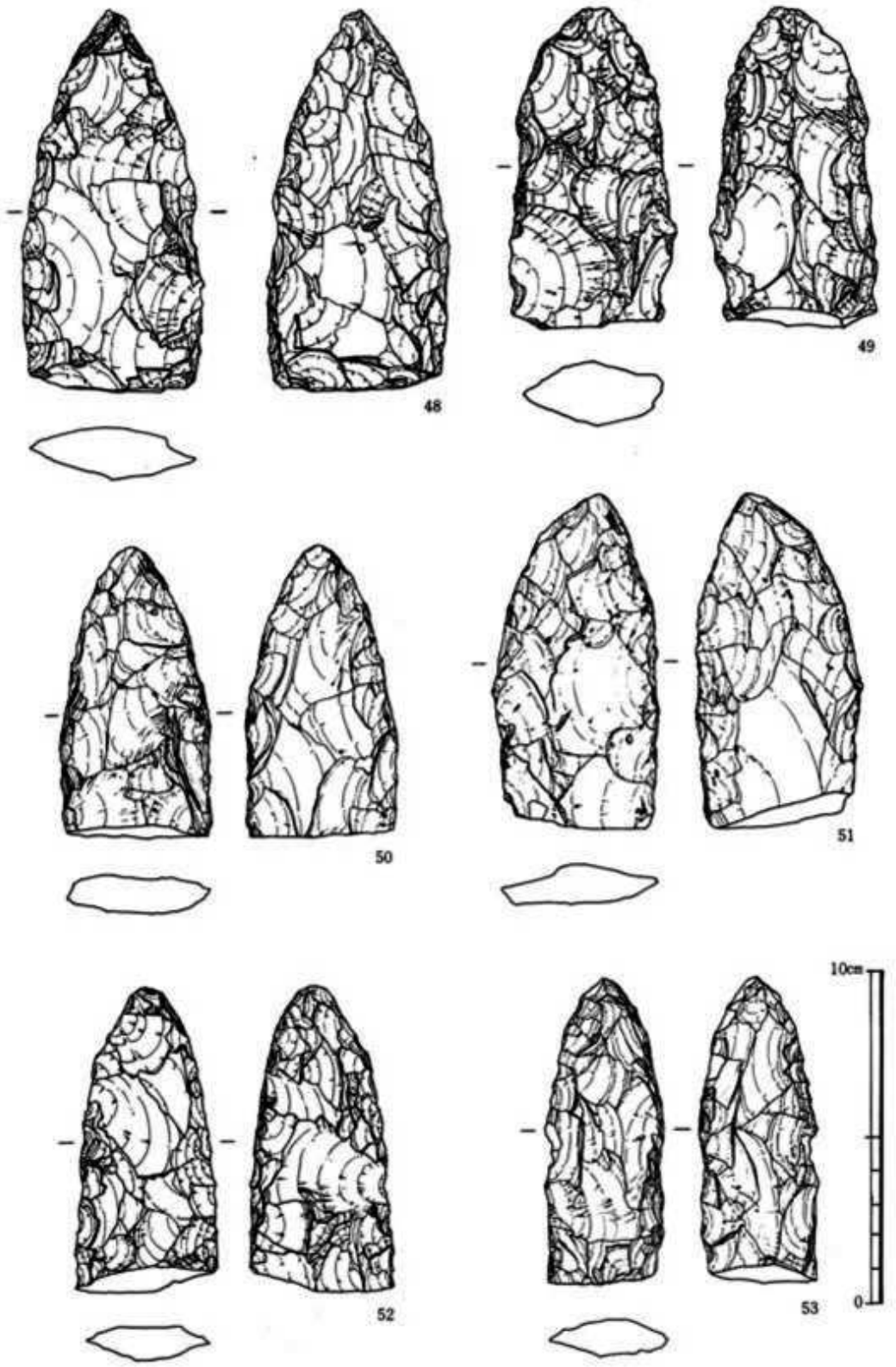


Fig. 50　山王遺跡出土尖頭器実測図

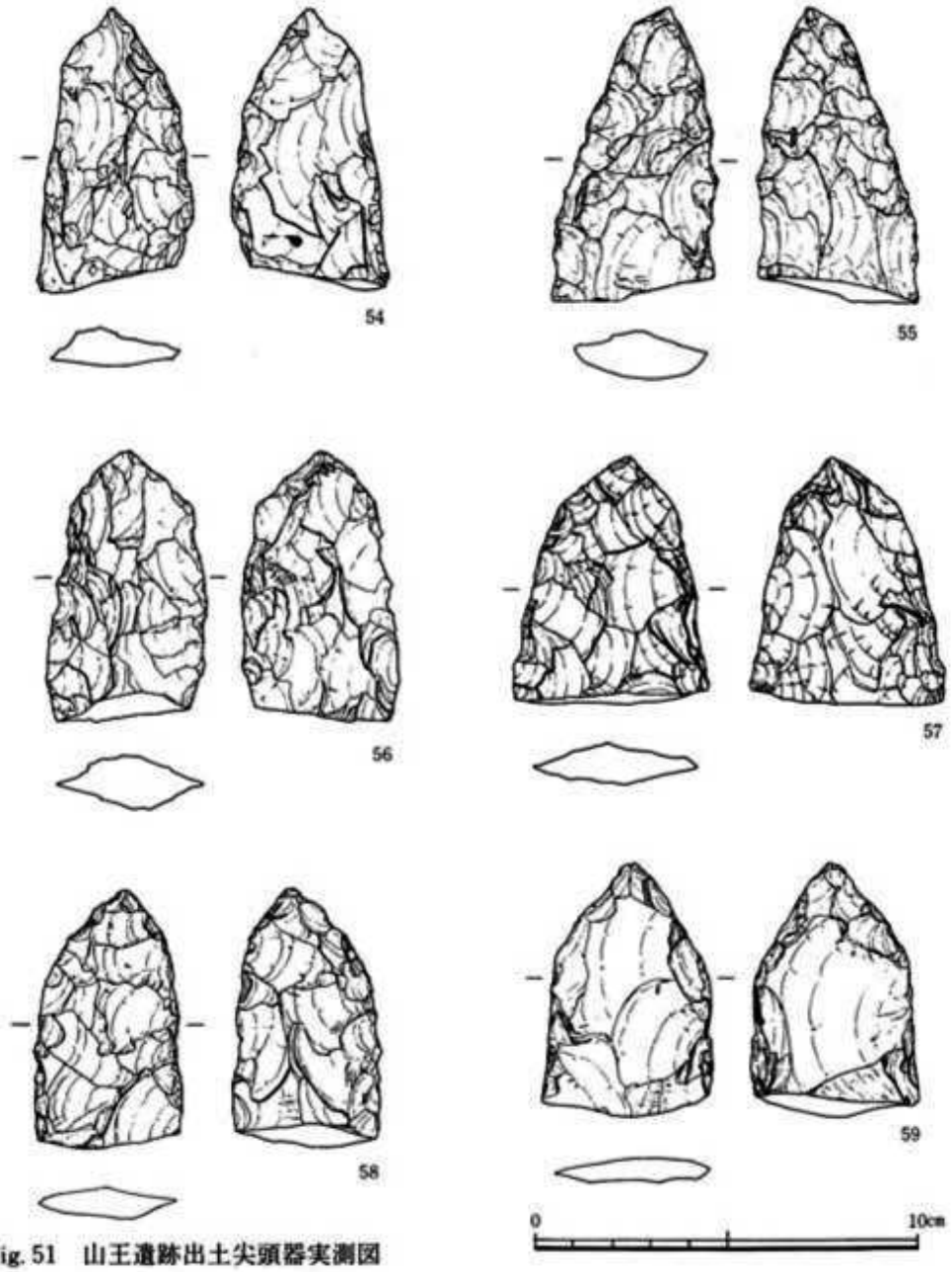


Fig. 51　山王遺跡出土尖頭器実測図

Ⅲ類　形状的にはⅡ類と同じであるが、厚味が厚く、調整加工に階段剝離または階段剝離に押圧剝離を用い、調整が粗雑である。ほとんどが完形品で出土した。(石器番号42・43)

柳葉形尖頭器　木葉形尖頭器に比べ幅が狭く細身である。厚味も薄く、先端部は鋭利に尖がる。調整加工はほとんどが押圧剝離である。槍先形石器である。(石器番号46・146～156・169～227)

圭頭形尖頭器　多久石器遺跡群から出土する特徴的な形状の石器である。昭和35年に発掘調査

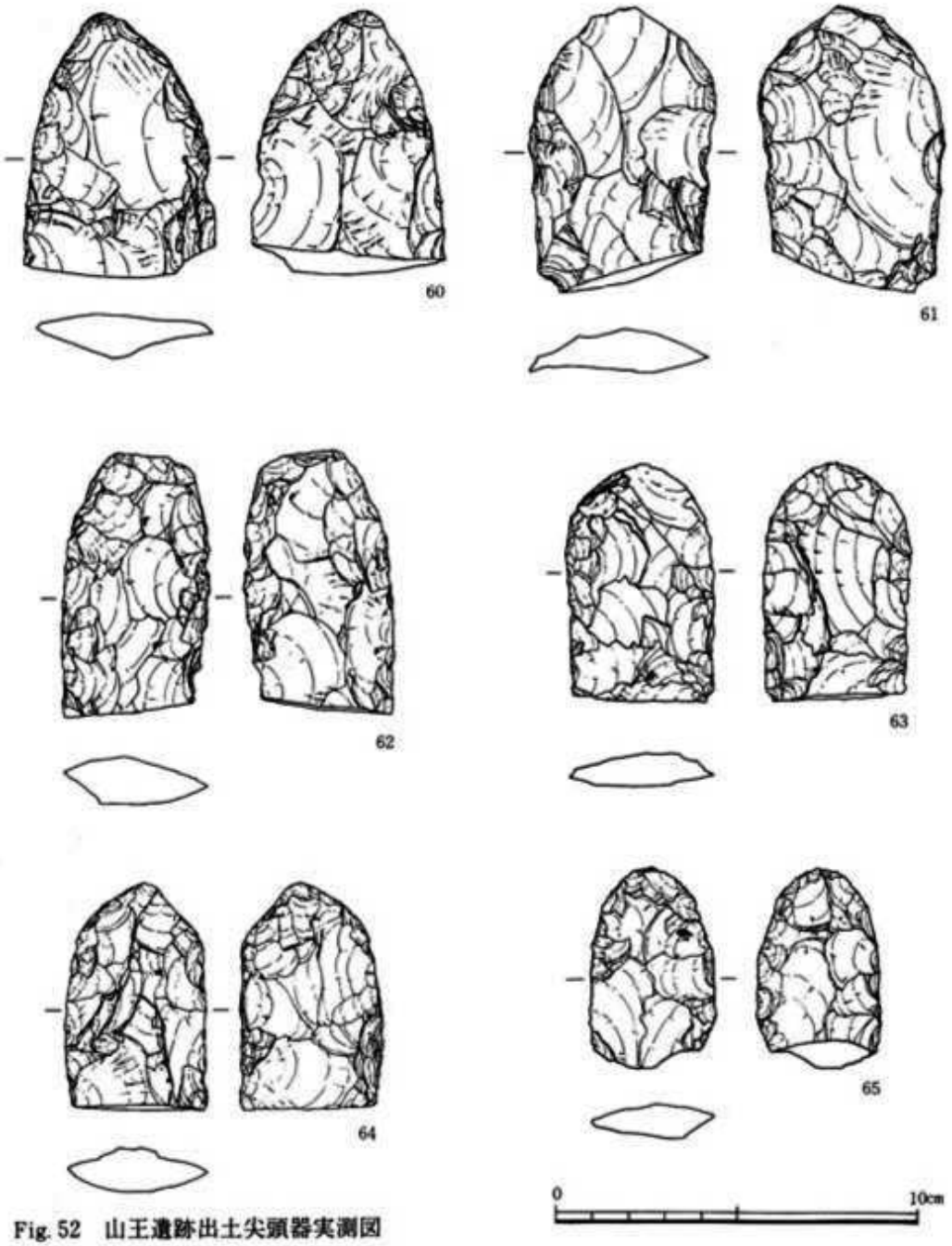


Fig. 52　山王遺跡出土尖頭器実測図

が実施された茶園原遺跡で出土し、圭頭形と仮称された。最近まで有舌尖頭器の基部と考えられていたが、昭和54年、茶園原遺跡の発掘調査で折損した圭頭形尖頭器の接合資料が出土、今回の調査でも完形品や接合資料が出土した。両先端または片側の先端部が三角形に尖り、石器の最大幅を三角形の底辺部にあたる肩部に持ち、中央部が最小幅になる。完形品や接合資料から長さ9～20cmのものが多い。厚味は薄く1cm前後のものが多い。石器中央部に最小幅を持つ

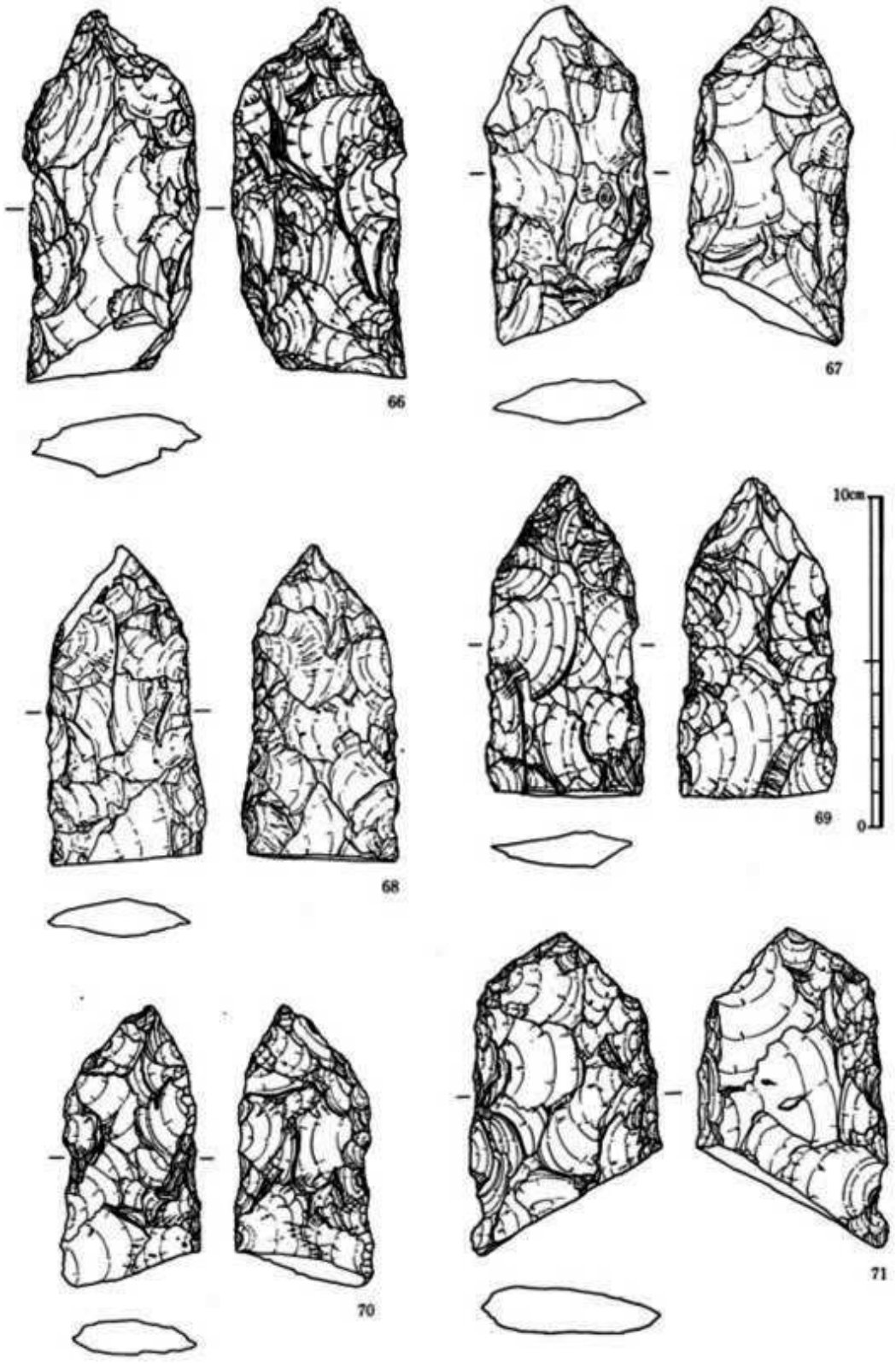


Fig. 53　山王遺跡出土尖頭器実測図

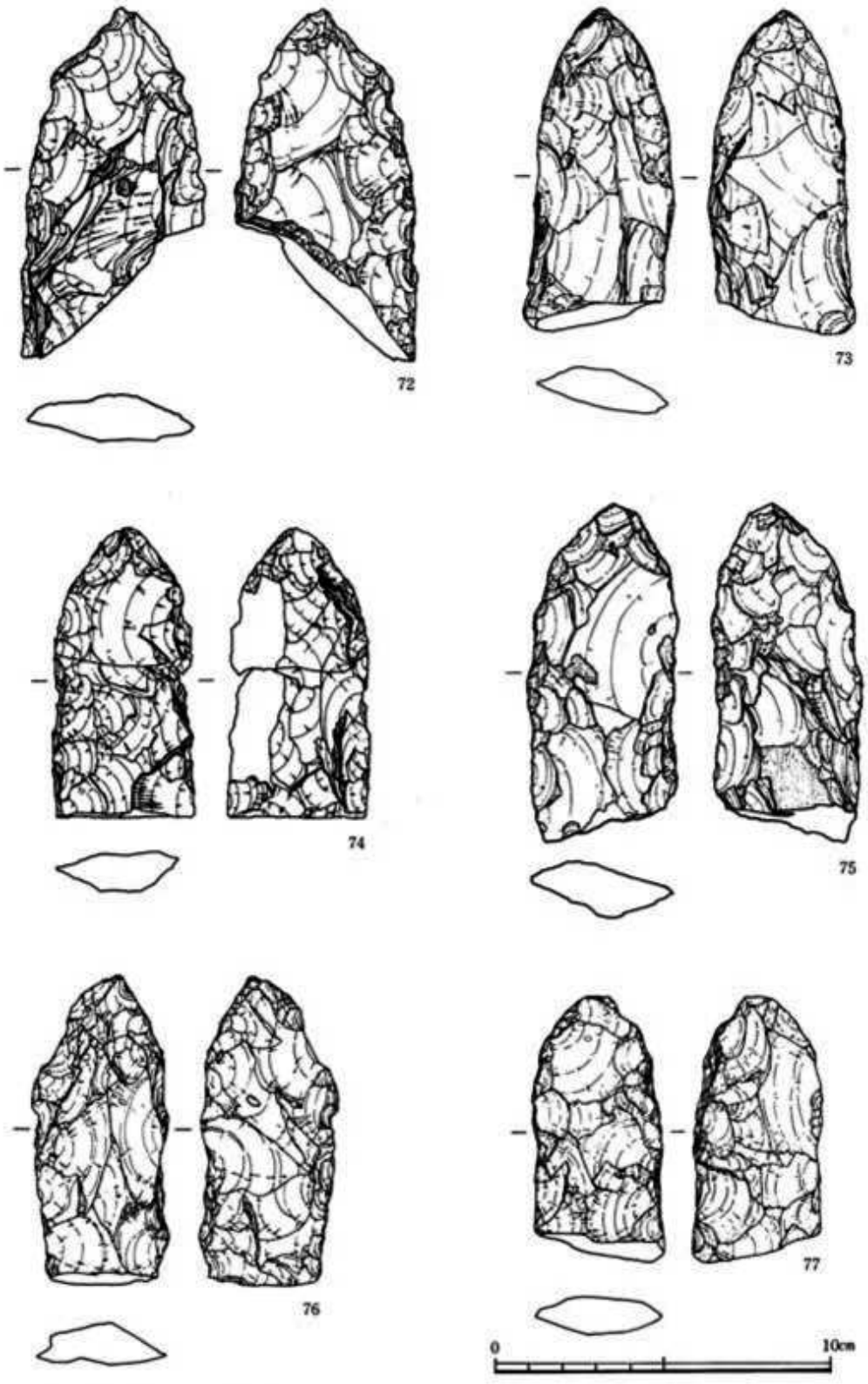


Fig. 54　山王遺跡出土尖頭器実測図

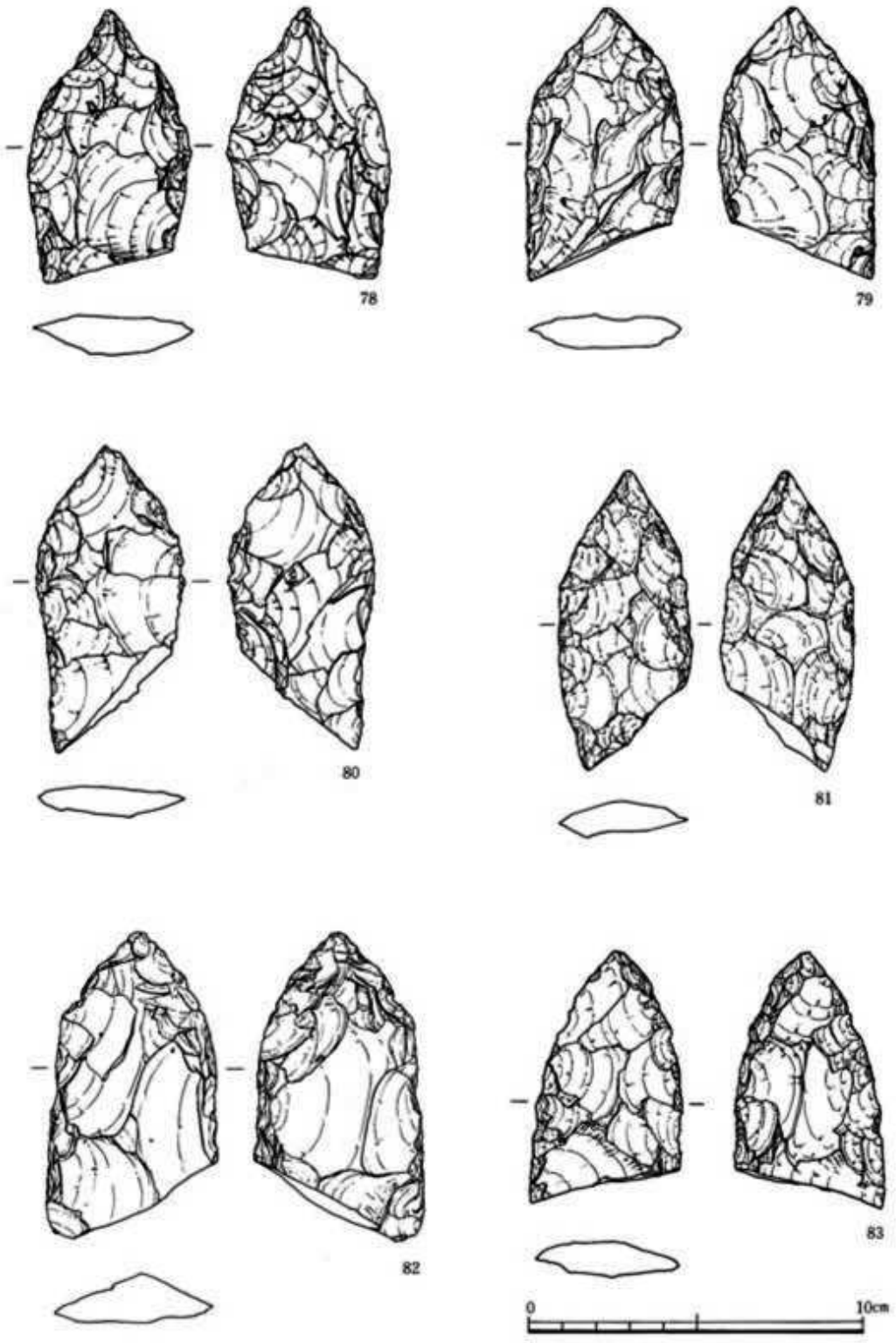


Fig. 55　山王遺跡出土尖頭器実測図

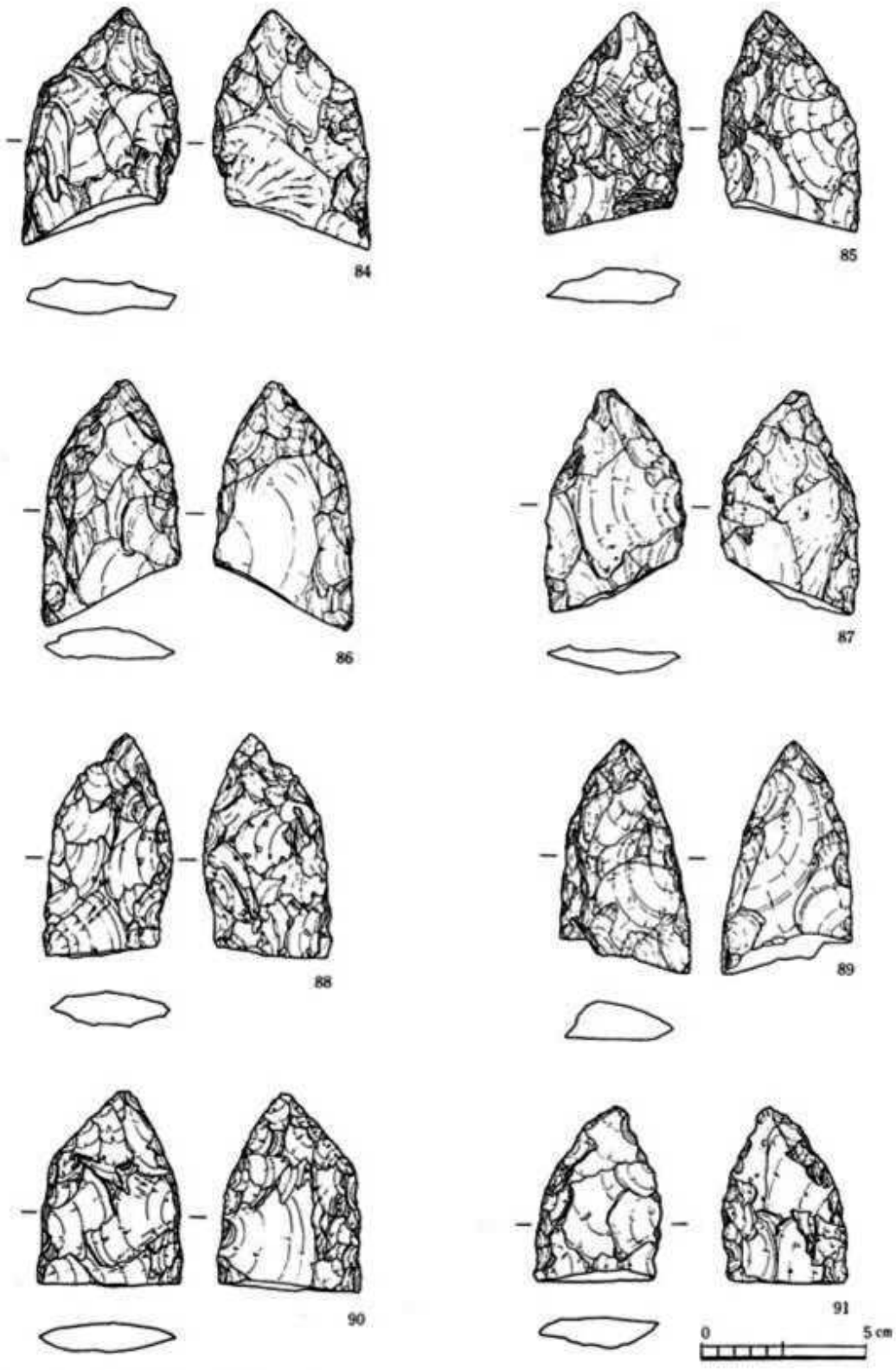


Fig. 56　山王遺跡出土尖頭器実測図

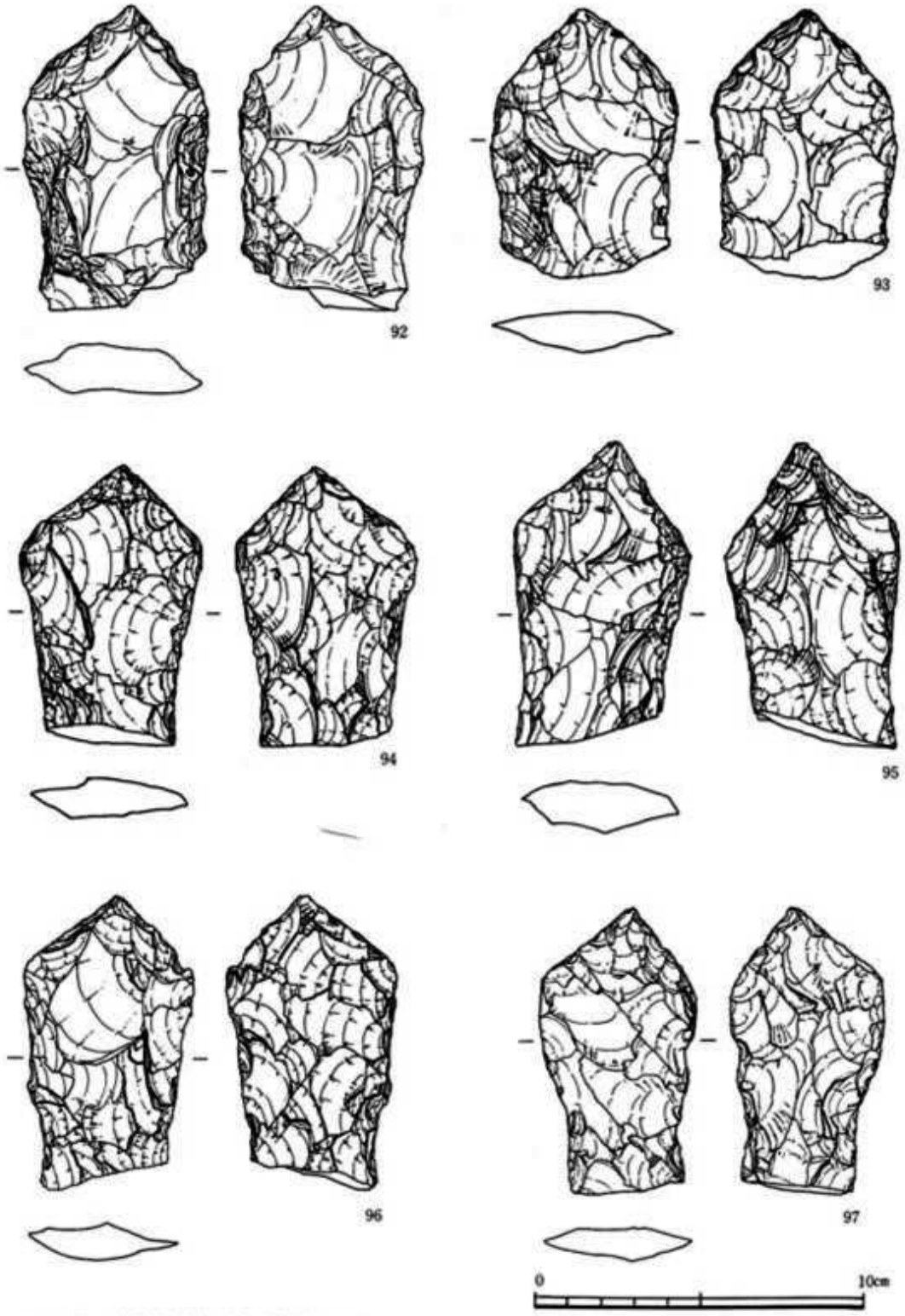


Fig. 57　山王遺跡出土尖頭器実測図

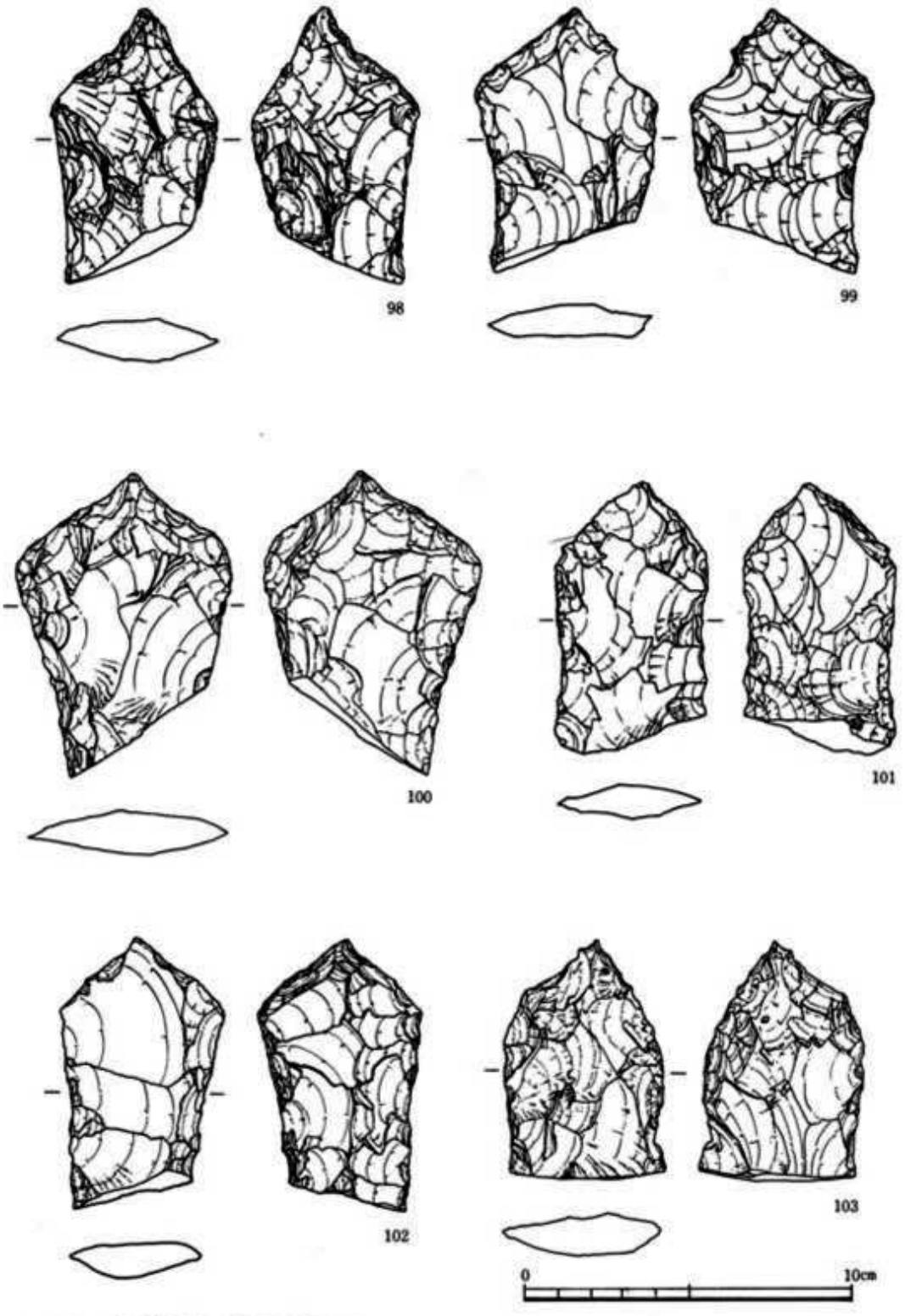


Fig. 58　山王遺跡出土尖頭器実測図

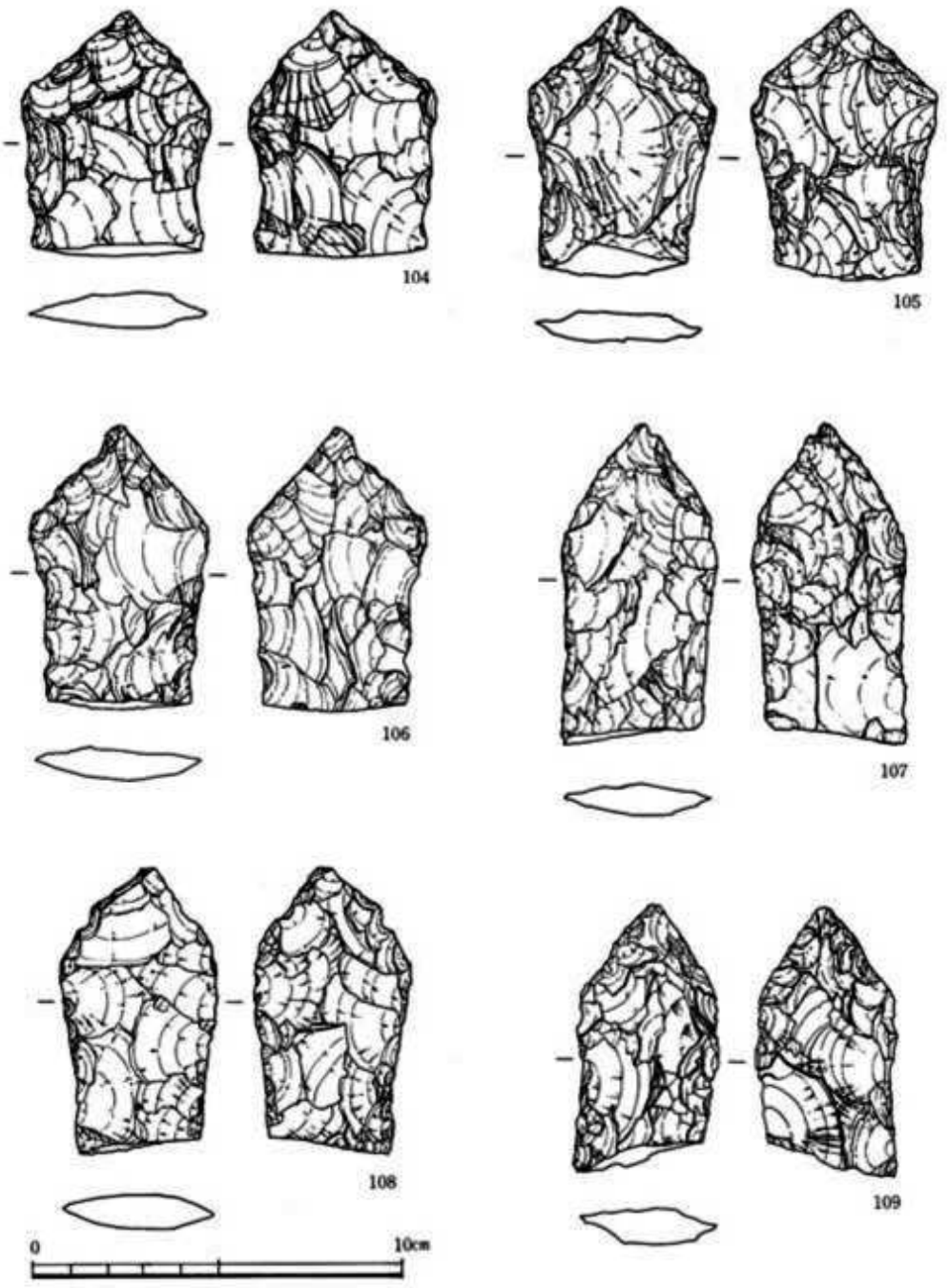


Fig. 59　山王遺跡出土尖頭器実測図

ため、ほとんどが中央部付近で折損している。圭頭形と木葉形、柳葉形の接合資料も出土、形状は圭頭形＋圭頭形、圭頭形＋木葉形、圭頭形＋柳葉形の３種類が考えられる。小型の石器は槍先として使用可能なものもあるが、大型のものは槍としての機能を持たない。(石器番号66～71・92～129・136～145・157～168・228～237)

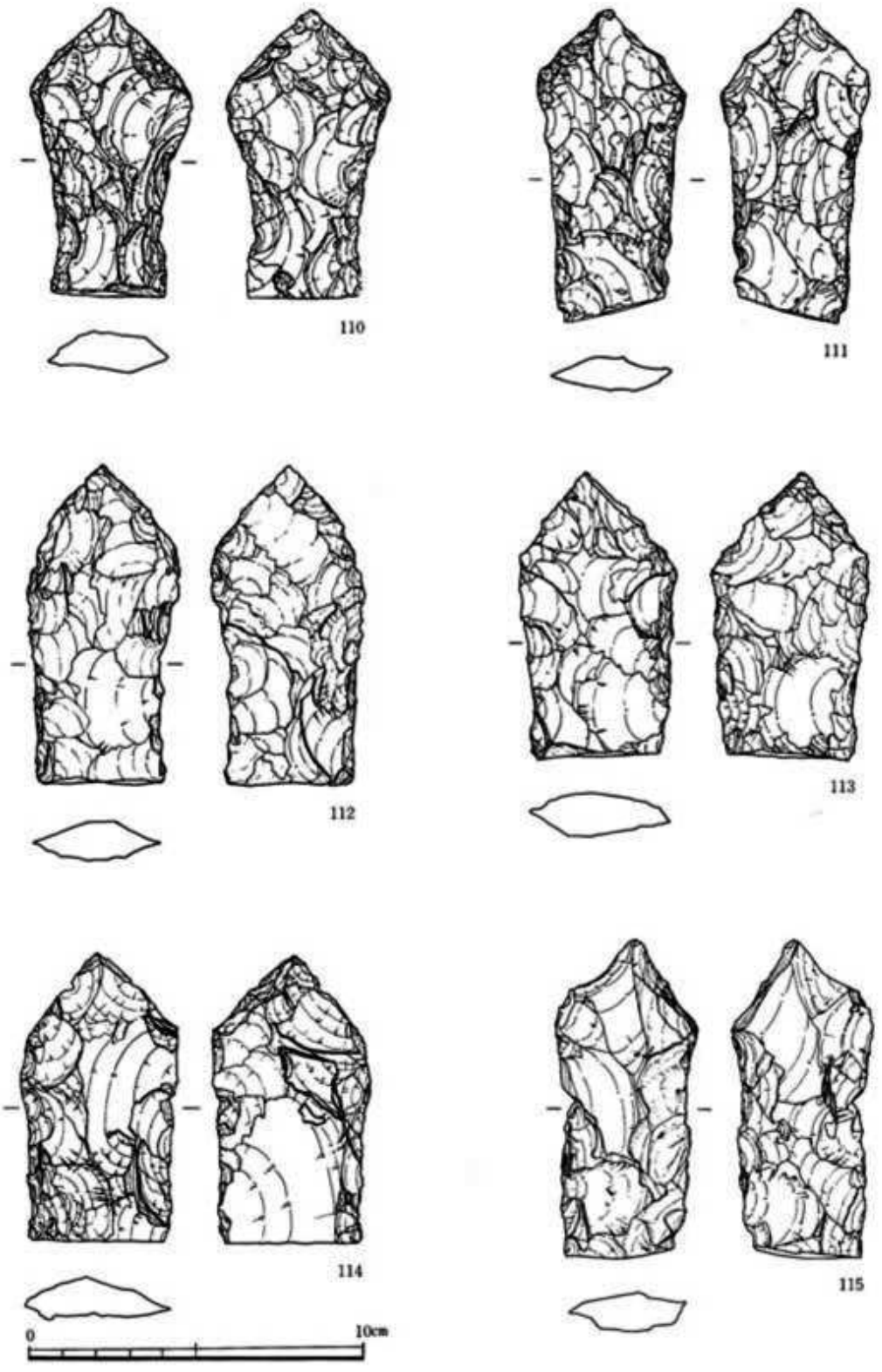


Fig. 60　山王遺跡出土尖頭器実測図

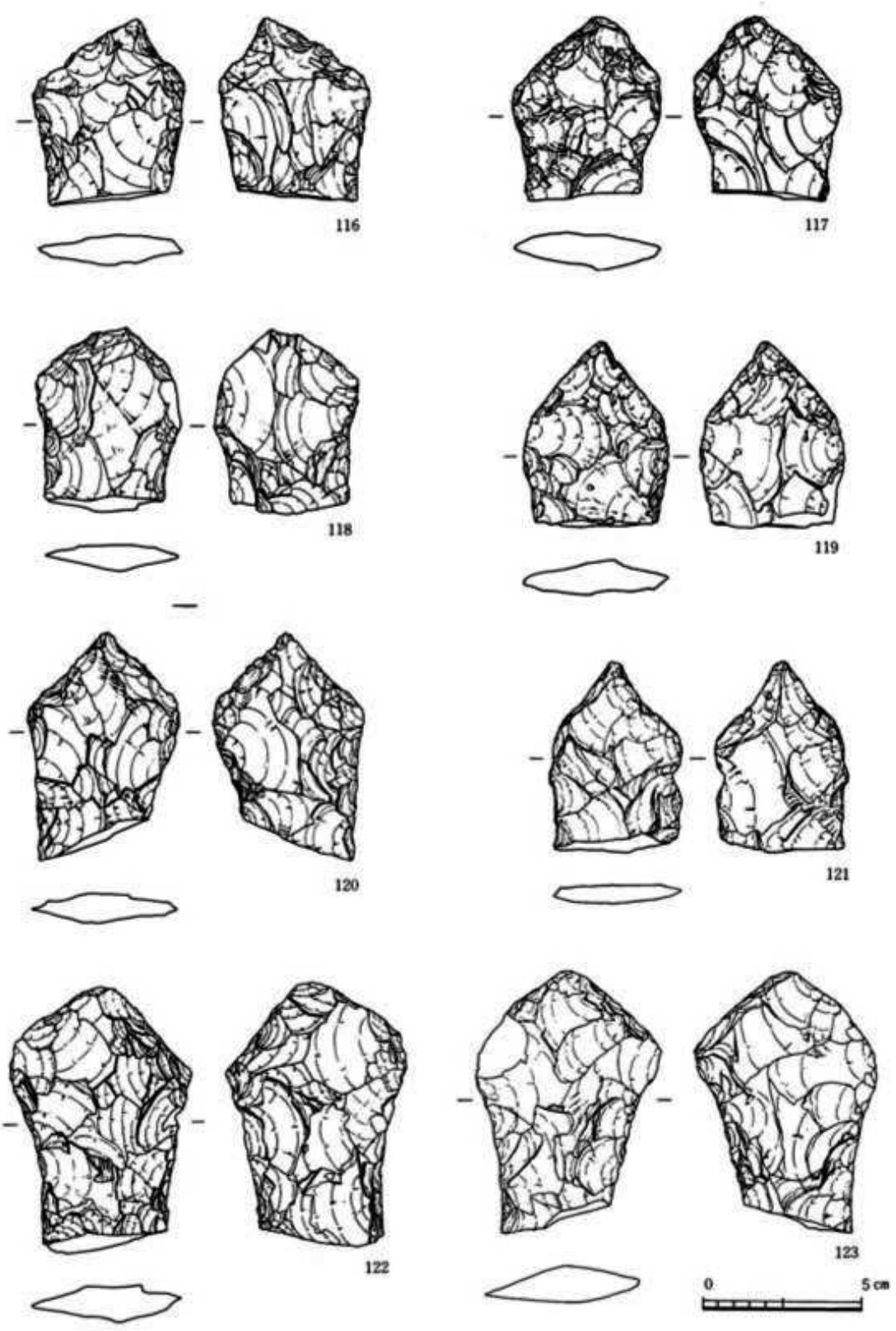


Fig. 61　山王遺跡出土尖頭器実測図

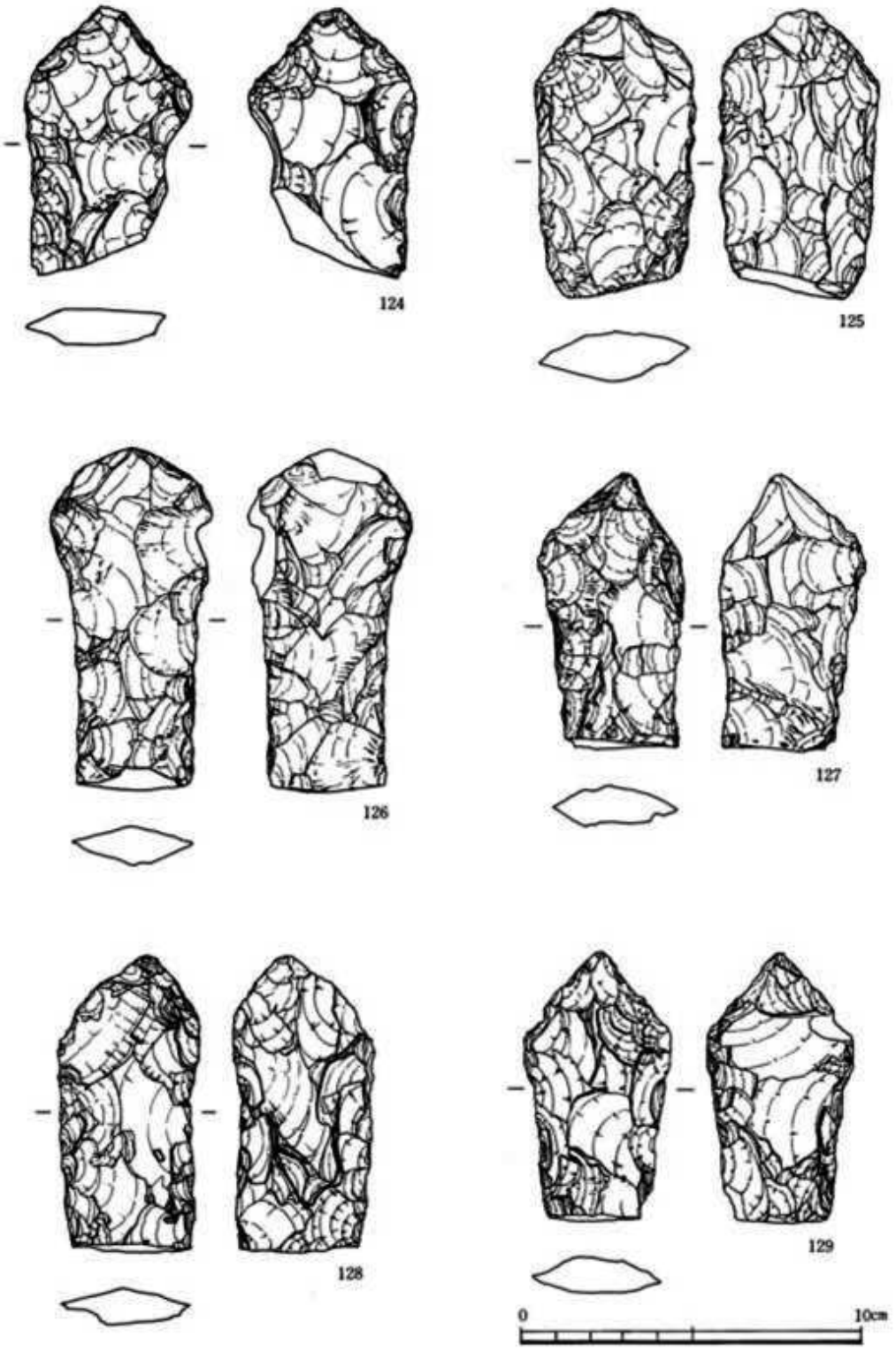


Fig. 62　山王遺跡出土尖頭器実測図

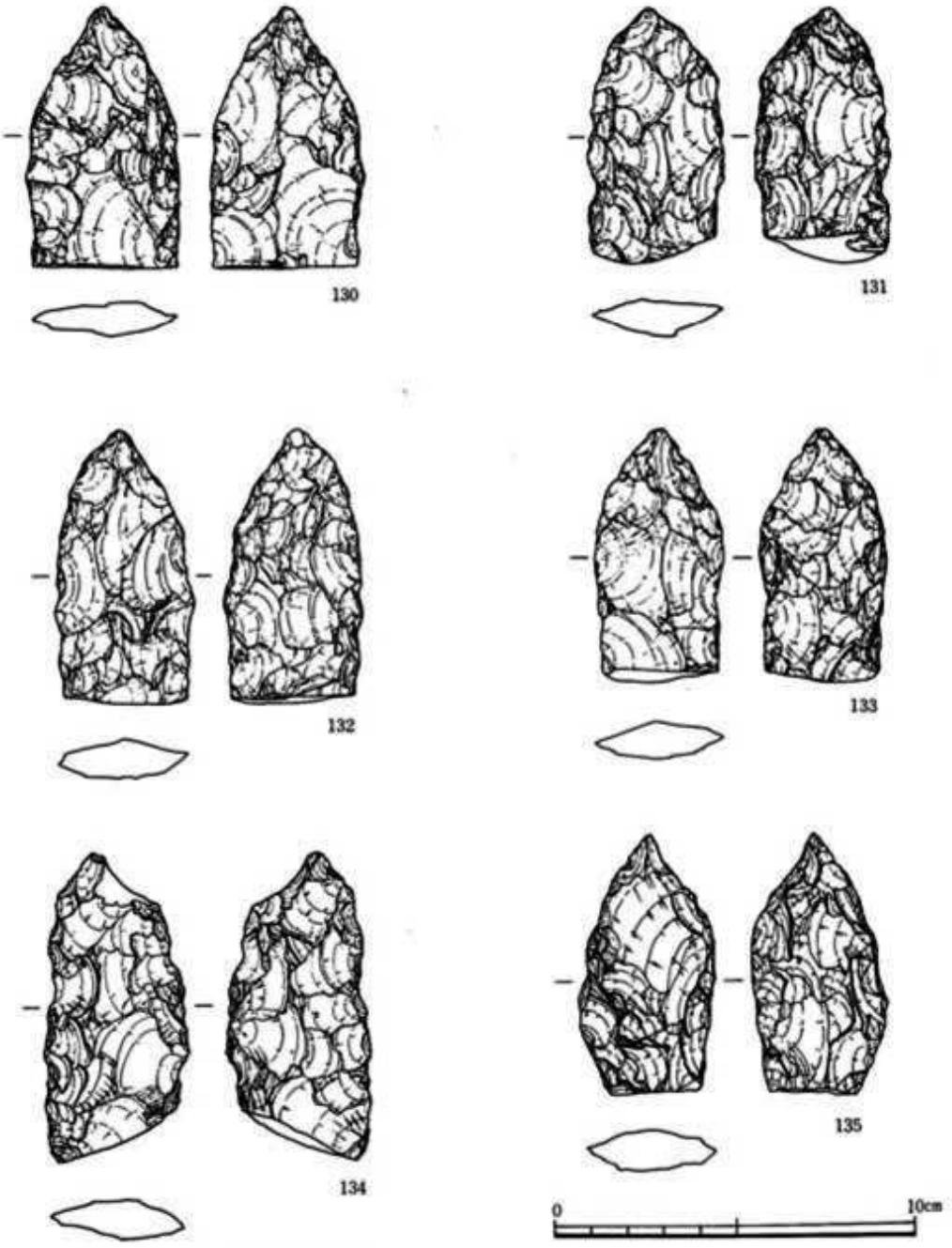


Fig. 63　山王遺跡出土尖頭器実測図

図示した尖頭器のうち形状や調整加工に特徴があるものについては説明を加える。40は背面中央部の最終剥離によって2点に折損した左右非対称の尖頭器である。形状から圭頭形に調整中、折れたものであろう。4F13グリッド、5F3グリットで出土。10mの間隔で接合した。46は腹面に横長剥片の主剥離面を残す。有肩尖頭器の形状を示すが、背面からの剥離は1度だけで細部の調整は行っていない。断面は湾曲し、素材となった剥片の形状を残す。48～53・72

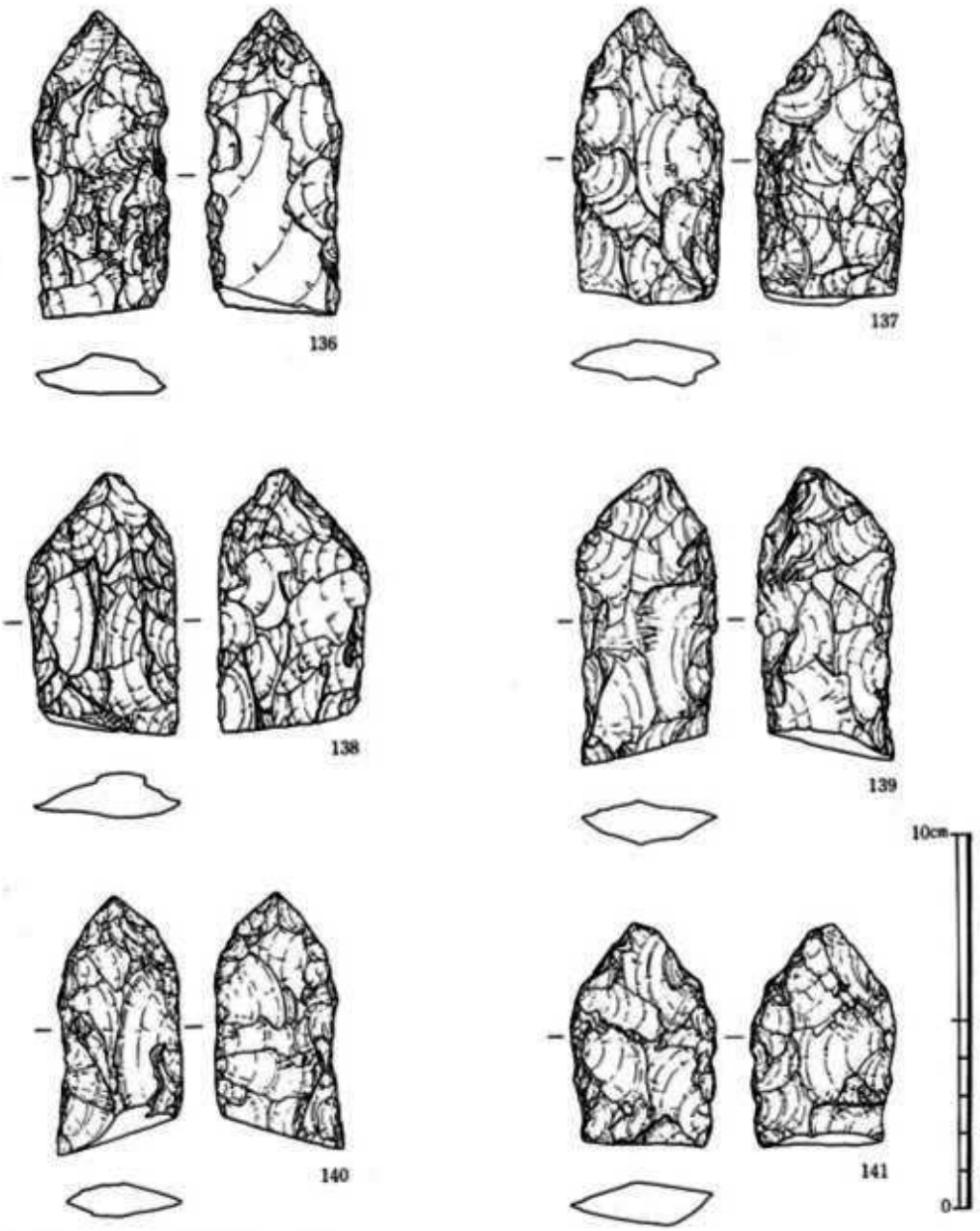


Fig. 64　山王遺跡出土尖頭器実測図

～77は茶園原遺跡や長尾開拓遺跡で出土する長さ20cm以上の大型の木葉形尖頭器である。ほとんどが中央部から折損している。左右対称のものが多く、断面はレンズ状である。55～58も茶園原遺跡などで出土する木葉形尖頭器である。長さは15cm前後になり、多久型尖頭器の中でもっとも出土例が多い。左右対称と非対称のものがあり、左右非対称の割合が多い。2～3点に折損する。断面はレンズ状である。61・63は先端部に丸味を持ち、先端部の調整は片面だけ

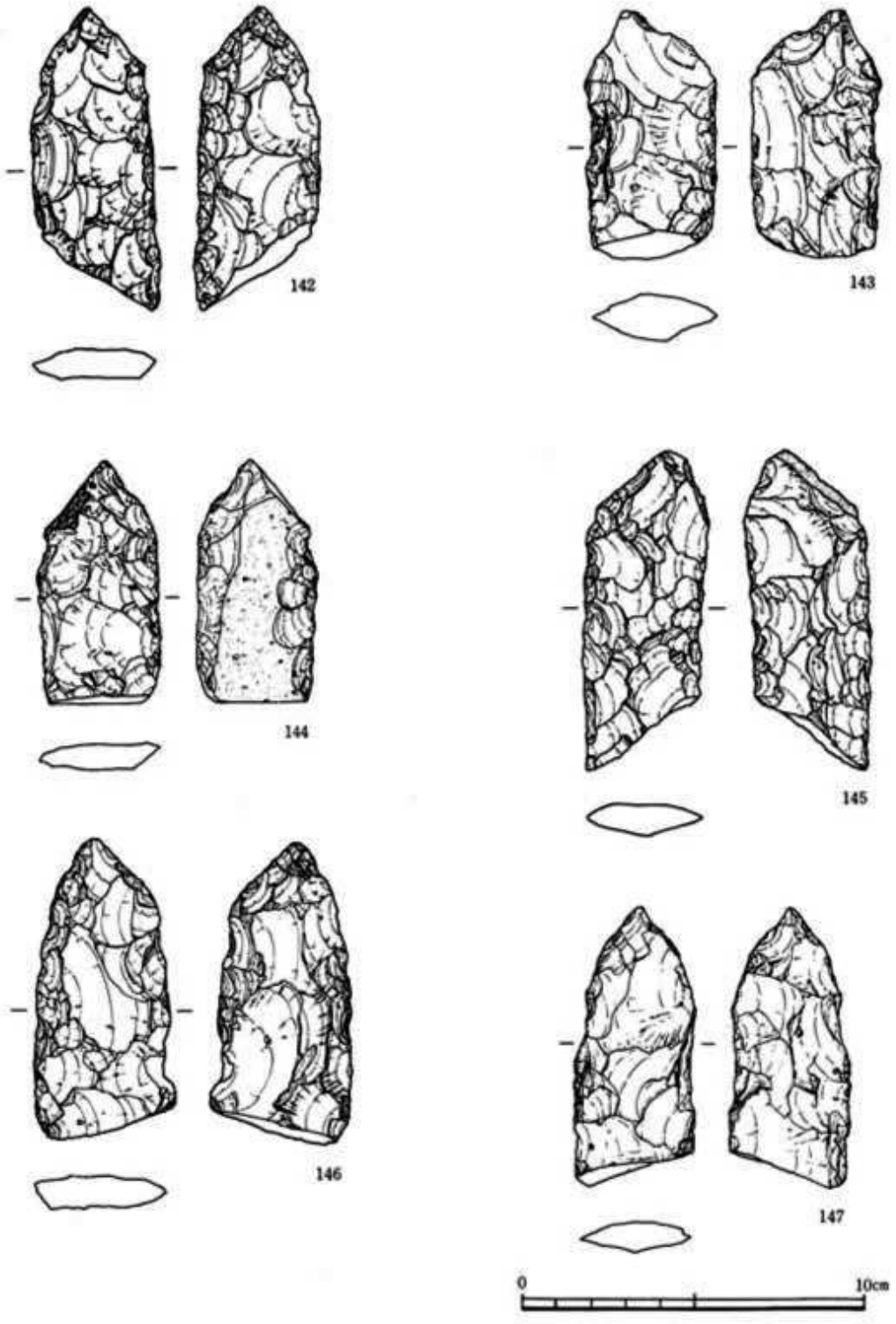


Fig. 65　山王遺跡出土尖頭器実測図

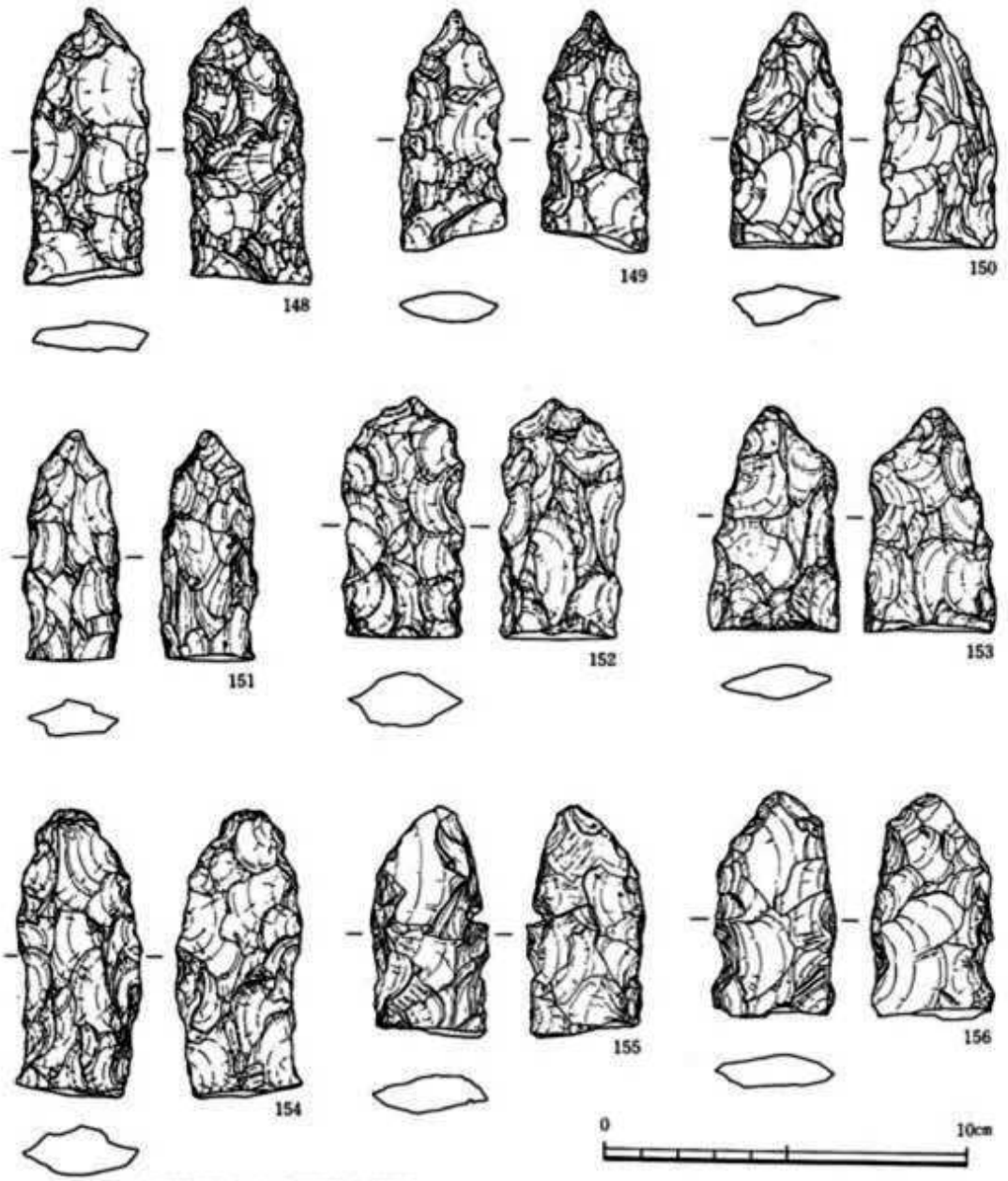


Fig. 66　山王遺跡出土尖頭器実測図

である。圭頭形尖頭器との接合が予想される。66～69・71は大型の圭頭形尖頭器である。肩部と中央部の幅が同じかやや中央部が広い。長さは20cm前後になる。78～88は木葉形尖頭器であるが、先端部が鋭利に尖がり、肩部が丸味を持ち、幅広となる。左右対称のものと非対称のものがある。調整加工は圭頭形と同じで、圭頭形に接合されるものもある。92～129・136～145は圭頭形尖頭器の代表的な形状を持つものである。123・144・145は片面片側の先端部は調整を加えていない。146～156は中型から小型の木葉形尖頭器で10～15cmの長さになろう。断面は

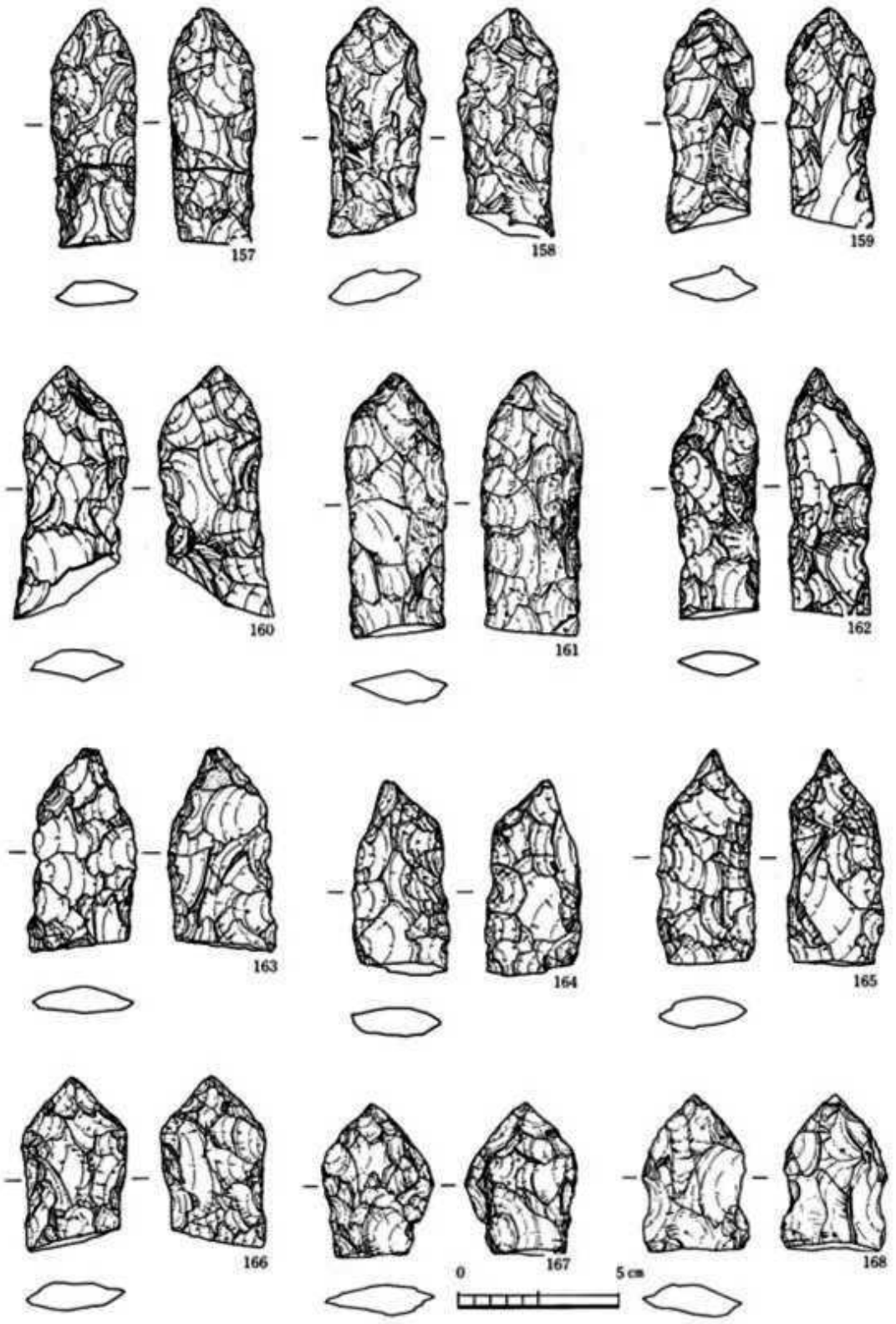


Fig. 67　山王遺跡出土尖頭器実測図

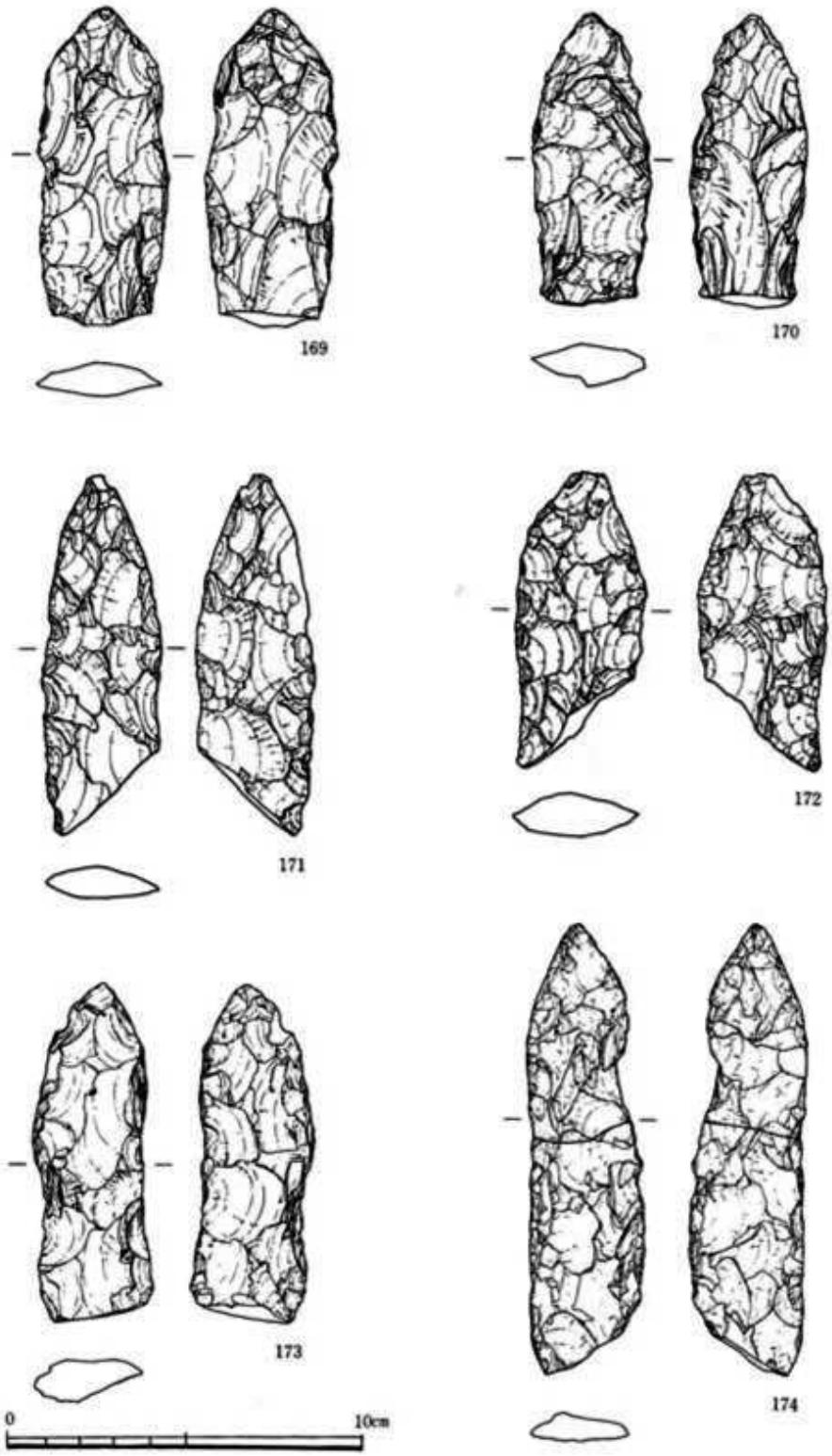


Fig. 68　山王遺跡出土尖頭器実測図

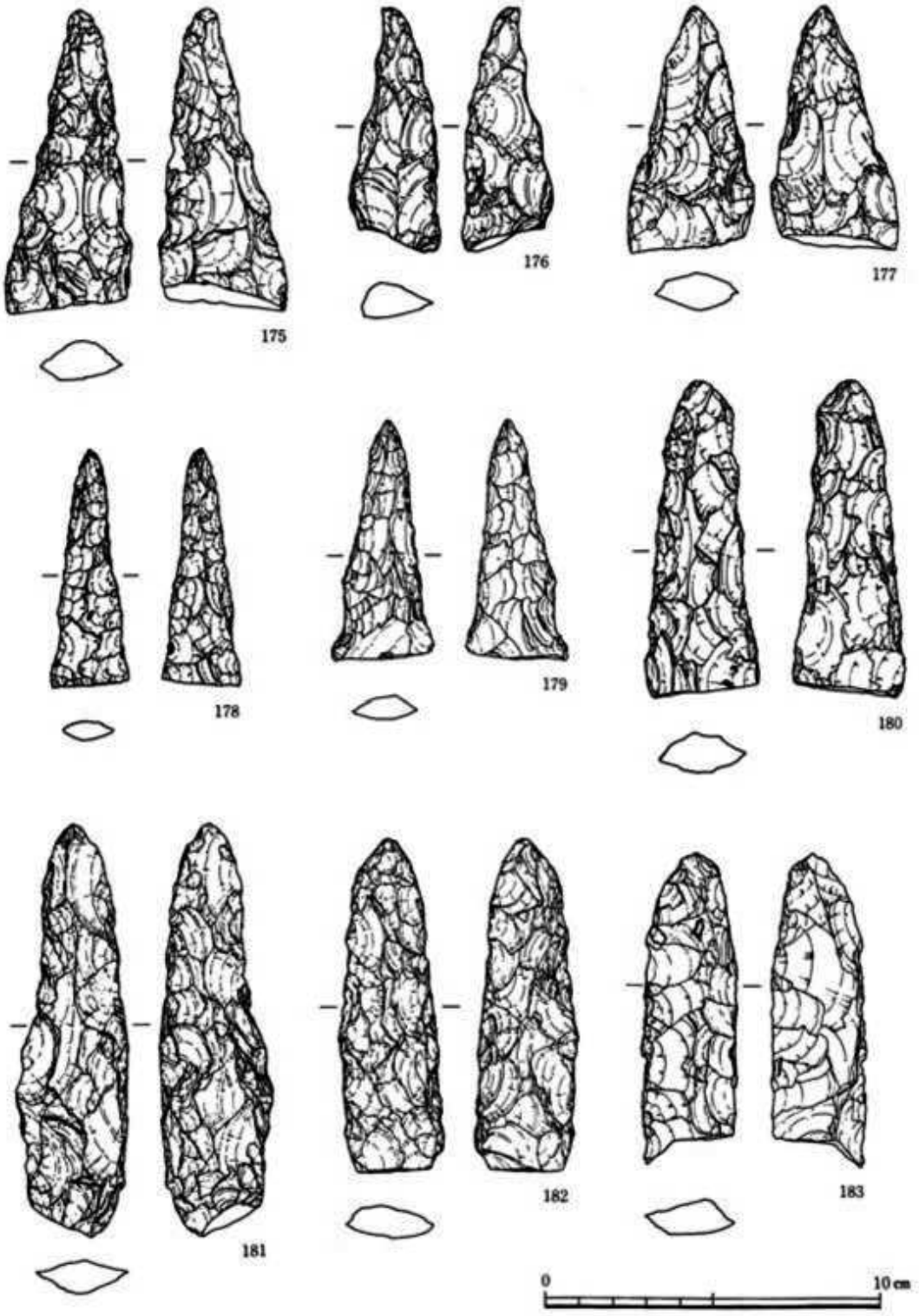


Fig. 69　山王遺跡出土尖頭器実測図

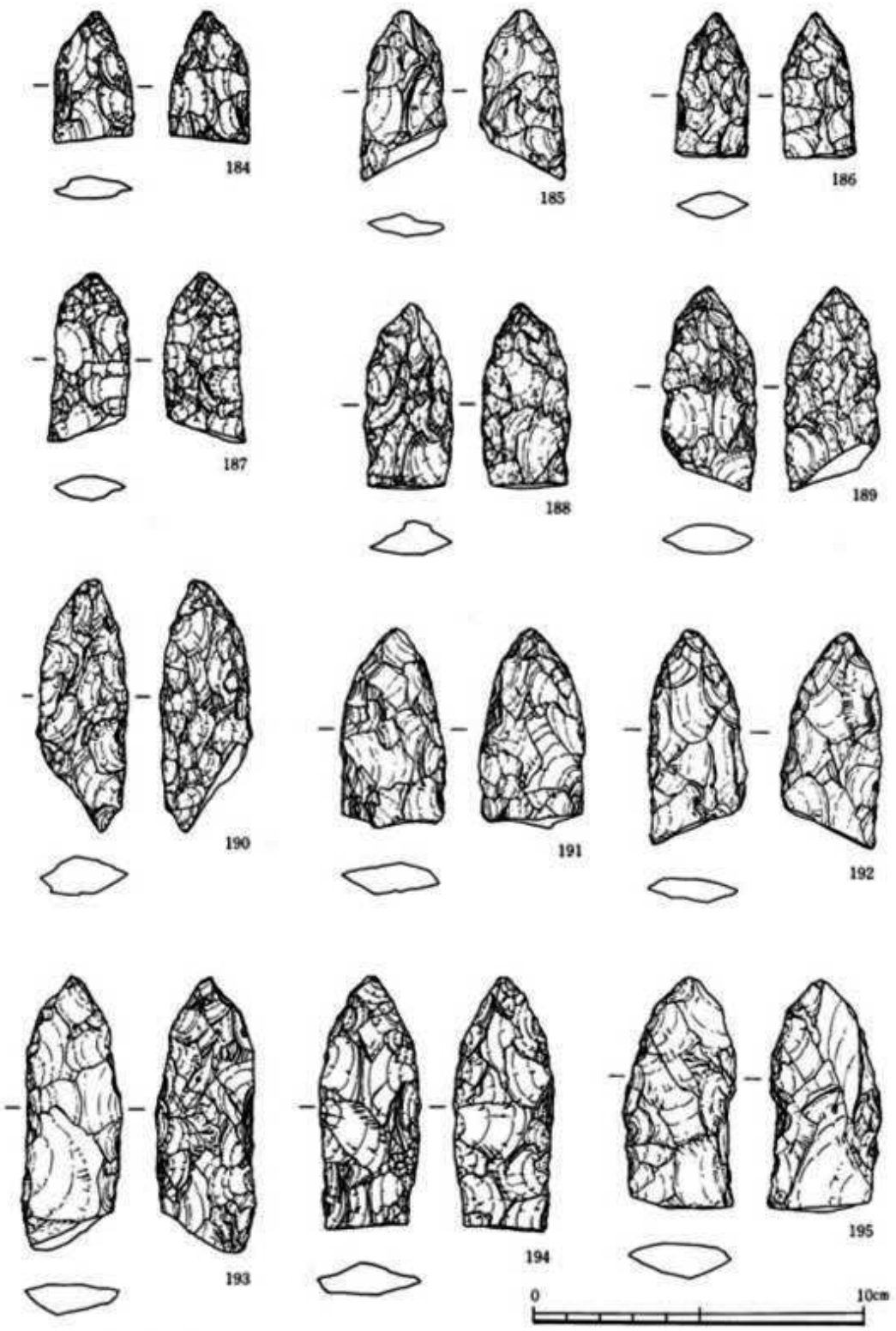


Fig. 70　山王遺跡出土尖頭器実測図

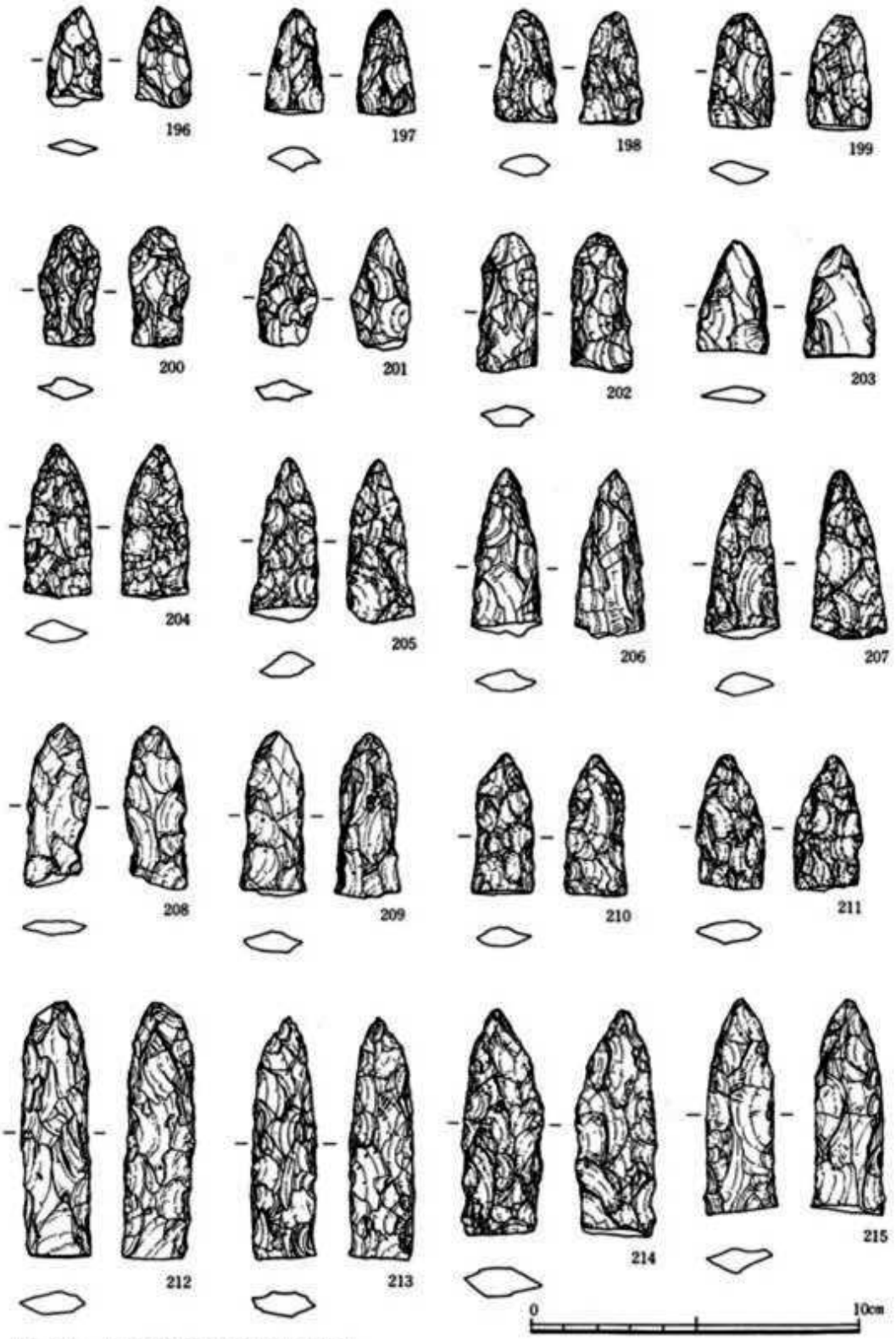


Fig. 71　山王遺跡出土尖頭器実測図

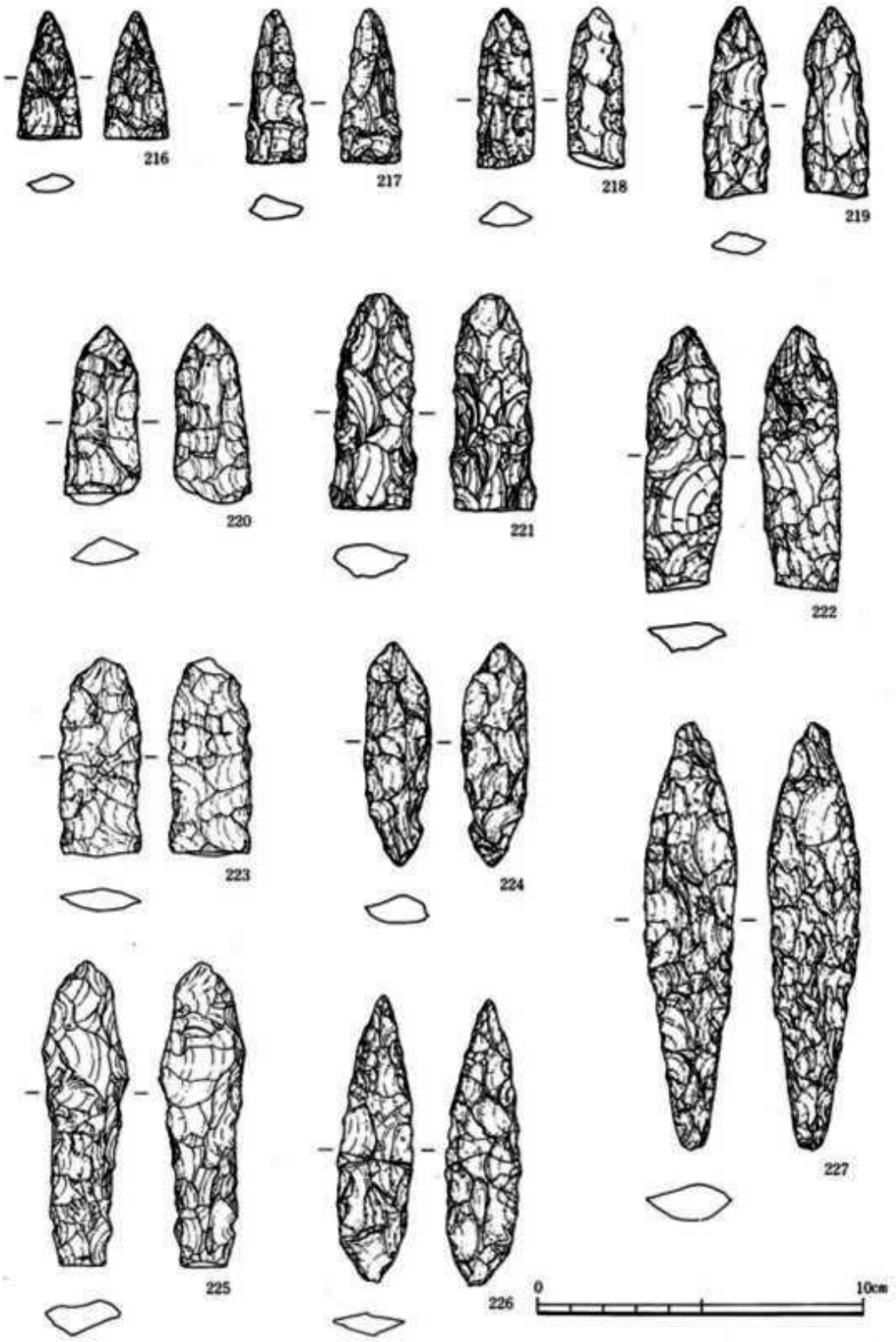


Fig. 72　山王遺跡出土尖頭器実測図

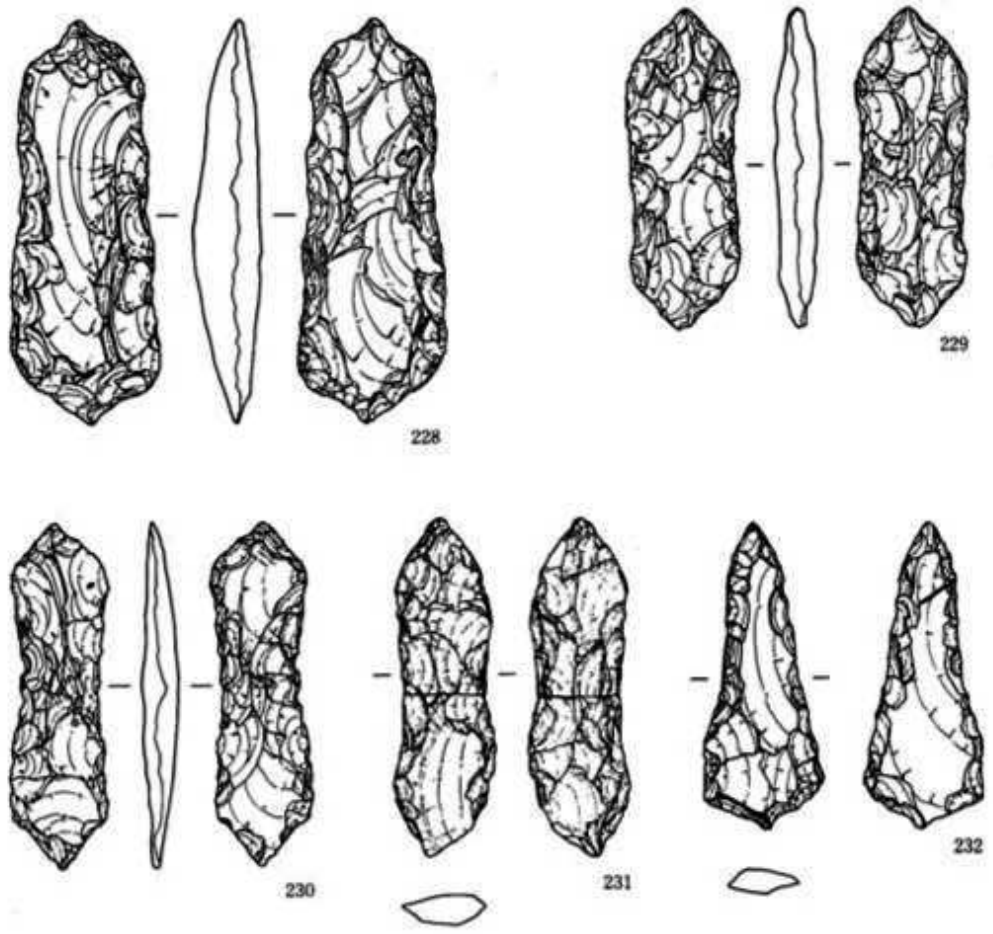


Fig. 73　山王遺跡出土尖頭器実測図

レンズ状になる。157～168は小型の圭頭形尖頭器である。幅は5㎝以下で、長さも10～15㎝ほどである。厚味はほとんどが1㎝以下で薄い。171・173・174・178～183は柳葉形尖頭器である。幅は3㎝前後で、長さは15㎝前後になる。196～227は小型または細味の柳葉形尖頭器である。多久石器遺跡群でこれまで出土例がなく山王遺跡を代表する石器群である。先端部が鋭利に尖る槍先形の石器である。幅はほとんど2㎝以下で、幅が広いものでも3㎝以下である。厚味も薄く、左右対称である。228～237は圭頭形の完形品と接合資料である。228・233は厚味があり、229～232は小型のものである。232は有

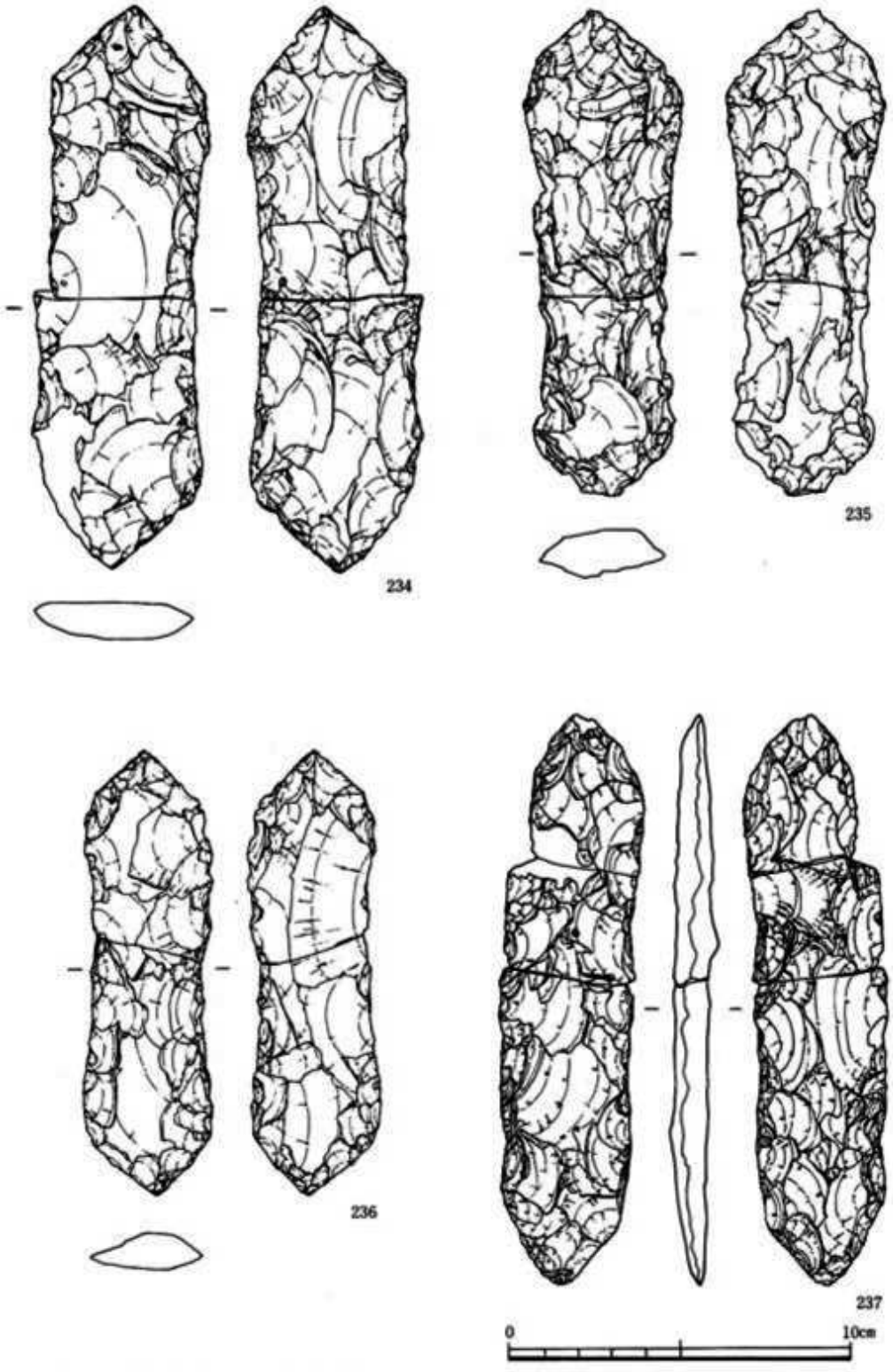


Fig. 74　山王遺跡出土尖頭器実測図

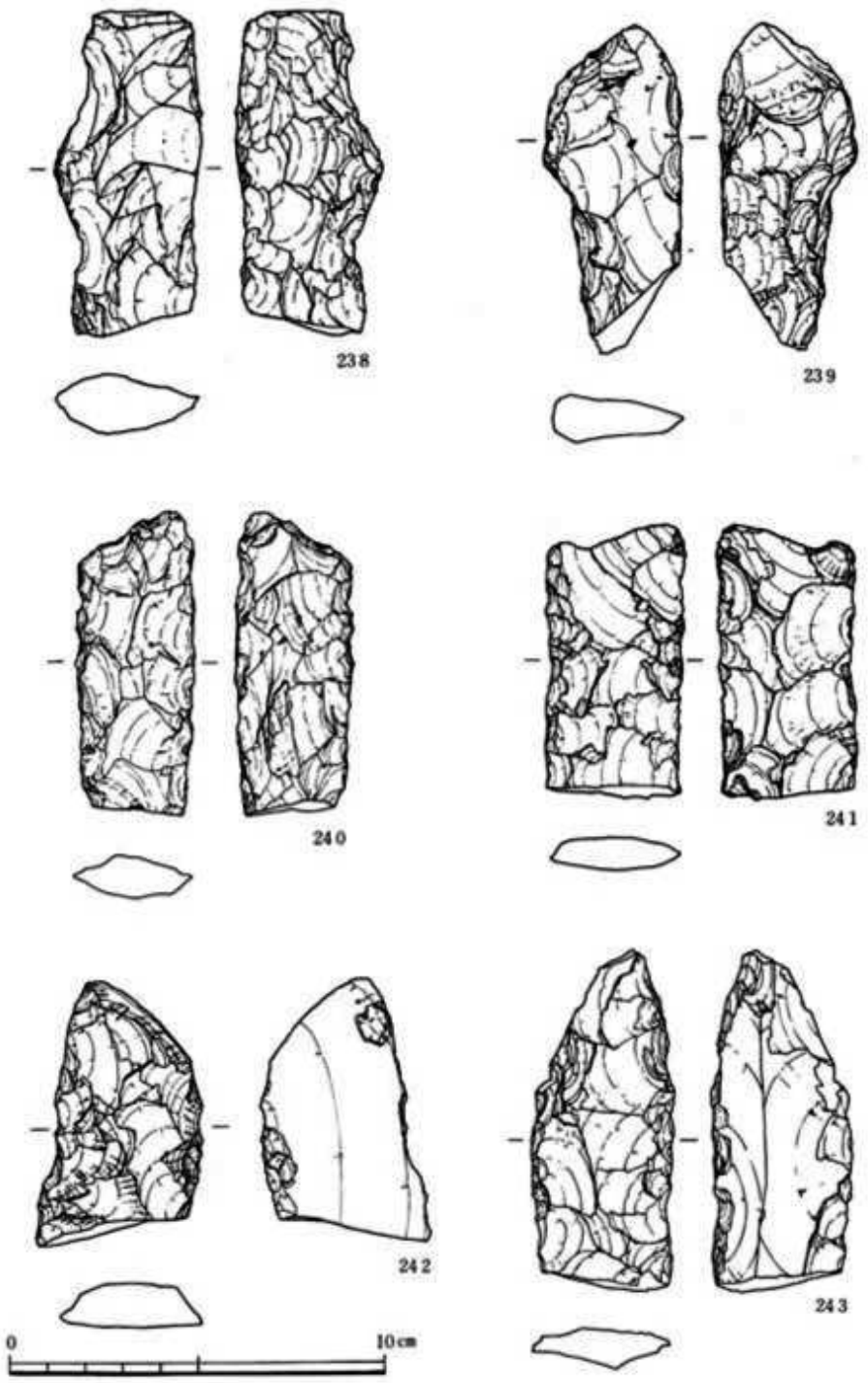


Fig. 75　山王遺跡出土尖頭器実測図

舌尖頭器に類似した形状である。

その他の尖頭器　定形化した尖頭器のほかに、剥片の形状や調整加工の段階で定形化した石器製作が不可能になった素材を用いた尖頭器も多く出土した。(石器番号238～243)

238・239は片側が厚味のある横長剥片を用いたもので数回の剥離を加えているが厚味を剥ぎ取れなかったもので約60点が出土した。240・241は尖頭器製作中に先端部または基部を折損し、折損部から調整加工を施したものである。約30点が出土した。242・243は横長剥片の腹面の主剥離面を残し、背面に調整加工を施し、腹面の一部を調整したもので、山王遺跡では約30点が出土した。

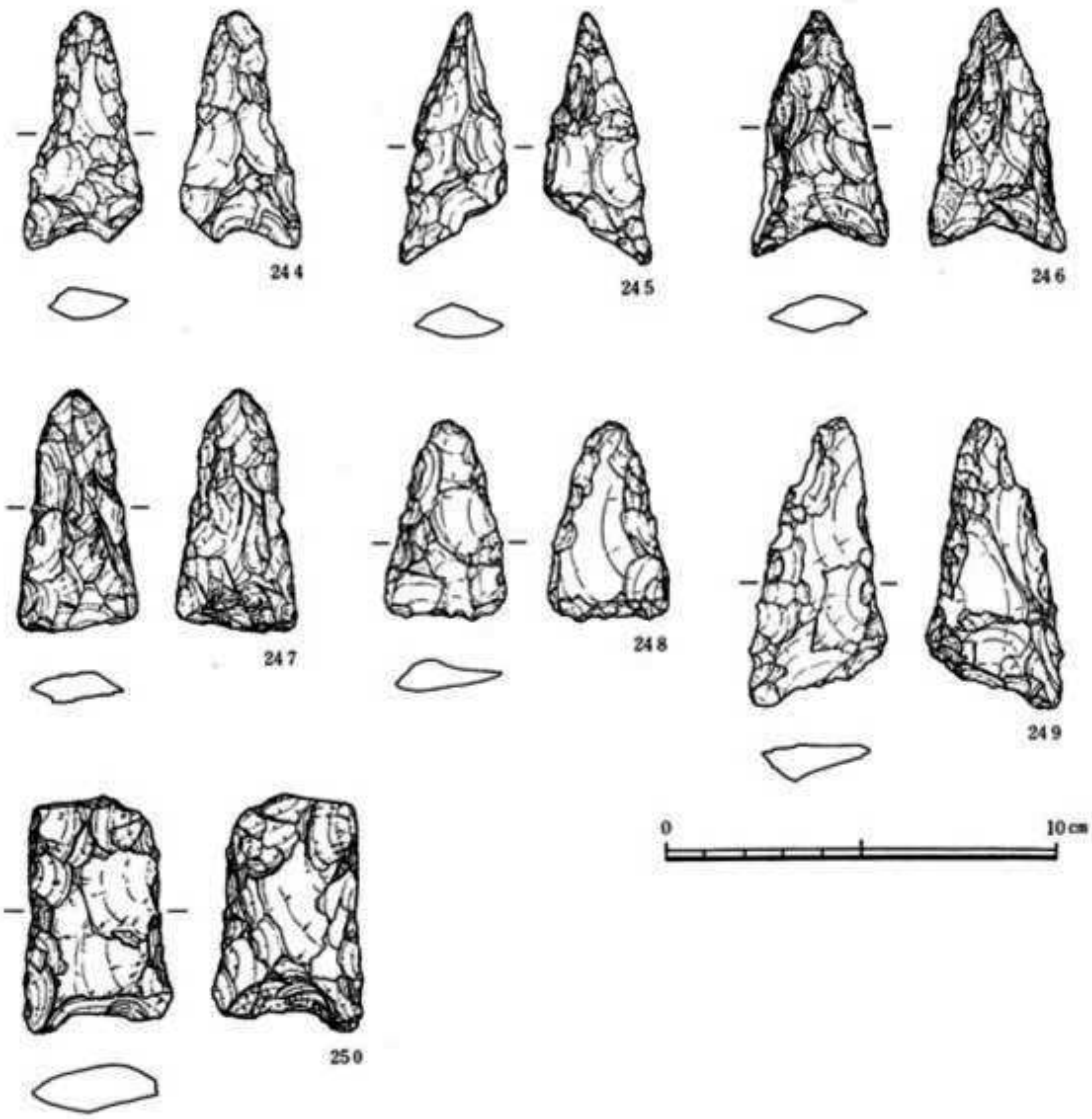


Fig. 76　山王遺跡出土鏃形石器実測図

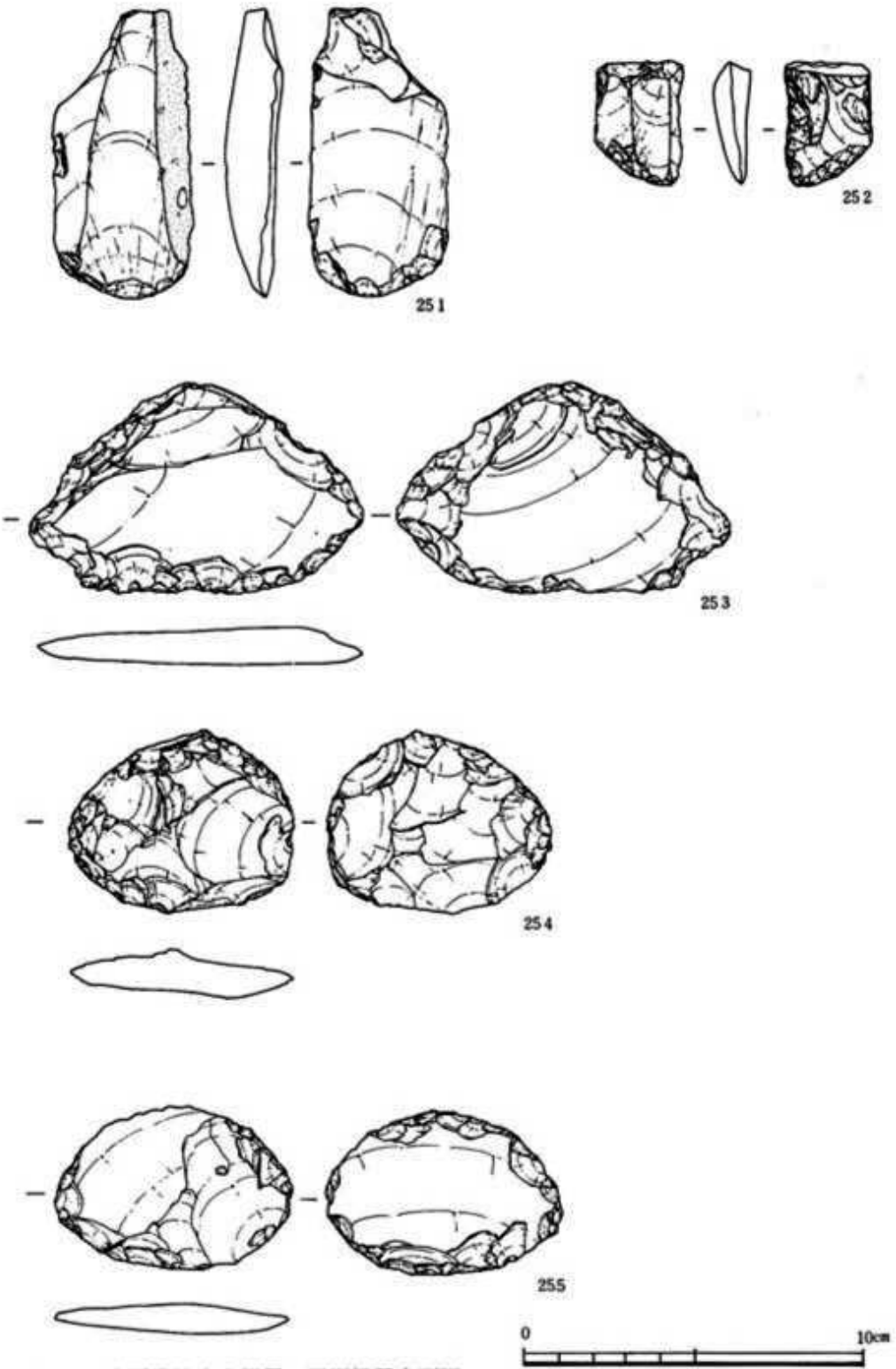


Fig. 77　山王遺跡出土掻器、円形掻器実測図

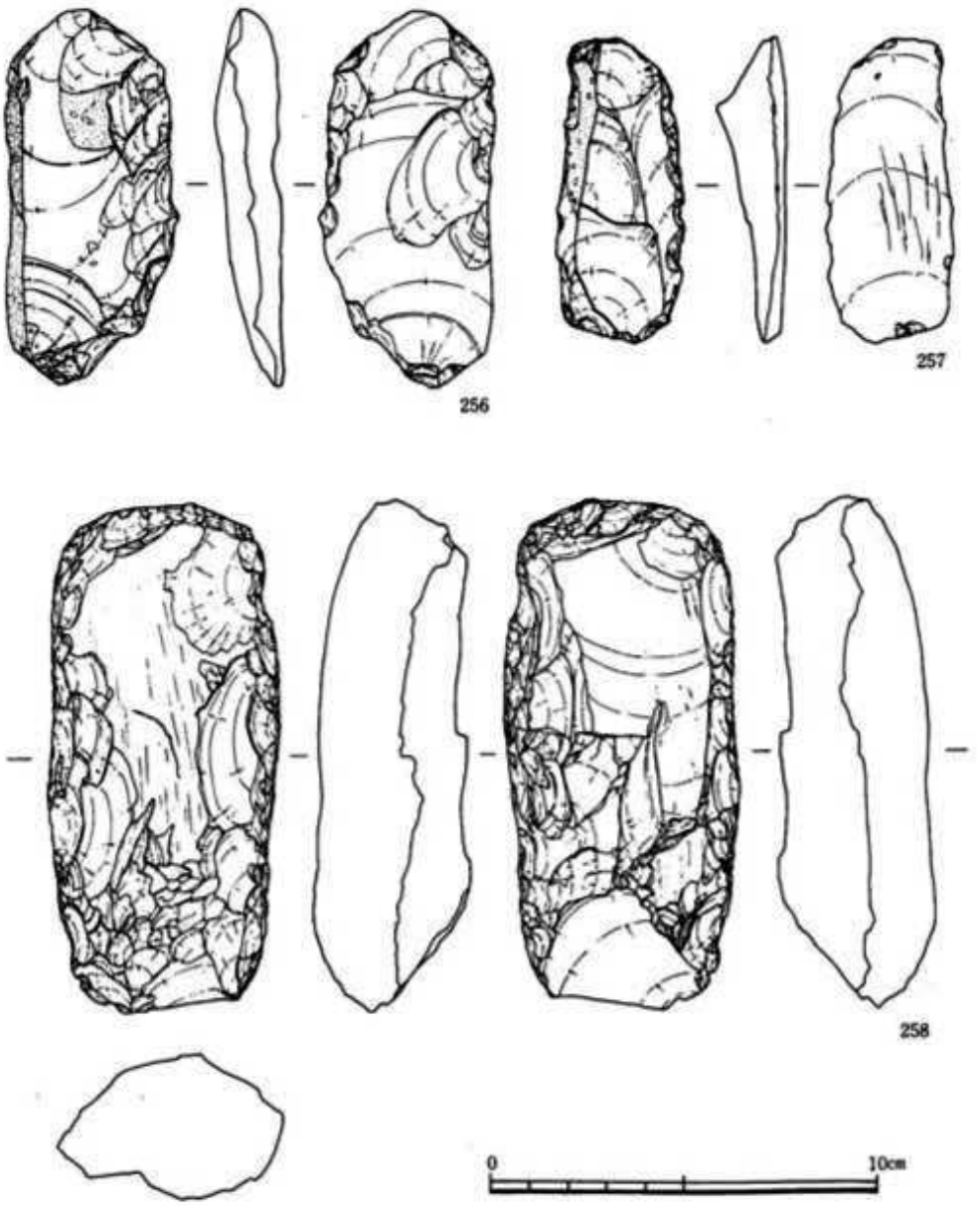


Fig. 78　山王遺跡出土削器、局部磨製石器実測図

鏃形石器（Fig.76、Tab、PL.41）

大型の石鏃の形状を持つ石器で、7点が出土した。長さは5㎝以上あり、脚部を作り出したものと二等辺三角形のものがある。調整加工は尖頭器と同じである。昭和35年に発掘調査された三年山[註1]遺跡から二等辺三角形の鏃形石器1点が出土したと報告されている。槍先形石器の一形態であろうが興味深い資料である。（石器番号244～250）

244・245・249は片側の脚部を失っている。246は完形品である。250は先端部が折損している。247は二等辺三角形のようだが短い脚部を持っている。

掻器（Fig. 77－251・252、PL. 42）

2点が出土した。251は縦長剝片の打面に弧刃を施している。背面に礫面を残す。サヌカイト製で表面採集による出土。252は6Ｆ10Ⅲｂ層から出土した小型掻器である。刃部は両面調整。側辺部は背面からの調整である。黒耀石製。

円形掻器（Fig. 77－253～255、PL. 42）

5ＧⅠ層から2点と表面採集の1点が出土した。253は横長剝片の打面を除いて、両面の縁部調整が施されている。打面は礫面を残す。角礫を素材に用いている。254は尖頭器の調整と同じ両面調整で、刃部は細部調整が施されている。木葉形尖頭器を転用したものであろう。長径6.6㎝、短径5.2㎝、最大厚1.2㎝、重さ43.3ｇ。255は横長剝片の腹面に縁部調整を施した円形掻器である。長径6.8㎝、短径4.7㎝、最大厚0.85㎝、重さ30.8ｇ。3点ともサヌカイト製。

削器（Fig. 78－256・257、PL. 42）

256は6Ｆ19Ⅲａ層から出土した。縦長剝片を素材に用い、打面は調整によって除去している。刃部は腹面と背面の一部に細部調整を施す。両端は尖頭器の状態に尖る。片側辺は礫面を残す。長さ9.8㎝、最大幅4.4㎝、最大厚1.45㎝、重さ76.3ｇ。257も縦長剝片を素材に用いた削器である。打面は調整によって除去し、片側辺に腹部から細部調整を施し刃部を作り出している。片側辺は礫面を残す。長さ7.95㎝、最大幅3.3㎝、最大厚1.7㎝、重さ36.2ｇ。2点ともサヌカイト製である。

局部磨製石器（Fig. 78－253、PL. 42）

258は5Ｆ7Ⅱｄ層から出土した局部磨製石器である。片面は破損が著しく、研磨部は一部を残すだけである。両側面と先端部は敲打による調整を施し、両面とも中央部を研磨している。長さ13.3㎝、最大幅6.0㎝、最大厚3.9㎝、425.8ｇ、安山岩製。

Tab. 13　山王遺跡出土剥片尖頭器・ナイフ形石器・台形様石器計測表

（1～3剥片尖頭器、4～17ナイフ形石器、18～38台形様石器）

遺物番号	出土区	層　位	石　材	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
1	6F19 6F18	Ⅲb Ⅰ	サヌカイト	8.2	2.6	1.3	23.9	無	刃部先端	1	基部調整・刃部使用痕
2	6F19	Ⅲc	〃	－	4.0	0.9	－	〃	刃　部		〃
3	6G5	Ⅱ	〃	－	3.0	1.0	－	〃	〃		基部・片側縁調整
4	6F8	Ⅱ	〃	6.0	3.0	1.4	22.3	〃	完　形	2	片側縁・腹面部分調整
5	7I	Ⅰ	〃	6.1	2.7	1.4	18.4	〃	〃		片側縁調整
6	6F10	Ⅳb	黒曜石	4.7	1.6	0.75	4.5	〃	〃	3	基部・片側縁調整
7	7I20	Ⅱc	〃	3.2	1.4	0.4	2.0	〃	〃	4	〃
8	5F8～9	Ⅱ	〃	2.0	0.9	0.4	0.5	〃	〃	5	〃
9	7J24	Ⅱb	〃	2.6	1.6	0.4	1.25	〃	〃	6	片側縁調整
10	7J18	Ⅱo	〃	－	1.6	0.35	－	〃	基部・刃部	7	基部・片側縁調整
11	6F20	Ⅱf	〃	3.5	1.4	0.45	1.95	背面	完　形	8	〃
12	5F4	Ⅱa	〃	2.7	1.0	0.55	1.05	無	〃	9	片側縁調整
13	7F	Ⅰ	〃	－	1.95	1.0	6.4	〃	刃部先端	10	〃
14	7I	Ⅰ	〃	－	1.65	0.65	3.2	〃	刃　部	11	基部・片側縁調整
15	7F22	Ⅰ	〃	－	1.5	0.6	3.7	〃	基部・刃部	12	〃
16	6G	Ⅰ	〃	3.8	2.1	0.8	5.05	〃	完　形		〃
17	6F24	Ⅱa	〃	－	1.5	0.6	－	〃	刃　部		〃
18	6F4	Ⅱf	〃	2.0	2.45	0.45	2.2	〃	完　形	13	A類
19	7J8～9	Ⅱ	〃	2.55	2.3	0.5	2.65	基部	〃	14	B_1類
20	6G15	Ⅰ	〃	2.8	2.4	0.65	2.9	無	〃	15	B_2類
21	4F18	Ⅰ	〃	2.45	1.7	0.65	2.15	〃	〃	16	〃
22	6F20	Ⅱb	〃	2.3	1.95	0.65	2.4	片側縁	〃	17	〃
23	5F13	Ⅱd	〃	2.6	1.85	0.85	2.75	無	〃	18	〃
24	7J16	Ⅱc	サヌカイト	3.4	2.7	0.5	5.65	〃	〃	19	B_3類
25	5F23	Ⅱc	黒曜石	3.7	2.95	0.95	8.4	基部	〃	20	B_2類
26	7J18	Ⅱi	〃	3.65	1.95	0.75	5.65	無	〃	21	〃
27	5F15	Ⅲa	〃	4.0	2.75	0.9	6.55	〃	〃	22	〃
28	表　採	－	〃	3.6	2.8	0.9	7.1	基部	〃	23	B_1類
29	〃	－	〃	3.9	2.7	0.65	6.6	無	〃	24	〃
30	4F12	Ⅱc	〃	3.25	1.95	0.8	3.55	〃	刃部の一部	25	C類
31	5G2	Ⅰ	〃	2.25	2.1	0.6	2.5	〃	基部の一部	26	B_3類
32	5F3	Ⅰ	〃	3.0	2.6	0.6	4.0	基部	完　形	27	B_2類
33	5F15	Ⅲd	〃	2.6	2.0	0.6	2.55	無	基　部	28	〃
34	4F18	Ⅱc	〃	2.7	2.5	0.8	4.1	〃	完　形	29	C類
35	6F23～24	Ⅰ	〃	4.6	2.25	0.85	7.65	〃	〃	30	〃
36	7I7	Ⅱb	〃	3.1	1.9	0.7	3.95	〃	基部の一部	31	B_2類
37	7I24	Ⅱb	サヌカイト	3.8	2.8	1.0	7.8	〃	刃部の一部	32	〃
38	7F12	Ⅱc	〃	2.4	2.35	0.65	2.5	〃	完　形	33	〃

Tab. 14　山王遺跡出土尖頭器計測表

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	掲図番号	備　　考
1	4F13 5F3	I III a	木葉形I類	13.8	6.2	0.9	110	無	中央部	40	接合
2	5F14 5G8	II c I	木葉形II類	13.5	3.9	1.0	72	〃	〃	41	〃
3	表　採	－	木葉形II類	10.8	3.5	1.7	62	〃	完　形	42	
4	〃	－	〃	9.5	3.7	1.25	37.5	〃	〃	43	
5	5G12	II g	木葉形II類	6.5	2.3	0.8	11.7	〃	〃	44	
6	5F14	II d	〃	5.1	3.7	0.9	12	〃	〃	45	
7	7I14	II b	柳葉形	8.4	2.5	1.0	19.8	〃	〃	46	
8	7F	I	木葉形II類	7.1	3.0	1.0	20.5	〃	〃	47	
9	9F	I	〃	11.5	5.4	1.6	104.5	〃	中央部	48	
10	5G2	I	〃	9.6	5.0	1.9	90.0	〃	〃	49	
11	表　採	－	〃	8.7	4.5	1.1	60.0	〃	〃	50	
12	9F	I	〃	10.0	4.9	1.2	66.5	〃	〃	51	
13	6G4	II a	〃	9.2	4.3	1.0	52.5	〃	〃	52	
14	7K	I	〃	9.2	3.6	1.1	47.5	〃	〃	53	
15	6F23	III c	〃	7.4	3.9	1.05	32.5	〃	〃	54	
16	7F2	II b	〃	7.8	4.3	1.2	40.5	〃	〃	55	先端に平担面
17	6F12	II b	〃	6.0	4.1	1.4	41.5	〃	〃	56	
18	5G7	II a	〃	6.45	5.2	1.1	34.5	〃	一	57	
19	7I	I	〃	6.4	3.8	0.8	25.5	〃	一	58	
20	7H	I	〃	6.5	4.3	1.0	27.5	〃	〃	59	
21	7J8~7J9	II	木葉形I類	7.3	5.0	1.2	50	〃	〃	60	先端厚味
22	表　採	－	〃	7.9	5.0	1.2	54.5	〃	中央部	61	先端片側平担面
23	〃	－	〃	7.4	5.1	1.25	50.0	〃	一	62	
24	7F16~7F21	II	〃	6.55	4.0	0.9	34.5	〃	中央部	63	
25	6F22	II a	〃	6.3	3.3	1.2	36.5	〃	一一	64	
26	6F22	II a	〃	6.3	3.9	1.3	36	〃	一	65	
27	6F	I	圭頭形	11.3	5.2	1.7	108.5	〃	一	66	
28	7H	I	〃	10.0	4.85	1.5	73.5	〃	中央部	67	
29	5F24	II b	〃	9.4	4.6	1.1	60	〃	一	68	
30	表　採	－	〃	9.6	4.8	1.25	60	〃	中央部	69	
31	6F4	IV d	〃	8.4	4.1	1.1	39	〃	〃	70	
32	6G5~6G10	II	〃	9.65	5.8	1.7	85.5	〃	〃	71	
33	5G8	II a	木葉形II類	10.4	5.4	1.8	71	〃	〃	72	
34	7F	I	〃	9.6	4.1	1.4	55.5	〃	一	73	
35	5F 5 5F10	I	〃	9.1	4.2	1.15	－	〃	中央部	74	
36	表　採	－	〃	10.0	4.4	1.9	71.5	片面中央部	一	75	
37	7H	I	〃	9.2	4.0	1.3	47	〃	〃	76	
38	5F7	IV b	〃	7.9	3.8	1.2	42	〃	中央部	77	
39	7I	I	〃	8.1	4.8	1.05	44	〃	〃	78	

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
40	7F	II	木葉形II類	8.0	4.55	0.95	38	無	中央部	79	
41	6G18	II g	〃	9.0	4.2	0.85	30	〃	先	80	
42	6G13	II g	〃	8.9	4.0	1.1	37.5	〃	〃	81	
43	7F	I	〃	9.1	5.0	1.5	62.5	〃	中央部	82	
44	7F11	II a	〃	8.7	4.45	1.1	38.5	〃	先	83	
45	5F15	II d	〃	7.3	4.55	1.05	33.5	脚縁に一部	基	84	
46	5F25	III c	〃	6.7	4.25	1.0	28	無	〃	85	
47	6F9	II f	〃	7.5	4.1	1.0	32.5	〃	〃	86	
48	5F3	II b	〃	6.6	4.2	0.9	22.5	〃	〃	87	
49	7I	I	〃	6.8	3.55	0.95	27.5	〃	中央部	88	
50	5F1	I	〃	6.9	4.0	1.2	30.5	〃	基	89	
51	6G14	II d	〃	5.9	4.3	1.0	27.5	〃	〃	90	
52	6F	I	圭頭形	5.3	3.75	1.0	20.5	片面先端部	基	91	
53	7I	I	〃	9.2	5.6	1.6	93	無	中央部	92	
54	6G9	II a	〃	8.05	5.5	1.3	61.5	〃	〃	93	
55	5F17~5F18	II h	〃	8.4	5.4	1.1	51	〃	〃	94	
56	6F8	II h	〃	9.4	5.5	1.45	74.5	〃	〃	95	
57	5E18	II	〃	8.45	5.0	1.1	51	〃	〃	96	
58	6F7	II c	〃	8.5	4.75	1.15	45	〃	〃	97	
69	5G25	I	〃	8.5	5.1	1.35	48	〃	〃	98	
60	5G15	II	〃	8.1	5.5	0.95	42.5	〃	〃	99	
61	7F	II	〃	9.2	6.5	1.2	70	〃	〃	100	
62	5G3	II m	〃	8.1	4.6	1.1	44	〃	〃	101	
63	7E	I	〃	7.5	4.95	1.15	43	〃	〃	102	
64	6F~6G	II	〃	7.2	4.7	1.35	52	〃	〃	103	
65	6F3	III a	〃	6.6	4.9	1.1	36.5	〃	〃	104	
66	6G14	II f	〃	7.15	5.1	1.0	36	〃	〃	105	
67	7H	I	〃	7.4	5.45	0.95	41.5	〃	〃	106	
68	6F9	II k	〃	8.6	4.15	0.85	36	〃	先	107	
79	5G4	II a	〃	7.4	4.2	1.2	34	〃	中央部	108	
70	5G25	I	〃	7.2	3.7	0.9	28	〃	〃	109	
71	表　採	−	〃	8.55	4.85	1.45	50	〃	先	110	
72	6G14	II h	〃	8.95	4.0	1.0	45.5	〃	〃	111	
73	表　採	−	〃	9.3	4.3	1.15	52.5	〃	〃	112	
74	6F10	II k	〃	8.35	4.6	1.3	53	〃	中央部	113	
75	6F5	II h	〃	8.5	4.6	1.2	55.5	〃	〃	114	
76	7I	I	〃	9.5	4.5	1.15	50	〃	先	115	
77	5E	I	〃	5.7	4.7	1.0	30.5	〃	基	116	
78	5F5	II a	〃	5.55	4.6	1.0	18.5	〃	中央部	117	
79	表　採	−	〃	5.65	4.25	1.1	26	〃	基	118	

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
80	表　採	－	圭頭形	5.7	4.35	0.85	26	無	1/2以下	119	
81	5F21	I	〃	7.0	4.65	1.0	30	〃	中央部	120	
82	5F4	II d	〃	5.9	3.95	0.75	19.0	〃	1/2以下	121	
83	4F24 5F17~5F18	II a II h	〃	16.0	5.5	1.2	107	〃	中央部	122	
84	5F13	III a	〃	7.5	5.5	1.1	49	〃	〃	123	
85	5G2	I	〃	8.0	4.9	1.0	42	〃	〃	124	
86	表　採	－	〃	8.2	4.6	1.4	60.5	〃	1/2	125	
87	4F22	I	〃	10.0	4.6	1.2	62	先端下方縁	〃	126	
88	表　採	－	〃	8.0	4.1	1.1	46	無	中央部	127	
89	4F9	II a	〃	8.65	4.2	1.35	48.5	〃	1/2	128	
90	7H	I	〃	7.8	4.3	0.9	38.5	〃	中央部	129	
91	6F13	II k	木葉形[illegible]	7.1	4.1	0.95	31	〃	〃	130	
92	6G18	II g	〃	7.0	3.8	1.1	32	〃	〃	131	
93	4F19	II a	〃	7.4	3.8	1.2	35	〃	〃	132	
94	表　採	－	〃	6.65	3.55	1.15	29.5	〃	〃	133	
95	5F20	IV a	〃	8.5	3.95	1.1	39	〃	〃	134	
96	6F9	II i	〃	7.1	3.6	1.1	19	〃	1/2	135	
97	5G12	I	圭頭形	8.1	3.6	0.95	32	〃	〃	136	
98	5G7	II a	〃	7.95	3.85	1.3	46	〃	中央部	137	
99	6F~7F	I	〃	6.9	3.95	1.0	35		〃	138	
100	5E	I	〃	7.75	3.65	1.35	38		1/2	139	
101	5F25	II b	〃	6.85	3.2	1.0	32.5	無	中央部	140	
102	5F20	III a	〃	5.8	3.7	1.05	29	〃	1/2	141	
103	7I	I	〃	8.9	3.55	1.0	33	〃	中央部	142	
104	6F	I	〃	7.3	3.8	1.4	41	〃	1/2	143	
105	表　採	－	〃	7.1	3.5	0.8	25.5	片面大部分	中央部	144	先端部に平担面
106	5G9	I	〃	9.3	3.5	0.9	36.0	先端部片面	1/2	145	
107	5G3	I	柳葉形	8.9	4.1	1.25	46.0	無	〃	146	
108	7H	I	〃	8.2	3.5	0.9	28.5	〃	中央部	147	
109	7I12	II b	〃	7.6	3.2	0.85	26.5	〃	〃	148	
110	5F3	III c	〃	6.6	2.9	0.85	16.5	〃	〃	149	
111	7J8~7J5	II	〃	6.5	3.2	1.1	23	〃	〃	150	
112	7J13	II k	〃	6.4	2.6	1.2	20.5	〃	〃	151	
113	6G18	II b	〃	6.6	3.4	1.45	39.5	〃	〃	152	
114	4F10	I	〃	6.2	3.6	1.0	23	〃	1/2	153	先端部に平担面
115	5F13	II a	〃	7.9	3.4	1.4	42	〃	1/2	154	
116	7J3~7J8	II	〃	6.3	3.2	1.05	23.5	〃	中央部	155	
117	5G13	II c	〃	6.1	3.35	0.9	22.0	〃	〃	156	
118	5F8 5F18	IV c II b	圭頭形	7.3	2.6	0.75	16.5	〃	1/2	157	
119	6G8	II h	〃	7.1	3.0	0.95	24.5	〃	中央部	158	

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
120	5F7	II b	主頭形	6.9	2.7	1.0	20	無	3/5	159	
121	6F14	II k	〃	7.75	4.1	1.0	25	〃	〃	160	
122	6F7	II	〃	8.1	3.05	1.0	32	〃	〃	161	
123	6G10~6G15	II	〃	7.65	2.7	0.8	17.0	〃	3/4	162	
124	6F	I	〃	6.2	3.0	0.65	18	〃	中央部	163	
125	5F7	II d	〃	6.0	2.9	0.8	17.5	〃	〃	164	
126	5F14~5F19	II	〃	6.65	3.0	0.85	18	〃	3/5	165	
127	4F16	I	〃	5.4	3.2	0.95	17.5	〃	中央部	166	
128	6F8	II k	〃	4.7	3.4	0.9	14.5	〃	1/2	167	
129	4F6~4F11	I	〃	4.9	3.25	1.0	16.5	〃	3/5	168	両側縁に挟込み
130	5F20	II b	柳葉形	8.75	3.55	1.1	39.5	〃	4/5	169	
131	5F10	I	〃	8.1	3.2	1.35	32	〃	〃	170	
132	7K	I	〃	9.95	3.2	0.9	32	〃	3/4	171	
133	4F5	I	〃	8.2	3.6	1.25	31	〃	〃	172	
134	4G7	I	〃	9.4	3.2	1.2	41.5	〃	4/5	173	
135	5F6 5F20	III b III d	〃	12.5	3.2	0.8	37.5	〃	〃	174	
136	7I	I	〃	9.0	3.75	1.5	38.5	〃	中央部	175	
137	5F14	II c	〃	7.3	2.6	1.4	23.5	片側面一部	〃	176	片側面にプランティング状の調整
138	表採	−	〃	7.4	3.75	1.2	27	無		177	
139	5G7	I	〃	7.1	2.35	0.8	9.45	〃	4/5	178	
140	6F22	II a	〃	7.15	3.05	0.8	13.1	〃	〃	179	
141	6G5	I	〃	9.4	3.4	1.3	41.0	〃	〃	180	
142	7J21	II b	〃	12.3	3.3	1.3	48	〃	4/5	181	先端部片面に平担面
143	5G10	I	〃	9.95	2.95	1.1	36.5	〃	3/4	182	
144	6F	I	〃	9.4	3.9	1.0	23	〃	4/5	183	先端部片面の片側辺に平担面
145	7E	I	〃	4.0	2.4	0.7	5.6	〃	1/2	184	
146	5F16	II c	〃	5.1	2.5	0.75	8.1	〃	中央部	185	
147	5G9~5G10	II	〃	4.4	2.2	0.85	8.5	〃	〃	186	
148	7I	I	〃	5.05	2.35	0.8	8.4	〃	〃	187	
149	5F18	III b	〃	5.6	2.7	1.05	15.4	〃	〃	188	
150	6F9	II c	〃	6.15	2.8	0.95	16.6	〃	〃	189	先端に平担面
151	5F18	I	〃	7.6	2.7	1.3	24.3	〃	〃	190	
152	7I	I	〃	6.0	3.15	1.2	22.2	〃	〃	191	
153	7J12	II h	〃	6.5	3.0	0.8	15.2	〃	〃	192	
154	6F23	III c	〃	8.4	2.95	0.9	25.5	〃	3/4	193	
155	6G15	I	〃	7.65	3.0	0.9	22.5	〃	3/5	194	
156	6F13	III b	〃	6.0	3.3	1.0	26	〃	中央部	195	
157	6G10~6G15	II	〃	3.05	1.7	0.5	2.3	〃	1/5	196	
158	5G2	I	〃	3.2	1.8	3.85	4.1	〃	1/2	197	
159	5F15	IV b	〃	3.4	1.85	4.3	4.6	〃	〃	198	

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
160	7I17	IIb	柳葉形	3.5	2.0	4 9.	5	無	1/2	199	
161	5G4	IIe	〃	3.65	1.9	0.65	4.15	〃	3/4	200	圭頭形に近い
162	6G5	IIj	〃	3.7	1.8	0.6	3.3	〃	〃	201	
163	4F19~4F21	II	〃	4.2	1.85	0.7	5.15	〃	中央部	202	
164	7J15	IIa	〃	3.45	2.2	0.5	3.6	〃	1/2	203	
165	7J17	IId	〃	4.7	2.05	0.65	6.2	〃	中央部	204	
166	6F15	IIg	〃	5.0	2.05	1.0	8.3	〃	3/4	205	
167	表採	−	〃	5.1	2.15	0.7	7.45	〃	中央部	206	
168	6F15	IIIb	〃	5.1	2.3	0.9	8.5	〃	3/4	207	
169	6F5	IIa	〃	4.95	1.9	0.5	5.25	〃	3/4	208	
170	7K	I	〃	5.0	2.05	0.7	7.55	〃	3/4	209	
171	6G9~6G11	II	〃	4.25	1.9	0.6	4.85	〃	〃	210	
172	5F21	IIa	〃	4.1	2.1	0.65	6.05	〃	中央部	211	圭頭形に近い
173	6F15	IIa	〃	7.8	2.05	0.9	16.9	〃	3/4	212	
174	4G	I	〃	7.35	1.95	0.8	13.1	〃	〃	213	
175	7I2	IIh	〃	6.8	2.45	1.0	17.2	〃	〃	214	
176	表採	−	〃	6.5	2.3	0.75	11.2	〃	3/4	215	
177	4G	I	〃	3.9	2.0	0.6	3.6	〃	3/4	216	
178	7H	I	〃	4.7	1.9	0.8	5.5	〃	中央部	217	折損後、折損部から剥離
179	6G4	IIc	〃	4.9	1.7	0.9	5.95	〃	3/4	218	
180	6F19	IIIc	〃	5.85	2.0	0.65	8.5	〃	〃	219	
181	6I	I	〃	5.5	2.3	0.8	10.1	〃	中央部	220	
182	5F19	IIIa	〃	6.6	2.5	1.0	20.2	〃	3/4	221	先端部に平担面
183	5F16	I	〃	8.1	2.4	1.0	20.9	〃	〃	222	先端部と先端部片側辺に平担面
184	6F13	IIh	〃	6.0	2.5	0.7	12.1	〃	3/4	223	
185	5F20~5F21	IIe	〃	6.8	2.0	0.8	12.4	〃	完形	224	
186	6F15	IIIa	〃	9.3	2.5	1.3	28.2	〃	3/4	225	
187	6G18	IIh	〃	8.7	2.3	0.95	15.3	〃	完形	226	
188	4G5~4G10	III	〃	13.0	2.8	1.2	37.1	〃	〃	227	
189	6G9	I	圭頭形	10.45	3.85	1.8	60.08	〃	〃	228	
190	6G19	I	〃	8.3	2.9	1.25	27.5	〃	〃	229	
191	5G9~5G11	II	〃	8.8	2.5	0.95	17.4	〃	〃	230	
192	5F4	IIb	〃	8.7	2.45	0.8	20.5	〃	〃	231	
193	5F8	IId	〃	7.9	3.1	0.6	14.2	〃	〃	232	
194	5F17	I	〃	9.05	4.2	1.4	51.5	〃	〃	233	
195	6F5 6F	IIh I	〃	16.3	4.8	1.1	106.5	〃	中央部	234	
196	6G9 表採	I −	〃	14.0	4.55 4.0	1.45 1.05	90.5	〃	3/4	235	
197	6F7 6F	II I	〃	12,9	3.75 3.5	1.0 0.85	54	〃	中央部	236	
198	5F14	I IIa	〃	16.5	3.8	1.1	80.5	〃	中央部・1/2	237	3点以上に折損
199	7I	I	不定形	8.65	3.85	1.6	51.7	〃	−	238	両端折損、挟り込み

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
200	5G12	I	不定形	8.8	3.65	1.3	35.8	先端	〃	240	先端部に平坦面
201	6F7	II		8.05	3.2	1.2	32	無	〃	241	
202	5E	I		7.05	3.7	0.9	31	〃	〃	242	
203	6G5	II e		7.0	4.1	1.3	37.5	〃	中央部	243	
204	表採	−		9.1	3.8	1.1	42.8	〃	〃	243	片面調整
205	6G9	II a II a	木葉形I類	15.3	6.4	1.7	184	先端部片面	中央部		圭頭形未製品(?)
206	5F12 5F5 5F17	I I II c	圭頭形	13.15	3.7	1.2	68	〃			4点に折損
207	5F4 5F3	II a II a	〃	12.0	3.8	1.05	50.7	〃	〃		3点に折損
208	6F18 7J7~7J8	III a II	柳葉形	10.35	4.0	1.15	44.3	〃	中央部		3点以上に折損
209	7J16 7I	II a I	〃	13.1	3.9	1.8	86.3	〃	〃		3点に折損
210	5G5 5G10	II a I	〃	8.0	2.95	1.05	23.2	〃	〃		3点以上に折損,折損部から剥離
211	5F8 5F19	I IV d	圭頭形	6.6	3.4	0.85	21.2	〃	〃		3点以上に折損
212	6F12 5F14~5F15	II b II	〃	6.9	5.1	1.1	42.2	〃	〃		3点以上に折損,先端部に平坦面
213	5F13 7F22	III b III a	〃	8.5	5.0	1.2	49.5	〃	〃		3点以上に折損
214	6F9 6F23	II h III f	〃	6.2	3.9	0.85	18.2	〃	〃		3点以上に折損
215	4G	I	木葉形II類	9.8	3.35	2.0	58.3	〃	完形		
216	表採	−	〃	11.0	4.45	1.9	85.5	〃	〃		
217	5G	I	〃	10.7	4.25	2.0	83.7	〃	〃		片先端部両面は調整なし
218	5G10~5G15	II	〃	9.2	2.9	1.7	52.2	〃	〃		両先端部は尖らない
219	9F	I	〃	9.5	4.0	1.9	61.2	〃	〃		
220	4F5	I	〃	9.5	3.6	1.8	68.0	〃	〃		
221	表採	−	〃	11.0	3.8	2.0	73.2	〃	〃		
222	7J22	II a	〃	10.4	4.05	1.75	76.1	〃	〃		先端部と基部が明確
223	4F~5F	I	木葉形II類	10.9	3.1	1.25	44.2	〃	〃		
224	7J23	II g	〃	9.85	3.9	1.15	49.0	〃	〃		腹面は縁辺のみ調整
225	5G21~5G25	II b	〃	10.7	3.1	1.3	48.2	〃	〃		両先端とも丸味
226	表採	−	〃	8.35	3.2	1.1	31.0	〃	〃		先端部と基部が明確
227	6F19	II e	〃	8.7	3.5	1.0	28.8	〃	完形		
228	5H	I	〃	7.0	2.9	1.1	22.3	〃	〃		
229	表採	−	〃	8.9	3.5	1.15	46.4	〃	〃		圭頭形に類似
230	7I	I	〃	8.5	3.0	0.9	31.0	〃	〃		先端部と基部が明確
231	4F~5F	I	〃	7.9	3.1	0.9	20.7	〃	〃		
232	5F21	III	〃	8.2	3.4	1.2	32	〃	〃		
233	表採	−	木葉形II類	9.15	4.3	1.65	63.2	背面2か所	〃		
234	表採	−	柳葉形	8.6	2.7	1.0	26.0	〃	〃		先端部と基部が明確
235	表採	−	〃	8.2	3.0	0.9	24.0	〃	〃		腹面側に湾曲
236	6F4	IV e	木葉形II類	7.0	2.8	1.35	26.0	〃	〃		
237	表採	−	柳葉形	9.0	2.6	1.1	28.5	〃	〃		先端部と基部が明確
238	7F21	I	木葉形II類	9.6	3.05	1.1	33.9	〃	〃		先端部と基部が明確
239	7H	I	〃	7.8	3.3	1.25	39.2	〃	〃		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
240	4F21	I	木葉形II類	8.6	3.4	1.2	36.8	背面2か所	完　形		先端部と基部が明確
241	7I	I	〃	9.45	3.4	1.35	39.2	無	〃		
242	7H	I	〃	7.9	3.7	1.0	29.0	〃	〃		
243	5G3	I	〃	6.2	4.0	0.9	25.7	〃	〃		基部付近に平担面
244	7J1	I	圭頭形	6.7	2.7	1.15	19.2	〃	〃		
245	表　採	－	木葉形II類	7.0	2.8	0.85	17.0	〃	〃		
246	5F8	II a	圭頭類	6.9	2.6	1.1	22.0	〃	〃		
247	6F18	III a	木葉形II類	7.6	3.0	1.1	26.2	〃	〃		先端部厚味を持つ
248	4F14	I	〃	8.4	3.7	1.3	37.8	〃	〃		
249	5G8	II c	〃	9.1	3.1	1.2	35.8	〃	〃		腹面片側縁の一部だけ調整
250	4F24	I	圭頭形	7.7	3.1	0.95	－	〃	〃		開墾により一部欠損
251	6G18~6G19	II	〃	7.85	2.1	0.9	18.0	〃	〃		
252	7H	I	木葉形I類	11.55	5.5	1.7	106.2	〃	〃		
253	7J7	II a	木葉形II類	6.1	3.85	0.7	16.0	〃	〃		腹面縁辺調整
254	6G15	II b	圭頭形	6.25	2.4	0.8	13.6	〃	〃		
255	5F5 5F15	I	木葉形II類	8.7	3.35	1.45	38.0	〃	〃		
256	6G8	II a	〃	11.1	4.1	1.35	66.0	〃	〃		
257	6F9	II i	木葉形II類	10.6	3.4	1.3	47.7	〃	〃		
258	5E18	II	〃	10.5	4.1	1.95	68.3	基部全面	〃		
259	6E5	IV d	〃	7.9	3.4	1.0	21.8	基部一部	〃		腹面縁辺調整
260	5E	I	〃	6.4	2.9	1.05	19.1	無	〃		
261	5F5	II b	〃	5.9	3.8	1.1	24.0	〃	$\frac{1}{3}$		
262	5G4	I	〃	5.9	3.05	0.9	18.3	〃	$\frac{2}{3}$		
263	5E	I	圭頭形	5.3	2.3	0.9	11.8	〃	$\frac{2}{3}$		
264	6F9	II b	木葉形II類	6.0	3.2	1.2	21.8	〃	中央部		
265	7K	I	〃	5.9	3.0	1.3	22.7	〃	〃		
266	7H	I	〃	5.7	2.9	1.1	20.3	〃	〃		
267	5E	II	〃	6.8	3.65	1.0	26.0	〃	〃		
268	5F12	II a	〃	5.45	3.2	0.8	18.0	〃	$\frac{2}{3}$		
269	6F25	I	〃	8.1	3.55	1.2	33.2	〃	中央部		
270	表　採	－	圭頭形	5.95	2.95	0.9	16.0	〃	〃		
271	6F10	II i	木葉形II類	7.0	3.2	0.9	19.0	〃	〃		圭頭形に近い
272	9F	I	柳葉形	5.1	2.4	0.7	9.0	〃	〃		圭頭形に近い
273	5J	I	圭頭形	4.8	2.3	0.8	9.8	〃	〃		
274	5G1~5G16	I	木葉形II類	6.1	2.9	1.1	20.2	〃	$\frac{2}{3}$		先端部折損
275	表　採	－	〃	5.8	2.9	1.0	17.2	〃	$\frac{2}{3}$		
276	6I	I	〃	4.7	2.95	0.75	10.7	〃	〃		
277	5F16	I	〃	5.4	2.9	0.9	15.0	〃	〃		
278	7I19	II c	〃	6.6	3.35	1.1	24.2	〃	中央部		
279	5F4	IV m	〃	7.6	3.1	1.1	31.8	〃	$\frac{2}{3}$		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
280	表　採	－	木葉形Ⅱ類	6.4	3.55	0.9	19.0	無	完		
281	9F	Ⅰ	〃	7.05	3.55	1.5	30.9	〃	中央部		
282	4F25	Ⅱa	〃	9.8	3.3	1.2	40.2	〃	完		
283	4F8~4F9	Ⅱb	〃	5.25	3.1	0.9	25.9	〃	中央部		
284	5G2	Ⅰ	〃	6.3	3.1	1.0	21.1	〃	〃		
285	7I5	Ⅰ	〃	6.5	2.9	0.95	21.3	〃	完		
286	7F	Ⅱ	〃	6.15	2.95	1.15	23.3	〃	中央部		
287	表　採	－	〃	7.05	3.6	0.8	20.2	〃	〃		
288	表　採	－	〃	6.1	3.0	1.1	21.2	〃	〃		
289	5G19	Ⅱb	〃	6.9	3.2	1.2	24.0	〃	〃		
290	5H	Ⅰ	〃	6.0	3. 1	0.95	17.8	〃	〃		
291	7E	Ⅰ	〃	6.6	3.1	0.7	18.2	〃	〃		
292	5G7~5G8	Ⅱ	〃	6.5	3.4	1.0	26.0	〃	〃		
293	7J13	Ⅱe	〃	6.7	3.7	0.95	25.7	〃	〃		
294	3F	Ⅰ	〃	6.2	3.6	1.1	27.1	〃	〃		
295	6G5	Ⅰ	〃	7.05	3.2	1.0	24.2	〃	完		
296	7H	Ⅰ	〃	7.55	3.4	1.2	31.9	〃	〃		先端部片側辺は平担面
297	5F19	Ⅰ	〃	5.0	3.0	0.9	22.2	〃	完		
298	5G18	Ⅰ	〃	4.8	2.7	0.7	8.1	〃	中央部		
299	5F23	Ⅱa	〃	6.0	2.4	0.9	12.2	〃	〃		
300	5F15	Ⅱc	〃	5.4	2.45	0.7	11.2	〃	〃		
301	6F20	Ⅲa	〃	8.5	4.1	1.3	45.1	〃	〃		
302	6F7	Ⅱ	〃	7.9	3.9	1.4	43.8	先端部	〃		先端部縁面は平担面
303	表　採	－	〃	7.4	3.9	1.25	36.5	無	〃		
304	表　採	－	〃	7.95	3.4	1.05	29.8	〃	完		
305	表　採	－	〃	8.5	3.7	1.1	40.3	〃	完		
306	7H	Ⅰ	〃	8.7	3.55	1.15	45.2	〃	完		
307	表　採	－	〃	7.4	4.0	1.55	49.0	〃	中央部		
308	6F	Ⅱ	〃	5.3	3.3	0.95	19.0	〃	完		
309	7J23	Ⅱd	〃	6.65	3.5	1.25	26.0	〃	中央部		
310	6I	Ⅰ	〃	6.2	3.15	1.0	20.7	〃	完		
311	5F11	Ⅱb	〃	6.1	4.2	0.95	24.1	〃	〃		
312	5F4	Ⅲa	〃	7.3	4.0	1.25	33.8	〃	中央部		
313	5F2	Ⅱa	〃	8.4	3.85	1.3	35.7	〃	完		
314	5F23	Ⅱd	〃	6.5	3.75	1.2	28.8	〃	〃		
315	表　採	－	〃	7.3	4.4	1.0	35.7	〃	〃		先端部折損
316	7F11~7F12	Ⅰ	〃	6.2	3.4	1.1	38.9	〃	中央部		
317	6F9	Ⅱa	〃	7.55	3.7	1.7	41.8	〃	完		
318	7K	Ⅰ	〃	6.65	3.7	1.0	24.3	〃	中央部		
319	4F22	Ⅰ	〃	5.9	4.45	1.1	39.0	〃	完		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	考
320	表　採	－	木葉形II類	4.9	3.25	0.9	24.2	無	中央部		
321	表　採	－	〃	8.0	3.7	1.05	26.0	〃	〃		
322	6F24	III a	〃	8.3	3.3	0.95	24.2	〃	完		
323	7J3	II b	〃	9.25	4.3	1.3	48.0	〃	完		
324	5G4	II a	〃	7.3	3.9	1.1	32.0	〃	中央部		
325	5F16	II b	〃	7.6	3.35	1.5	40.1	〃	完		
326	4G	I	〃	7.65	4.0	1.4	37.9	〃	〃		折損部から剥離
327	表　採	－	〃	7.7	3.7	1.4	33.2	〃	〃		
328	4F20 5F11	I I	〃	9.95	3.5	1.45	49.4	〃	完		先端部折損
329	7J	I	〃	7.8	3.5	0.9	30.0	〃	完		
330	7J9	II a	〃	7.1	3.6	0.9	25.9	〃	〃		
331	9F	I	〃	6.8	4.9	1.1	42.6	〃	完		
332	4F19	I	〃	7.1	5.2	1.4	48.0	〃	〃		
333	5G10	I	〃	8.1	4.7	1.45	54.2	〃	〃		
334	5F8	IV e	〃	7.65	4.8	1.5	51.4	〃	〃		
335	表　採	－	〃	8.5	4.8	2.05	90.0	背面の½	〃		
336	5G7	II d	〃	9.25	5.3	1.55	88.4	無	完		
337	4G3	I	〃	6.1	5.3	1.15	46.1	〃	½		折損部から剥離
338	表　採	－	〃	7.2	4.5	1.6	52.2	先端部	完		先端部裏面は平担面
339	7F21	II	〃	7.2	4.4	1.35	40.5	背面の一部	中央部		
340	4F23	I	〃	7.9	5.3	1.15	40.5	無	〃		
341	5G2	I	〃	6.5	4.85	1.1	39.3	〃	完		
342	7I15	II b	〃	7.8	4.1	1.3	46.8	背面の一部	〃		
343	5G3~5G4	II	〃	8.2	5.5	1.4	68.0	無	〃		
344	9F	I	〃	7.1	5.35	1.25	48.0	〃	½		
345	表　採	－	〃	5.35	4.2	1.2	25.5	〃	中央部		圭頭形に近い
346	6F	II	〃	5.4	4.7	1.0	24.2	〃	〃		
347	5G1~5G16	I	〃	5.9	4.0	1.05	27.3	〃	½		
348	6F	I	〃	7.5	3.9	1.0	31.2	〃	〃		
349	6G9	II c	〃	6.5	4.4	1.4	40.6	〃	〃		先端部丸味を持つ
350	6G8	I	〃	6.3	5.0	0.9	30.5	〃	中央部		
351	5G12	I	〃	6.9	5.2	1.55	49.5	〃	〃		
352	6F9	I	〃	7.8	5.0	1.3	56.7	片側辺	完		片側辺は平担面
353	表　採	－	〃	6.8	4.6	1.0	34.2	無	中央部		
354	5F14	I	〃	7.4	3.7	1.3	36.8	〃	〃		
355	4F21~4F22	II	〃	6.6	3.95	1.4	48.6	背面の一部	完		先端部に厚味を持ち,尖らない
356	表　採	－	〃	7.5	5.4	1.7	75.7	無	〃		粗雑な調整
357	6F25	III a	〃	6.45	6.8	1.7	61.3	先端部	完		先端部裏面は平担面
358	表　採	－	〃	6.9	4.5	1.2	38.7	無	〃		
359	7I14	II b	〃	7.2	4.9	1.45	43.2	〃	〃		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
360	7I15	I	木葉形II類	5.4	4.4	1.2	29.8	先端部の一部	1/2		
361	表　採	－	〃	9.2	4.75	1.15	60.7	無	完		
362	9F	I	〃	8.55	4.7	1.2	49.2	〃	中央部		
363	7I	I	〃	7.45	4.65	1.55	52.0	片面先端部	完		先端部折損
364	5F4	IIIb	〃	6.75	5.4	1.3	51.0	〃	〃		
365	7F	II	〃	7.5	4.6	1.05	46.8	無	中央部		
366	表　採	－	〃	6.8	5.4	1.5	65.0	〃	完		
367	表　採	－	〃	11.6	4.15	1.65	82.2	〃	完		
368	7F	I	〃	6.7	5.0	1.35	51.4	〃	完		
369	表　採	－	〃	8.15	4.7	1.6	66.3	〃	中央部		先端部片側に平担面
370	表　採	－	〃	7.0	4.6	1.55	47.6	〃	完		片面加工、先端部折損
371	5F14	IIc	〃	7.5	4.6	1.3	40.7	〃	〃		
372	7I	I	〃	7.2	3.9	0.9	30.6	〃	完		
373	7F	I	〃	8.95	4.10	1.15	50.5	〃	完		
374	7H	I	〃	8.1	5.2	1.8	73.7	〃	完		粗雑な調整
375	7J3	IIa	〃	8.0	4.4	1.4	55.9	〃	〃		
376	5E	I	〃	8.4	4.9	1.3	54.2	〃	完		
377	5H	I	〃	7.8	4.55	1.15	42.2	〃	完		
378	6F7	II	〃	6.7	5.7	1.05	28.0	〃	完		
379	6G14	IId	〃	7.1	5.3	1.15	47.1	〃	〃		
380	4F15	I	〃	5.6	3.85	1.0	21.0	〃	中央部		
381	5G19	I	〃	7.6	4.65	1.4	52.0	〃	〃		片面加工
382	7I	I	〃	7.5	3.3	1.15	29.2	〃	完		
383	7I20	IIb	〃	8.9	3.6	1.3	42.3	〃	〃		
384	5F18	IId	〃	9.4	4.35	1.8	70.1	〃	〃		
385	6F24	IIIf	〃	7.1	3.8	1.9	46.0	背面中央部	中央部		
386	6I	I	木葉形I類	9.3	4.9	2.35	109.2	無	完		
387	5F8	IVe	〃	9.1	4.6	2.3	90.6	〃	完		
388	5F13	IIa	〃	6.7	3.8	1.7	45.1	〃	中央部		
389	表　採	－	〃	11.0	6.1	3.1	192.8	片面中央部	〃		
390	5F15	IIIc	〃	8.6	6.6	2.1	88.3	無	〃		腹面縁辺調整
391	6F12	IIb	木葉形II類	10.05	6.15	1.75	106.3	〃	完		
392	7F	I	〃	9.8	3.8	1.5	59.0	〃	完		
393	7F3	II	〃	8.4	4.9	1.9	67.1	〃	中央部		
394	5F12	I	〃	6.95	4.1	1.2	41.1	〃	〃		
395	7I	I	〃	6.7	4.8	1.4	54.0	〃	完		先端部丸味を持つ
396	7H	I	〃	6.65	5.0	1.05	40.9	片面の一部	中央部		先端部丸味を持つ
397	5G9	I	〃	7.1	4.6	1.2	48.6	無	完		先端部丸味を持つ
398	7I	I	〃	5.9	3.6	0.95	23.6	〃	完		
399	9F	I	〃	6.9	3.2	1.1	24.4	〃	中央部		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
400	5F4	I	木葉形II類	6.3	3.6	1.15	23.3	無	1/2		
401	7I	I	〃	6.4	3.4	1.7	33.8	〃	中央部		
402	7K	I	〃	6.15	3.3	1.0	21.0	〃	〃		
403	5F18	II c	〃	7.1	3.4	1.0	18.0	〃	〃		
404	SG9~SG14	I	〃	9.6	4.3	1.2	51.2	〃	3/4		
405	表　採	−	〃	10.2	5.0	1.3	77.3	〃	1/2		
406	5F9	II c	〃	9.5	3.6	1.3	56.0	〃	〃		先端部折損
407	7F	I	〃	5.7	2.9	0.9	16.2	〃	中央部		
408	7H19	II	〃	6.3	2.7	0.9	16.3	〃	1/2		
409	5F8	I	〃	5.9	2.8	1.25	18.6	〃	中央部		
410	5F16	I	〃	5.9	3.2	1.2	20.8	〃	〃		
411	SG1~SG16	I	〃	7.1	3.6	1.05	24.3	〃	〃		
412	7J25	I	木葉形I類	7.4	5.6	1.45	55.2	〃	1/2		
413	7J3	II b	〃	9.65	5.0	1.55	63.6	〃	3/4		
414	表　採	−	柳葉形	9.4	3.4	1.4	43.2	〃	〃		
415	6G8	II e	〃	9.4	3.1	1.2	32.0	〃	1/2		
416	6G20	II b	〃	9.2	3.4	1.1	35.8	先端部片面	1/2		先端部の裏面は平坦面
417	6G19	I	〃	8.5	3.2	1.15	31.2	無	1/2		
418	6F4	II d	〃	8.3	3.1	1.1	29.0	〃	1/2		
419	5F24	III a	〃	8.2	2.9	1.0	24.7	〃	3/4		
420	6F16~6F17	II	〃	7.3	3.3	1.0	20.9	〃	1/2		
421	7F22	II a	〃	7.25	2.5	1.1	22.7	〃	〃		
422	7J3	I	〃	7.0	2.35	1.1	16.6	〃	〃		
423	表　採	−	〃	6.3	2.4	1.05	14.0	〃	〃		
424	7J4~7J5	I	〃	5.6	2.65	1.1	16.2	〃	中央部		
425	SG12~SG13	I	〃	6.6	2.65	0.8	15.0	〃	1/2		
426	7F3	II	〃	6.6	2.3	0.9	14.6	〃	1/2		
427	7K	I	〃	7.3	2.6	1.1	29.1	〃	1/2		
428	SG1~SG16	I	〃	7.05	2.3	0.95	17.2	〃	1/2		
429	6F7	II	〃	8.1	2.3	1.0	17.4	〃	2/3		
430	7H	I	〃	6.9	2.5	0.9	15.8	〃	1/2		
431	表　採	−	〃	7.3	2.3	1.1	21.4	〃	3/4		
432	5G19	I	〃	8.1	2.6	0.95	22.0	〃	1/4		
433	7F22	II	〃	6.6	2.6	0.9	17.7	〃	1/2		片側辺の一部に平坦面
434	7J	I	〃	5.6	2.2	0.95	21.2	〃	1/2		
435	8F	I	〃	4.8	2.1	0.8	7.3	〃	中央部		
436	7I18	II c	〃	5.1	2.1	0.9	9.0	〃	1/2		
437	5F	II e	〃	5.7	2.4	0.8	11.2	〃	中央部		
438	SG1~SG16	I	〃	5.7	2.9	1.2	18.2	〃	〃		
439	7J3	II d	〃	5.8	2.5	1.2	17.3	〃	1/2		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
440	6F15	I	柳葉形	4.25	2.4	0.9	7.7	無	完		
441	5F13	II a	〃	4.65	2.2	0.9	10.5	〃	〃		
442	5F17	II b	〃	4.5	2.2	1.0	9.8	〃	〃		
443	5F3~5F4	II	〃	4.4	2.2	1.1	8.8	〃	〃		
444	表　採	−	〃	4.8	2.4	0.65	6.8	〃	中央部		
445	7J3~7J4	I	〃	4.7	2.1	0.8	8.0	〃	完		
446	6F4	IV a	〃	4.3	2.75	0.6	6.4	〃	〃		
447	表　採	−	〃	4.4	2.0	0.7	6.0	〃	中央部		
448	5G5~5G10	II	〃	3.95	2.1	0.6	4.2	〃	1/2		
449	5F20	IV f	〃	3.6	1.9	0.85	3.8	〃	1/2		
450	5G5~5G10	II	〃	3.5	1.5	0.6	2.2	〃	〃		
451	5F5	II d	圭頭形	6.75	3.85	0.8	26.0	側縁の一部	中央部		
452	表　採	−	〃	5.5	4.3	0.95	25.5	無	完		
453	5G20~5G25	I	〃	5.4	3.2	0.9	23.0	先端部片面	1/2		先端部の裏面は平担面
454	5F10	III a	〃	5.05	3.55	1.15	20.5	無	〃		
455	表　採	−	〃	8.0	4.3	1.2	43.0	〃	〃		
456	6F7	II c	〃	6.7	4.1	0.95	29.5	〃	完		
457	6F~7F	I	〃	8.3	4.15	1.1	45.0	〃	完		
458	表　採	−	〃	8.2	4.4	0.9	33.9	〃	中央部		
459	5F18	III a	〃	7.4	3.3	1.05	30.2	〃	完		
460	7K	I	〃	5.5	3.2	1.05	20.8	〃	1/2		
461	5E	I	〃	8.05	3.5	0.95	33.7	〃	完		
462	表　採	−	〃	6.0	3.6	0.75	20.0	〃	完		
463	7H	I	〃	8.8	4.25	1.2	54.5	〃	完		
464	表　採	−	〃	7.0	3.95	1.0	32.5	〃	中央部		
465	7H	I	〃	7.5	3.85	1.2	40.5	〃	〃		
466	5F17	III a	〃	8.8	5.1	1.65	75.5	〃	〃		
467	6F13	I	〃	8.3	3.95	1.1	39.4	〃	〃		
468	5F22	III a	〃	10.9	5.0	1.7	89.6	〃	完		
469	表　採	−	〃	8.25	4.7	1.5	59.5	〃	中央部		
470	表　採	−	〃	9.4	3.9	1.0	40.5	〃	完		
471	5F8	II a	〃	7.1	4.4	1.1	34.2	〃	完		
472	5F13	I	〃	7.7	4.3	1.15	49.5	〃	中央部		
473	4F15	II b	〃	6.9	3.5	1.0	28.0	〃	〃		
474	7I	I	〃	6.7	3.7	1.05	25.5	〃	〃		
475	5G3	I	〃	5.8	3.15	0.9	21.5	〃	〃		
476	5G4	I	〃	7.25	3.35	0.95	28.0	〃	〃		
477	7F	I	〃	6.85	4.6	0.9	29.5	〃	完		
478	5G12~5G13	I	〃	7.1	3.6	1.05	34.0	〃	中央部		
479	5F19	IV b	〃	7.5	3.6	1.15	28.5	〃	完		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
480	6F14~6F19	II	圭頭形	8.8	3.7	1.2	51.0	無	3/4		
481	5G1~5G16	I	〃	8.3	3.05	0.8	27.5	〃	3/4		
482	5E	I	〃	6.85	3.6	1.1	26.2	〃	3/4		
483	5F25	III a	〃	8.4	4.8	1.15	52.8	〃	中央部		
484	表　採	−	〃	8.65	5.4	1.1	46.0	〃	〃		
485	7J16	I	〃	7.0	4.75	1.1	40.8	〃	〃		
486	5F~5G 5F13	II II d	〃	8.15	4.5	0.9	35.8	〃	3/4		
487	7H	I	〃	7.15	5.15	1.0	40.5	〃	中央部		
488	7F	II	〃	6.7	5.75	1.1	45.3	〃	1/2		
489	6G8	II a	〃	6.5	5.2	1.4	48.5	〃	3/4		
490	表　採	−	〃	7.5	4.8	1.2	49.0	〃	中央部		
491	5F17	II b	〃	6.3	4.6	1.05	35.0	〃	3/4		
492	6F9	II g	〃	8.5	5.6	1.3	55.7	〃	中央部		
493	6F22	II a	〃	6.5	4.15	0.8	24.4	〃	〃		
494	6F4	II f	〃	7.7	4.75	1.15	49.0	〃	〃		
495	表　採	−	〃	6.45	5.1	1.0	40.2	〃	3/4		
496	6G5	I	〃	6.25	4.2	0.8	24.0	〃	〃		
497	5F12	I	〃	7.4	5.9	1.0	36.5	〃	1/2		
498	7F	II	〃	7.5	3.75	0.95	31.6	〃	3/4		
499	6F10	II k	〃	7.5	7.0	1.2	63.5	〃	3/4		
500	5F1	III a	〃	10.9	7.0	1.5	106.6	〃	3/4		
501	5F8	II d	〃	7.1	5.6	0.95	39.8	〃	3/4		先端部折損
502	表　採	−	〃	7.5	3.55	0.95	31.3	〃	3/4		
503	4F~5F	I	〃	8.15	6.3	1.0	69.3	〃	〃		
504	6F18	III c	〃	8.75	5.9	1.3	60.7	片面先端部	中央部		
505	6F8	II g	〃	9.15	4.9	1.15	47.3	無	〃		
506	5E	I	〃	8.3	4.9	1.0	38.1	〃	3/4		
507	6F21~6F22	II	〃	6.7	5.4	1.3	43.3	〃	〃		
508	5F25	I	〃	7.1	4.95	1.15	31.6	〃	〃		
509	7H	I	〃	7.4	5.45	0.95	41.7	〃	〃		
510	6F	II	〃	8.4	6.0	1.0	39.8	片面先端部	〃		
511	6F	II	〃	8.6	5.3	1.15	50.8	無	中央部		
512	7H	I	〃	6.75	5.8	1.2	35.6	〃	1/2		
513	表　採 5F8	− II c	〃	7.45	5.9	0.75	33.9	〃	3/4		
514	5G9	I	〃	7.0	4.9	1.0	37.3	〃	〃		
515	表　採	−	〃	5.5	4.65	0.8	22.0	〃	1/2		
516	5G19~5G20	I	〃	7.5	4.45	1.25	46.1	〃	3/4		
517	5F8	II g	〃	8.1	4.4	1.0	39.0	〃	中央部		
518	5G12	I	〃	6.2	3.5	0.95	20.8	〃	3/4		
519	5F15	III c	〃	7.6	5.05	1.35	51.3	〃	3/4		折損部から剥離

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
520	5F14 5F13	I I	圭頭形	9.0	3.4	1.0	39.1	無	完		
521	7F21	II b	〃	8.9	3.4	1.0	35.8	〃	完		折損部から剥離
522	表　採	－	〃	10.5	3.55	1.3	48.2	〃	完		
523	7H	I	〃	5.9	4.5	1.15	31.8	〃	1/2		
524	7F21	II a	〃	7.8	4.9	1.15	47.8	〃	中央部		
525	6F16~6F17	II	〃	4.55	3.8	0.8	16.0	〃	1/2		
526	7J12	I	〃	7.1	4.2	0.9	29.0	〃	完		
527	6F15	III a	〃	8.0	5.7	1.0	49.1	先端部	〃		
528	7F16	II b	〃	7.1	5.05	1.65	46.2	無	〃		
529	表　採	－	〃	6.5	4.3	1.1	36.3	〃	〃		
530	表　採	－	〃	8.2	3.7	0.95	32.0	〃	完		
531	6G3	II b	〃	8.2	3.25	0.9	26.7	〃	〃		
532	7I	I	〃	10.3	4.9	1.45	74.2	〃	完		
533	6F3	I	〃	7.3	4.9	1.1	38.8	〃	完		
534	7F6	II a	〃	7.7	4.25	1.1	35.0	〃	中央部		
535	5G18~5G19	I	〃	6.6	4.1	1.2	36.8	〃	〃		
536	表　採	－	〃	8.05	4.45	1.3	42.3	〃	中央部		
537	6F3	I	〃	7.95	3.9	1.2	39.7	〃	〃		
538	6G4~6G10	II	〃	5.65	3.0	0.9	13.8	〃	完		
539	表　採	－	〃	7.05	3.5	0.9	26.3	〃	中央部		
540	7I12	II c	〃	6.9	3.1	0.9	21.2	〃	〃		
541	5G5	II c	〃	6.35	3.3	0.85	19.4	〃	〃		
542	6G9~6G10	II	〃	4.2	3.1	1.1	15.7	〃	〃		
543	表　採	－	〃	6.4	3.3	0.8	19.3	〃	完		
544	6F18	I	〃	6.5	5.05	1.0	40.0	〃	〃		
545	6G9~6G14	II	〃	6.8	4.8	2.0	53.8	〃	〃		
546	5F15	III a	〃	7.15	5.1	1.5	52.5	〃	〃		
547	5F13	II b	〃	5.75	3.7	1.15	21.2	〃	1/2		
548	6G10	I	〃	9.9	6.6	1.95	140.3	〃	中央部		
549	5F7	I	〃	7.75	4.0	1.25	39.5	背面先端部	〃		先端部は平担面
550	6G14	I	〃	6.8	4.1	1.05	29.7	無	〃		
551	7I	I	〃	6.95	4.3	0.9	26.2	〃	完		
552	6F18	IV e	〃	7.8	3.3	1.15	29.6	先端部	完		先端部の礫面は平担面
553	5E	II	〃	8.6	3.55	1.1	31.8	無	中央部		
554	表　採	－	〃	7.3	4.2	1.2	36.7	〃	〃		
555	5G8	I	〃	8.4	3.2	1.2	34.0	〃	完		
556	表　採	－	〃	5.1	4.8	1.1	25.3	〃	1/2		
557	5G1~5G6	I	〃	5.55	3.6	1.2	20.7	〃	完		
558	4F3	II a	〃	5.8	4.3	1.15	29.2	〃	〃		腹面は調整なし
559	5F5	III a	〃	6.3	4.15	1.2	34.1	〃	〃		

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
560	6F7	II	圭頭形	5.0	3.55	0.85	26.1	無	下		
561	表　採	−	〃	7.0	2.95	0.8	20.2	〃	中央部		
562	5F8	I	〃	6.7	2.9	0.9	29.5	〃	〃		
563	5F19	I	〃	5.9	2.6	0.8	22.6	〃	〃		
564	7F	I	〃	7.5	2.5	0.9	26.1	〃	下		
565	6F18	III e	〃	5.9	3.0	0.9	16.3	〃	中央部		
566	6F	II	〃	5.2	2.5	0.7	9.5	〃	〃		
567	6G	I	〃	5.55	3.0	0.8	14.4	〃	〃		
568	5F3	II d	〃	4.5	2.3	0.8	902	〃	下		
569	5G13~5G18	II	〃	5.2	2.0	1.0	9.0	〃	〃		
570	6F	I	〃	4.8	3.0	0.9	11.5	〃	下		
571	表　採	−	〃	3.9	2.8	0.6	5.9	〃	〃		
572	表　採	−	〃	5.15	5.7	0.95	30.5	片肩部	下		
573	5G24	I	〃	7.3	5.2	0.9	42.8	無	下		
574	5G4~5G5 5G5	I I	〃	8.9	4.4	1.15	55.5	〃	下		
575	7E	I	〃	7.6	7.8	0.4	80.0	〃	下		
576	5F3	I	〃	8.0	4.1	1.5	49.8	〃	中央部		
577	6G18	II d	〃	5.1	5.1	0.85	25.9	〃	下		
578	4F3	I	〃	9.7	4.7	1.0	45.0	〃	下		
579	5F5	I	〃	7.1	6.9	1.35	56.0	〃	下		
580	6F5	II k	〃	6.85	−	1.2	74.0	〃	〃		肩部の最大幅は約10cmになる
581	表　採	−	〃	7.9	5.4	1.7	55.0	〃	下		
582	4F18~4F20	II	〃	8.3	5.6	1.5	57.9	〃	〃		
583	表　採	−	〃	8.75	7.2	1.25	54.0	〃	下		
584	7F16	II a	〃	7.9	5.55	0.9	27.8	〃	〃		
585	6F23	I	〃	6.45	7.3	1.1	51.9	〃	〃		
586	表　採	−	〃	4.45	6.5	0.9	30.0	〃	下		

Tab. 15　山王遺跡出土鏃形石器計測表

遺物番号	出土区	層　位	形　態	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折　損	挿図番号	備　　考
1	7J1	I	有　脚	6.5	2.5	0.8	10.5	無	片　脚	245	先端部片面に平坦面
2	5G2	I	三角形	5.2	2.6	0.65	9.8	〃	完　形	248	
3	7J8	I	有　脚	6.3	3.1	0.75	15.8	〃	片　脚	247	
4	7H	I	〃	5.0	2.9	0.8	14.5	〃	〃	244	
5	5E	I	〃	6.2	3.4	0.8	15.8	〃	完　形	246	
6	5G5	II b	〃	5.9	3.9	1.05	33.3	〃	先端部	250	
7	7H	I	〃	7.7	3.5	0.75	29.4	〃	片　脚	249	片面に主剥離面を残す

縄文時代

山王遺跡から出土した縄文時代の遺物は石匙、石鏃、石錐、扁平打製石斧、凹石、磨石などの石器があり、土器は小破片数点だけである。土器は磨耗が著しく、器形や時期も不明であり、図化を省いた。

石匙（Fig.79、PL.43）

259は表面採集したサヌカイト製の石匙である。横長剥片を素材とし、つまみ部を打面からの調整によって作り出し、打瘤を除去している。刃部は両面とも縁辺調整を施す。片側辺は折損している。幅10.0cm、つまみ部から刃部までの長さ4.4cm、最大厚をつまみ部に持ち1.3cmと厚い。つまみ部の幅は3.3cmで幅広である。重さ50.0ｇ。260は６Ｆ14Ⅱｃ層で出土したサヌカイトの横長剥片を素材とした石匙である。つまみ部の作り出しによって打瘤を除去している。厚味を除くための調整後、縁辺に細部調整を施している。幅5.6cm、つまみ部から刃部までの長さ4.3cm、最大厚を刃部付近に持ち0.95cm、重さ20.2ｇ。

石鏃（Fig.79、Tab.16、PL.43）

173点の石鏃を出土層別に区分すると表面採集24点、Ⅰ層40点、Ⅱ層21点、Ⅱａ層23点、Ⅱｂ層７点、Ⅱｃ層８点、Ⅱｄ層５点、Ⅱｅ層３点、Ⅱｆ層４点、Ⅱｇ層４点、Ⅱｈ層４点、Ⅱｉ層６点、Ⅱｊ層２点、Ⅱｋ層２点、Ⅱｌ層１点、Ⅱｍ層１点、Ⅱｏ層２点、Ⅱｕ層１点、Ⅲａ層７点、Ⅲｂ層２点、Ⅲｃ層１点、Ⅲｆ層１点、Ⅳａ層２点、Ⅳｃ層１点、Ⅳｄ層１点の内訳になりⅢ層以下は計15点で8.7%と少ない。石材別では黒曜石100点、サヌカイト72点、安山岩１点になり、市外の遺跡に比べてサヌカイトを用いた割合が大きく、サヌカイト原産地の特徴を示している。石鏃の形状は基部の形状によって５類に分類した。凹状の脚を持つもの114点、石鏃の形状が二等辺三角形で基部が平らなもの30点、基部が内湾状に弧を描き、有脚と平らなものの中間的形状のもの17点、逆に基部が外に膨らみ丸味を持つもの３点、有茎のもの１点。基部が折損し形状不明のもの８点が含まれる。磨製石鏃は縁辺調整後、両面を研磨したもの２点と両面の局部研磨を施したもの５点がある。鋸歯状石鏃は４点、剥片鏃３点、腹面が縁辺調整だけのもの７点がある。剥片鏃の１点は鋸歯状の調整を施している。261～266はサヌカイト製の有脚の石鏃である。267～273は黒曜石製の有脚鏃である。273・274は鋸歯状石鏃である。鋸歯状石鏃や剥片鏃は山王遺跡の南600ｍに位置する岡遺跡との関連が考えられる。

その他の石器

表面採集した砂岩製の磨石２点と凹石１点がある。磨石は折損しているが幅3.5cm・4.8cm、厚さ3.1cm・3.0cmを計る。凹石は楕円形で長軸の中央部から折損している。両面に直径1.6～2.2cm、深さ0.7cmの窪みがある。残存長径6.1cm、短径7.1cm。５Ｇ２Ⅰ層と６Ｇ９Ⅰ層から軟質の安山岩を用いた扁平打製石斧が出土した。長さ13.8cm、幅4.9cm、厚さ2.15cm。１点は折損しているが残存長11.0cm、幅6.5cm、厚さ1.7cmを計り大型である。石錐は６Ｆ14Ⅱｂ層から

1点だけが出土した。黒耀石の不定形剥片の一端に長さ0.6cm、幅0.5cm、厚さ0.25cmの刃部を作り出している。

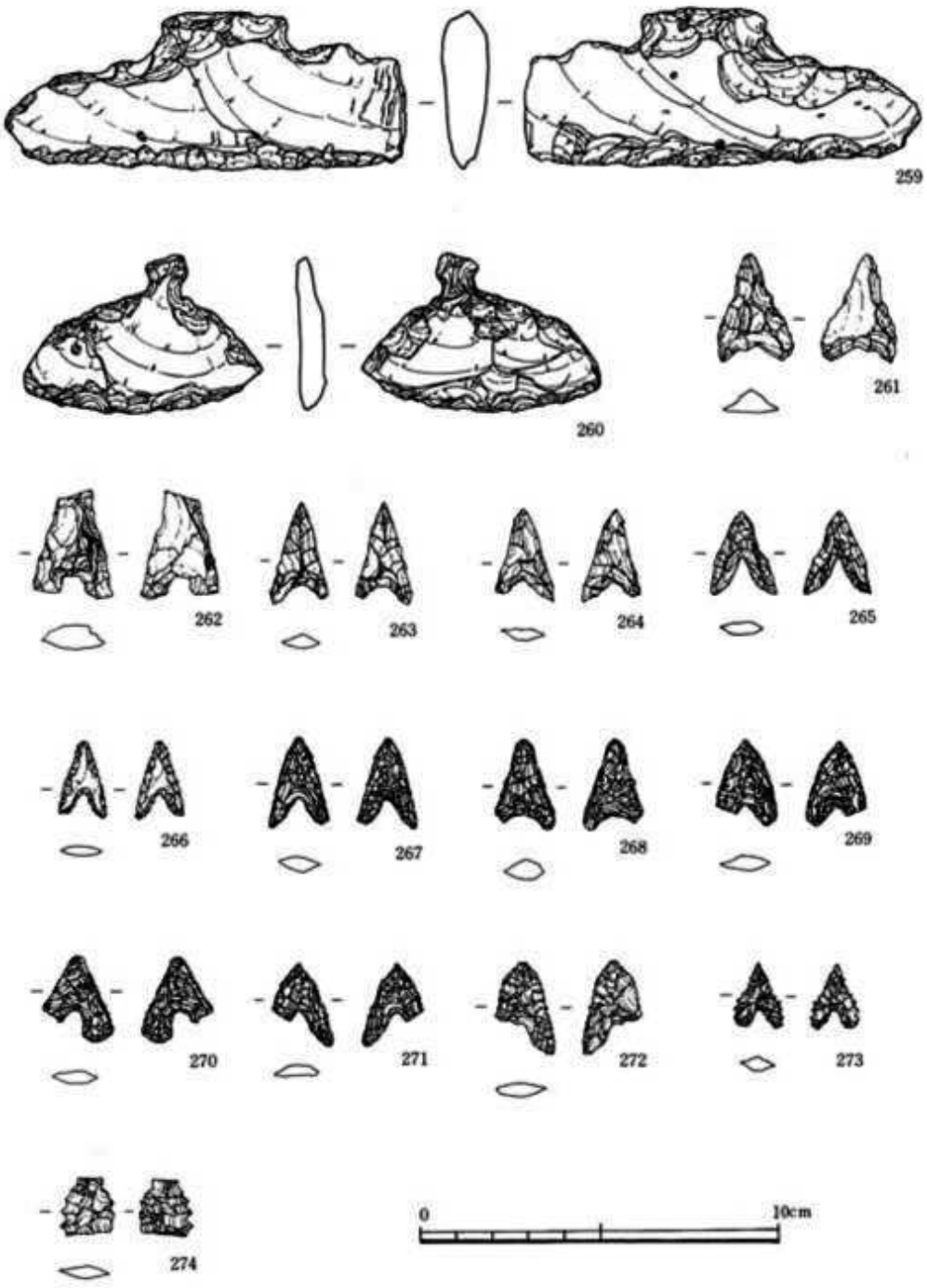


Fig. 79　山王遺跡出石匙、石鏃実測図

Tab. 16　山王遺跡出土石鏃計測表

整理番号	出土区	層　位	石　材	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	基部形状	折　損	挿図番号	備　　考
1	6F8	II c	サヌカイト	2.9	2.1	0 7	2.1	凹	完　形	261	
2	5G10	I	〃	2.9	2.1	0 7	2.0	〃	先　端	262	
3	4F9	II c	〃	2.7	1.6	0 6	0.9	〃	完　形	263	
4	5F21	II	〃	2.5	1.6	0 4	0.8	〃	〃	264	
5	6F23	II a	〃	2.3	1.9	0 4	0.8	〃	〃	265	
6	7F	II	〃	2.0	1.3	0 3	0.5	〃	〃	266	
7	5F22	II a	黒曜石	2.4	1.1	0 4	0.9	〃	片脚一部	267	
8	7J22	II c	〃	2.3	1.6	0 6	1.3	〃	片　脚	268	
9	表　採	－	〃	2.4	2.1	0 4	1.0	〃	〃	269	
10	6G19-6G20	II	〃	2.4	1.3	0 4	0.7	〃	〃	270	
11	5F4	I	〃	2.4	1.6	0 4	1.1	〃	〃	271	
12	5F14	I	〃	2.6	1.5	0 4	1.0	〃	〃	272	
13	6F5	II a	〃	1.9	1.3	0 4	0.4	〃	〃	273	鋸歯状
14	6F23	III f	〃	1.6	1.5	0 4	0.7	不明	基部・先端	274	鋸歯状
15	表　採	－	〃	3.2	1.2	0 4	1.0	凹	片　脚		
16	表　採	－	〃	2.2	2.0	0 4	1.0	〃	完　形		
17	5F14	I	〃	2.0	1.7	0 4	0.9	〃	〃		
18	5G14	II a	〃	2.0	1.4	0 3	0.5	〃	〃		
19	6F4	II g	〃	1.7	1.4	0 3	0.3	〃	〃		
20	6F4	II i	〃	2.0	1.6	0 3	0.4	〃	片脚一部		
21	5G9	II a	〃	2.0	1.5	0 4	0.6	〃	完　形		
22	4F9	II d	〃	2.4	1.3	0 5	0.9	〃	片　脚		
23	5F25	III b	〃	1.6	1.1	0 2	0.3	〃	完　形		
24	5F11	II	〃	2.9	2.0	0 4	1.3	〃	片脚・先端		
25	6F14	I	〃	1.4	0.9	0 3	0.5	〃	完　形		
26	7H	I	〃	1.9	1.0	0 25	0.3	〃	片　脚		
27	5F16	II a	〃	2.6	1.6	0 3	0.8	〃	両脚一部		
28	6F13	II i	〃	1.1	1.4	0 2	0.2	平	完　形		
29	6G18	II d	〃	2.0	1.2	0 3	0.5	凹	片　脚		
30	9F	I	〃	2.3	1.5	0 3	0.8	〃	片脚一部・先端		
31	5F16	I	〃	2.1	1.7	0 3	0.8	〃	完　形		
32	4F13	III a	〃	2.1	1.6	0 4	0.8	平	基部一辺		
33	7J2	I	〃	1.9	1.3	0 35	0.5	凹	完　形		
34	5F8	II a	〃	2.3	0.9	0 3	0.5	〃	片　脚		
35	7J13	I	〃	1.7	1.5	0 3	0.5	〃	両脚一部・先端		
36	7I23	II	〃	2.0	1.6	0 4	0.8	〃	両脚・先端		
37	6F5	II a	〃	1.5	1.3	0 4	0.6	〃	先　端		
38	6F13	II f	〃	1.4	0.9	0 3	0.3	〃	片脚一部		
39	6G20	II f	〃	1.8	1.5	0 3	0.6	〃	片脚一部・先端		鋸歯状、局部磨製

整理番号	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	基部形状	折損	挿図番号	備考
40	5F19	II a	黒曜石	1.7	1.2	0.3	0.5	凹〃	先端		
41	9F	I	〃	1.6	1.3	0.5	0.7	〃	先端		
42	6F8	II j	〃	2.1	1.4	0.3	0.7	平	先端		
43	5G8	II a	〃	1.5	1.3	0.3	0.45	〃	完形		
44	6G18	II g	〃	2.6	1.4	0.4	1.0	〃	基部一辺		
45	5G9~5G14	II	〃	2.3	1.3	0.3	0.7	不明	先端・基部		局部磨製
46	5F18	II a	〃	1.3	1.4	0.3	0.45	凹	片脚・先端		
47	9F	I	〃	1.7	1.2	0.4	0.55	〃	片脚一部		剥片鏃
48	5G10	I	〃	1.7	1.4	0.3	0.7	平	基部一辺		
49	6F15	II c	〃	—	1.55	0.4	0.7	〃	基部一辺・先端		
50	8F	I	〃	1.8	1.5	0.3	0.6	〃	完形		
51	5G7	II a	〃	2.4	1.6	0.4	1.3	凹	両脚		
52	5G17	II m	〃	1.6	1.3	0.5	0.55	平	完形		
53	5E	I	〃	2.05	1.6	0.4	0.9	凹	片脚・先端		
54	5F24	II a	〃	1.4	1.2	0.3	0.4	平	基部一辺		
55	5F5	I	〃	1.7	1.4	0.3	0.6	不明	基部		
56	6G14	I	〃	1.7	0.9	0.25	0.35	凹	両脚		
57	5F24	II d	〃	2.6	1.6	0.3	1.4	〃	片脚		
58	6F13	III c	〃	1.7	1.0	0.3	0.75	弧状	先端		
59	6G18	II a	〃	1.5	0.9	0.25	0.4	平	〃		
60	5G18	I	〃	1.7	1.6	0.4	0.95	不明	基部		
61	7F22	II a	〃	1.8	1.3	0.3	0.6	凹	片脚・先端		
62	7I	I	〃	2.0	2.0	0.4	1.0	〃	先端		
63	表採	—	〃	1.5	1.4	0.3	0.4	〃	片脚一部		
64	7I	I	〃	2.2	1.5	0.4	1.05	平	完形		
65	7I	I	〃	1.7	2.1	0.3	0.9	弧状	先端		
66	表採	—	〃	—	—	0.3	—	凹	片脚・先端		
67	表採	—	〃	1.5	1.5	0.4	0.5	平	完形		
68	7J18~7J19	II	〃	1.6	1.7	0.3	0.7	凹	先端		
69	6G13~18	II	〃	2.0	1.4	0.5	1.3	〃	片脚		
70	7F21~7F22	I	〃	1.6	1.2	0.25	0.4	平	完形		鋸歯状・腹面は縁辺調整
71	7J18	II g	〃	1.6	1.7	0.5	1.35	〃	先端		腹面は縁辺調整
72	表採	—	〃	2.6	2.0	0.4	1.8	凹	片脚		剥片鉄、背面の一部に礫面
73	5F4~5F9	II u	〃	2.5	1.3	0.4	0.8	〃	〃		
74	表採	—	〃	2.7	1.7	0.4	1.5	平	完形		局部磨製
75	5F17~5F18	II k	〃	1.3	1.1	0.3	0.35	不明	基部		
76	6F14	II a	〃	1.5	1.2	0.4	0.65	有茎	完形		
77	6F13	II h	〃	—	—	0.3	—	凹	片脚・先端		
78	6F9	II e	〃	—	—	0.2	—	〃	〃		
79	5F15	II a	〃	—	—	0.3	—	〃	片脚のみ		

整理番号	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	基部形状	折損	挿図番号	備考
80	5F20	Ⅲb	黒曜石	1.9	1.1	0.3	0.7	凹	片脚		
81	6F14	Ⅱd	〃	1.8	0.9	0.4	0.45	平	基部一辺		
82	4F13	Ⅲa	〃	−	−	0.3	−	凹	片脚のみ		
83	5F24	Ⅲa	〃	−	−	0.3	−	〃	〃		
84	7J18	Ⅱo	〃	−	−	0.2	−	〃	〃		
85	7J2	Ⅱk	〃	−	−	0.3	−	〃	〃		
86	6F13	Ⅲa	〃	−	−	0.3	−	〃	〃		
87	5F17	Ⅲa	〃	−	−	0.3	−	弧状	基部一辺のみ		
88	4F5	Ⅰ	〃	2.7	1.8	0.4	1.1	凹	完形		
89	表採	−	〃	2.6	1.5	0.4	1.1	〃	両脚		
90	7J13	Ⅰ	〃	2.3	1.5	0.25	0.5	〃	両脚一部		鋸歯状
91	表採	−	〃	−	1.3	0.25	−	不明	基部		局部磨製
92	4G	Ⅱ	〃	−	1.5	0.2	0.45	凹	片脚・先端		
93	表採	−	−	−	0.8	0.4	−	〃	片脚のみ		
94	7J2	Ⅰ	〃	1.4	1.4	0.3	0.45	〃	片脚・先端		折損後再加工
95	6G14	Ⅱl	〃	2.1	2.05	0.4	1.1	〃	完形		
96	4G4	Ⅱc	〃	2.5	2.1	1.0	2.95	〃	片脚一部		
97	表採	−	〃	−	1.3	1.3	−	平	基部のみ		
98	4G15-20-25	Ⅰ	〃	−	2.5	0.5	−	〃	〃		
99	4F13	Ⅱc	〃	1.9	1.5	0.35	0.9	丸	完形		腹面は縁辺調整
100	表採	−	〃	−	2.5	0.5	−	平	基部のみ		
101	6G3	Ⅱi	〃	1.5	1.6	0.4	0.95	弧状	基部一辺		
102	7F	Ⅰ	〃	−	1.3	0.3	−	平	基部一辺先端		
103	4G9~10	Ⅱj	サヌカイト	3.1	2.3	0.5	2.3	凹	片脚一部		腹面は縁辺調整
104	7J21	Ⅱi	〃	2.4	1.5	0.2	0.5	〃	片脚		
105	表採	−	〃	2.3	1.6	0.4	1.0	〃	片脚一部		
106	5F24	Ⅳa	〃	3.4	1.5	0.4	1.2	〃	片脚		
107	5F11	Ⅱ	〃	2.7	1.6	0.2	0.7	〃	〃		腹面は縁辺調整
108	7I	Ⅱ	〃	2.1	1.2	0.3	0.6	〃	片脚一部		
109	7F21	Ⅱ	〃	2.3	1.7	0.5	1.15	〃	先端一部		
110	7J3~8	Ⅰ	〃	2.8	1.9	0.4	1.4	〃	片脚・先端		
111	7H	Ⅰ	〃	2.7	1.9	0.5	1.75	〃	完形		
112	7J2	Ⅱe	〃	2.5	1.8	0.3	1.15	〃	〃		
113	7F	Ⅱ	〃	2.0	1.4	0.3	0.6	〃	〃		
114	7J18	Ⅱd	〃	1.8	1.6	0.3	0.55	弧状	〃		
115	6F9	Ⅱh	〃	2.2	2.0	0.4	1.3	凹	〃		
116	5F13	Ⅳd	〃	1.9	1.4	0.2	0.4	〃	〃		
117	7E	Ⅰ	〃	2.5	1.9	0.3	1.1	〃	〃		
118	6F15	Ⅱc	〃	1.8	2.0	0.35	1.05	〃	先端		
119	6G13	Ⅱa	〃	2.3	1.8	0.5	1.3	〃	片脚		

整理番号	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	基部形状	折損	挿図番号	備考
120	7F6	II g	サヌカイト	2.2	1.8	0.3	1.1	凹	先端部		剥離鏃
121	7F	II	サヌカイト	1.8	1.4	0.3	0.45	弧状	完形		
122	5F12	III a	〃	2.2	1.7	0.35	0.9	平	基部両辺		
123	4F24	II c	〃	2.4	1.8	0.6	1.6	凹	〃		
124	5F12	II a	〃	2.3	1.9	0.3	1.45	平	先端		
125	5F24	IV a	〃	1.7	1.4	0.3	0.5	弧状	基部一辺		
126	4F14	II b	〃	2.1	1.5	0.2	0.55	平	基部両辺		
127	4F13	II i	〃	1.7	1.8	0.3	0.6	弧状	完形		
128	4F8	II i	〃	1.5	1.4	0.3	0.45	〃	〃		
129	4F13	II f	〃	1.9	1.4	0.3	0.55	〃	基部一辺一脚		
130	4F3~4F4	II b	〃	2.5	1.7	0.3	1.25	〃	先端		剥片鏃
131	7J11	I	〃	2.2	1.0	0.2	0.4	凹	片脚・先端		磨製
132	5F25	I	〃	1.8	1.5	0.3	0.6	〃	完形		
133	表採	−	〃	1.5	1.6	0.4	0.7	弧状	〃		
134	表採	−	〃	2.4	1.7	0.5	1.8	〃	先端		
135	表採	−	〃	2.2	1.5	0.4	1.15	平	完形		
136	6F16	II b	〃	2.6	1.6	0.45	1.55	凹	片脚・先端		
137	7J13	II a	〃	1.7	1.6	0.3	0.55	〃	先端		
138	5G24	II o	〃	−	−	0.3	−	〃	脚部のみ		
139	5F14	III c	〃	1.3	1.4	0.3	0.5	〃	先端		腹面は縁辺調整
140	7H、H	I	〃	2.3	1.9	0.3	0.9	平	完形		
141	7I、H	I	〃	3.0	1.9	0.4	1.35	凹	片脚		
142	7F、H	I	〃	2.5	1.2	0.4	0.75	〃	〃		
143	6F16~17	II	〃	3.4	2.4	0.6	3.9	平	完形		
144	5F11	II	〃	1.6	1.3	0.3	0.4	凹	片脚中央先端		} 接合
145	5F2	II d	〃	−	−	0.5	−	〃	片脚		
146	5F8	II b	〃	−	−	0.3	−	〃	〃		
147	5F24	I	〃	1.7	1.2	0.2	0.5	不明	先端のみ		
148	7H	I	〃	3.4	2.3	0.7	4.3	平	基部一辺		
149	表採	−	〃	3.2	2.2	0.6	3.25	〃	基部一辺先端		
150	6F14	I	〃	3.2	2.2	0.7	3.8	丸	先端		胴部両側辺に挟り込み
151	7I22	II b		3.2	1.6	0.4	1.4	凹	両脚部		
152	7F22	II f		3.2	2.0	0.4	1.85	〃	片脚		
153	7J13~18	II		2.8	1.3	0.3	0.75	〃	〃		
154	6F16	II a		2.4	2.1	0.4	1.55	〃	完形		
155	7J2	II h		2.5	1.2	0.3	0.75	〃	両脚		
156	6F13~14	I		2.7	1.6	0.4	1.25	平	完形		
157	6F5	II h		2.0	0.8	0.2	0.28	凹	両脚		磨製
158	7I	I		2.8	2.2	0.4	1.95	〃	〃		
159	6F~7F	II		3.0	2.2	0.4	1.55	〃	片脚		

整理番号	出土区	層　位	石　材	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	基部形状	折　損	挿図番号	備　　考
160	7F6	II b		2.7	2.1	0.4	2.0	丸	完　形		
161	6F3	III a	サヌカイト	2.2	1.5	0.2	0.65	弧状	基部一辺		両面縁辺調整
162	6F3	I	〃	1.7	1.5	0.2	0.45	〃	完　形		
163	6F23~24	II	〃	1.8	1.2	0.3	0.45	凹	片　脚		
164	6F23	I	〃	1.9	2.1	0.3	0.9	不明	基　部		
165	6F12pit	II	〃	—	2.9	0.2	0.5	凹	片　脚		
166	7F8	II a	〃	2.0	2.2	0.3	1.1	〃	先　端		
167	7I5	II a	〃	2.5	2.5	0.4	1.25	弧状	〃		
168	6G18	I	黒曜石	1.4	0.9	0.2	0.25	弧	基部一辺		背面に礫面,腹面は縁辺調整
169	表　採	—	〃	2.1	2.1	0.7	2.5	平	〃		
170	表　採	—	〃	1.8	1.0	0.5	0.65	〃	〃		
171	表　採	—	〃	2.0	1.4	0.3	0.65	凹	片脚一部		局部磨製
172	5G9~5G14	II	安山岩	4.2	2.4	0.8	6.95	〃	〃		
173	5G15	II e	サヌカイト	2.8	2.2	0.5	2.45	〃	先　端		

7．石器の接合（Fig. 80, Tab. 17）

山王遺跡で出土した石器のうち接合できたのは尖頭器が約60例ともっとも多く、不定形石器、剥片尖頭器、石鏃が1例ずつあった。尖頭器の接合例のうち約半数は近年の開墾等による新し

Tab. 17　山王遺跡出土尖頭器接合資料一覧表

接合資料番号	出土区	層　位	出土区	層　位	出土区	層　位	接合距離(m)	挿図番号	備　　考
1	4F13	I	5F3	III a			11.2	40	木葉形
2	4F24	II a	5F17~5F18	II b			6.8	122.94	圭頭形＋圭頭形
3	5F6	III b	5F20	III d			9.0	174	柳葉形・3点以上に折損
4	5F12	I	5F5	I	5F17	II c	6.4 8.6		圭頭形・4点以上に折損
5	5F8	I	5F19	IV d			5.5		柳葉形・3点以上に折損
6	5F8	II	5F18	II b			4.4	157	圭頭形・3点以上に折損
7	5F4	II	5F3	II			1.5		圭頭形・3点以上に折損
8	5F14	I	5F14	II			0.5		4点以上に折損
9	5F14	I	5F14	II d	5F14	II c	0.6 0.6	237	圭頭形
10	6F12	II b	5F14~5F15	II b			55.6		圭頭形・3点以上に折損
11	6F18	II f	6F9	II g			4.5		4点以上に折損
12	6F9	II h	6F23	III f			6.8		柳葉形・3点以上に折損
13	6F18	III a	7J7~7J8	I			37.3		3点以上に折損
14	6F15	III a	6F19	III b			2.8		4点以上に折損
15	6F20	III d	6F20	III a			1.1		4点以上に折損
16	5F13	III b	7F22	III a			17.8		圭頭形・3点以上に折損
17	5G14	II b	5G3	I	5G8	I	4.7 2.8		圭頭形＋木葉形
18	5G8	I	5F14	II c			8.3	41	木葉形
19	5G5	II a	5G10	I			2.0		3点以上に折損
20	6G9	II a	6G9	II a			1.2		木葉形

い折損であり表面採集やⅠ層からの出土であった。表面採集やⅠ層での接合を除いたものは20例あった。同一グリッド内での接合は８・９・15・20の４例、３ｍ以内の距離で接合したのは７・14・19の３例である。５ｍ以内の距離では６・11・17の３例である。10ｍ以内では２～５・10・12・18の７例がある。10ｍ以上の距離での接合は１・13・16の３例で、13は37.3ｍの距離で接合した。１・２・９・17・18・20は接合で完形品に復元できたが、３・５・６・７・10・12・13・16・19は片側の先端部を欠き３点以上に折損している。８・11・14・15は２点の接合例であるが、両先端を欠き４点以上に折損、４は３点の接合であるが、片側の先端部を欠き、４点以上に折損している。

昭和53年度に発掘調査を実施した茶園原西畑遺跡での尖頭器の接合は26例であったが、平面での距離は2.7ｍがもっとも離れたもので、５例は同一地点の同一レベルで接合し、折損後、動いていない。サヌカイト原石が産出し、尖頭器製作の工房的性格を持つ茶園原西畑遺跡と生活跡的性格の強い山王遺跡の違いが尖頭器の接合例に関するものと考えられ、今後に問題を提起した。

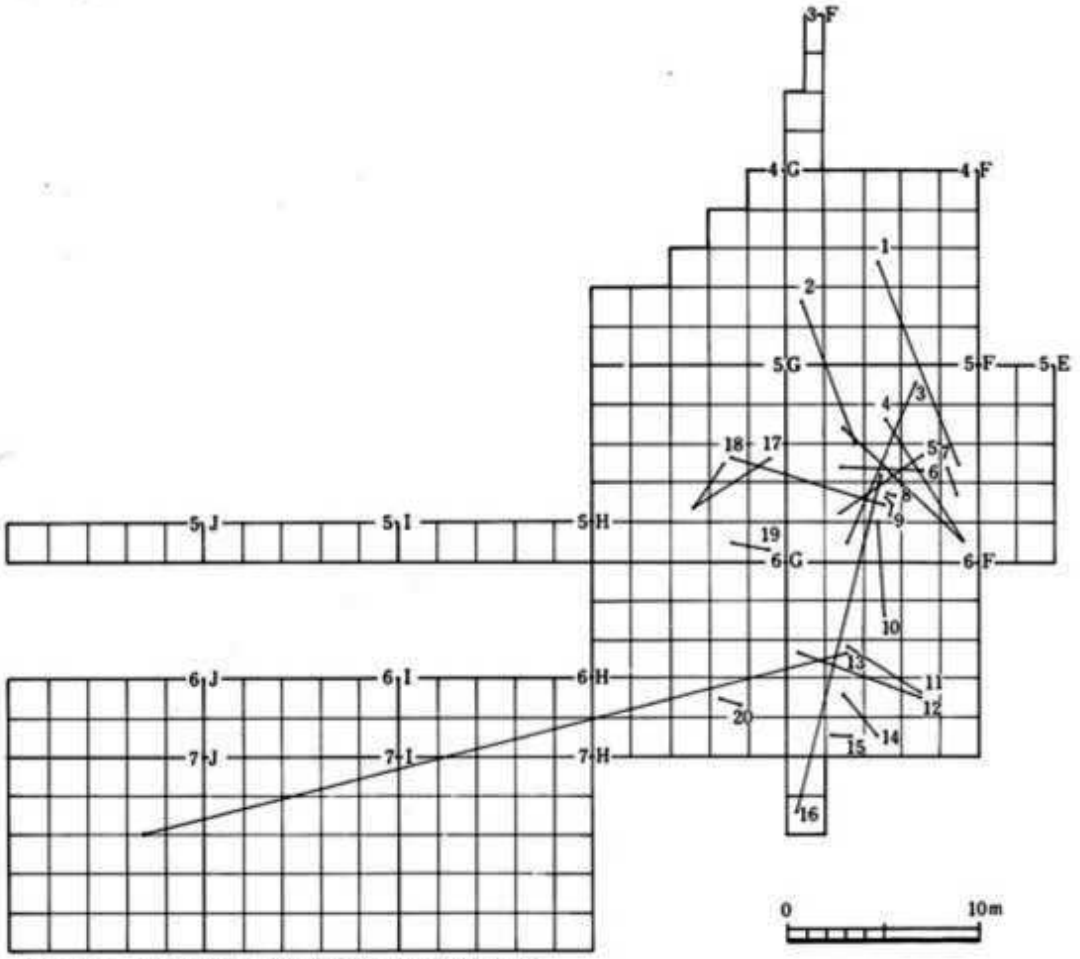


Fig. 80　山王遺跡出土尖頭器接合関係平面図

8．小結

九州で最大のサヌカイト原産地として知られる多久には、数十か所に及ぶ旧石器時代の遺跡が立地し、これらの遺跡を多久石器遺跡群と呼んでいる。多久石器遺跡群は遺跡の規模、石器の出土数、石器の出土状態などから、旧石器時代の遺跡として、わが国屈指の遺跡である。これまで数次の調査で出土した石器は、サヌカイトを素材とした大型の両面調整尖頭器とおびただしい石核、剥片である。九州では尖頭器を主体とする遺跡は多久の遺跡を除いて存在せず、九州での尖頭器文化の実態は明らかではなかった。昭和35年に発掘調査が行われた三年山遺跡や茶園原遺跡、昭和53～54年に調査を実施した茶園原西畑遺跡などの報告書によって、多久石器遺跡群の性格が明らかになってきたが、出土する石器がほぼ尖頭器に限られるため、遺跡の時期については諸説が論じられてきた。最近の動向としては、後期旧石器時代終末の細石刃に並行する時期、即ち、土器発生の時期が大勢を占めている。

山王遺跡は多久石器遺跡群の中で、三年山遺跡、茶園原遺跡、長尾開拓遺跡などと異なるいくつかの特徴を持っている。第一にサヌカイトの原産地遺跡ではない。第二に尖頭器製作で生じる大型の石核や剥片が皆無で、石器以外の遺物は砕片や小剥片に限られる。第三に尖頭器以外の石器が出土した。以上のことから多久石器遺跡群の大部分が尖頭器製作の前半的、全般的作業要素を持つ工房的性格であるのに対し、山王遺跡は茶園原遺跡などから製作中途の石器を持ち込み、最終的な調整を施し、尖頭器を完成させた遺跡であり、石器製作の場所の分離、即ち、生活跡的要素の強い遺跡である。このことは多久型尖頭器の中では薄手で特徴的な形状を持つ圭頭形尖頭器の割合の増加や、細身の槍先形の木葉形尖頭器、柳葉形尖頭器が増加し、製作中途の粗雑な調整の尖頭器の割合が少ないことなどを根拠とする。また、これまで出土例が少なかったナイフ形石器や台形様石器がまとまって出土したこともその一つである。

山王遺跡で尖頭器以外の石器の出土は多久尖頭器文化の時期の決定に大きな影響を及ぼすものである。東ノ原1630番地遺跡も石器製作の工房的性格を持つ遺跡であるが、尖頭器の包含層（第１文化層）の下部に無遺物層を挟んで、縦長剥片とその石核を主体とした包含層（第Ⅱ文化層）が確認され、多久型尖頭器に先行する石器群が明らかになった。この種の石器群は長尾開拓遺跡でも出土し、佐賀県小城郡三日月町所在の岡本遺跡Ａ地点で出土する縦長剥片、半円錐形石核、剥片尖頭器などの石器群と対比される。尖頭器に先行する石器群が層序的に明らかになったのは東ノ原1630番地遺跡だけで、山王遺跡から出土した剥片尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器と尖頭器の関係は特に注目される。

山王遺跡での層序による遺物の出土状態はⅡ層とⅢ層の上部で多量の石鏃が出土し、Ⅱ層・Ⅲ層は縄文時代に編年されよう。Ⅳ層では５Ｆ区で３点の石鏃が出土しているが、尖頭器が31点が出土、４Ｆ区では尖頭器２点、６Ｆ区で尖頭器17点、ナイフ形石器１点が出土、石鏃は出

していないことから尖頭器を主体とした文化層と考えられる。剝片尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器と尖頭器の層序的な関係については、剝片尖頭器がⅡ層で1点、Ⅲ層で2点出土、ナイフ形石器はⅠ層で5点、Ⅱ層で7点、Ⅳ層で1点が出土、台形様石器は表面採集2点、Ⅰ層5点、Ⅱ層12点、Ⅲ層で2点が出土、層序的にこれらの石器を把握することができず、判断できなかった。昭和43年に調査を実施した経ノ峯遺跡は黒曜石製のナイフ形石器、台形様石器、彫器、細石刃とサヌカイト製尖頭器が出土した遺跡であるが、第Ⅱ区D－5調査区（2×2m）では、表土層下の粘土層で、表土から49cm、59cm、68cm、68cmで細石刃4点が出土。60cm、62cm、64cm、70cm、81.5cmで小型尖頭器5点が出土、72.5cm、81cm、83cmでナイフ形石器3点が出土、尖頭器は多久型尖頭器とは異なる二等辺三角形で、長さ4cm前後の小型のものである。小型尖頭器と細石刃はほぼ同時期に編年することができ、ナイフ形石器の終末期にこれらの石器が出現したと考えられる。多久型尖頭器と小型尖頭器の比較では多久型尖頭器が先行することは明らかで、ナイフ形石器の終末期には、すでに多久型尖頭器が出現していたと考えられ、三年山遺跡、茶園原遺跡、山王遺跡などから出土する尖頭器がナイフ形石器を主体とする文化と並行した時期があったと考えられる。

山王遺跡から出土した石器の組成と機能については、尖頭器が圧倒的に多く、尖頭器を主体とした石器組成であるが、尖頭器の形態からみた機能では木葉形Ⅰ類や圭頭形の大半は槍先形石器とは考えられず、用途に応じて木葉形、柳葉形、圭頭形の形状に製作したものであろう。

多久石器遺跡群に山積する諸問題については、今後も活発な論議が展開されることになろうが、遺跡群の時期の決定や、遺跡の性格の解明について、山王遺跡はその糸口となる遺跡であり、九州の後期旧石器時代を代表する遺跡の一つでもあった。

註1.「佐賀県多久三年山における石器時代の遺跡」明治大学文学部研究報告、杉原荘介ほか1983に報告され、形状については、明治大学文学部、安蒜政雄氏の御教示による。

〔参考文献〕

「茶園原遺跡Ⅰ」　多久市教育委員会　1979
「茶園原遺跡Ⅱ」　多久市教育委員会　1980
「佐賀県多久三年山における石器時代の遺跡」　明治大学文学部研究報告　杉原荘介ほか1983
「下城遺跡Ⅱ」　熊本県教育委員会　1980
「曲野遺跡Ⅱ」　熊本県教育委員会　1984
「日本の美術Ⅰ」旧石器時代　至文堂　稲田孝司編　1982
「探訪　先土器の遺跡」　有斐閣　戸沢充則・安蒜政雄編　1983
「日本の旧石器文化」　雄山閣　小林達雄編　1976
「図録　石器の基礎知識Ⅰ　先土器(上)」柏書房　加藤晋平・鶴丸俊明　1980

Ⅳ　長尾開拓遺跡

遺跡名：長尾開拓遺跡（略号ＮＧＫ）
遺跡所在地：多久市南多久町大字長尾字米満

Fig. 81　長尾開拓遺跡周辺遺跡分布図

1	山王遺跡	2	三年山遺跡	3	東ノ原1630番地遺跡	4	茶園原遺跡
5	撰分遺跡	6	瓦川内広平遺跡	7	長尾遺跡	8	牟田辺古墳群
9	牟田辺古墳群	10	牟田辺遺跡	11	富岡前方後円墳	12	山崎古墳群
13	長尾福山遺跡	14	長尾開拓遺跡	15	十井手遺跡	16	中小路古墳
17	中小路増富遺跡	18	摺ヶ本遺跡	19	木浦町遺跡	20	久保田遺跡
21	大工田遺跡	22	西出口遺跡	23	出口A遺跡	24	宝蔵寺遺跡
25	宝蔵寺溜池遺跡	26	鴻ノ巣遺跡	27	原田遺跡	28	今出川B遺跡
29	今出川A遺跡	30	大工田古墳群	31	長尾松隈遺跡	32	陣ノ辻遺跡
33	湯端遺跡	34	経ノ峰遺跡				

Ⅳ. 長尾開拓遺跡

1．遺跡の概要

長尾開拓遺跡は多久市のほぼ中央に位置する山崎山（標高212.7m）から東に延びた標高23m前後の台地と台地下に広がる小規模な扇状地の水田（標高16.6～22.4m）に所在し、正確には多久市南多久町大字長尾字米満に所在する。遺跡周辺には旧石器時代の遺跡が数多く立地している。遺跡の北東400mに長尾松隈遺跡、北西750mに陣ノ辻遺跡、西300mに長尾福山遺跡、南東1,500mに茶園原遺跡、南500mに長尾遺跡などがある。これらの遺跡に共通するのは石器の素材になるサスカイト原石が遺跡内に産出する点である。出土する石器も両面調整を施

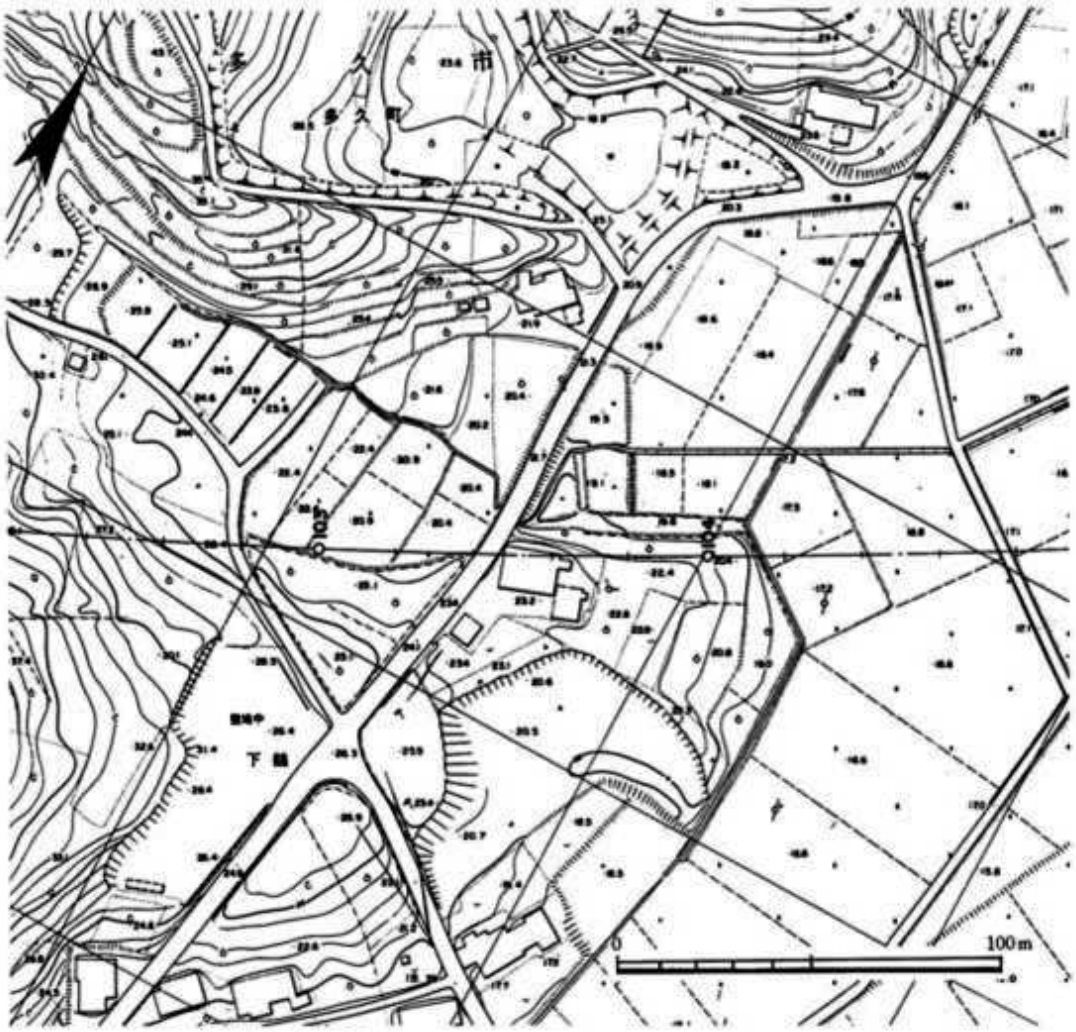


Fig. 82　長尾開拓遺跡周辺地形図

した大形の尖頭器を主体とし、尖頭器製作の工房的性格を持つ。長尾福山遺跡では局部磨製の尖頭器とサヌカイト製のナイフ形石器が出土し、注目される。

長尾開拓遺跡付近の水田を地元の人は金石原と呼んでいる。サヌカイトの持つ音が金属音であるため、地元ではサヌカイトのことを金石と呼び、田植時、素足で作業して足を怪我した人の話しも聞く。昭和36年、地元の中学生によって尖頭器が表面採集され、遺跡の存在が明らかになった。昭和54年度、九州横断自道車道建設に伴い、遺跡の確認調査を実施、扇状地の水田部でサヌカイトの剝片・石核・尖頭器が出土、長尾米満遺跡の名で報告されている。昭和58年10月、本調査を開始したが、水田の床土下が全面サヌカイトで覆われ、大規模な遺跡と判断、調査を中断し、昭和59年4月に調査を再開した。

調査は遺跡の東側、扇状地の先端部に堀削機を入れ、耕作土を除去し、遺物の出土状態を観察したが、中央部から北側は耕作土下は泥灰層になり、サヌカイト原石が混入した状態のため調査を中断した。中央部から南側の2本のトレンチでは耕作土下部に赤褐色粘土層が確認されたため1トレンチと2トレンチを拡張し、深さ5cmを1基準とする発掘を実施、第Ⅰ調査区とした。第Ⅱ調査区は前年度の調査でサヌカイトの剝片・石核・尖頭器が出土した遺跡中央部で、10×10mの大グリットを設定、さらに2×2mの小グリットに区分し、発掘を実施した。第Ⅲ調査区は遺跡最西端、南北の丘陵地に挟まれた狭い水田で、遺跡内では、標高20.4～22.4mともっとも高い。第Ⅲ地点も10×10mの大グリットを設定後、2×2mの小グリットで発掘を実施した。

2．遺跡

第Ⅰ調査区（Fig.84・87・88、Tab.17～25）

扇状地の裾部、標高16.6mの水田部のトレンチを拡張した調査区で、耕作土除去後、5cm掘りによる発掘を実施した。土層はⅡ層が黄褐色粘土で0.2～0.8cmの黒褐色砂粒を含む。Ⅲ層は褐色粘土層で0.1～0.3cmの黒褐色砂粒を含む。Ⅳ層は黄褐色粘土層で黒褐色粘土を含む。Ⅴ層は明褐色砂質粘土層である。遺物はⅡ・Ⅲ・Ⅳ層から出土したが、遺物の数は少なかった。ＩＤグリットは調査区の南東端で、ＩＤ-9、ＩＤ-10、ＩＤ-13～ＩＤ-15、ＩＤ-18～ＩＤ-20、ＩＤ-22～ＩＤ-25の12小グリットを発掘した。出土した遺物の総数は152点で、その内訳は掻器1、石核8、剝片114、砕片29になり、石器は1点だけである。ＩＤ-10は遺物が出土しなかった。ＩＥグリットも調査区の南東端にあたり、ＩＥ-16、ＩＥ-21の一部だけを発掘、ＩＥ-21で剝片が1点出土しただけである。２Ｄグリニットは調査区の東端で、２Ｄ-２～２Ｄ-５、２Ｄ-８～２Ｄ-10、２Ｄ-13～２Ｄ-15、２Ｄ-19、２Ｄ-20、２Ｄ-24、２Ｄ-25の14小グリットを発掘、1回目の5cm掘りで出土した遺物総数は119点で、内訳は石核2、剝片82、砕片35になる。２Ｄ-13、２Ｄ-24では遺物は出土しなかった。2回目の5cm掘りでは474点の遺物が出土、尖頭器2、石核1、剝片160、砕片300、礫11になる。２Ｅグリットは南端になり、２Ｅ-

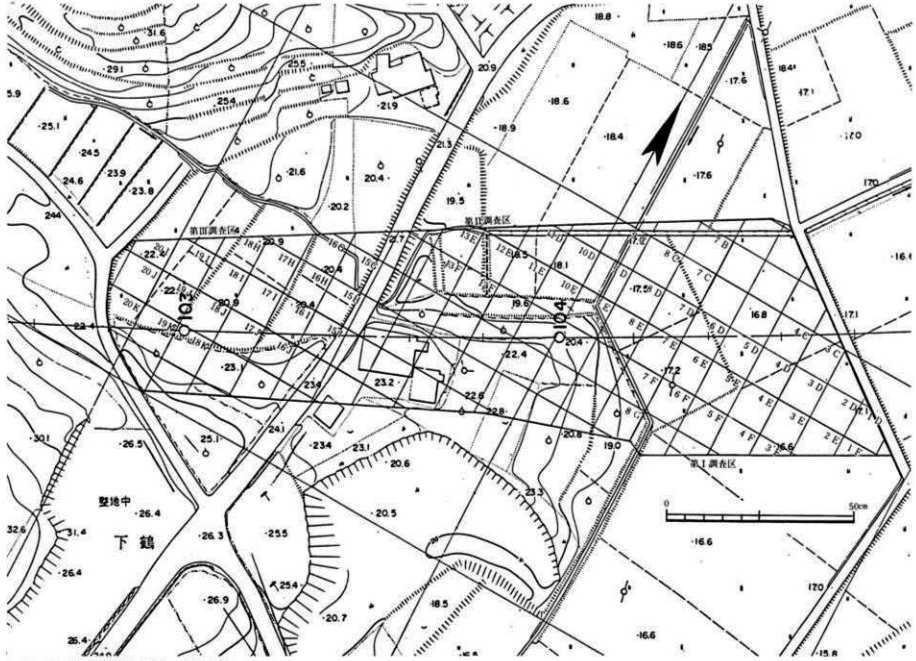


Fig. 83　長尾開拓遺跡グリッド区割図

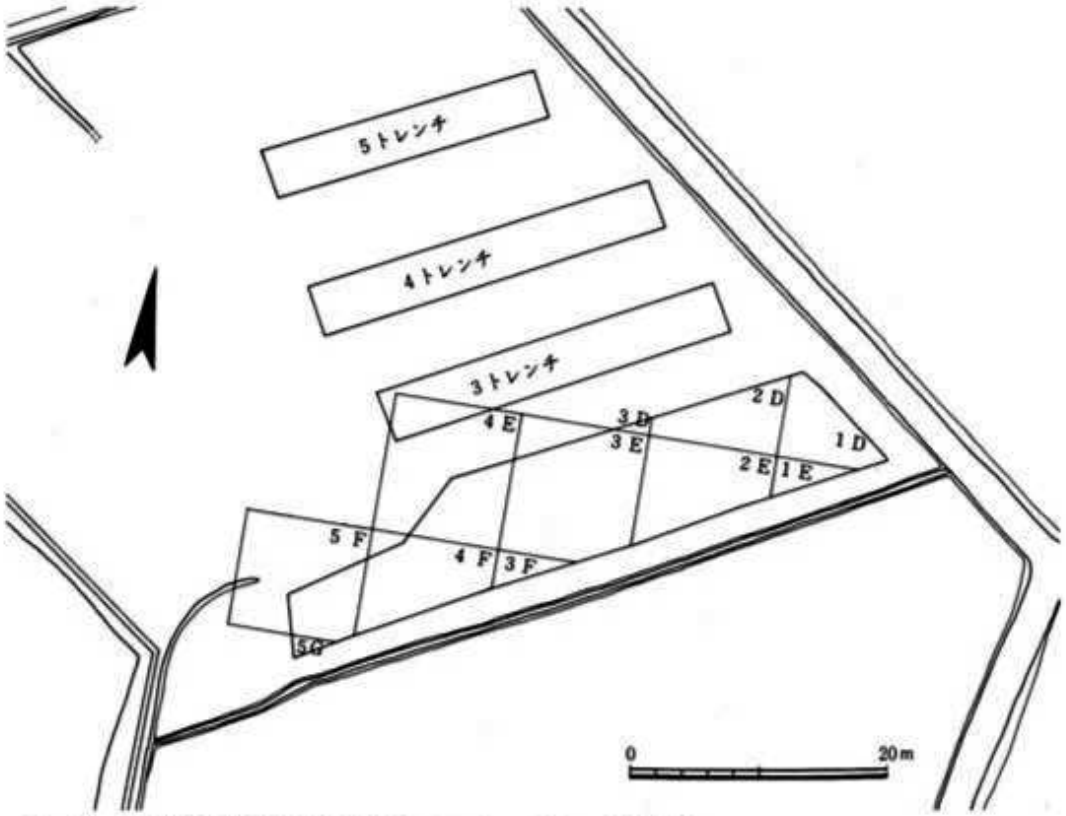


Fig. 84　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区トレンチ・グリッド区割図

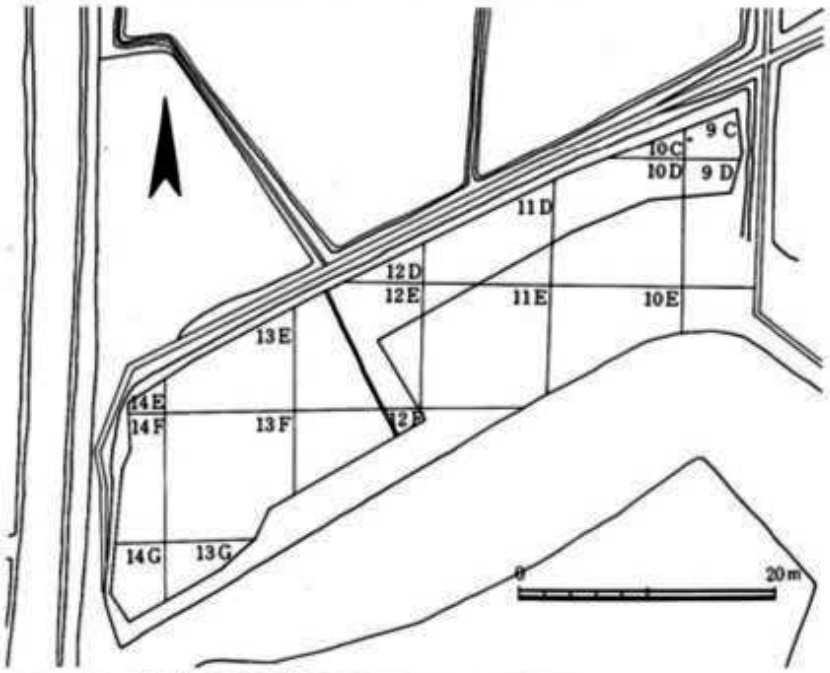


Fig. 85　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区グリッド区割図

Fig. 86　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区グリッド区割図

1、2E-2、2E-6、2E-7、2E-11～2E-13、2E-16～2E-19、2E-21～2E24の15小グリットを発掘、2E-2、2E-19は遺物が出土しなかった。遺物総数143点、内訳は尖頭器1、石鏃1、二次加工を施した剝片2、石核7、剝片97、砕片34、礫1になる。3Eグリットは3E-21を除く24小グリットを発掘、312点の遺物が出土した。石器は尖頭器9、掻器3、石匙1、敲石1、二次加工を施した剝片4点の計18点が出土。石核7、剝片198、砕片89になる。3Fグリットは調査区の南端にあたり、3F16、3F-21、3F-22を発掘、石核1、剝片16、砕片3の計20点で石器は出土しなかった。4Eグリットは4E-2～4E-5、4E-8、4E-10、4E-13～4E-15の9小グリットを発掘、石鏃1、石核5、剝片69、砕片34、礫1の計110点が出土した。4E-2、4E-13は遺物は出土しなかった。4Fグリットは南端部で4F-1、4F-2、4F-6～4F-8、4F-11～4F-14、4F-16～4F19、4F21～4F25の18グリットを発掘、尖頭器1、二次加工の剝片2、石核1、剝片98、砕片42、礫4の計148点の遺物が出土した。4F3、4F-21～4F-25は遺物が出土していない。4F-11の19点の剝片のうち、6点と礫4点は火を受けていた。第Ⅰ調査区での石器の総数は尖頭器13点、掻器4点、石匙1点、石鏃2点、敲石1点、二次加工を施した剝片8点の計29点になる。石器や剝片に比べ、石核が32点も出土、その割合は大きい。石材別には、サヌカイト1,466点、黒曜石9点、その他4点で、サヌカイトが99%以上を占める。

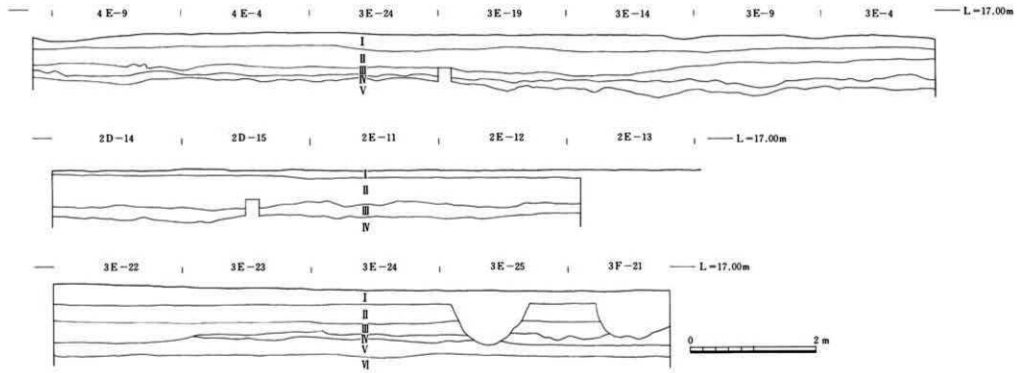


Fig. 87　長尾開拓遺跡３Ｅ４～４Ｅ９（東西壁）、２Ｄ14～２Ｅ13、３Ｅ22～３Ｆ21（南北壁）グリッド地層断面図

Tab. 18　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区1Dグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
掻器														1					2							1
石核														2				1	20	2					1	8
剥片									5				2	6	3			13	9	4		10	20	25	6	114
砕片														2				2	31	4		2	3	7		29
合計									5				2	11	3			16	31	10		12	23	32	7	152

Tab. 19　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区1Eグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
剥片																					1					1
合計																					1					1

Tab. 20　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区2D上層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	2	24	合計
石核			1												1											2
剥片		1	7	10	4			1	6	6				2	25				3	14					3	82
砕片			1	2	2					8				3	11					7					1	35
合計		1	9	12	6			1	6	14				5	37				3	21					4	119

Tab. 21　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区2D下層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器															1										1	2
石核																									1	1
剥片			4	24	5				3					11	52				17	15				6	23	160
砕片			2	8	14				12	48				62	15				60	48				3	28	300
礫									1	6					4											11
合計			6	32	19				16	54				73	72				77	63				9	53	474

Tab. 22　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区2Eグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器																	1									1
石鏃																							1			1
二次加工剥片												1						1								2
石核						1	2					1											3			7
剥片	4					12	2				10	11				9	10	10			3	8	17	1		97
砕片						1	3				2	1	1			4	5	4			2	4	7			34
礫																						1				1
合計	4					14	7				12	14	1			13	16	15			5	13	28	1		143

Tab. 23　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区3Eグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器			1	2																			5			9
掻器・石匙	1		1																						1	4
敲器		1																								1
二次加工剥片																							4			4
石核				1									3										1		2	7
剥片	1	3	20	15			4	6	6			1	12	9	6			6	12	6		2	67	11	11	198
砕片			5	3			2	4	1				3		1				12	9			33	14	2	89
合計	2	4	27	21			6	10	7			1	18	9	7		1	6	25	15		2	110	25	16	312

Tab. 24　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区3Fグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
石　核																					1					1
剥　片																1					14	1				16
砕　片																					1	2				3
合　計																1					16	3				20

Tab. 25　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区4Eグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
石　鏃										1																1
石　核										4					1											5
剥　片			7	15	1			8		11				4	23											69
砕　片			5	14	4			2		3				1	5											34
礫										1																1
合　計			12	29	5			10		20				5	29											110

Tab. 26　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区4Fグリット出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器												1														1
二次加工剥片	1																	1								2
石　核						1																				1
剥　片	11	8				19	11	8			19	9	5	1		4	2	1								98
砕　片	4	5				7	7				10	4	3			2										42
礫											4															4
合　計	16	13				27	18	8			33	14	8	1		6	2	2								148

層序と遺物の出土状態については、遺物の出土が少ない点と、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層が部分的に存在しないグリットや、無遺物層になり、確認できないが、Ⅱ層上面に中世、Ⅱ層下面に縄文時代の遺物包含層が存在、Ⅲ・Ⅳ層は尖頭器を主体とする文化層と考えられる。Ⅴ層以下は無遺物層になる。部分的な試掘によって確認したⅦ層の黄白色粘質土層は阿蘇4火砕流堆積物（Aso-4）であろう。調査区の北側に設定した6トレンチではⅦ層の下位に20～60cmのサヌカイト礫が混入し、Ⅷ層の泥炭層を確認したが、第Ⅰ調査区ではサヌイカイト礫は混入しなかった。6トレンチは扇状地の広がりの中心部にあたるため、流れ込みによるものであろう。また西方120mの距離に位置する第3調査区で多量に出土した半円錐形石核や縦長剥片は第1調査区では1点も出土していない。

Fig. 88　長尾開拓遺跡第Ⅰ調査区層序図

第Ⅱ調査区（Fig 85・90～121，Tab 26～31）

第Ⅱ調査区は昭和58年度に調査を実施した遺跡中央部の西側の3枚の水田で、18.1

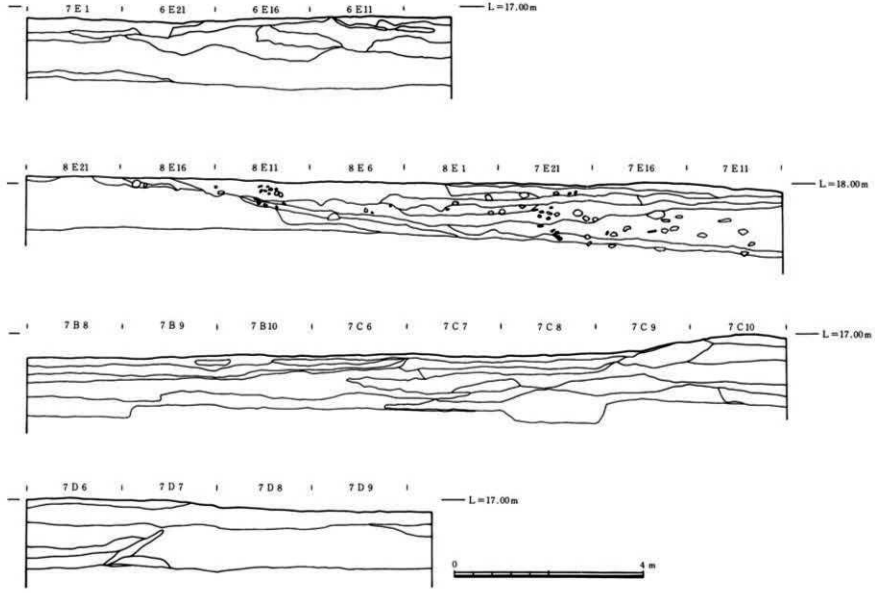


Fig. 89　長尾開拓遺跡７Ｅ１～６Ｅ１・８Ｅ21～７Ｅ11（北壁）７Ｂ８～７Ｃ10・７Ｄ６～７Ｄ９（東壁）グリッド地層断面図

～19.1mの標高に位置する。調査区南側の台地との比高は約4mである。遺跡周辺の水田は昭和40年頃、耕地整理が行われ、耕作土直下の遺物包含層上面は攪乱を受け、遺物は破損していた。包含層上面での遺物は、サヌカイト礫、石核、剥片、尖頭器、船底形石器のほか、縄文時代の石器や近世磁器の破片も混入していた。遺物の中で注目されたのは半円錐形石核や縦長剥片と不定形石核、横長剥片が混在していたことである。調査は攪乱層を除去した後、10×10mの大グリットを設定、さらに2×2mの小グリットを単位として進めた。攪乱層下部は砂岩の風化土壌で半円錐形石核や縦長剥片が多量に出土、不定形石核や横長剥片はほとんど含まれていなかった。調査区西側の11D～11F、12D～12F、13E、13Fグリットでは包含層の下層に砂岩層が存在、遺物は砂岩層上で出土した。8C～8E、9C～9E、10D、10Eグリットでも砂岩風化土壌の中から半円錐形石核、縦長剥片などが出土した。8C～8E、9C～9Eの下層は黄白色粘土層になり、無遺物層となった。9D、10D、10Eグリットの下層は北側がやや砂粒を含む黄色粘土層、南側は黄色粘土を含む砂質土になり、尖頭器、横長剥片、不定形石核、サヌカイト礫が集中した。遺物の出土状態は、昭和53年に調査を実施した茶園原西畑遺跡に酷似した。9Dグリットで調査の対象となった9D16～9D-18、9D22～9D25の7か所の小グリット上層で出土した遺物は数万点の剥片と砕片とサヌカイト原石を除き、尖頭器36点、石核40点、剥片1696点、砕片135点の計1,907点になる。下層に遺物が残る9D-17、9D-22、9D-23の3グリットでは尖頭器37点、石核18点、剥石1,694点、砕片25点の計1,784点が出土した。特に9D-22では29点の尖頭器が出土している。10Dグリットでは10D-2～10D-5、10D-9、10D-10、10D-14、10D-15、10D-20の9グリットの上層から尖頭器97点、石核25点、剥片3,140点、砕片6点の計3,268点が出土した。下層は10D-9、10D-10、10D-15の3グリットから尖頭器76点、台形様石器1点、剥片2,910点の計2,987点が出土した。10Eグリット上層は10E-1、10E-6、10E-11、10E-12、10E-16、10E-17、10E-21、10E-22の8グリットで尖頭器57点、ナイフ形石器1点、石核8点、剥片1,037点の計1,103点が出土した。下層は10E-6、10E-11、10E-16の3グリットから尖頭器28点、剥片1,409点の計1,437点が出土した。尖頭器の総数は331点になり、茶園原西畑遺跡を上回る密度となった。尖頭器の大部分は2～4点に折損、製作中途で放棄したものであろう。遺物包含層の下層は北側が0.05mの黄白色粘土層と砂岩層になり、南側は砂岩層が基盤となる。攪乱層や包含層面で出土した半円錐形石核は1点も出土せず、縦長剥片も数点出土しただけで、原位置を保っていた。茶園原西畑遺跡と同じ性格を持つ尖頭器製作の工房跡遺構と判断した。

Fig.91～96は9D・10D・10Eグリットの遺物出土状態の平面分布図である。尖頭器を矢印、台形様石器を○、ナイフ形石器を△、石核、剥片を点で示した。砕片は小グリットで数千点になり省いた。矢印の方向は尖頭器の先端を指す。番号はTab 34の計測表の遺物番号である。

9 D16

北東方向から南西方向に延びた石器工房遺跡構の北東端にあたり、グリットの南西部に遺構の端が僅かにかかる。遺物は尖頭器２点と剥片45点、多量の砕片が出土した。

9 D17

グリットの西側半分に遺構がかかる。上層で尖頭器６点と石核19点、剥片199点、やや大きい砕片117点、小さな砕片は2,000点以上が出土した。尖頭器・石核・剥片の割合は３％・８％・89％である。下層では尖頭器７点、石核15点、剥片417点、砕片大14点が出土した。

9 D18

グリット北西側の一部に遺構がかかる。遺物は尖頭器２点、石核16点、剥片98点、砕片大12点が出土。尖頭器・石核・剥片の割合は２％・14％・84％になり、石核の比が高い。

9 D22

グリットの南東側の斜め半分に遺構がかかる。遺物は上層で尖頭器５点、剥片92点、砕片大３点が出土。下層では尖頭器29点、石核３点、剥片1,237点、砕片大21点が出土した。

9 D23

遺構の中央部よりやや北西部にあたる。遺物は上層で尖頭器14点、石核５点、剥片351点、砕片大３点が出土した。下層では尖頭器１点と剥片41点が出土した。

9 D24

グリットの南側の半分に遺構がかかる。遺物は尖頭器１点、剥片236点が出土した。

9 D25

遺構中央部の南西端にあたる。遺物は尖頭器６点と剥片675点が出土した。

10D 2

グリットの南西端に遺構の一部がかかる。遺物は尖頭器９点、剥片34点、砕片大１点が出土した。

10D 3

グリットの南側の一部が遺構にかかる。遺物は尖頭器13点、石核１点、剥片167点、砕片大３点が出土した。

10D 4

グリットの南側の約半分が遺構にかかる。遺物は尖頭器16点、剥片684点が出土した。

10D 5

グリット全体に遺構がかかる。遺物は尖頭器17点、石核８点、剥片770点、砕片大２点が出土した。

10D 9

グリット南側の約半分に遺構がかかる。遺物は上層で尖頭器12点、石核３点、剥片185点が

出土。尖頭器・石核・剥片の割合は6％・2％・92％になる。下層では尖頭器7点、剥片が380点出土した。

10D10

遺構の中央部がグリット全体にかかる。遺物は上層で尖頭器13点、石核5点、剥片494点が出土。下層では尖頭器28点、剥片981点が出土した。

10D14

グリットの南東隅の一部に遺構がかかる。遺物は尖頭器1点、剥片82点が出土した。

10D15

遺構の北西部がグリット全体にかかる。遺構の中でも遺物の密度が高いグリットである。上層で出土した遺物は尖頭器7点、石核8点、剥片724点になる。下層では尖頭器1点、台形様石器1点、剥片1,549点が出土した。サヌカイト製の台形様石器の出土は注目される。

10D20

遺構の一部がグリットの南東隅にかかる。尖頭器9点が出土した。

10E 1

遺構の中央部南西端にあたり、グリット北側の一部に遺構がかかる。遺物は剥片19点が出土した。

10E 6

10E 1の西のグリットで遺構の南端部にあたる。遺物は上層で尖頭器1点、石核4点、剥片134点が出土。下層では尖頭器5点と剥片109点が出土した。

10E11

遺構の中央南西部にあたり、グリット全面に遺物が出土した。上層での遺物は尖頭器13点、ナイフ形石器1点、石核4点、剥片779点が出土。下層では尖頭器21点と剥片1,168点が出土。

10E12

10E11の南側のグリットで遺構の南端部にあたる。遺物は尖頭器6点、剥片105点が出土した。

10E16

10E11の西のグリットで遺構の最南西端にあたる。遺物は上層で尖頭器23点が出土。下層では尖頭器2点、剥片132点が出土した。遺物出土状態平面分布図は1枚に整理した。

10E21

10E16の西のグリットで遺構の西隅が僅かにグリットにかかる。尖頭器1点が出土した。

10E22

10E21の南のグリットで遺構の最南西端の一部がグリットにかかる。遺物は尖頭器3点が出土した。

Tab. 27　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区9Dグリット上層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器																2	6	2				5	14	1	6	36
石核																	19	16					5			40
剥片																45	199	98				92	351	236	675	1,696
砕片																	117	12				3	3			135
合計																47	341	128				100	373	237	681	1,907

Tab. 28　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区9Dグリット下層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器																	7					29	1			37
石核																	15					3				18
剥片																	417					1,237	40			1,694
砕片																	14					21				35
合計																	453					1,290	41			1,784

Tab. 29　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Dグリット上層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器		9	13	15	17				12	13				1	7					9						97
石核			1		8				3	5					8											25
剥片		34	167	684	770				185	494				82	724											3,140
砕片		1	3		2																					6
合計		44	184	700	797				200	512				83	739					9						3,268

Tab. 30　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Dグリット下層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器									7	28					41											76
台形様石器															1											1
剥片									380	981					1,549											2,910
砕片																										
合計									387	1,009					1,591											2,987

Tab. 31　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Eグリット上層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器						1					13	6				23	10				1	3				57
ナイフ形石器											1															1
石核						4					4															8
剥片	19					134					779	105														1,037
砕片																										
合計	19					139					797	111				23	10				1	3				1,103

Tab. 32　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Eグリット下層出土遺物一覧表

遺物＼小グリット	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
尖頭器						5					21					2										28
石核																										
剥片						109					1,168					32										1,409
砕片																										
合計						114					1,189					134										1,437

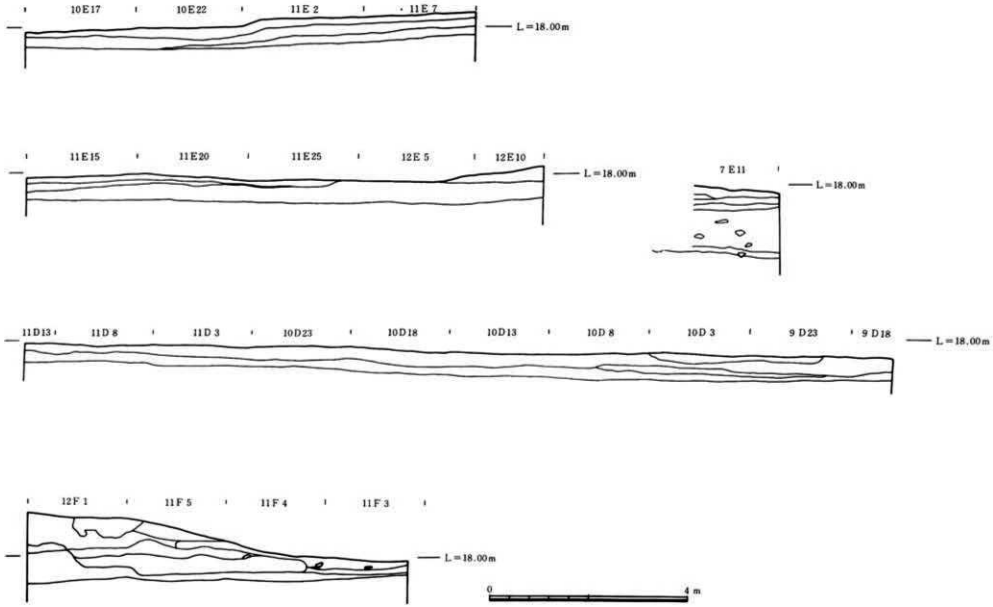


Fig. 90　長尾開拓遺跡10E17～11E 7 （南壁）11E15～12E10（北壁） 9 D18～11D13（北壁）11E 3～12F 1 （西壁）グリッド地層断面図

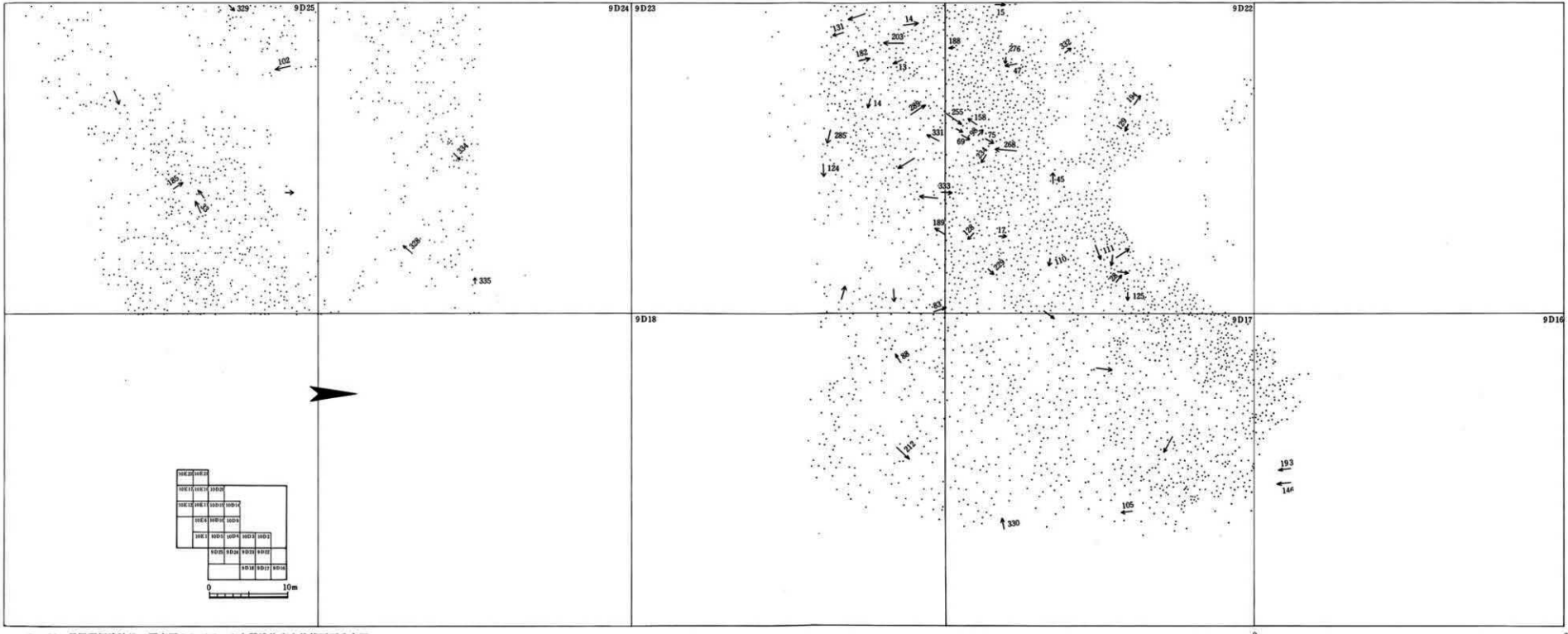


Fig. 91　長尾開拓遺跡第II調査区９Ｄグリッド上層遺物出土状態平面分布図

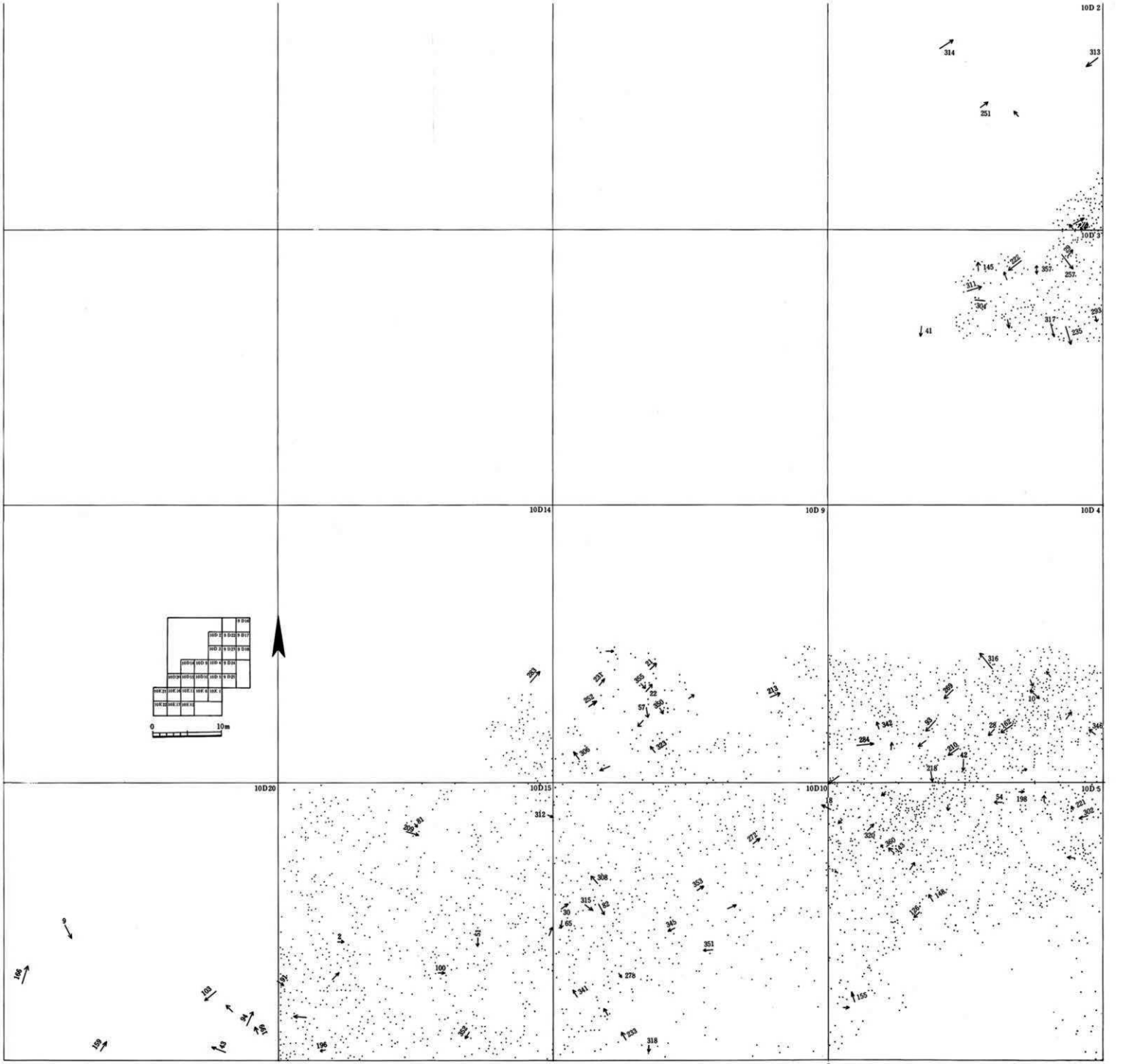


Fig. 92　長尾岡拓遺跡第Ⅱ調査区10Dグリッド上層遺物出土状態平面分布図

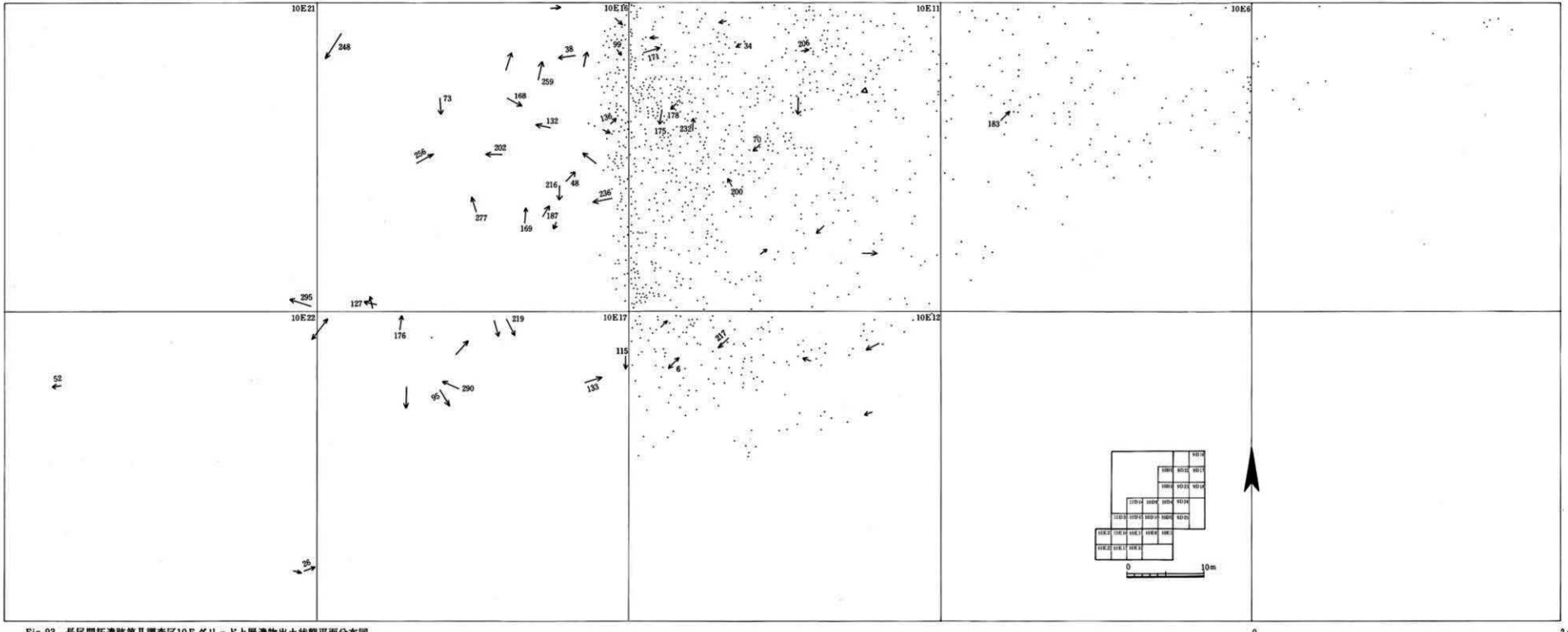


Fig. 93　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Eグリッド上層遺物出土状態平面分布図

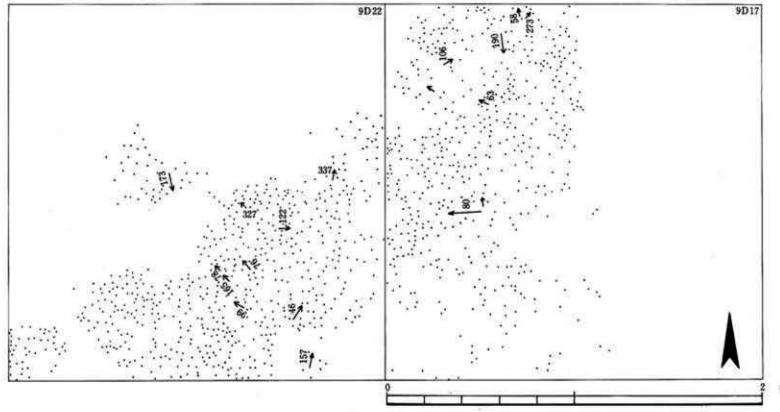


Fig. 94　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区９Ｄグリッド下層遺物出土状態平面分布図

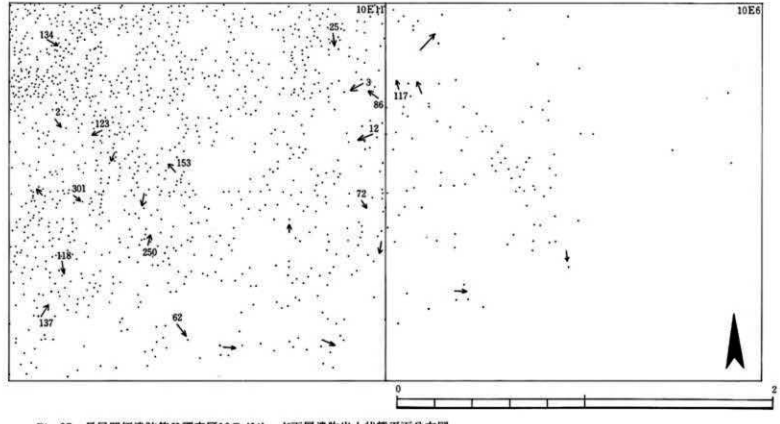


Fig. 95　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Ｅグリッド下層遺物出土状態平面分布図

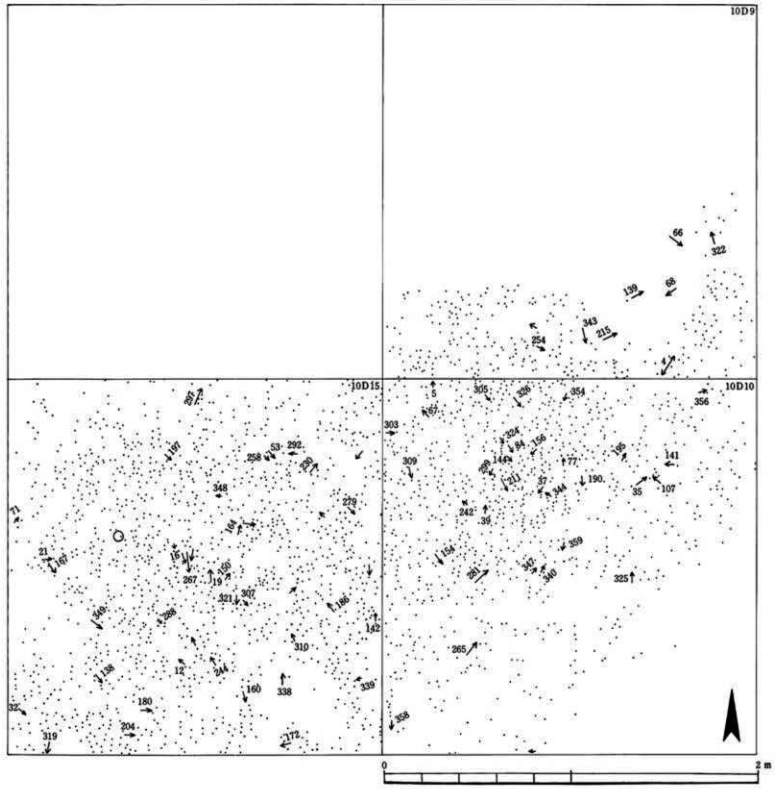


Fig. 96　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区10Dグリッド下層遺物出土状態平面分布図

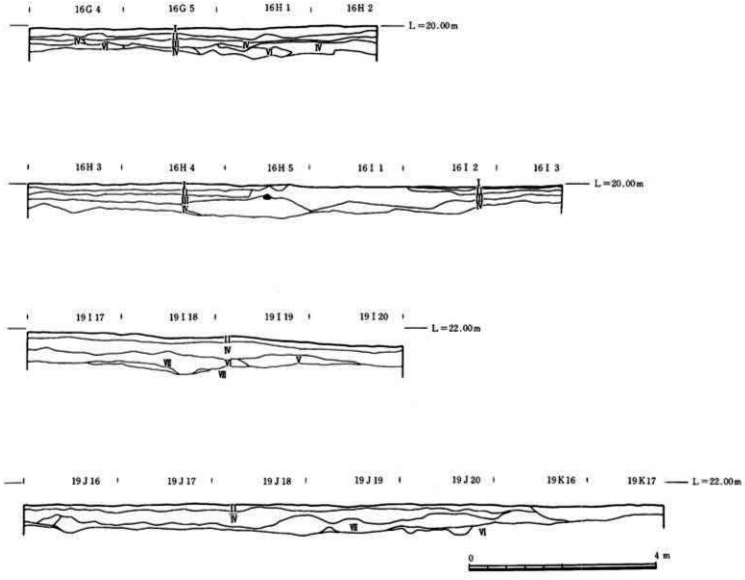


Fig. 97　長尾開拓遺跡第Ⅲ調査区16G 4～16H 2・16H 3～16I 3・19I 17～19I 20・19J 16～19K17（東壁）グリッド地層断面図

第Ⅲ調査区

遺跡の最西部、標高20.4～22.4mの水田で、3段に分かれている。扇状地の要の部分にあたり、地下からの湧水が絶えない。南側の台地との比高は2～5mを測る。水田の石垣の大部分はサヌカイト原石で築かれ、周辺にも原石、石核、剥片などが散乱していた。掘削機による耕作土の除去後、10×10mの大グリットを設定、さらに2×2mの小グリットに区分した。表土層の下部はサヌカイト礫・石核、剥片が全面に広がり、尖頭器や船底形石器も混入する状態であった。石核には半円錐形石核と不定形石核があり、剥片も縦長剥片と横長の剥片が混在した。遺物の約半数は磨耗が著しく、遺物の出土状態も正常とはいえず、西側山麓部からの流れ込みと判断し調査を進めた。遺物は包含層上部からの基盤の砂岩直上まで0.5～0.8mの深さに含まれる。出土した遺物の総量は遺物収納コンテナ（0.55×0.35×0.20m）1,200箱になる。遺物は横長の剥片が最も多く、縦長剥片、不定形石核、半円錐形石核がこれに続く。サヌカイト礫も大小多量に含まれる。製品は磨耗が著しい尖頭器と船底形石器のほか数点のナイフ形石器が出土した。石核や剥片の量に対し、製品の割合は非常に少なく、特に縦長剥片の出土数に対し、縦長剥片を素材とした石器は数点のナイフ形石器だけである。

3．遺物

長尾開拓遺跡から出土した遺物の大部分は旧石器時代のもので、その数は膨大な量になり、全ての遺物の整理が終了するのは数年を要するものである。現段階で整理できたものと特徴的な遺物について時代別に紹介する。

旧石器時代

第Ⅰ調査区で出土した旧石器時代の石器は尖頭器13点、掻器4点、二次加工を施した剥片8点、敲石1点の26点である。石器以外では33点の石核と835点の剥片、566点の砕片が出土、そのほとんどが旧石器時代の遺物である。石核は横長剥片用の不定形石核で、製品の数を上回る特異な状況であった。

第Ⅱ調査区で出土した石器もほとんどが旧石器時代の遺物である。尖頭器工房遺構では尖頭器331点と台形様石器1点、ナイフ形石器1点が出土。石核、剥片、砕片を加えると数万点になる。上部の流れ込みによる堆積層からは尖頭器、船底形石器のほかに半円錐形石核、不定形石核、縦長剥片、横長剥片、不定形剥片が出土し、第Ⅲ調査区とほぼ同じ組成である。

第Ⅲ調査区で出土した遺物は旧石器時代に限られ、石器は尖頭器、船底形石器、ナイフ形石器、三稜尖頭器が出土。半円錐形石核、不定形石核、縦長剥片、横長剥片、不定形剥片も多量に出土した。

半円錐形石核（Fig 98～100，PL. 59・60）

第二調査区・第三調査区で約200点が出土した。素材にサヌカイトの角礫を用いたものが圧

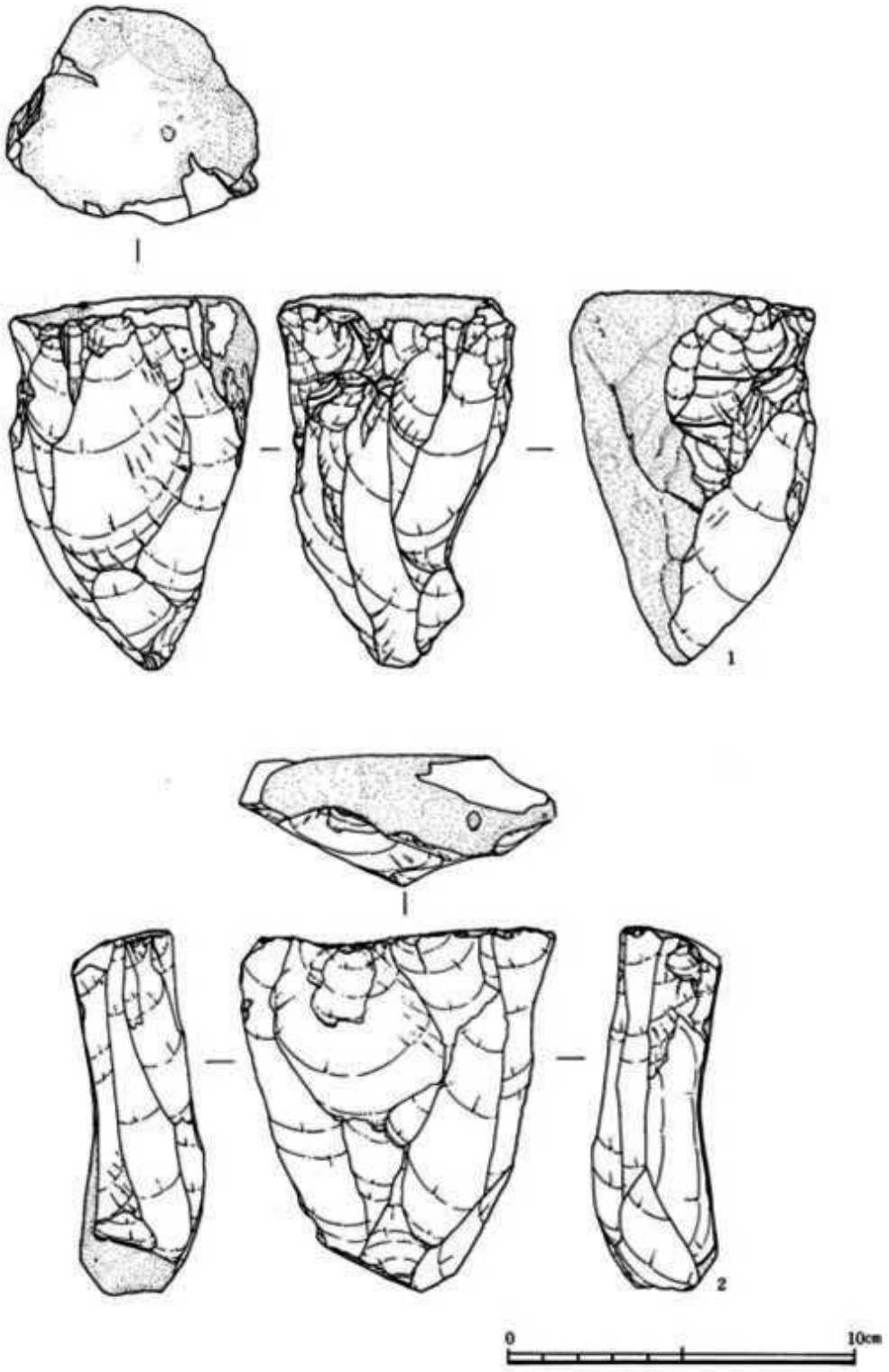


Fig. 98　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図

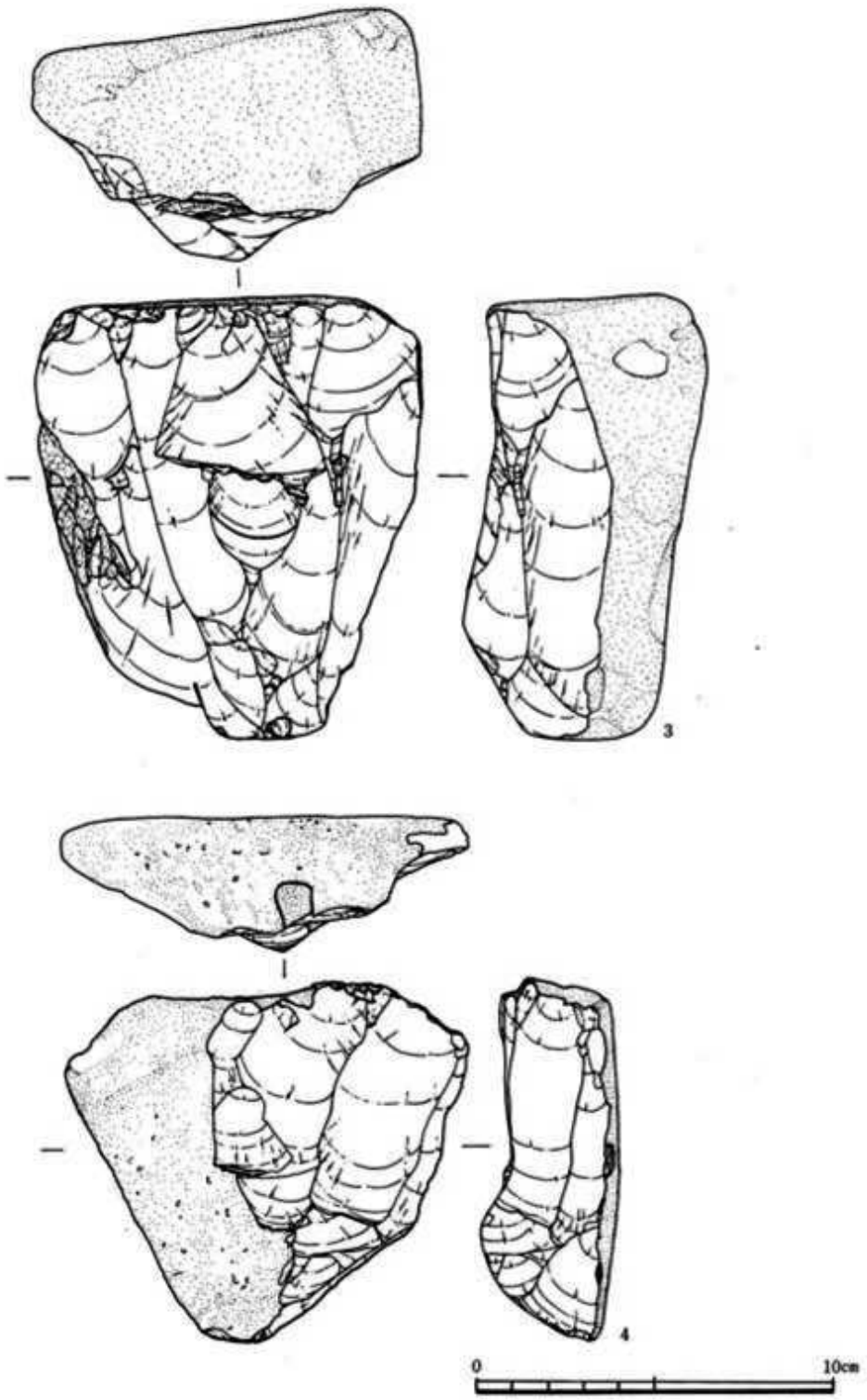


Fig. 99　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図

倒的に多く、礫の平坦面を打面とした原石面打面の石核が多い。剥片剥出面の背面は礫面を残していることから、礫の片面から連続して縦長剥片を剥出し、原石面打面からの剥片剥出が不可能になると打面再生は行わず、放棄したものと思われ、打面再生の石核はほとんど出土していない。原石が豊富な原産地遺跡特有の現像とみられる。1～6は半円錐形石核である。1は原石面打面から8回以上の剥片剥出を行っている。長さ10.5cm、重さ450g。2はやや幅が広い角礫を用い、原石面打面から10回以上の剥片剥出を行っている。長さ10.3cm、幅9.0cm、重さ326g。3はやや大形の石核である。幅10cmの角礫を素材に用い、原石面打面から幅が広い縦長剥片を剥出している。剥片剥出面から9回以上の剥片剥出を行っている。長さ12.2cm、重さ990g。4は扁平な角礫を用い、原石面打面から6回以上の剥片剥出を行っている。長さ10.0cm、重さ388g。5は小形の石核である。幅約7cm、長さ約6cmの角礫から7cm前後の縦長剥片を剥出している。6回以上の剥片剥出が行われている。重さ288g。6はやや扁平な角礫を素材に原石面打面から7回以上の剥片剥出を行っている。長さ10.7cm、重さ184g。

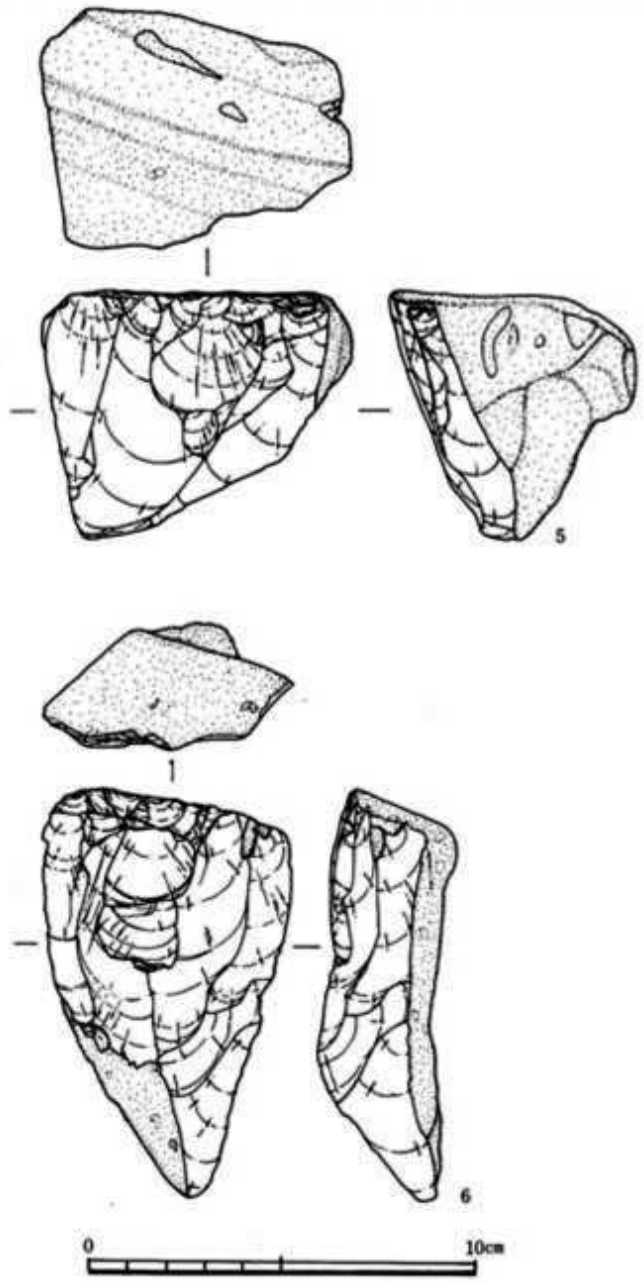


Fig. 100　長尾開拓遺跡出土半円錐形石核実測図

縦長剥片（Fig.101～104、PL.61～63）

半円錐形石核から剥出された縦長剥片は約4,000点が出土している。打面が残る剥片の約80%は礫面が残り、原石面打面の石核から

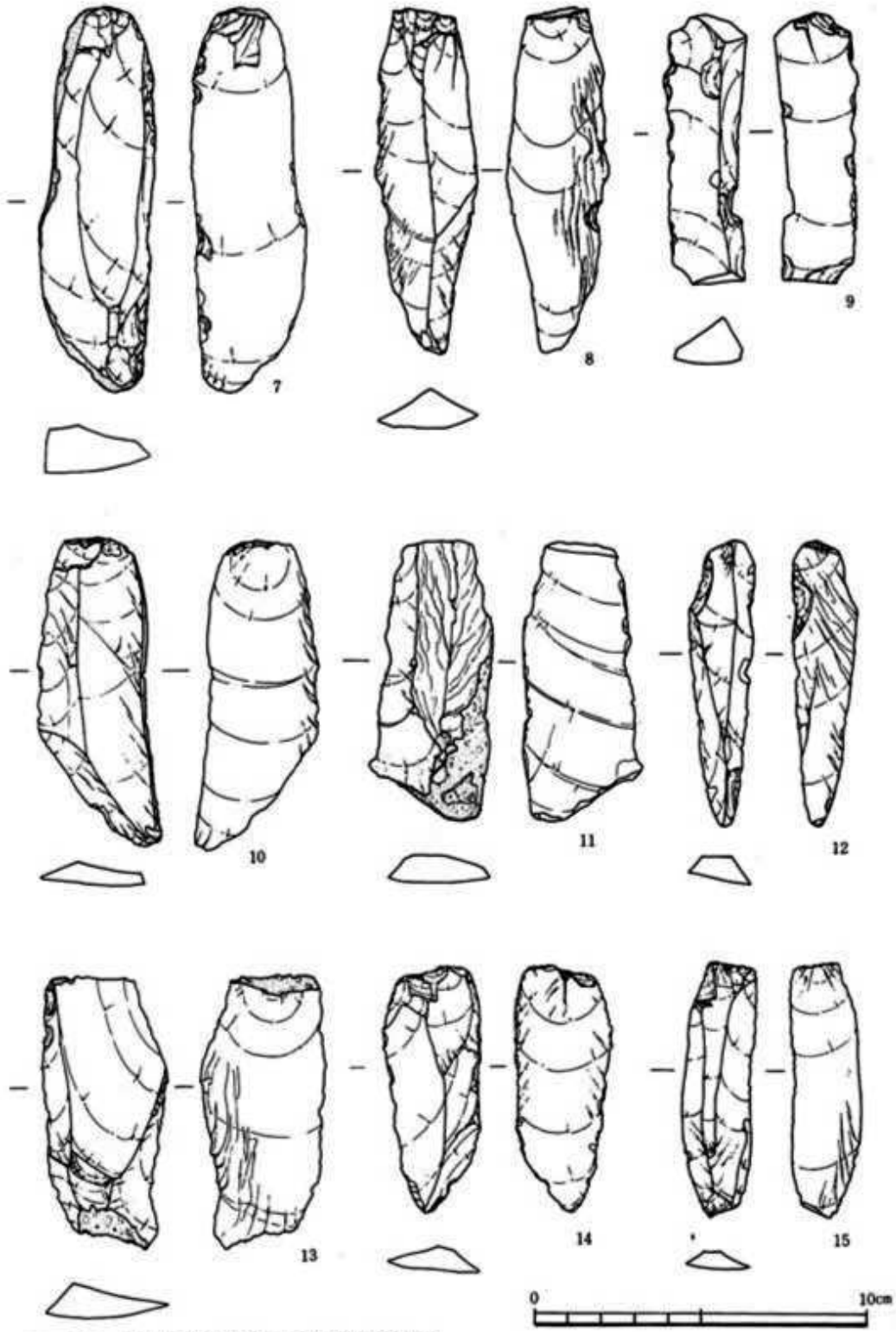


Fig. 101　長尾開拓遺跡出土縦長剝片実測図

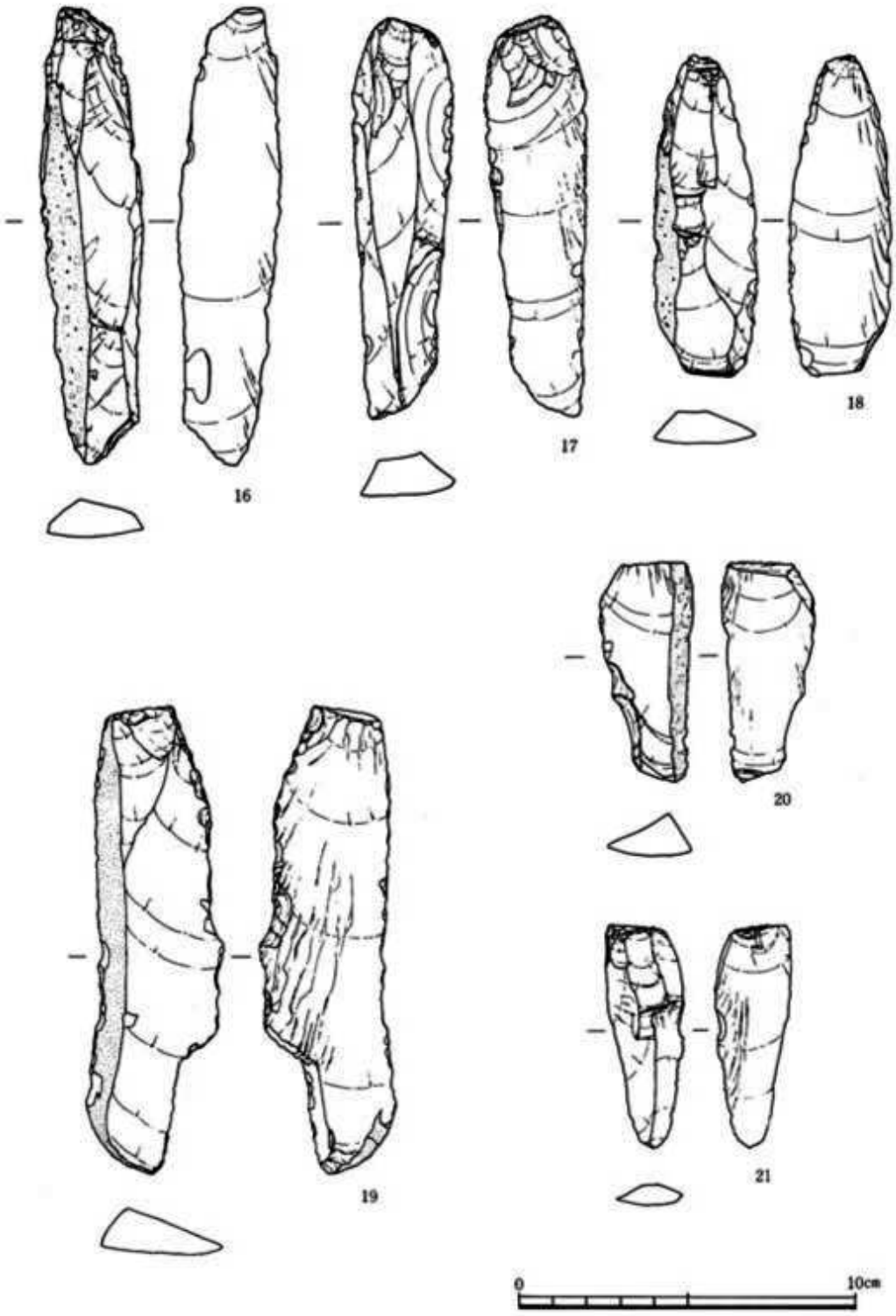


Fig. 102　長尾開拓遺跡出土縦長剝片実測図

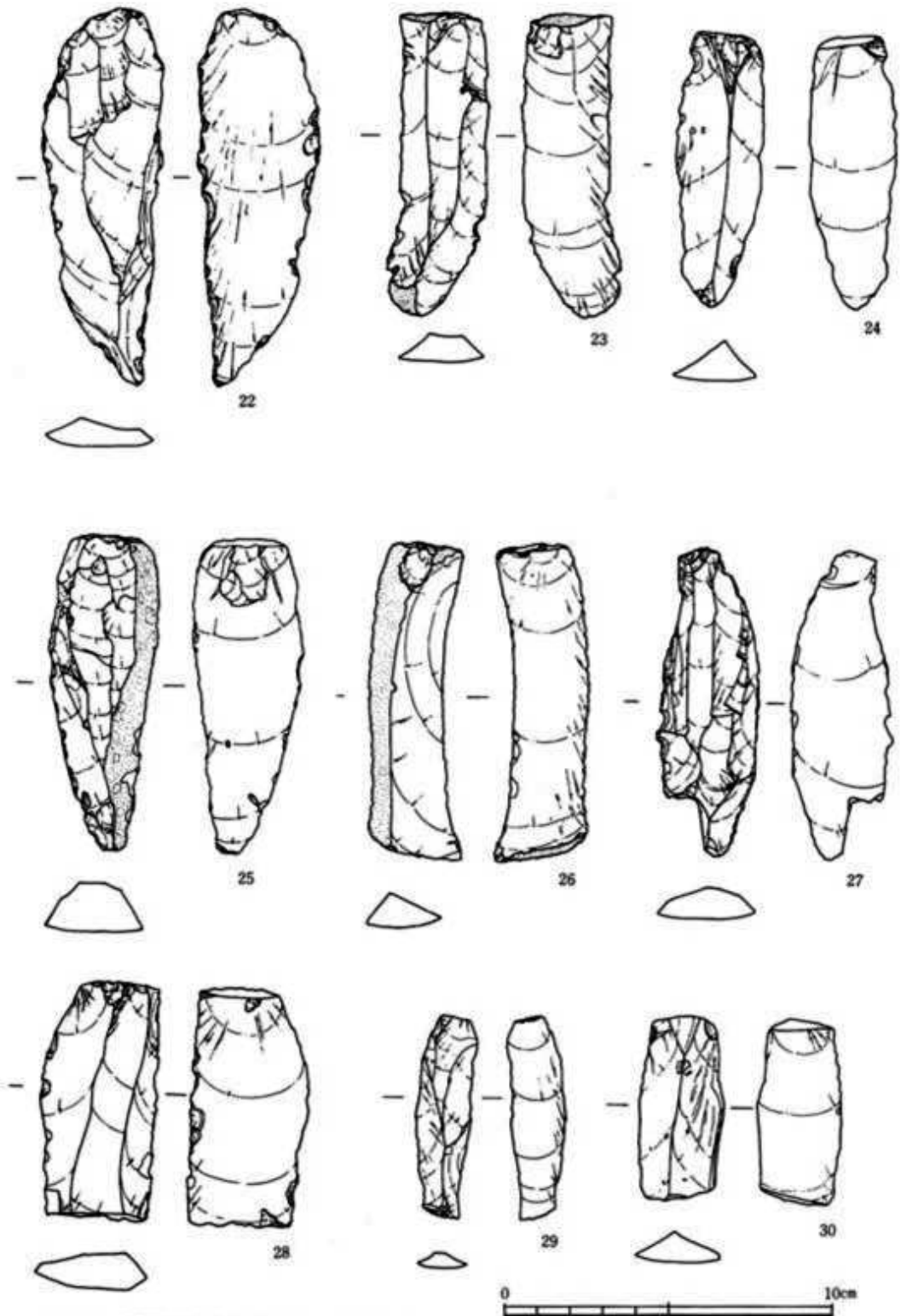


Fig. 103　長尾開拓遺跡出土縦長剥片実測図

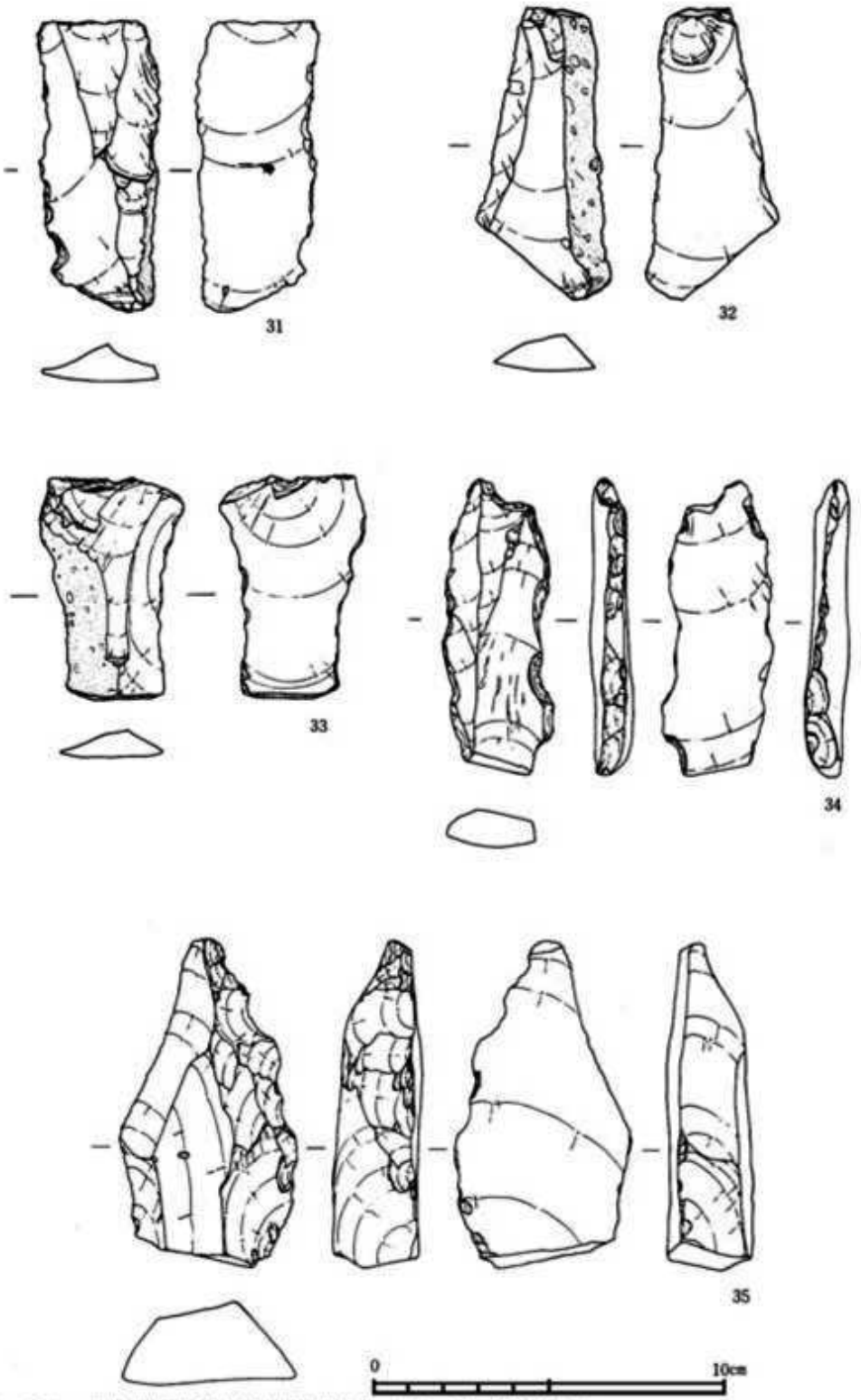


Fig. 104　長尾開拓遺跡出土縦長剝片・ナイフ形石器実測図

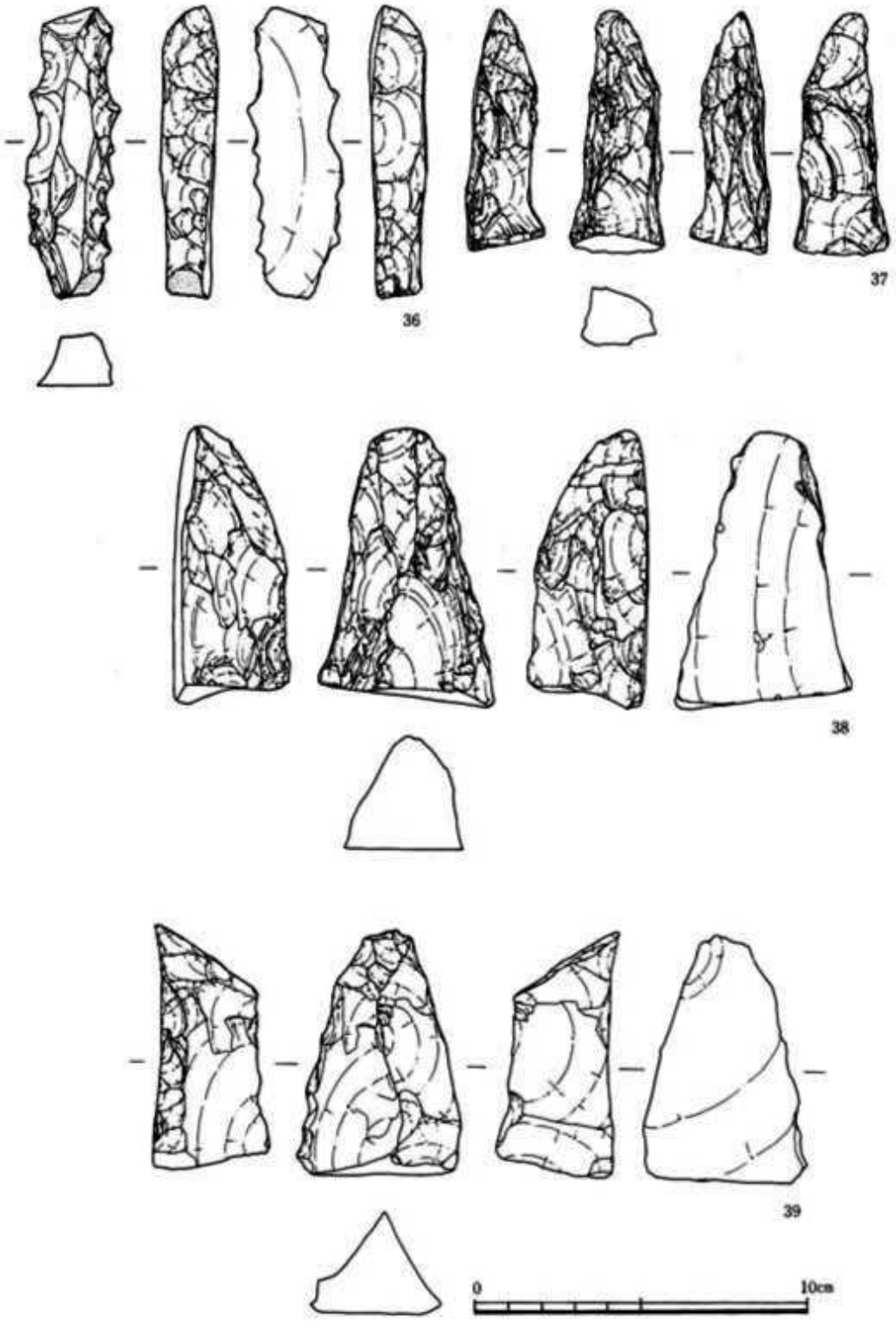


Fig. 105　長尾開拓遺跡出土三稜尖頭器・船底形石器実測図

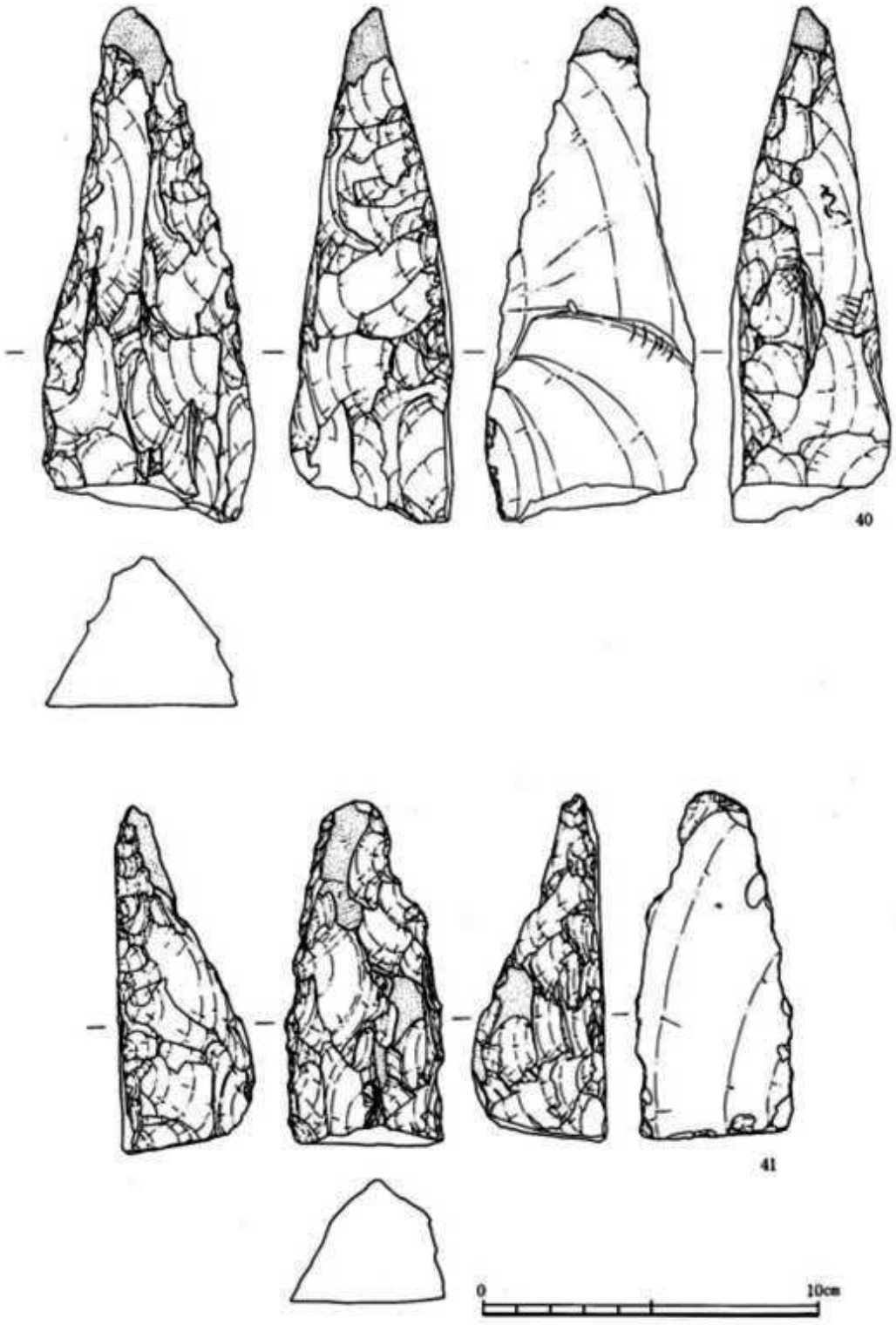


Fig. 106　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

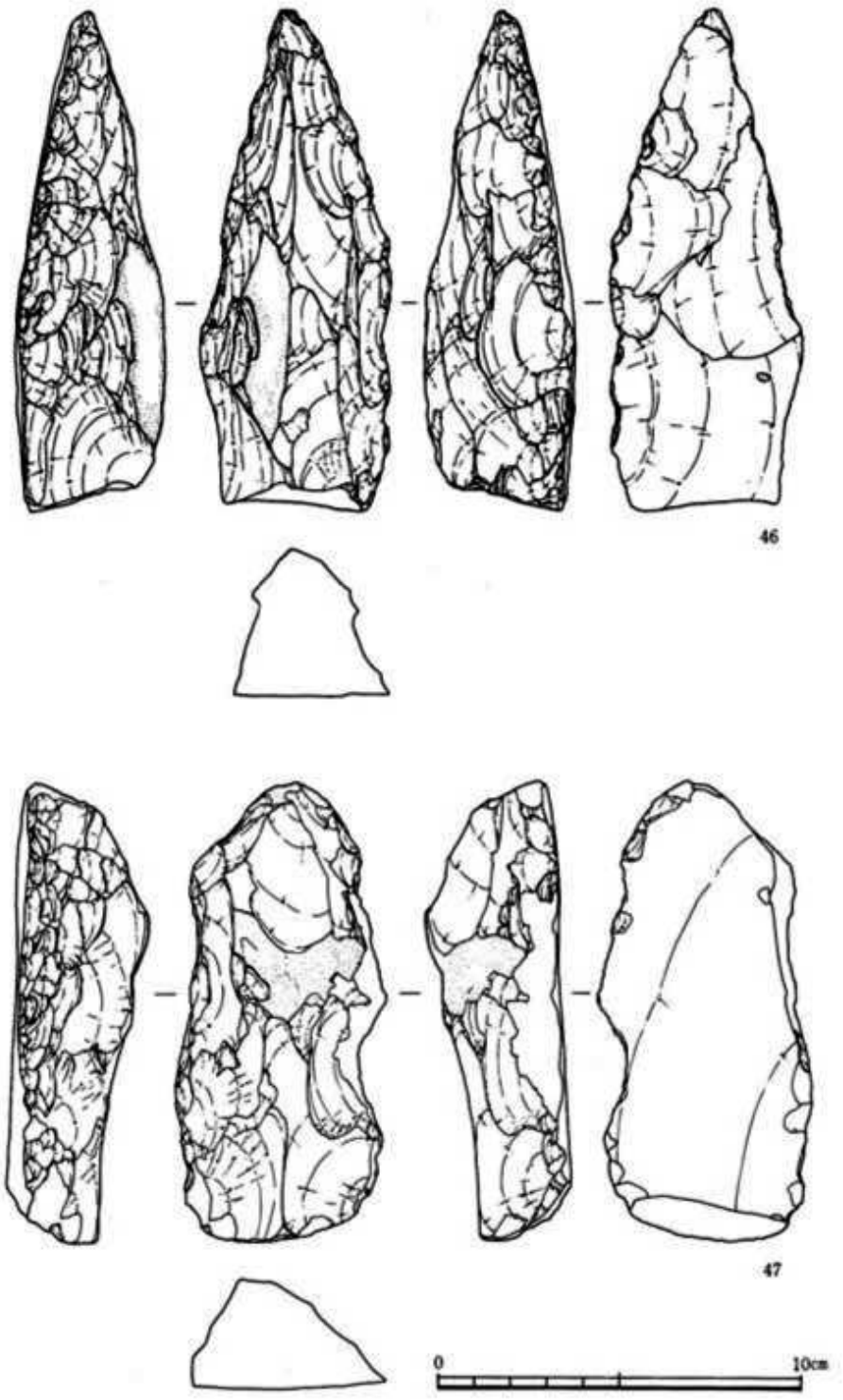


Fig. 107　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

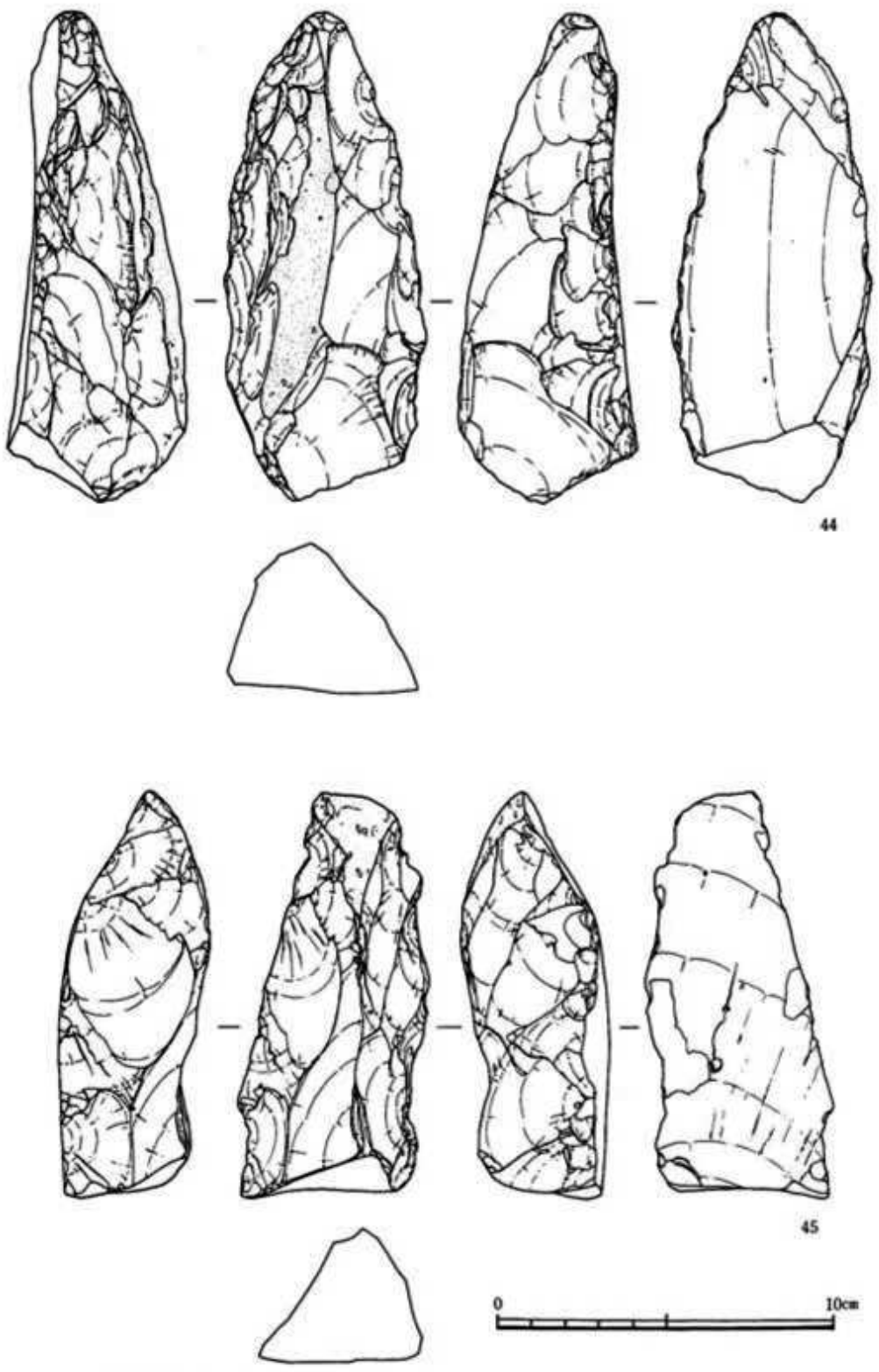


Fig. 108　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

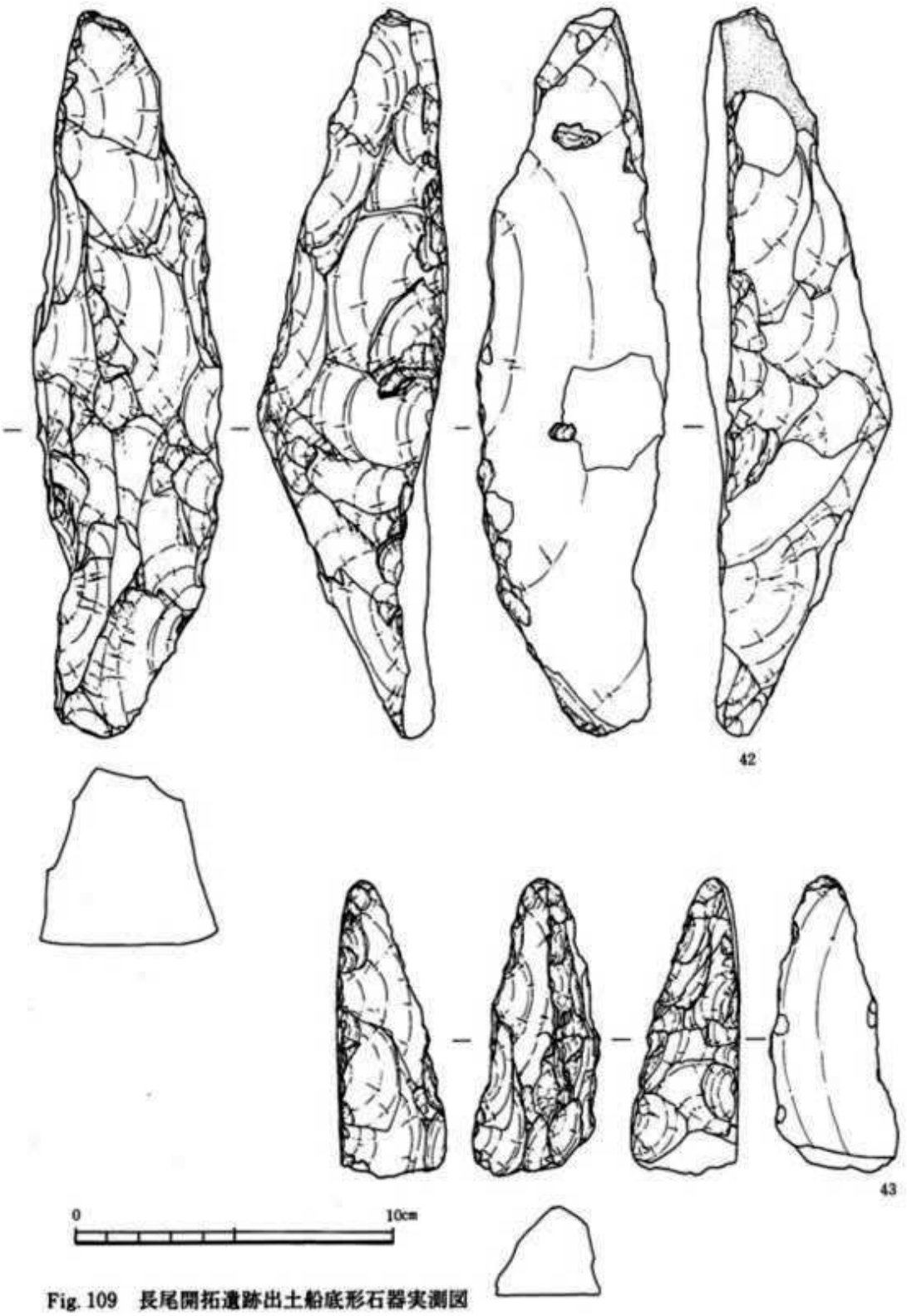


Fig. 109　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

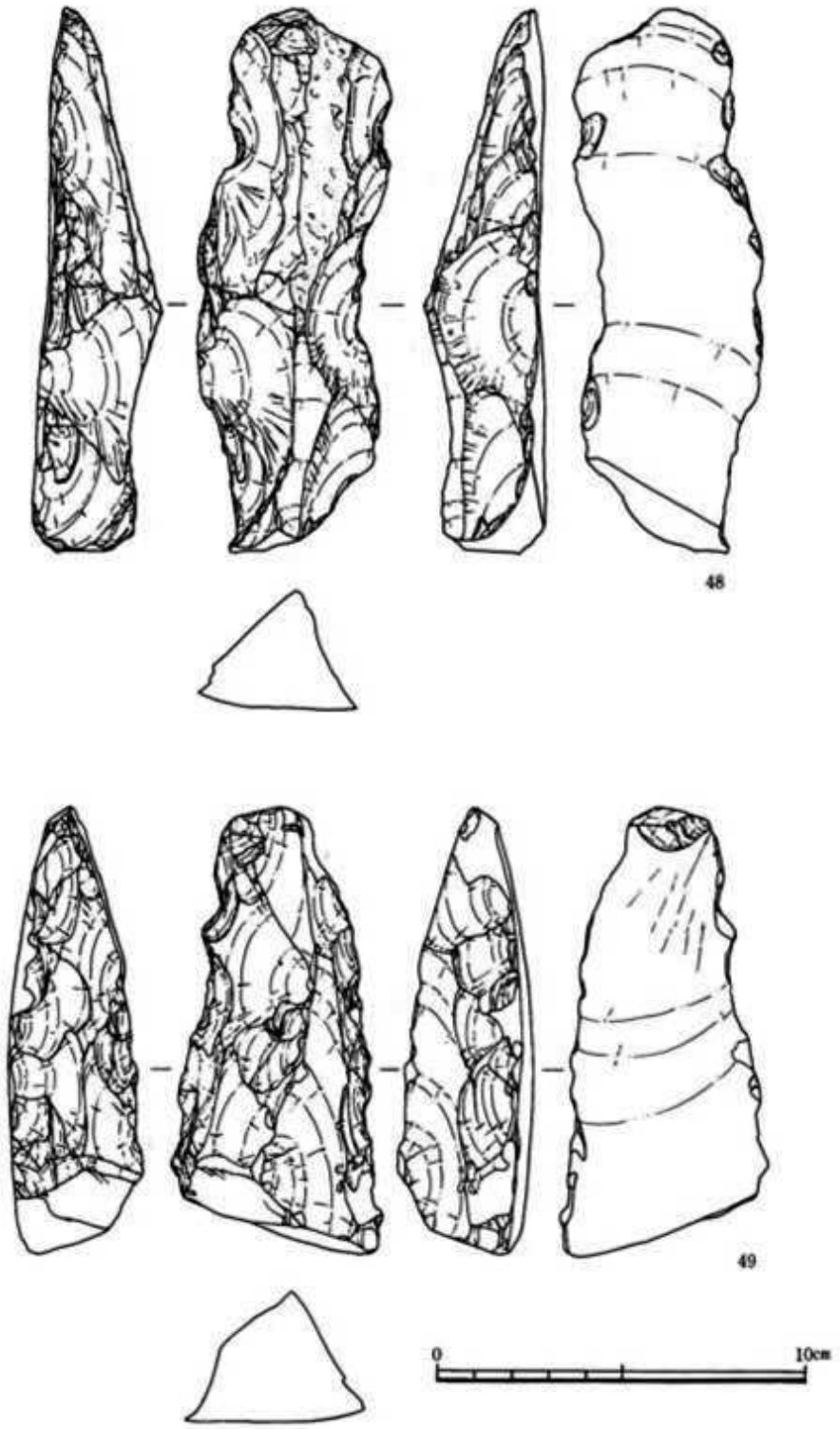


Fig. 110　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

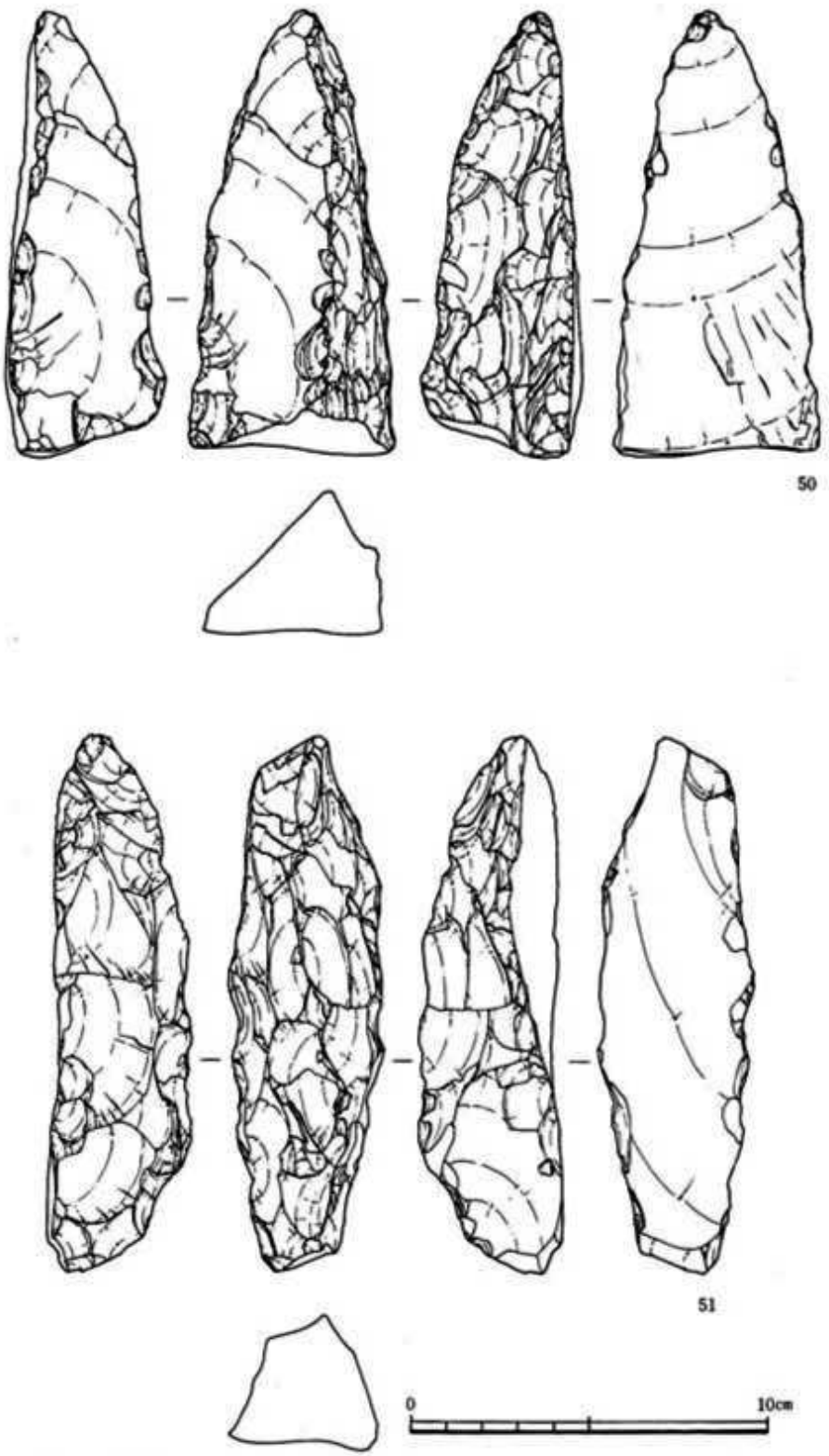


Fig. 111　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

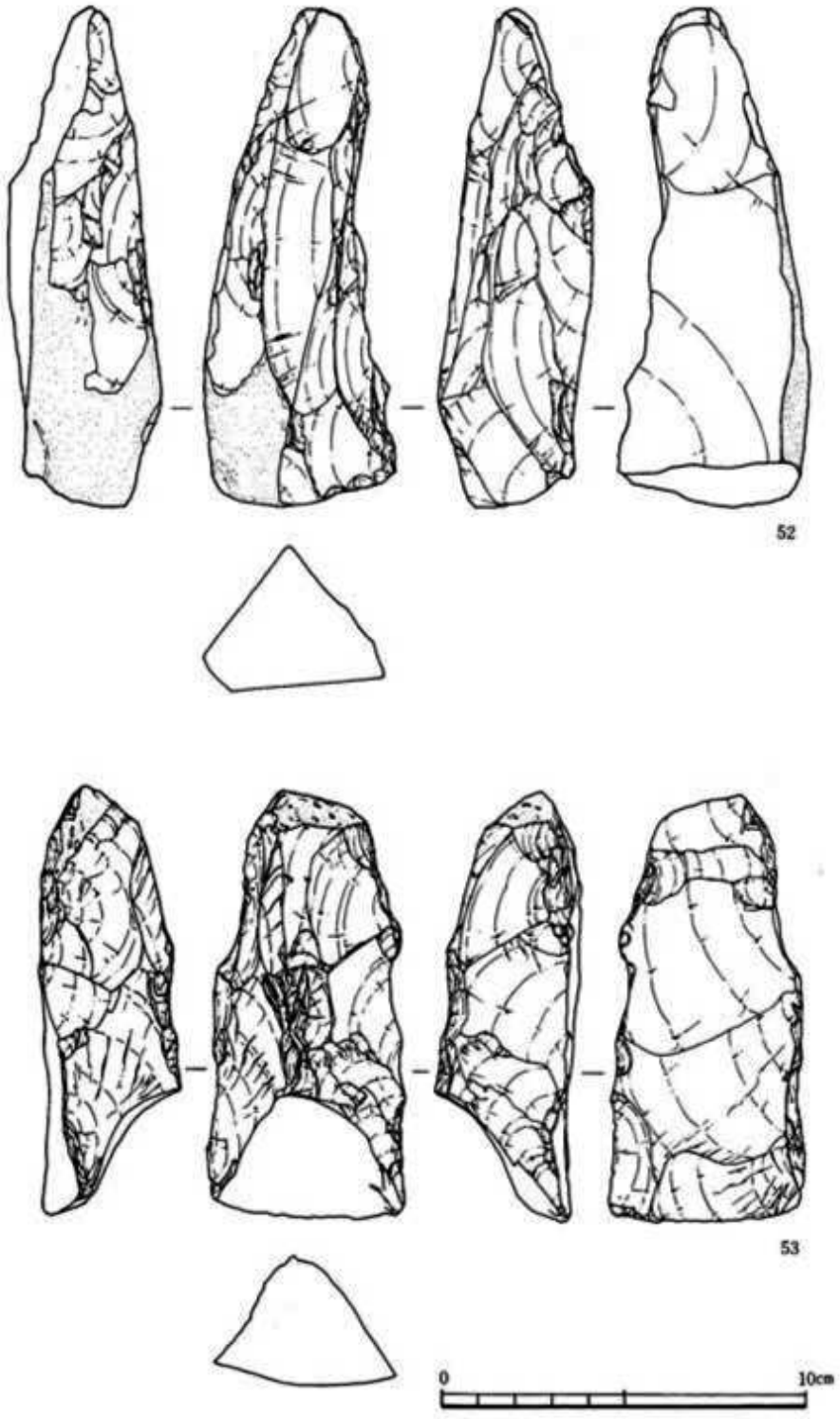
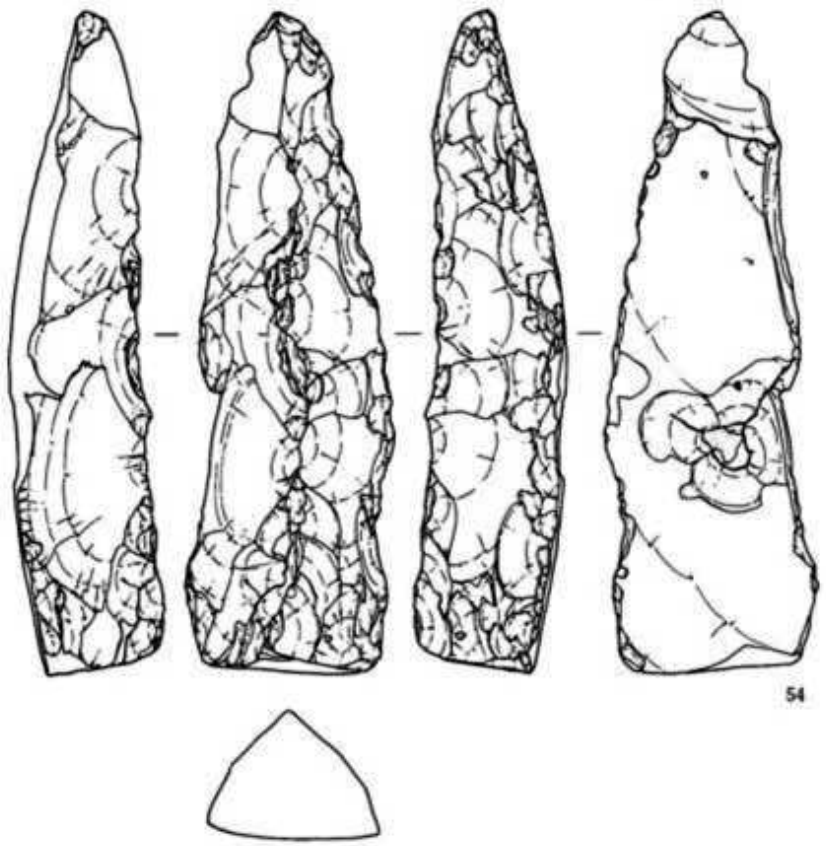


Fig. 112　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図



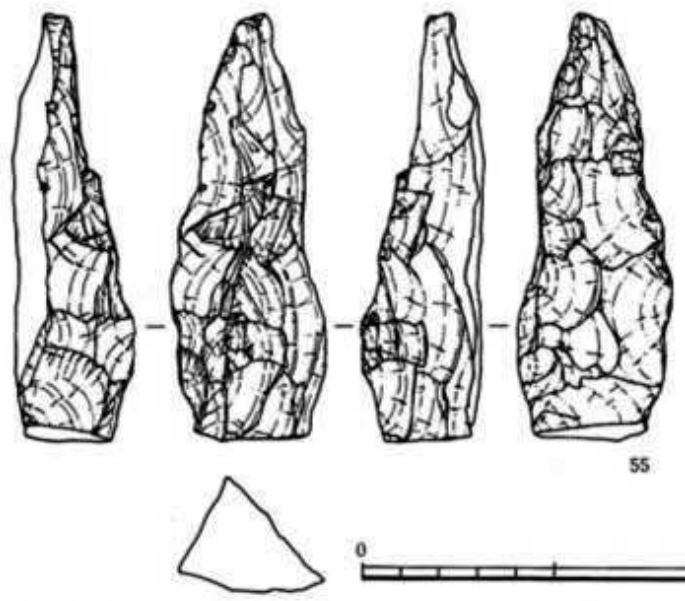


Fig. 113　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

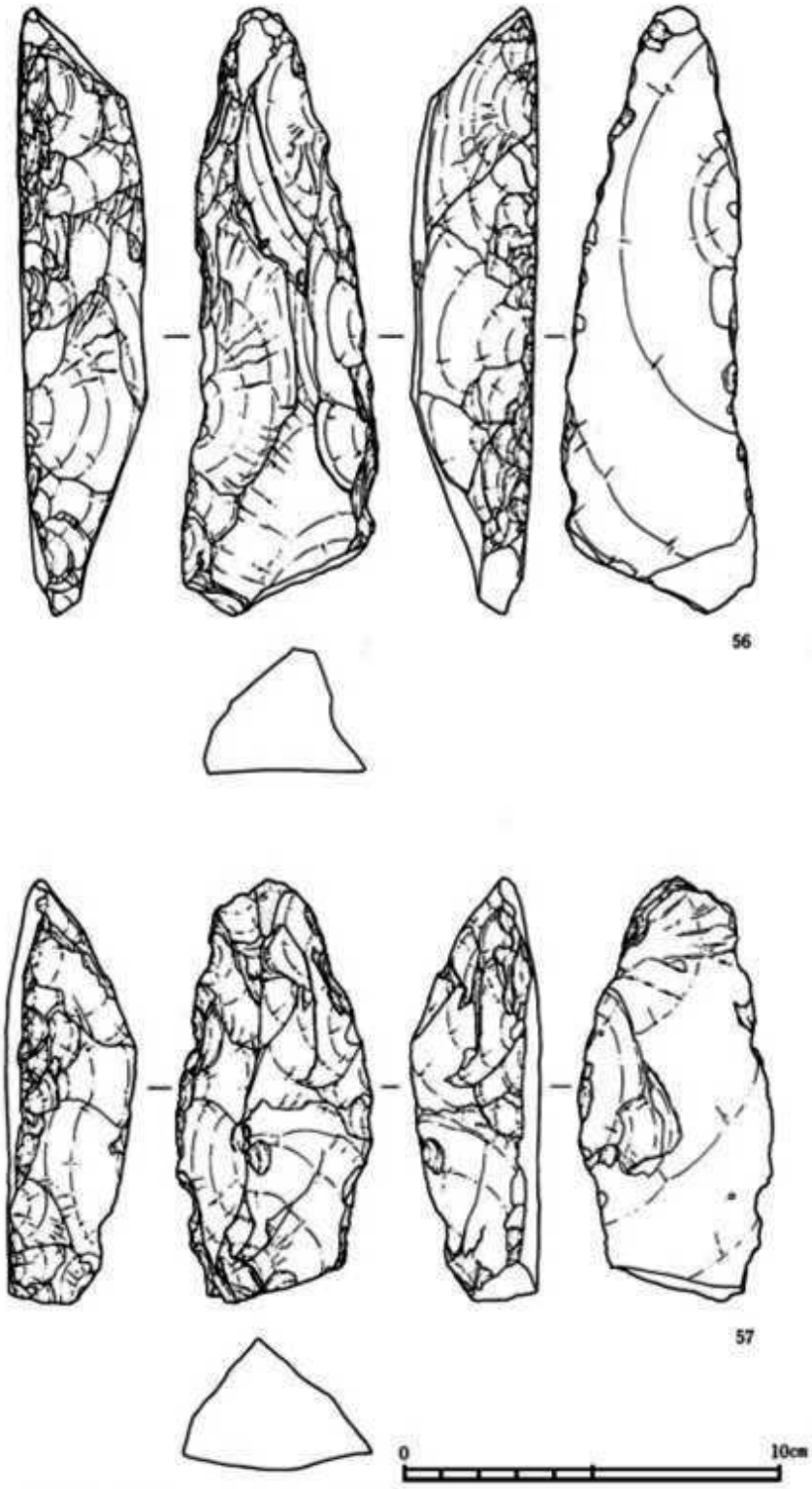


Fig. 114　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

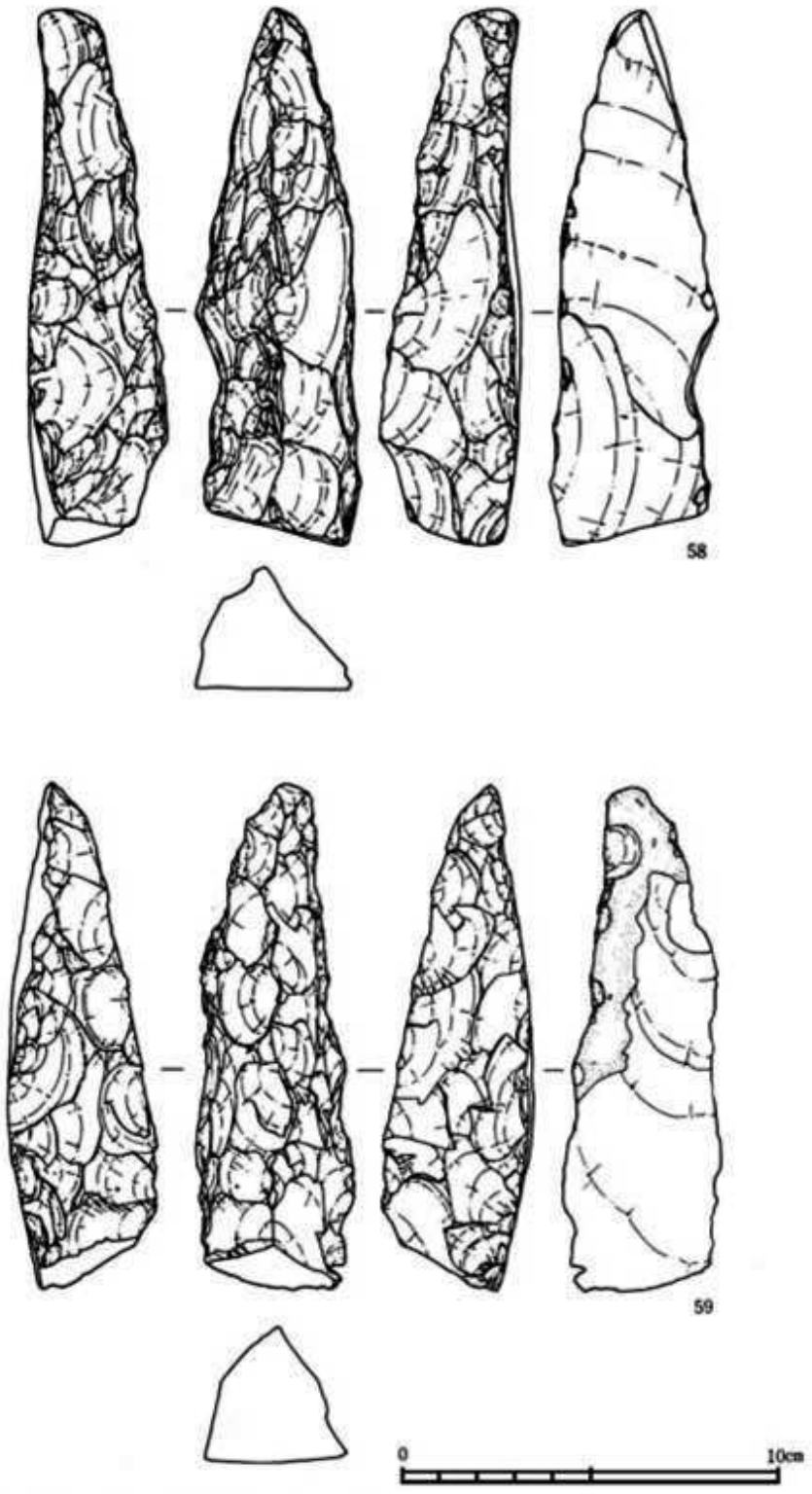


Fig. 115　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

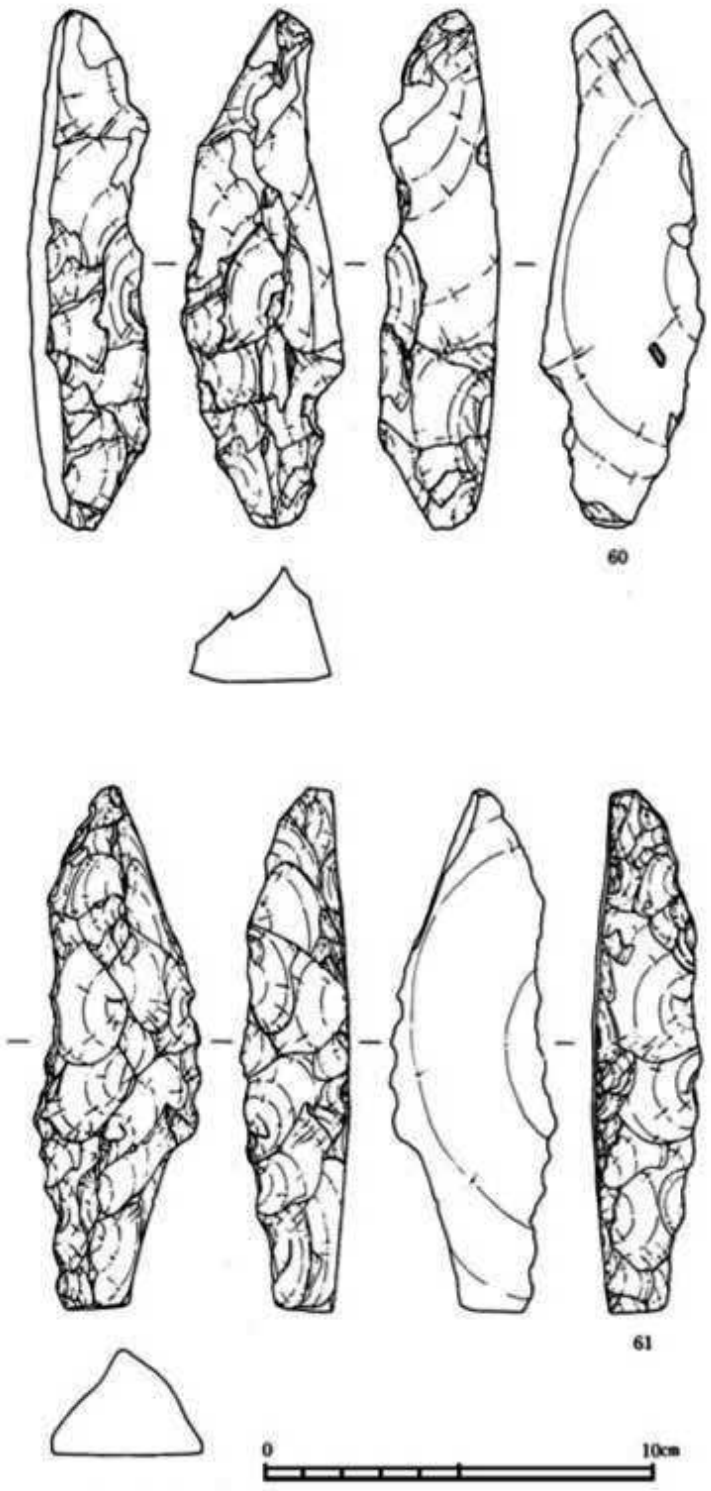


Fig. 116　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

剝出されている。単剝離面打面から剝出された縦長剝片は、約15%である。残りは打面の一部に礫面を残す部分調整の打面であり、原石面打面の石核を打面再生した石核から剝出されたものであろう。単剝離面打面を持つ縦長剝片は原石面打面を持つ縦長剝片よりパティナが進行している。単剝離面打面の石核は数点出土しているが、同じようにパティナは進行し、原石面打面の石核や剝片と明らかな違いがみられる。原石の硬度の違いや上位からの流れ込みだけが原因とは考えられず、時代的な差も検討する必要がある。7・8・10・13～15・17・18・21～23・26・27・29・32は原石面打面の石核から剝出された縦長剝片である。7・10・13・18・23・26・32は剝片の一部に礫面を残し、石核の形状や大きさ、剝出の順番などがわかる。8・12・14・15・17・22・27・29は礫面を残さない。細身で薄い剝片が多い。21は打面が潰れ、打面の調整が不明な細身で薄い剝片である。

9・16・19・24・25・28・30・33は単剝離面打面の石核から剝出された縦長剝片である。16・19・33を除きパティナは進んでいる。9・24・28・30は礫面がない。11・20・31は打面部が折損した縦長剝片である。3点とも礫面を残し、パティナも進んでいないことから原石面打面の石核から剝出された剝片であろう。長さ6.0～14.0cm、幅1.8～4.0cm、厚さ0.5～1.7cm、重さ6～77g。第Ⅱ調査区上面、第Ⅲ調査区上面と包含層からの出土である。

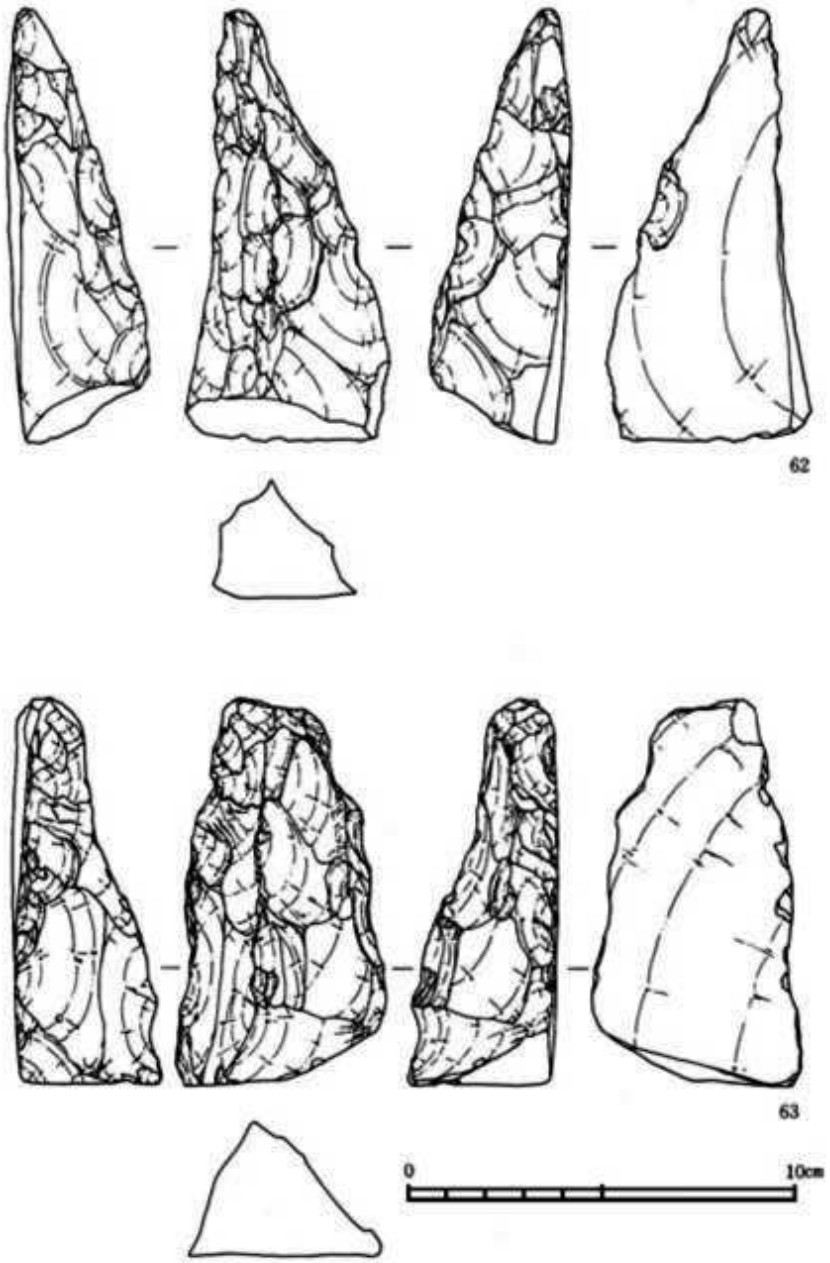


Fig. 117　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

ナイフ形石器（Fig.104、PL.63）

長尾開拓遺跡から出土した全遺物を点検したが、ナイフ形石器は２点だけが出土している。34は第Ⅲ調査区上面で出土した縦長剥片を素材に用いたナイフ形石器である。磨耗が著しく上位からの流れ込みと考えられる。ブランティングは基部両側と片側辺に施している。打面は先端部のブランディング加工によって除去されている。長さ8.4cm、幅3.0cm、厚さ1.1cm、重さ

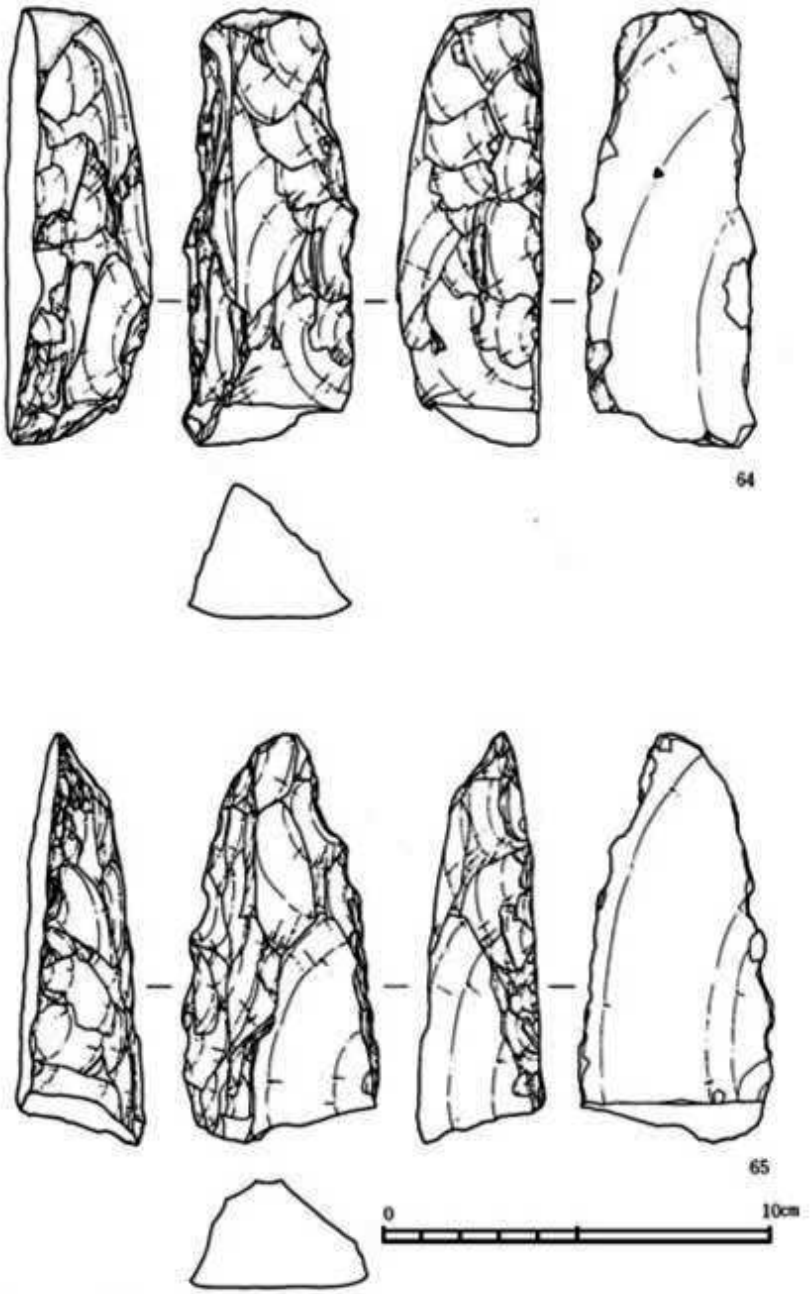


Fig. 118　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

33.8g。35は第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構10E11から出土したナイフ形石器である。基部は折損し、全体の形状は不明であるが、縦長剥片を素材に用いている。ブランティングは片側面に施されている。断面は台形である。幅4.9cm、厚さ2.2cm、重さ107g。

三稜尖頭器（Fig. 105, PL. 64）

6D25から出土した横長剥片を素材に用いた二側面加工の三稜尖頭器である。腹面から両側面に大まかなブランディング加工を施しただけで細部調整は行っていない。片先端に礫面を残し、一方の先端は折損している。パティナは進んでいない。断面は台形である。長さ8.6cm、幅2.6cm、厚さ1.45cm、重さ42g。

船底形石器（Fig. 105～123, Tab. 33, PL. 64－70）

第Ⅱ調査区と第Ⅲ調査区の上面や、第Ⅲ調査区包含層、表面採集によって38点が出土した。素材に用いた剥片の形状は横長剥片を用いたもの30点、縦長剥片を用いたもの8点である。剥片の腹面に調整を施した三面調整が4点、腹面を調整しない二面調整は34点あり、うち1点は腹面から2回の調整で平坦面を作った一面調整のもの1点が含まれている。調整の技法は腹面から両側面に調整を施したものと、さらに背面の

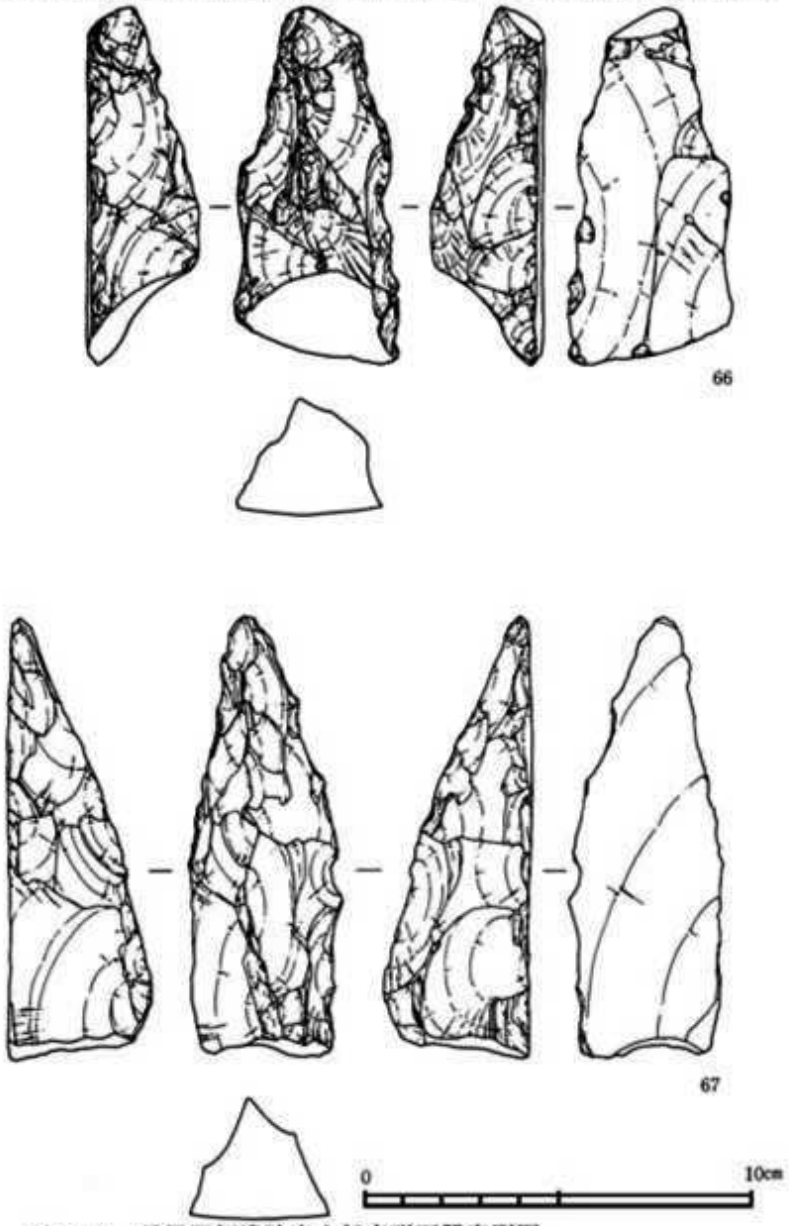


Fig. 119　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

稜部分を打面として両側面に調整を施した２種類に分類される。石器の一部に礫面を残すものが17点あり、13点は先端部に礫面を残している。昭和35年に調査された三年山遺跡では11点の船底形石器が出土、11点とも二面調整と報告されている。37は三面調整の小形の船底形石器である。横長剥片を素材に用い、先端部に礫面を残す。ナイフ形石器や剥片尖頭器と共伴する三稜尖頭器の１種であろうか。第Ⅱ調査区13Ｅ８の上面で出土、上位からの流れ込みであろう。長さ7.1cm、幅2.7cm、厚さ2.0cm、重さ49ｇを計る。38～74の37点のうち、38～44・46・47・51～57・60～69・72～74は素材に横長剥片を用いている。45・48～50・58・59・70・71は縦長剥片を素材としている。石器の完形品は２点、一部分を折損するもの６点、$\frac{3}{4}$以上を残すもの26点、$\frac{3}{4}$以上を失うもの３点になる。40は幅、6.4cmを計り、42は長さ21.2cmの完形品で、大形である。47・48・71は先端部や中央分にやや大きな礫面を残し、先端部は丸味を持ち、調整も腹面からだけ施し粗雑で定形化されていない。製作中途のものであろう。45・49・52・53・63・64・73は先端部に礫面を残すものや先端部が尖らないもので、基部と考えられる。38～44・46・50・54～62・65～70・72・74は細部の調整が施され、先端部は刃部であろう。船底形石

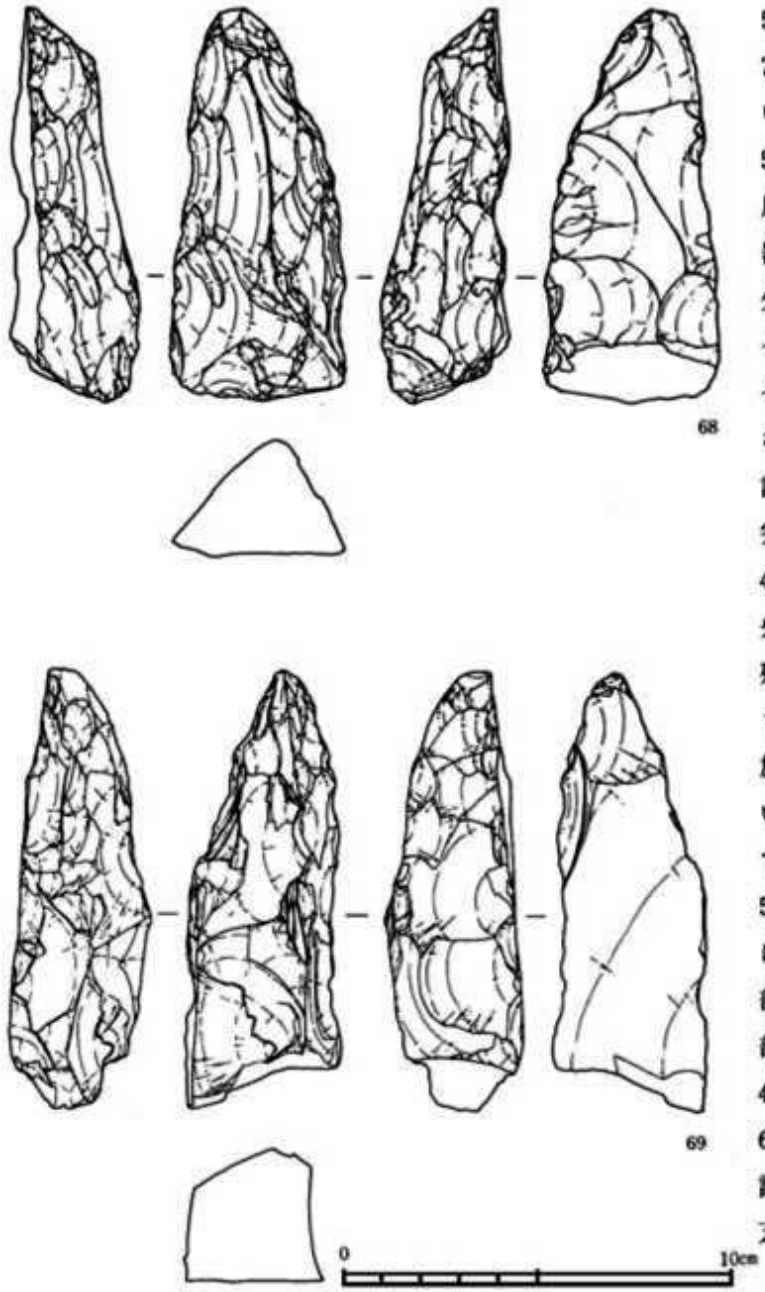


Fig. 120　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

器は、これまで三年山遺跡のほかに茶園原遺跡や長尾松隈遺跡から尖頭器と共に表面採集されているが、その数は4～5点ずつで、38点もの出土は長尾開拓遺跡だけであり、38点全てを図化し、計測表を加えた。

台形様石器（Fig.124、PL.70）

第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構の10D15から尖頭器や横長剝片・石核と共伴して出土した。サヌカイトの横長剝片を素材に用いている。剝片の背面からの調整で打面を除去し、腹面から背面に平坦剝離で調整している。山王遺跡から出土した台形様石器と同類の枝去木型と称されるもので、形状は撥形である。長さ4.9cm、刃部幅3.45cm、基部幅1.6cm、厚さ0.95cm、重量は13gを計り、台形様石器としては大形である。全遺物中1点だけが出土した。

尖頭器（Fig.125～127、Tab.34、PL.71）

長尾開拓遺跡から出土した石器の大部分は尖頭器である。第Ⅰ調査区から13点、第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構とその周辺で約400点、第Ⅱ調査区上面と第Ⅲ調査区上面および包含層から約600点が出土。

総数は1,000点以上になる。第Ⅱ調査区上面、第Ⅲ調査区上面および包含層で出土した尖頭器は磨耗が著しく、西側の丘陵付近から流れ込んだものと考え

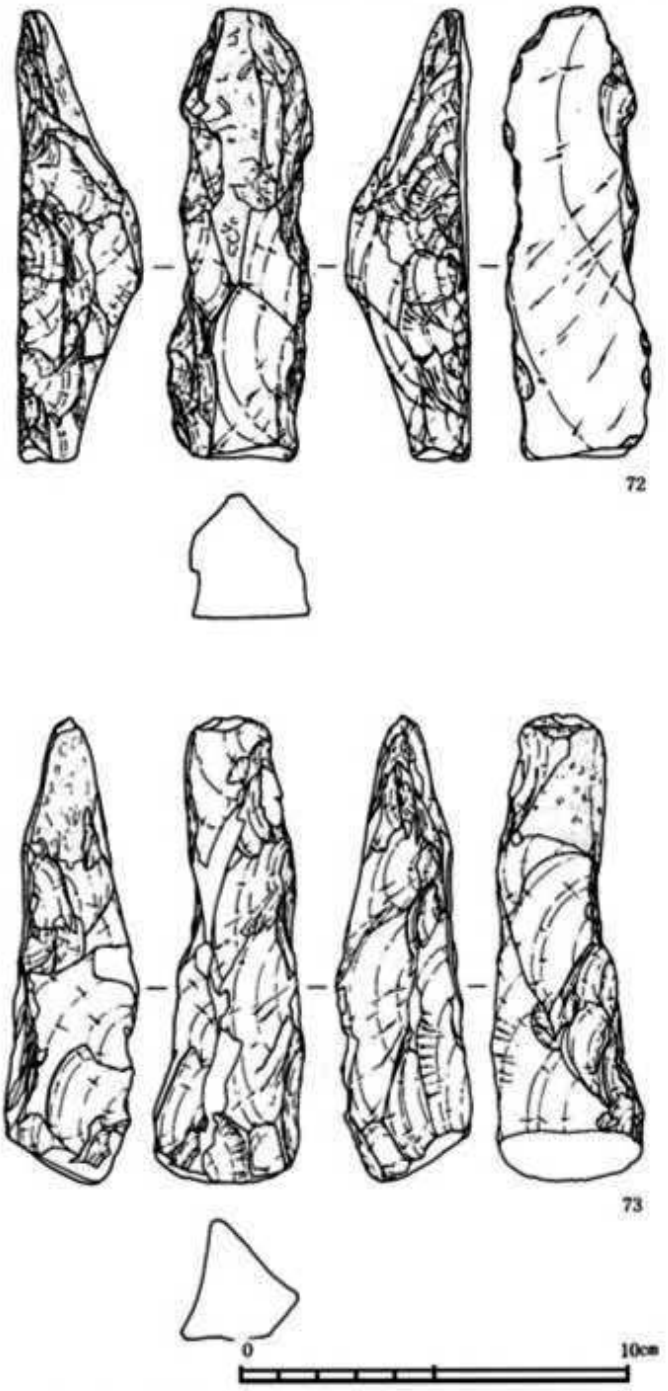


Fig. 121　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

られる。尖頭器の形状は、両面調整の大形尖頭器で木葉形が最も多く、柳葉形は少ない。昭和36年に第Ⅲ調査区付近で表面採集された圭頭形に類似する尖頭器は今回の調査では1点も出土しなかった。遺跡の中で遺物群が原位置を保っていたのは第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構だけで、遺物の出土状態は茶園原西畑遺跡と全く同じ状況であった。遺物の組成は原石、石核、剥片、砕片、尖頭器のほかにナイフ形石器、台形様石器が1点ずつ含まれた。尖頭器製作工房跡遺構とその周辺の同一層から出土した約400点のうち、360点について計測を行い、その特徴を調べた。尖頭器の99%以上は2～4点以上に折損し、完形品は2点だけである。尖頭器の一部に礫面を残すものが115点あり30%以上を占める。115点中93点が先端部に礫面を残し、うち23点が角礫の平坦面をそのまま先端部に残し25%を占める。また剥離面の平坦面を先端部に残す尖頭器も14点あり、先端部に平坦面を持つ尖頭器は計37点を数え、360点の10%以上になり、槍先としての機能を果さない。基部になるのか製作中途の段階であるのかの判断はできない。細部の調整が行われずに製作中途に折損した未製品は11点あり、大形で、厚味があり、粗雑な調整であるが、礫面を残さないものが4点含まれる。尖頭器の形状は木葉形が

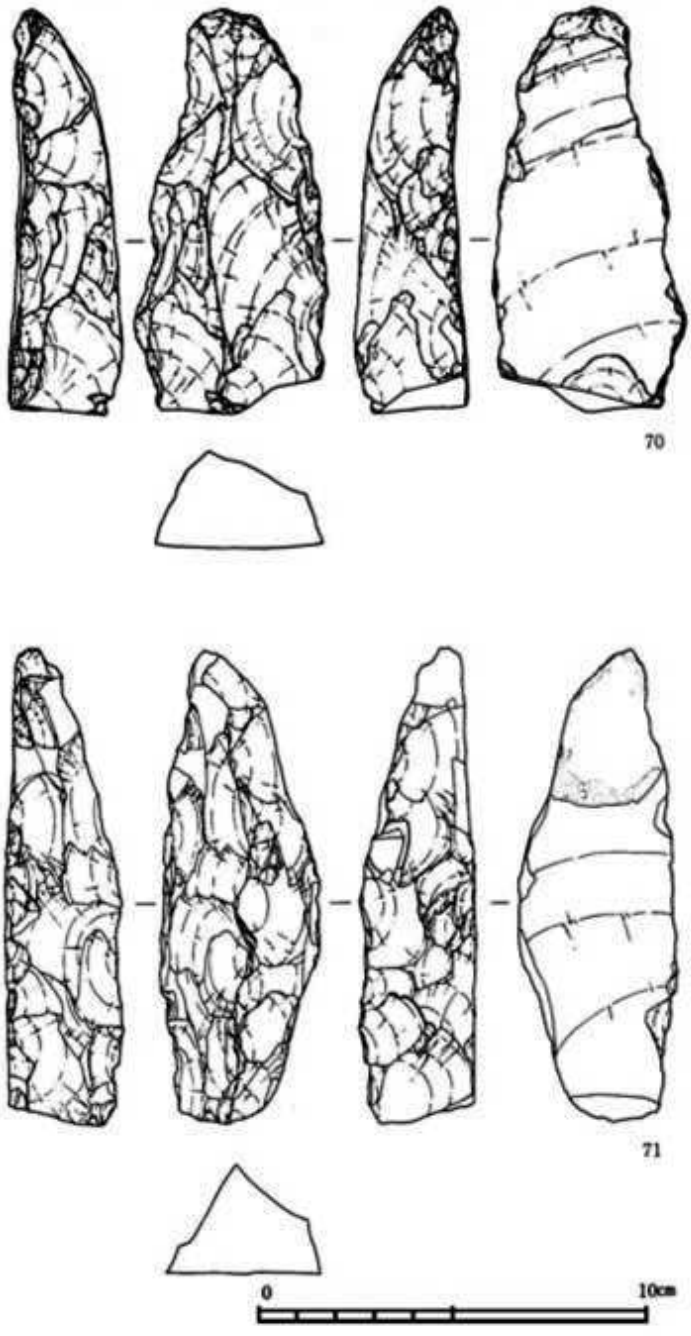


Fig. 122　長尾開拓遺跡出土船底形石器実測図

92.7%を占める334点になる。柳葉形は25点が出土、6.9%になる。これに片側先端が石斧状になるもの1点が含まれる。

調整は階段状調整の後、ウロコ状調整を施したものが最も多く、ウロコ状調整の後、押圧調整を施したものは3点だけである。未製品のものは階段状調整の時点で折損している。背面は全面調整を施し、腹面が縁辺調整だけの尖頭器は2点が出土している。折損した尖頭器のほとんどが階段状調整の時点で折損する原因となる調整が行われている。

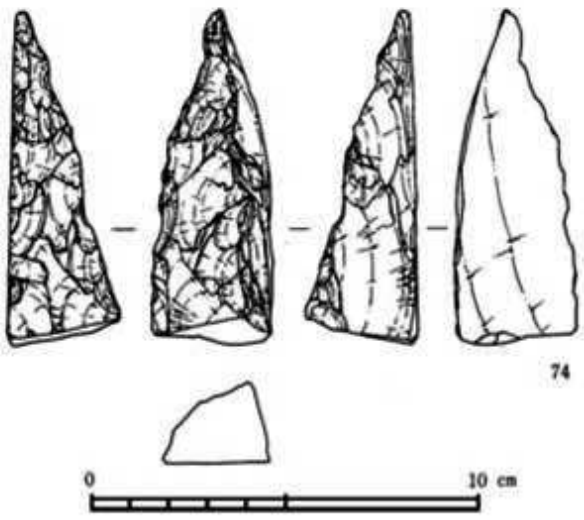


Fig. 124　J3尾開拓遺跡出土船底型石器実測図

76は10D10と10E22から出土し、接合した大形の尖頭器である。片方の先端部を失い3点に折損しているが、復元すると長さ25cm以上になる。77は10E11と10E23から出土した尖頭器で中央部付近で折損している。やや三日月状に湾曲し、横長の剥片を素材に用いたためであろう。階段状調整の痕跡はほとんど残さない丁

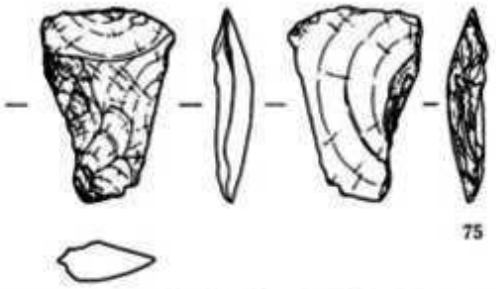


Fig. 124　長尾開拓遺跡出土台形様石器実測図

重なウロコ状調整で薄く仕上げ、細部調整を施している。折損部分での断面厚は0.85cmと薄い。片方の先端部の一部を失い、長さ20.1cm、重さ130.5g。先端部に礫面を残す。78は10D15と10E11から出土し、接合した大形の尖頭器である。先端部の一部を失い3点に折損している。横長剥片を素材に用い階段状調整を施した後、ウロコ状調整を部分的に施している。復元すると長さ約25cmになる。最大幅は6.8cm、折損部での断面厚2.4cm、最大厚2.6cm、重さ411.8gを計る。79は10D16から出土した細身の木葉形尖頭器である。腹面はウロコ状調整が施さ、背面は階段状調整後、ウロコ状調整を施し、部分的に細部調整が施されている。長さ16.3cm、幅4.1cm、厚さ1.4cm、重さ97.5gを計る。80は10D 9の下層から出土した完形の有肩尖頭器である。背面の中央部に礫面を残す。背面は階段状調整の後、ウロコ状調整を施し、両先端に細部調整を施している。腹面も部分的に階段状調整を施した後、ウロコ状調整を施している。腹面

の中央部のやや下部に着柄のための調整を施し肩部を作り出している。基部と刃部が区別できる数少ない有肩尖頭器である。長さ18.2cm、最大幅6.4cm、厚さ2.5cm、重さ240ｇを計る。

その他の遺物

長尾開拓遺跡から出土した旧石器時代の遺物の中で最も多量に出土した遺物は不定形石核から剥出された横長剥片と不定形剥片である。第Ⅰ調査区～第Ⅲ調査区で出土した遺物の量は膨大な量であり、現在も整理中であるため正確な数は把握していないが遺物収納用コンテナ数百箱分になろう。大形の横長剥片の大部分は尖頭器の素材に用いられているため、出土数は少ないが、石核の調整段階で生じる剥片が最も多いようである。砕片は第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構から多量に出土した。２×２ｍの小グリットで約8,000点が出土している。不定形石核は遺跡全域で出土。横長剥片、不定形剥片を剥出した石核であるが、20cm以上の大形尖頭器の素材になる剥片を剥出した石核はほとんどない。大形剥片を剥出した後も剥片剥出を続けた

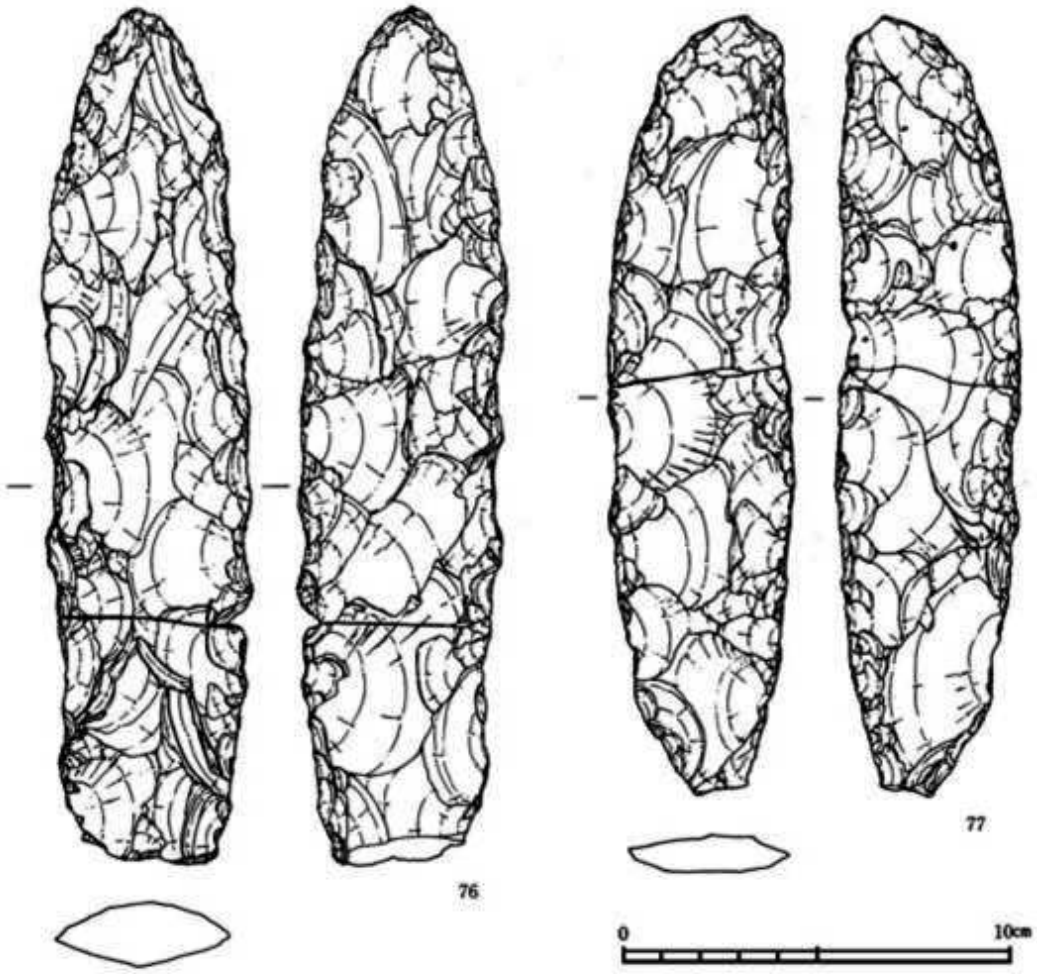


Fig. 125　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図

ようであるが、尖頭器以外に小形の石器は出土しておらず、その目的は不明である。

尖頭器の接合資料（Fig. 128）

第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構とその周辺で出土した約400点の尖頭器の接合を試みた。8例17点が接合した。茶園原西畑遺跡では尖頭器167点が出土、26例56点が接合し、長尾開拓遺跡を上回っている。接合した尖頭器の距離は0.6m、1.1m、1.6m 2例、3.5m、4.6m、5.6m、2.0mと12.2mになる。0.6～1.6mの4例は折損後、ほとんど移動していない。接合できなかった残る380点の尖頭器のうち、3～4点に折損し、同一石質で中間部を欠くもの数例があり、尖頭器の総数は若干減少するようであるが、接合できなかった350点以上の尖頭器の片方が今回出土しておらず、第Ⅰ調査区、第Ⅲ調査区出土の尖頭器を再点検する必要がある。

（Fig.128の接合資料番号は Tab.34の遺物番号である。）

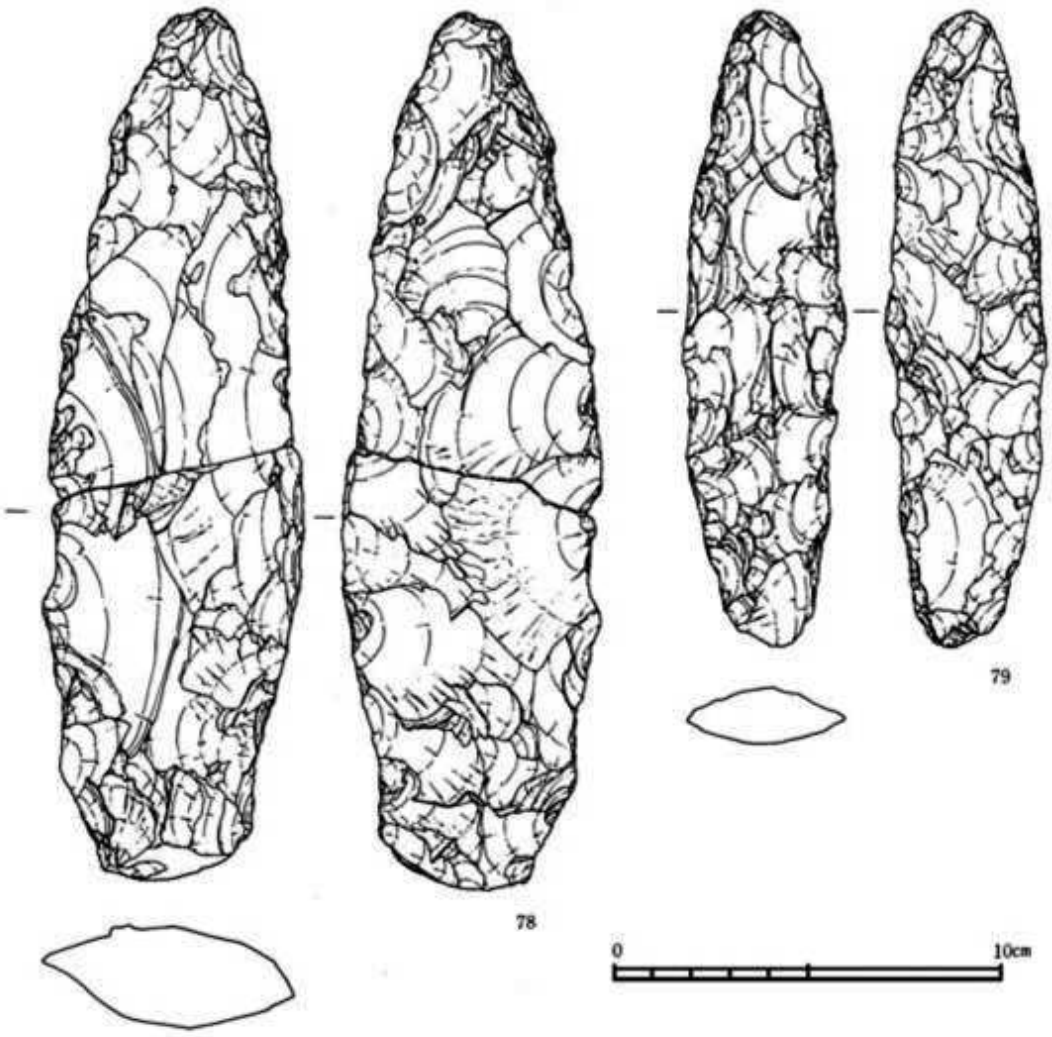


Fig. 126　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図

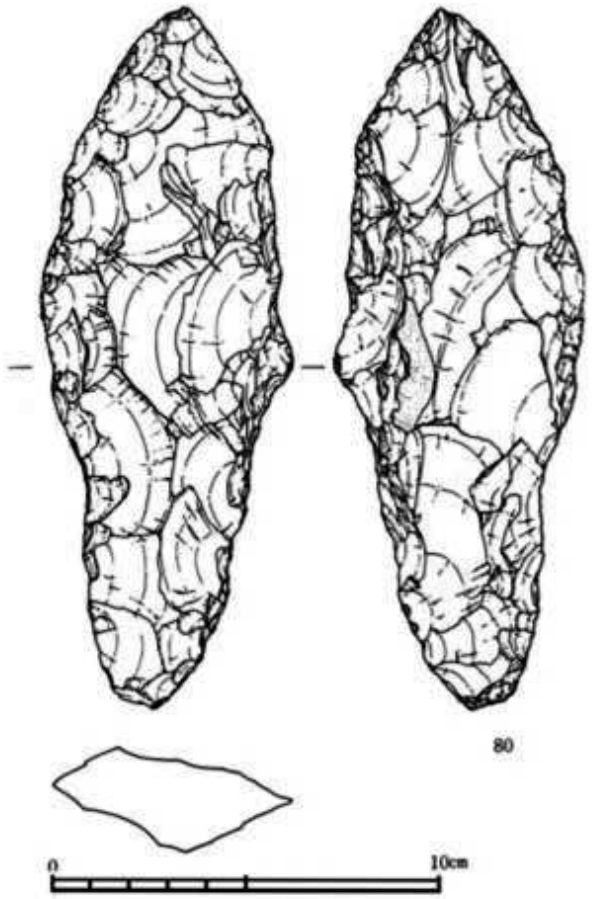


Fig. 127　長尾開拓遺跡出土尖頭器実測図

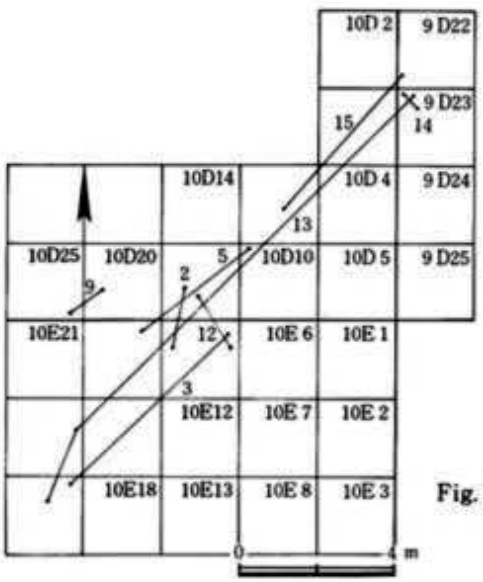


Fig. 128　長尾開拓遺跡第Ⅱ調査区
尖頭器製作工房跡遺構出土尖頭器接合関係図

Tab. 33　長尾開拓遺跡出土船底形石器計測表

石器番号	出土区	素材剥片形状	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折 損	挿図番号	備　　考
1	13E-8	横長剥片	7.2	2.7	2.1	41.5	先端部	中央部	37	三面調整
2	14F3	横長剥片	8.0	5.2	3.4	136.0	無	一部	38	
3	7G-18	横長剥片	7.2	4.9	3.4	99.8	〃	〃	39	
4	11E-12	横長剥片	15.8	6.4	4.5	338.5	先端部	一部	40	
5	表　採	横長剥片	10.3	4.7	3.8	175.8	先端部 片面中央部	一部	41	
6	6E-19	横長剥片	21.1	5.8	4.9	625.0	無	完　形	42	
7	13F-19	横長剥片	9.3	3.7	3.1	96.5	背面中央部	一部	43	
8	12E-18	横長剥片	14.3	5.7	4.7	384.0	〃	一部	44	
9	17H-8	縦長剥片	12.4	5.3	3.8	250.5	背面先端部	一部	45	
10	7E-14	横長剥片	13.9	5.3	4.2	280.5	背面片面 中央部	一部	46	
11	18I-4	横長剥片	12.7	5.6	3.5	265.5	背面中央部 先端部	一部	47	
12	8E-13	縦長剥片	14.8	4.9	3.1	195.5	背面先端部 ～中央部	一部	48	
13	10D-17	縦長剥片	12.4	5.7	3.5	226.0	無	中央部	49	
14	12F-1	縦長剥片	12.4	5.8	4.1	236.0	〃	〃	50	
15	16H-11	横長剥片	14.8	4.4	3.8	226.0	〃	一部	51	
16	8D-11	横長剥片	13.4	5.0	3.7	245.5	片面中央部	一部	52	
17	7G-18	横長剥片	11.6	5.5	3.6	231.0	先端部	一部	53	三面調整
18	8L-14	横長剥片	17.8	5.4	3.6	323.8	無	一部	54	
19	表　採	横長剥片	11.0	3.8	3.0	99.5	〃	〃	55	三面調整
20	12E-2	横長剥片	16.0	5.0	3.2	272.6	先端部	一部	56	
21	12E-17	横長剥片	11.3	5.3	3.4	174.0	〃	一部	57	
22	11E-21	縦長剥片	14.2	4.2	3.6	202.5	無	〃	58	
23	16G-19	縦長剥片	13.5	4.2	3.8	189.8	〃	一部	59	
24	16G-9	横長剥片	13.3	4.0	3.1	138.0	〃	完　形	60	
25	19H-10	横長剥片	13.5	4.2	2.8	133.5	〃	一部	61	
26	11E-17	横長剥片	11.2	5.6	3.3	150.0	〃	中央部	62	
27	10D-4	横長剥片	10.0	5.4	3.7	176.0	片面先端部 付着	〃	63	
28	9D-21	横長剥片	11.0	4.3	3.3	172.0	先端部	一部	64	
29	表　採	横長剥片	10.4	5.1	3.1	154.5	無	中央部	65	
30	7D-19	横長剥片	9.2	4.3	2.9	95.5	〃	〃	66	先端部折損
31	10D-15	横長剥片	11.4	4.0	3.7	129.5	〃	一部	67	
32	10C-23	横長剥片	10.3	4.7	3.8	133.5	〃	一部	68	
33	表　採	横長剥片	11.5	4.0	3.6	154.0	〃	一部	69	
34	11E-7	縦長剥片	10.4	5.0	2.9	140.0	〃	一部	70	
35	17I-9	縦長剥片	11.5	3.6	2.9	130.0	先端部 ～中央部	一部	71	
36	8C-2	横長剥片	11.2	4.1	2.9	135.0	無	一部	72	
37	17L-8	横長剥片	12.1	3.3	3.0	138.0	先端部	一部	73	三面調整
38	17H-5	横長剥片	8.6	3.2	3.0	60.5	無	中央部	74	

Tab. 34　長尾開拓遺跡出土尖頭器計測表

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
1	10D-16	上層	木葉形	16.3	4.1	1.4	97.5	無	完形	79	
2	10E-11 10D-15	下層 上層	〃	22.2	6.8	2.8	411.8	〃	先	78	片側先端部折損
3	10E-11 10E-23	下層 上層	〃	20.1	4.8	1.4	130.5	先端部	完形	77	先端部一部折損
4	10D-9	下層	〃	18.2	6.4	2.5	240.0	片面中央部	〃	80	
5	10D-10 10E-22	下層 上層	〃	20.6	5.0	1.8	212.5	無	基	76	3点以上に折損
6	10E-12	上層	〃	15.3	4.6	1.7	107.8	片面中央部	完形		
7	10D-11	上層	〃	18.6	5.1	3.0	232.5	片面先端部	〃		
8	10E-17	上層	〃	20.2	6.5	4.0	373.0	無	〃		
9	10D-20 10D-25		〃	19.0	4.8	1.4	124.0	〃	〃		
10	10D-4	上層	〃	11.7	4.6	1.6	93.5	〃	〃		
11	9D-19	上層	〃	14.1	4.3	2.0	101.0	〃	〃		
12	10E-11 10D-15	下層 下層	〃	18.8	4.8	1.6	157.5	〃	基		3点以上に折損
13	10D-25 10E-22 9D-23	上層 上層 上層	〃	23.0	5.7	2.7	338.5	〃	先		片側先端部折損・4点以上に折損
14	9D-23 9D-23	上層 上層	〃	17.0	4.8	1.9	239.9	先端部	完形		
15	9D-22 10D-9	上層 上層	〃	12.1	4.0	1.1	58.0	無	中央部		3点以上に折損
16	10D-15	下層	柳葉形	12.7	3.2	1.2	52.0	〃	下		
17	9D-22	上層	〃	10.0	3.0	1.25	44.2	〃	下		
18	10D-10	上層	木葉形	10.6	3.3	1.1	47.5	〃	下		
19	10D-15	下層	〃	13.9	4.1	1.6	103.9	〃	基		
20	10D-12	上層	柳葉形	15.0	3.9	1.45	98.1	〃	〃		
21	10D-15	下層	〃	10.5	3.9	1.2	50.8	〃	下		
22	10D-9	上層	木葉形	6.8	3.4	1.0	20.5	〃	下		
23	10D-4	上層	柳葉形	5.5	2.3	0.7	8.0	〃	上		
24	10E-16	上層	〃	6.4	3.4	1.2	22.0	〃	基		
25	10E-11	下層	木葉形	9.0	4.1	1.2	39.8	〃	中央部		
26	10E-22	上層	〃	9.1	4.3	1.7	63.5	〃	下		
27	10E-12	上層	〃	8.8	3.9	1.3	38.0	〃	中央部		
28	10D-4	上層	〃	9.0	4.2	1.5	51.0	〃	〃		先端部折損
29	10D-3	上層	〃	6.1	3.7	1.0	20.5	〃	〃		
30	10D-10	上層	〃	6.5	3.4	1.4	27.0	〃	〃		
31	10D-3	上層	〃	5.8	3.6	1.1	23.5	先端部	〃		
32	10D-15	下層	柳葉形	9.8	3.7	1.8	65.6	無	〃		
33	9D-25	上層	〃	11.1	3.9	1.4	68.5	〃	基		
34	10E-11	上層	〃	7.5	3.6	1.3	30.5	先端部	〃		
35	10D-10	下層	〃	12.1	4.1	1.7	59.8	無	下		
36	10D-9	上層	〃	5.3	3.4	1.2	18.5	〃	上		先端縦面は平担面
37	10D-10	下層	〃	10.9	4.2	1.7	18.5	先端部	中央部		
38	10E-16	上層	木葉形	10.3	4.9	1.6	74.0	先端部	下		
39	10D-10	下層	柳葉形	9.3	3.8	1.4	42.0	片辺先端部から中央部	中央部		

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重み(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
40	10E-12	上層	柳葉形	6.5	2.9	1.0	17.5	無	1/3		
41	10D-3	上層	木葉形	5.9	2.3	1.0	17.9	先端部	〃		先端縁面は平担面
42	10D-3	上層	〃	8.7	4.5	1.6	46.5	〃	完		〃
43	10D-20	上層	〃	11.7	4.3	1.5	61.9	片面先端部	中央部		
44	10D-18	上層	〃	10.8	4.4	1.7	67.0	〃	完		
45	9D-22	上層	〃	8.4	4.9	1.3	46.0	無	〃		先端部折損
46	9D-22	下層	〃	10.1	4.5	1.6	68.0	先端部	中央部		
47	9D-22	上層	柳葉形	7.7	3.6	1.2	23.5	無	完		先端部折損
48	10E-16	上層	木葉形	9.8	4.7	1.3	64.0	〃	完		先端部に平担面
49	10C-5	上層	〃	6.0	3.5	1.1	19.0	〃	1/3		
50	10E-23	上層	〃	10.2	4.4	1.7	67.5	〃	完		
51	10D-15	下層	〃	8.6	4.2	1.4	49.8	先端部	中央部		
52	10E-22	上層	〃	8.0	3.7	1.3	35.0	無	〃		
53	10D-15	上層	柳葉形	9.6	3.7	1.4	50.5	〃	〃		
54	10D-5	下層	木葉形	7.7	4.4	1.4	44.0	片面先端部	〃		
55	10D-20	上層	〃	7.0	4.9	1.4	30.0	無	1/3		
56	9D-22	上層	〃	9.0	4.3	1.6	66.0	〃	中央部		先端部折損
57	10D-9	上層	〃	13.8	5.6	1.9	149.0	先端部	1/3		片面は縁辺調整
58	9D-17	下層	〃	8.1	4.3	1.5	42.0	片面基部の一部	中央部		
59	10E-22	下層	〃	12.8	4.4	1.4	78.0	先端部	完		
60	10D-19	上層	〃	12.6	4.7	1.8	96.0	無	〃		
61	9D-22	上層	〃	8.8	4.1	1.5	59.0	〃	完		
62	10E-11	上層	〃	9.3	3.9	1.1	52.0	〃	〃		
63	9D-17	下層	柳葉形	6.2	3.5	1.3	25.0	〃	1/3		
64	10E-16	下層	木葉形	7.5	4.0	1.1	30.5	〃	完		
65	10D-10	上層	〃	6.1	3.8	1.1	23.0	〃	1/3		
66	10D-9	上層	柳葉形	10.8	3.7	1.2	39.5	〃	完		
67	10D-10	下層	木葉形	6.5	3.9	1.0	25.8	〃	1/3		
68	10D-9	下層	〃	7.8	3.9	1.2	35.6	先端部	完		
69	9D-22	下層	〃	7.5	3.9	1.4	44.0	無	完		
70	10E-11	上層	〃	7.1	3.8	1.4	24.0	〃	1/3		
71	10D-15	上層	〃	5.5	3.6	1.0	22.5	〃	完		
72	10E-11	下層	〃	5.7	3.3	0.9	27.0	〃	不明		
73	10E-16	下層	〃	8.2	3.8	1.4	41.5	〃	完		
74	10E-22	上層	〃	8.0	3.7	1.4	30.5	〃	中央部		
75	9D-22	上層	〃	6.7	4.9	1.2	33.5	〃	1/3		
76	9D-22	上層	〃	7.4	3.8	102	35.0	〃	完		
77	10D-10	下層	〃	6.4	5.6	1.4	50.0	〃	1/2		先端部折損
78	9D-22	上層	柳葉形	9.0	4.0	1.5	44.0	〃	完		
79	10D-20	上層	木葉形	5.6	3.7	1.0	20.0	〃	1/2		先端部折損

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
80	9D-17	下層	木葉形	7.2	3.9	1.2	32.0	先端部	完		
81	10D-15	上層	〃	6.9	4.15	1.05	22.7	〃	1/2		
82	10D-10	上層	柳葉形	14.1	4.2	1.5	100.0	無	中央部		押圧剥離
83	9D-23	上層	木葉形	10.3	4.5	1.5	78.0	〃	〃		
84	10D-10	下層	〃	8.7	4.4	1.4	54.2	〃	〃		押圧剥離
85	表採	一層	〃	10.2	4.4	1.2	58.0	〃	完		先端に平担面
86	10E-11	下層	〃	8.1	4.0	1.25	42.8	〃	〃		
87	10D-20	上層	〃	6.0	3.7	1.5	29.9	先端部	1/2		
88	9D-18	上層	〃	7.3	4.3	1.3	40.2	無	〃		
89	10E-16	上層	〃	5.5	3.8	1.2	28.0	〃	〃		先端に平担部
90	9D-17	上層	〃	9.4	3.8	1.4	52.8	〃	中央部		
91	10D-20	上層	〃	7.7	4.05	1.3	46.0	〃	完		
92	10D-24	上層	〃	10.7	4.5	1.4	74.0	〃	完		
93	10D-4	上層	〃	13.0	5.05	2.0	138.2	〃	〃		
94	10D-20	上層	〃	12.1	4.0	1.95	98.0	〃	完		
95	10E-17	上層	〃	12.0	4.3	2.35	117.2	〃	完		
96	10D-11	上層	〃	9.05	4.1	1.5	54.0	〃	1/2		
97	9D-22	下層	〃	9.6	4.6	1.35	66.1	〃	完		
98	9D-22	上層	〃	7.9	4.1	1.2	40.5	〃	〃		押圧剥離
99	10E-16	上層	〃	7.25	4.2	1.45	36.4	〃	1/2		
100	10D-15	上層	〃	7.4	4.5	1.05	37.0	片面先端部	〃		
101	9C-25	上層	〃	5.0	4.1	1.4	38.0	先端部	中央部		
102	9D-25	上層	〃	8.0	4.3	2.0	54.3	無	完		
103	10D-20	上層	〃	11.7	4.7	1.4	97.0	〃	完		
104	10E-22	上層	〃	11.75	4.9	1.75	130.2	〃	1/2		
105	10D-23	上層	〃	8.2	4.4	1.5	58.0	〃	1/2		
106	9D-17	下層	〃	10.6	4.5	1.3	68.0	〃	中央部		
107	10D-10	下層	〃	8.4	4.3	1.35	47.5	先端部	完		
108	10D-16	上層	〃	7.5	4.3	1.1	42.0	〃	〃		先端礫面は平担面
109	10D-20	上層	柳葉形	15.6	5.3	2.1	145.5	無	完		
110	9D-22	上層	〃	10.9	5.0	1.6	101.8	片面先端部	完		
111	9D-22	上層	木葉形	7.95	4.7	1.1	41.5	無	完		先端に平担面
112	10E-16	上層	〃	11.4	4.9	1.3	74.0	〃	完		
113	9D-22	上層	〃	11.8	4.8	1.65	80.0	〃	完		
114	9D-22	上層	〃	8.1	4.7	1.45	42.8	〃	完		
115	10E-17	上層	〃	9.4	4.5	1.1	50.5	片面先端部	中央部		
116	9D-22	上層	〃	11.2	5.3	1.4	84.0	片面中央部	〃		
117	10E-6	上層	〃	9.3	3.95	1.75	57.0	無	〃		
118	10E-11	下層	〃	8.5	4.6	1.3	46.5	〃	完		
119	10D-7	上層	〃	8.2	4.7	1.3	45.5	先端部	〃		

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
120	10D-15	上層	木葉形	8.95	4.5	1.3	55.5	先端部	1/2		
121	10E-22	上層	〃	9.8	4.1	1.35	50.5	片面一部	〃		
122	9D-22	下層	〃	9.4	4.5	1.7	67.8	先端部	中央部		先端縁面は平担面
123	10E-11	下層	〃	6.9	4.4	1.2	34.0	無	1/2		
124	9D-23	上層	〃	10.8	4.45	1.9	76.5	〃	中央部		
125	9D-22	上層	〃	6.85	4.95	1.35	38.0	〃	1/3		
126	10D-5	下層	〃	7.7	4.2	1.2	44.5	先端部	1/2		
127	10E-16	上層	〃	6.65	4.2	1.0	34.0	無	1/3		
128	9D-22	上層	〃	6.8	4.45	1.3	41.0	〃	〃		
129	9D-22	上層	柳葉形	6.8	3.6	1.3	29.5	片面先端部	1/2		
130	9D-23	上層	木葉形	6.55	4.3	1.85	40.0	無	1/3		
131	9D-23	上層	〃	8.1	4.5	1.2	45.5	〃	1/2		
132	10E-16	上層	〃	8.9	4.6	1.55	59.8	片面中央部	〃		
133	10E-17	上層	〃	11.6	5.0	1.45	81.9	無	中央部		
134	10E-11	下層	〃	7.35	4.45	1.3	44.5	片面先端部	1/2		
135	9D-22	上層	〃	8.2	4.65	1.5	40.0	無	〃		
136	10E-16	上層	〃	10.8	4.8	1.95	90.0	〃	1/3		
137	10E-11	下層	〃	8.7	4.9	1.7	62.0	先端部	1/2		先端縁面は平担面
138	10D-15	下層	〃	9.2	4.2	1.3	52.0	無	〃		先端に平担面
139	10D-9	下層	〃	9.85	5.1	1.75	82.0	〃	〃		
140	9D-17	上層	〃	13.65	4.8	1.3	83.9	〃	1/2		折損部から剥離
141	10D-10	下層	〃	9.8	4.9	1.3	67.5	先端部	中央部		先端縁面は平担面
142	10D-15	下層	柳葉形	8.8	4.9	1.2	38.0	無	〃		
143	10D-5	上層	木葉形	10.1	4.45	1.6	75.5	〃	1/2		
144	10D-10	下層	〃	9.5	4.3	1.55	56.5	先端部	中央部		
145	10D-3	上層	〃	12.3	5.7	1.25	71.0	無	〃		
146	9D-16	上層	〃	10.5	5.15	1.4	70.0	〃	〃		
147	9D-22	上層	〃	11.3	5.1	1.6	72.8	〃	1/2		
148	10D-5	下層	〃	7.8	4.95	1.24	46.0	〃	1/2		
149	10D-9	上層	〃	6.9	4.8	1.45	42.0	片面先端部	1/3		
150	10D-15	下層	〃	8.05	4.9	1.2	44.0	無	〃		
151	10E-23	上層	〃	11.0	4.7	1.5	76.0	〃	中央部		
152	10D-15	上層	〃	9.65	5.4	1.7	83.5	〃	1/2		
153	10E-11	下層	〃	7.5	4.15	1.05	33.0	先端部	1/3		
154	10D-10	下層	〃	9.6	4.7	1.55	66.5	〃	1/2		
155	10D-5	下層	〃	11.65	5.4	1.95	109.0	無	1/2		
156	10D-10	下層	〃	7.6	4.75	1.2	42.5	〃	1/3		
157	9D-22	下層	〃	8.5	4.7	1.6	50.5	〃	1/2		
158	9D-22	上層	〃	6.0	4.2	1.2	32.5	〃	1/3		
159	10D-20	下層	柳葉形	9.8	3.9	1.45	61.5	〃	1/3		

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
160	10D-15	下層	木葉形	7.4	4.45	1.35	47.0	片面先端部	一部		
161	9D-23	上層	〃	10.05	5.1	1.8	123.8	無	中央部		
162	10D-4	下層	〃	13.2	4.7	1.7	118.0	〃	一部		
163	9D-16	上層	〃	10.0	5.6	1.85	114.0	中央部	中央部		
164	10D-15	下層	〃	10.4	6.05	2.3	128.5	先端部	一部		先端裏面は平担面
165	9D-22	下層	〃	9.8	4.7	1.85	86.3	無	中央部		
166	10D-20	下層	〃	13.7	6.2	1.45	120.5	〃	〃		
167	10D-15	下層	〃	11.6	5.65	2.0	134.0	〃	一部		
168	10E-16	上層	〃	10.8	5.4	1.85	132.0	〃	中央部		
169	10E-16	上層	〃	10.8	5.2	1.9	102.0	先端部	一部		先端に平担面
170	10E-16	上層	〃	9.05	4.7	1.9	90.0	無	中央部		折損部から剥離
171	10E-11	上層	〃	10.2	4.9	1.9	88.0	〃	〃		先端に平担面
172	10D-15	下層	〃	10.5	4.9	2.6	128.1	〃	一部		先端に平担面
173	9D-22	下層	〃	10.8	4.75	1.65	91.0	〃	〃		
174	10D-16	上層	〃	10.3	4.5	1.60	82.0	先端部	中央部		
175	10E-11	上層	〃	10.1	4.7	1.55	76.5	無	一部		
176	10E-23	上層	〃	10.9	4.8	1.7	91.0	片面中央部	一部		
177	10E-11	上層	〃	9.1	5.3	1.6	86.0	先端部	〃		先端裏面は平担面
178	10E-22	上層	〃	9.0	4.5	1.85	84.0	片面・先端から中央部	〃		
179	10D-15	上層	〃	9.8	4.6	1.8	74.0	無	〃		
180	9D-21	下層	〃	8.4	5.0	1.15	55.9	〃	〃		
181	9D-23	上層	〃	9.95	4.5	1.5	71.0	片面・先端から中央部	〃		
182	10E-6	上層	〃	9.3	5.4	2.4	136.0	無	〃		
183	10D-15	上層	〃	9.1	5.0	1.85	92.8	〃	〃		
184	9D-25	上層	〃	7.5	5.5	1.55	74.0	〃	〃		先端部折損
185	10D-15	上層	〃	9.3	5.1	1.45	82.0	先端部	〃		先端裏面は平担面
186	10E-16	下層	〃	8.3	4.9	1.5	63.0	無	〃		
187	9D-22	上層	〃	8.1	4.8	2.1	79.0	〃	一部		
188	9D-23	上層	〃	5.8	4.6	1.5	38.0	〃	〃		
189	10D-10	上層	〃	7.8	4.6	1.1	46.0	先端部	一部		先端裏面は平担面
190	12D-4	下層	〃	5.8	5.4	1.0	29.0	無	一部		
191	10E-22	上層	〃	8.1	4.9	1.4	60.0	〃	一部		
192	9D-22	上層	〃	8.2	4.3	1.6	43.8	〃	〃		
193	10D-10	上層	〃	7.0	4.9	1.55	49.0	先端部	一部		
194	10D-15	上層	〃	7.3	5.3	1.15	49.0	無	一部		先端に平担面
195	10D-15	下層	〃	7.4	4.5	1.6	58.0	〃	一部		
196	10D-15	上層	〃	8.1	5.1	2.2	84.0	〃	〃		
197	10D-15	下層	〃	9.5	4.7	1.6	74.5	先端部	一部		先端裏面は平担面
198	10D-5	下層	〃	7.5	5.8	1.75	59.0	無	一部		
199	10D-20	上層	〃	4.8	4.7	1.8	48.0	〃	一部		

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
200	10E-11	上層	木葉形	7.65	4.9	1.5	61.8	片面先端から中央部	1/2		
201	10D-22	上層	〃	13.9	5.8	1.7	144.0	無	完		
202	10E-16	上層	〃	12.35	5.4	1.85	132.5	先端部	完		
203	9D-23	上層	〃	14.9	6.0	2.4	236.5	無	完		先端部折損
204	10D-15	下層	〃	7.9	6.0	2.4	74.0	〃	1/2		先端部折損
205	10E-16	上層	〃	11.55	6.6	2.3	147.9	〃	中央部		
206	10E-11	上層	〃	10.25	5.6	1.9	100.5	先端部	完		
207	10D-12	上層	〃	13.65	5.6	1.8	145.5	片面先端部	完		
208	9D-22	上層	〃	13.4	6.1	2.5	195.8	先端部	〃		
209	10D-15	下層	〃	11.4	5.9	1.6	97.9	先端部片面中央部	中央部		
210	10D-4	上層	〃	10.1	5.15	1.15	72.2	無	完		片面は縁辺調整
211	10D-10	下層	〃	14.9	4.9	2.9	235.9	片面先端部～中央部	完		
212	9D-18	上層	〃	12.8	6.3	1.98	150.0	片面先端部	完		
213	10D-9	上層	〃	14.1	6.15	2.15	185.8	片面中央部	完		
214	10D-12	上層	〃	11.75	5.8	2.28	180.0	無	完		
215	10D-9	下層	〃	12.9	5.0	1.75	108.9	先端部・片面中央部	完		
216	10E-16	上層	〃	13.3	5.5	1.72	116.0	無	中央部		
217	10E-12	上層	〃	13.5	6.1	2.0	178.5	〃	〃		
218	10D-4	上層	〃	9.9	5.6	1.4	84.5	片面先端部	〃		
219	10E-17	上層	〃	12.2	5.4	1.95	113.9	〃	〃		
220	10D-25	上層	〃	9.25	5.4	1.15	54.0	無	完		
221	10D-5	上層	〃	9.9	6.25	1.5	104.0	〃	〃		
222	10D-3	上層	〃	12.1	5.9	1.95	152.5	〃	完		先端部折損
223	9D-17	上層	〃	12.0	5.9	2.25	165.9	〃	〃		先端部折損
224	10E-17	上層	〃	10.2	5.8	2.0	110.0	〃	中央部		先端部折損
225	10E-22	上層	〃	12.6	6.0	2.25	166.5	〃	完		先端部折損
226	10E-16	上層	〃	12.4	5.25	2.0	131.9	片面中央部	完		
227	10D-11	上層	〃	13.35	7.3	3.1	271.9	片面全面	完		
228	10E-22	上層	〃	10.9	5.6	1.2	79.5	無	完		
229	9D-22	上層	〃	11.9	5.55	1.85	106.0	〃	中央部		
230	10D-15	下層	〃	12.5	5.9	2.3	187.9	〃	完		先端は尖らない
231	10D-9	下層	〃	10.5	5.8	1.65	84.5	〃	完		先端に平担面
232	10E-11	上層	〃	10.8	5.7	1.65	95.0	先端部	中央部		先端稜面は平担面
233	10D-10	下層	〃	13.7	6.6	1.9	171.8	無	完		先端に平担面
234	9D-22	上層	〃	11.7	6.8	2.15	162.0	〃	〃		
235	10D-3	上層	〃	15.4	7.7	3.4	344.0	〃	3/4		
236	10E-16	上層	〃	14.8	5.8	2.98	160.0	〃	4/5		
237	10D-6	上層	〃	12.7	5.8	1.4	116.5	〃	中央部		
238	10D-1	上層	〃	11.4	5.8	2.5	167.0	〃	〃		先端部折損
239	10D-11	上層	〃	9.8	5.7	1.8	101.0	〃	〃		

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
240	10D-1	上層	木葉形	9.8	6.3	1.95	108.0	無	1/2		先端部折損
241	10D-17	上層	〃	10.4	6.8	2.75	182.0	片面先端部から中央部	中央部		
242	10D-10	下層	〃	12.3	6.5	1.8	169.8	片面中央部	1/2		
243	10E-22	上層	〃	15.8	6.5	2.6	260.0	先端部	1/2		先端裏面は平担面
244	10D-15	上層	〃	8.1	6.2	1.58	74.0	〃	1/2		
245	9D-21	上層	〃	12.9	7.8	2.6	278.5	〃	1/2		
246	10E-22	上層	〃	10.1	6.2	1.7	114.0	片面先端部	中央部		
247	9D-21	上層	〃	12.4	6.4	1.55	110.0	先端部	〃		
248	10E-16	上層	〃	18.7	7.2	2.6	343.8	〃	1/2		
249	10D-13	上層	〃	11.7	6.9	2.7	144.0	〃	1/2		先端裏面は平担面
250	10E-11	下層	〃	9.3	6.6	1.4	82.0	中央部	〃		先端に平担面
251	10D-2	上層	〃	10.15	6.6	2.4	132.0	〃	〃		
252	10D-9	上層	〃	12.0	6.05	1.6	98.5	先端部	〃		先端裏面は平担面
253	10D-16	上層	〃	11.9	6.4	2.7	158.5	片面中央部	1/2		
254	10D-9	下層	〃	12.5	7.3	2.55	190.5	無	中央部		
255	9D-22	上層	〃	13.0	5.98	2.05	142.0	〃	〃		
256	10E-16	上層	〃	12.75	6.7	3.4	216.0	先端部	1/2		
257	10D-3	上層	〃	9.4	6.5	1.5	89.0	無	〃		
258	10D-15	下層	〃	8.6	16.6	2.5	118.0	〃	1/2		
259	10E-16	上層	〃	13.3	7.5	2.8	246.0	先端部	中央部		先端裏面は平担面
260	9D-23	上層	〃	12.3	7.4	3.2	189.8	〃	1/2		先端裏面は平担面
261	10D-18	上層	〃	12.5	6.6	2.8	193.0	無	中央部		
262	10D-5	上層	〃	16.9	7.6	2.6	351.0	先端部	1/2		先端裏面は平担面
263	10D-16	上層	〃	13.9	5.5	2.2	131.9	無	1/2		先端部折損
264	10D-17	上層	〃	13.9	7.35	3.1	260.0	〃	1/2		先端部はまるみを持つ
265	10D-10	下層	〃	13.05	6.1	1.65	130.0	〃	1/2		先端部は折損
266	10D-10	上層	〃	9.1	6.3	1.8	86.8	〃	1/2		
267	10D-15	下層	〃	17.5	7.0	2.6	322.0	〃	中央部		
268	9D-22	上層	〃	14.8	6.45	2.3	200.0	〃	1/2		
269	10D-4	上層	〃	12.05	7.4	2.7	183.7	先端部から中央部	1/2		
270	10D-20	上層	〃	6.9	6.3	1.95	64.5	無	〃		
271	10E-17	上層	〃	9.95	7.3	1.9	118.0	〃	〃		
272	10D-10	上層	〃	12.45	7.4	2.0	172.5	〃	〃		
273	9D-17	上層	〃	12.7	5.9	1.8	100.5	〃	〃		
274	10D-1	上層	〃	10.2	5.85	2.05	104.0	先端部	〃		
275	10D-20	上層	〃	10.1	7.4	2.45	157.5	〃	〃		
276	9D-22	上層	〃	11.1	7.1	2.15	122.5	無	〃		先端に平担面
277	10E-16	上層	〃	11.7	6.45	2.0	132.0	〃	〃		
278	10D-10	上層	〃	16.0	7.0	2.9	264.5	先端部	中央部		先端裏面は平担面
279	10D-15	下層	〃	14.3	6.2	2.15	180.0	無	1/2		未製品

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
280	10D-10	上層	木葉形	13.2	8.3	1.55	212.0	先端部	中央部		
281	10D-10	下層	〃	13.6	18.2	2.2	224.0	片面中央部	〃		
282	10D-16	上層	〃	15.5	8.0	2.2	230.0	先端部	一部		先端礫面は平担面
283	10D-14	上層	〃	14.15	7.1	2.45	212.5	無	中央部		
284	10D-4	上層	〃	15.5	7.2	2.9	338.5	〃	〃		
285	9D-23	下層	〃	14.0	7.65	2.2	239.8	片面先端部	一部		
286	9D-16	上層	〃	12.85	6.4	2.75	202.5	無	中央部		
287	10E-22	上層	〃	16.0	8.25	2.35	240.0	片面中央部	一部		
288	10D-15	下層	〃	13.3	7.5	2.7	226.0	無	中央部		
289	9D-23	上層	〃	13.4	9.75	2.45	322.0	〃	一部		
290	10E-17	上層	〃	13.2	8.15	3.8	403.0	〃	中央部		未製品
291	10D-20	上層	〃	9.7	7.0	2.25	146.0	片面中央部	一部		
292	10D-15	下層	〃	12.2	5.6	2.1	109.8	無	〃		
293	10D-3	上層	〃	11.9	7.85	3.55	243.0	片面先端部	〃		未製品
294	9D-17	上層	〃	11.1	4.5	1.6	62.5	無	〃		
295	10E-21	上層	〃	17.1	7.9	3.5	413.9	先端部	一部		未製品
296	10E-23	上層	〃	17.15	7.8	3.0	374.8	無	中央部		
297	10D-15	下層	〃	11.7	6.85	1.75	121.0	〃	〃		片側片は両面とも縁辺調整
298	10D-20	上層	〃	12.1	9.35	2.1	236.5	〃	一部		
299	10D-10	下層	〃	15.0	7.65	2.75	251.0	先端部	〃		先端礫面は平担面
300	10E-16	上層	〃	13.1	7.2	2.25	160.0	〃	中央部		
301	10E-11	下層	〃	11.3	7.7	2.3	160.0	〃	一部		先端礫面は平担面
302	10D-5	下層	〃	12.95	7.8	2.0	204.5	無	一部		先端は平担面
303	10D-10	下層	〃	5.3	3.79	1.1	18.0	〃	1/2		
304	10D-3	上層	〃	—	3.8	1.1	—	〃	—		両端折損
305	10D-10	下層	〃	—	5.8	1.5	—	〃	—		両端折損
306	10D-9	上層	〃	12.3	8.75	4.15	418.3	片面先端部・中央部	一部		未製品
307	10D-15	下層	〃	—	5.35	1.55	—	無	—		両端折損
308	10D-10	上層	〃	15.7	9.9	4.4	700.0	先端部	中央部		未製品
309	10D-10	下層	〃	16.3	6.4	3.1	302.8	無	1/3		両先端の1部折損
310	10D-15	下層	〃	10.8	4.55	1.75	91.0	〃	一部		
311	10D-3	上層	〃	9.9	5.35	1.8	97.3	〃	中央部		
312	10D-15	上層	〃	8.75	6.15	2.25	88.0	〃	1/2		
313	10D-2	上層	〃	11.65	6.9	2.55	73.7	片面中央部の一部	中央部		先端部折損
314	10D-2	上層	〃	11.9	8.1	2.95	298.0	両面中央部先端部	〃		未製品
315	10D-10	上層	〃	2.45	7.0	1.8	189.5	無	一部		
316	10D-4	上層	〃	16.6	10.2	4.5	741.0	〃	中央部		未製品
317	10D-3	上層	〃	5.22	4.15	1.3	30.8	先端部	1/2		先端礫面は平担面
318	10D-10	上層	〃	7.5	4.6	1.65	59.0	無	一部		先端部折損・折損部から剥離
319	10D-15	下層	〃	8.25	5.05	1.3	80.9	先端部	中央部		先端礫面は平担面

遺物番号	出土区	層位	形態	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	自然面	折損	挿図番号	備考
320	10D-5	上層	木葉形	−	7.25	2.75	−	無	−		両端折損
321	10D-15	下層	〃	10.5	6.1	2.3	−	〃	−		両端折損
322	10D-9	下層	〃	5.75	5.15	1.4	−	〃	1/2		
323	10D-9	上層	〃	4.5	3.3	1.05	−	先端部	−		先端礫面は平坦面
324	10D-10	下層	〃	−	4.35	1.1	−	無	−		両端折損
325	10D-10	下層	〃	11.95	7.75	2.8	−	〃	1/2		未製品
326	10D-10	下層	〃	−	8.25	4.1	−	〃	−		両端折損
327	9D-22	下層	〃	7.5	4.3	1.3	−	〃	1/2		
328	9D-24	上層	〃	−	3.6	1.15	−	〃	−		両端折損
329	9D-25	上層	〃	10.8	6.95	2.65	−	〃	−		両端折損
330	9D-17	上層	〃	10.9	6.3	2.75	−	〃	1/2		
331	9D-23	上層	−	12.7	6.55	2.2	−	〃	1/2		片側先端は石斧状
332	9D-22	上層	木葉形	6.45	4.0	1.25	−	〃	1/2		
333	9D-23	上層	〃	10.45	7.4	3.15	−	先端部	1/2		先端礫面は平坦面・未製品
334	9D-24	上層	〃	−	5.1	1.75	−	無	〃		先端部折損
335	9D-24	上層	〃	4.5	4.0	1.3	−	先端部	−		
336	9D-21	上層	〃	−	5.1	1.25	−	無	中央部		先端部折損
337	9D-22	下層	〃	6.3	4.35	1.25	−	〃	1/2		
338	10D-15	下層	〃	5.8	4.7	1.4	−	〃	−		
339	10D-15	下層	〃	4.6	4.2	1.05	−	〃	−		
340	10D-10	下層	〃	4.3	1.1	1.25	−	〃	−		
341	10D-10	上層	〃	−	5.15	1.5	−	〃	−		両端折損
342	10D-4	上層	〃	−	6.45	1.7	−	〃	−		両端折損
343	10D-9	下層	〃	3.75	3.2	0.95	−	〃	−		
344	10D-10	下層	〃	2.9	3.8	0.9	−	〃	−		
345	10D-10	上層	〃	−	4.7	1.65	−	〃	−		両端折損
346	10D-4	下層	〃	12.8	9.65	4.2	−	片側辺	1/2		未製品
347	10D-10	下層	〃	−	4.8	1.4	−	無	−		両端折損
348	10D-15	下層	〃	−	4.95	1.4	−	〃	−		両端折損
349	10D-15	下層	〃	−	3.95	1.2	−	〃	−		両端折損
350	10D-9	上層	〃	−	3.9	1.3	−	〃	−		両端折損
351	10D-15	下層	〃	4.85	3.45	0.95	−	〃	−		
352	10D-15	上層	〃	−	3.95	1.2	−	〃	1/2		縁片調整
353	10D-10	上層	〃	−	4.7	1.9	−	〃	−		両端折損
354	10D-10	下層	〃	−	5.7	2.15	−	〃	−		両端折損
355	10D-9	上層	〃	−	5.1	1.15	−	〃	−		両端折損
356	10D-10	下層	〃	−	3.79	1.3	−	〃	−		両端折損
357	10D-3	上層	〃	−	4.62	1.7	−	〃	−		両端折損
358	10D--10	下層	〃	−	4.4	1.72	−	〃	−		両端折損
359	10D-10	下層	〃	−	4.3	1.45	−	〃	−		両端折損
360	10D-5	上層	〃	−	4.15	1.15	−	〃	−		両端折損

縄文時代

長尾開拓遺跡では縄文時代の遺構は検出できなかった。遺物も表土層や表面採集によるものがほとんどで、その数も少ない。出土した遺物は扁平打製石斧、石鏃、石匙だけである。

扁平打製石斧（Fig.129・130、PL. 72）

サヌカイト製の大形の扁平打製石斧2点が第Ⅱ調査区の耕作土下面から出土した。昭和40年代に耕地整理事業が行われ、耕作土下面は攪乱を受け、尖頭器、剥片、石核が散乱する状況の中で出土した。81は横長の剥片を素材に用いている。背面の基部付近に礫面を残し、片側面にウロコ状調整を施した後、中央部から刃部に細部調整を施している。腹面は打面を除去した後、中央部を調整、さらに細部調整を施している。基部や刃部はほとんど調整を加えていない。長さ21.4cm、最大幅9.0cm、中央部の断面厚2.8cmを計る。土掘り用の石斧であろう。82も大形の横長剥片を素材に用いている。背面の大部分に礫面およびパティナが進行した剥離面を持つ。縁辺調整後、細部調整によって器形を整えている。腹面は打面側に調整を施し打面を除去した後、片側辺だけに細部調整を施している。長さ26.5cm、最大幅は9.2cm、中央部の断面厚は2.7cmを計る。重さ617g。81と同じく土掘り用の石斧であろう。縄文時代晩期の石斧と考えているが、周辺には同時期の遺跡は立地せず、南西400mに弥生時代中期の長尾玉ヶ渕遺跡が所在することから弥生時代の石斧とも考えられる。

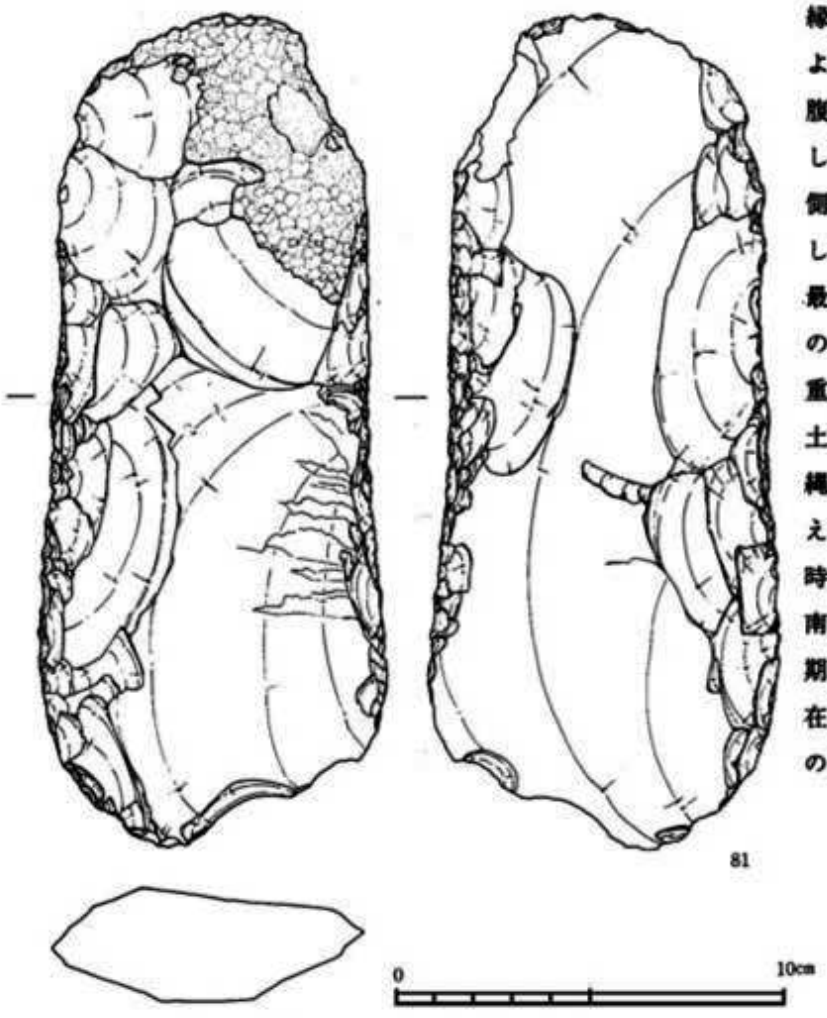


Fig. 129　長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧実測図

石鏃（Fig.131、PL.73）

長尾開拓遺跡から10点の石鏃が出土した。出土地別では第Ⅰ調査区4点、第Ⅲ調査区4点、表面採集2点となる。83～88はサヌカイト製、89～92は黒曜石製である。形状は有脚8点、三角形2点で91は底辺が孤状になる。83～85・89は早期～前期、87・88・90は後期～晩期、91・92は晩期の石鏃であろう。

石匙（Fig.131, PL.73）

第1調査区と第Ⅲ調査区から1点ずつが出土した。93はサヌカイトの横長剝片を素材に用い、つまみ部を打面からの調整によって除去している。背面は両肩部に丁重な調整を施しているが、

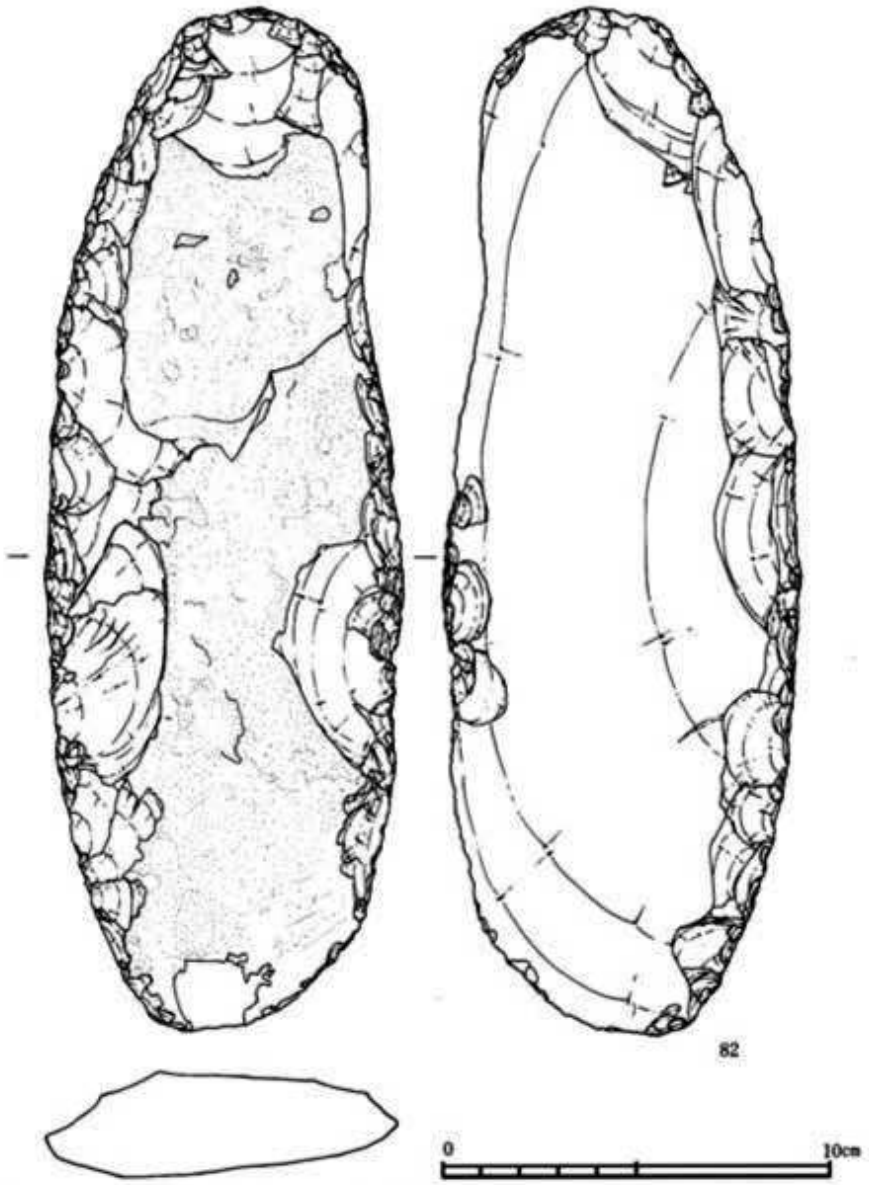


Fig. 130　長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧実測図

刃部は非調整である。腹面は片側の肩部の調整だけである。つまみ部からの幅3.5cm、刃部幅6.0cm、重さ11.6g。3E3で出土。94は16H12で出土した石匙である。横長剝片の打面部につまみ部を持つ。背面には縁辺調整を施すが、腹面はつまみ部の調整と刃部の一部に細部調整を施すだけである。つまみ部から刃部までの幅3.7cm、刃部幅5.0cm、重さ7.5g。サヌカイト製である。共に縄文時代後期の石匙であろう。

Fig. 131　長尾開拓遺跡出土石鏃・石匙実測図

4．小結

多久石器遺跡群の中核的な遺跡の一つとして知られる長尾開拓遺跡は膨大な資料を提供し、その大半は消滅した。調査前は遺跡の規模や性格も把握されず、茶園原遺跡などと同じ尖頭器製作遺跡の一つと考えられていた。遺跡周辺の台地切通しでサヌカイト礫層は確認されていたが、遺物包含層は存在しなかった。第Ⅱ調査区南側の宅地周辺で尖頭器などの遺物が出土していたことから遺跡の中心は台地上に立地すると予想され、昭和54年度の確認調査も台地上を中心に実施された。

昭和58年からの本調査は台地下の水田部を中心に実施した。水田部は以前から金石原と呼ばれ、サヌカイト剥片が水田床土面に存在することが知られていた。道路建設予定地全域を調査の対象とし、調査区を設定した。第Ⅰ調査区～第Ⅲ調査区以外は遺物がほとんど出土せず、旧地形は谷状になっていた。三か所の調査区は同じ遺跡内にありながら、全く異なる特徴を示した。第Ⅰ調査区は台地を形成する粘土層が延び、粘土層から遺物が出土。剥片、砕片の量は少なく、原石もほとんど出土しなかった。縄文時代の石器も数点が出土。生活跡的要素が強い調査区であるが、総出土遺物1,479点のうち尖頭器が13点に対し、不定形石核が32点出土している点で問題を残す。

第Ⅱ調査区は遺物が３層から出土する。耕作土下面では半円錐形石核、縦長剥片、不定形石核、横長剥片と共に尖頭器や縄文時代の扁平打製石斧が出土し、昭和40年代の耕地整理による攪乱層である。攪乱層の下層も同じ遺物の組成を示すが、新しく破損を受けた遺物は含まれず西側上位からの流れ込みによるものであろう。流れ込み層の下層に尖頭器製作工房跡遺構が存在する。砂岩と黄白色粘土層上に遺物は集中し、原石、不定形石核、剥片、砕片と共に尖頭器、台形様石器、ナイフ形石器が出土、数点の縦長剥片も含まれ、パティナはほぼ同一の進行である。尖頭器製作工房跡遺構の遺物はほとんど移動せず原位置を保っているものである。

第Ⅲ調査区も攪乱層と流れ込み層から多量の遺物が出土した。この二つの層の下部は砂岩層になり、砂岩層直上に部分的に半円錐形石核、縦長剥片を主体に不定形石核、横長剥片だけが出土する包含層も残っていた。

第Ⅱ調査区の尖頭器製作工房跡遺構は茶園原西畑遺跡と類似する遺物出土状態であったが、尖頭器の密度では茶園原西畑遺跡を上回る量であった。この遺構が形成された時期、即ち、多久型尖頭器の年代については、これまで諸説が論ぜられてきた。尖頭器以外に１点ずつではあるが台形様石器、ナイフ形石器が出土、多久型尖頭器が台形様石器、ナイフ形石器と同時期に製作されたと考えられ、山王遺跡を含め、多久型尖頭器の出現時期の手がかりとなった。この点については今後さらに論議されることとなろう。

第Ⅱ調査区上面及び第Ⅲ調査区から出土した円錐状石核と縦長剥片は、これまで東ノ原

1,630番地遺跡から出土、尖頭器を主体とする文化層の下層に無遺物層を挟んで出土した。長尾開拓遺跡での遺物出土状態は約0.4～1.0mの包含層から不定形石核、横長剥片、尖頭器と共に出土、上位からの流れ込みによる堆積層であるが、パティナは不定形石核、横長剥片、尖頭器の方がより進んでいる。縦長剥片が多量に出土したが、縦長剥片を素材に用いた石器はナイフ形石器1点だけである。この現象は東ノ原1630番地遺跡も同様で、1点の石器も出土しなかった。縦長剥片が出土する遺跡は小城郡三日月町岡本遺跡A地点が隣接し、ナイフ形石器や剥片尖頭器が出土することから、長尾開拓遺跡も岡本遺跡A地点の時期と考えられ、尖頭器文化に先行する石器群の存在を明らかにした。

長尾開拓遺跡出土の縦長剥片の打面調整は原石面打面と単剥離面打面の二類に分類でき、数的には原石面打面が大半を占める。パティナの比較では単剥離面打面の剥片がより進行し、原石の石質の違いや、剥片の移動により磨耗差以外に時間的な差を検討する必要がある。

長尾開拓遺跡でも膨大な旧石器時代の遺物が出土、サヌカイト原産地での遺跡の性格や遺物の出土状態を知る超一級の遺跡であり、縦長剥片を素材とする石器群と尖頭器を主体とする石器群の出土は多久型尖頭器の編年上の問題だけではなく、九州の旧石器時代の編年に大きな影響を与えるものであろう。

〔参考文献〕

「茶園原遺跡Ⅰ」　多久市教育委員会　1979
「茶園原遺跡Ⅱ」　多久市教育委員会　1980
「佐賀県多久三年山における石器時代の遺跡」明治大学文学部研究報告 杉原荘介ほか 1983
「下城遺跡Ⅱ」　熊本県教育委員会　1980
「曲野遺跡Ⅱ」　熊本県教育委員会　1984
「日本の美術1」　旧石器時代　至文堂　稲田孝司編　1982
「探訪　先土器の遺跡」　有斐閣　戸沢充則・安蒜政雄編　1983
「日本の旧石器文化」　雄山閣　小林達雄編　1976
「図録　石器の基礎知識Ⅰ　先土器(上)」　柏書房　加藤晋平・鶴丸俊明　1980

図　版

山　王　遺　跡

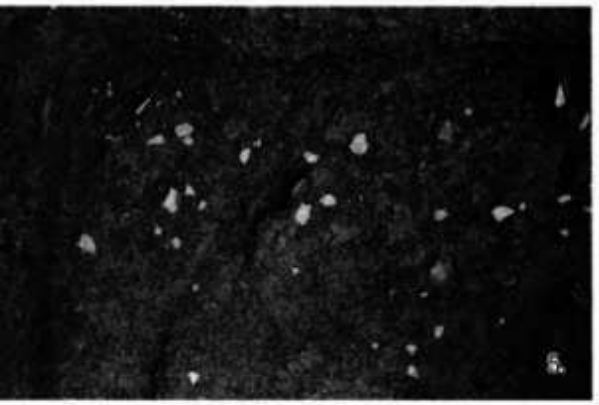
1. 山王遺跡遠景〈東から航空写真〉
2. 山王遺跡近景〈東から航空写真〉

1. 山王遺跡近景〈北から航空写真〉
2. 山王遺跡５Ｆ～６Ｆグリット〈北から〉

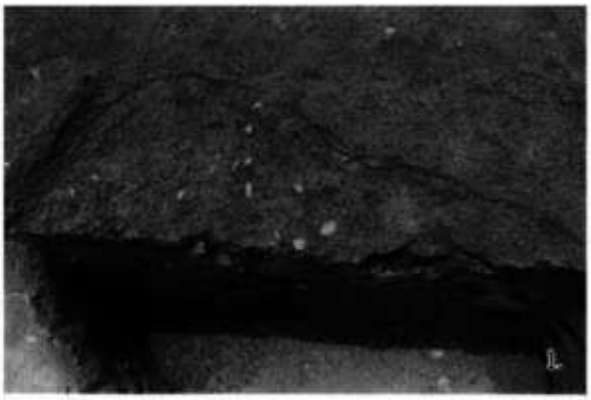
1. 山王遺跡　7 E　土層断面
2. 山王遺跡　7 E　土層断面

1. 山王遺跡　7 E　土層断面
2. 山王遺跡　7 F　土層断面

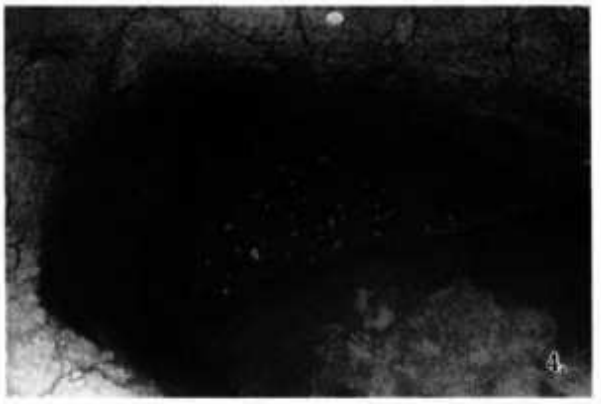
1. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.1）
2. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.2）
3. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.3）
4. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.4）
5. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.5）
6. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.6）

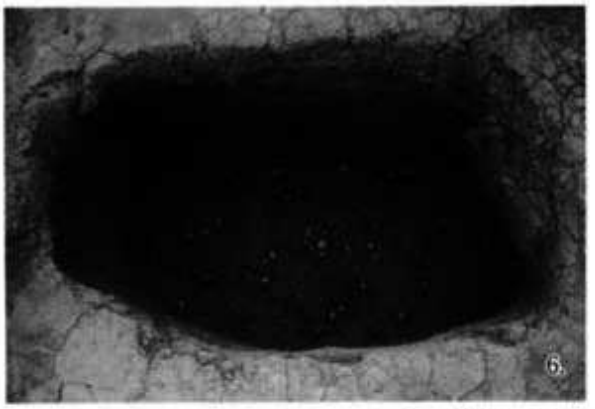


1. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.7）　2. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.8）
3. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.9）　4. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（No.10）
5. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態（　の拡大）　6. 山王遺跡 SK001 土壙遺物出土状態

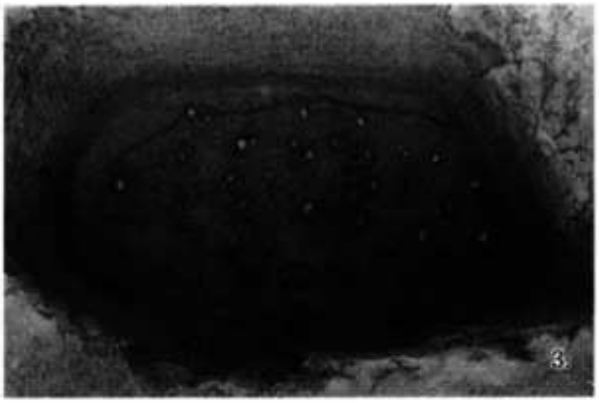


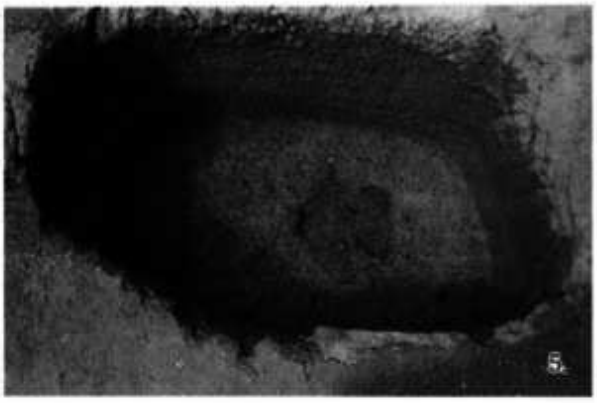
1. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態

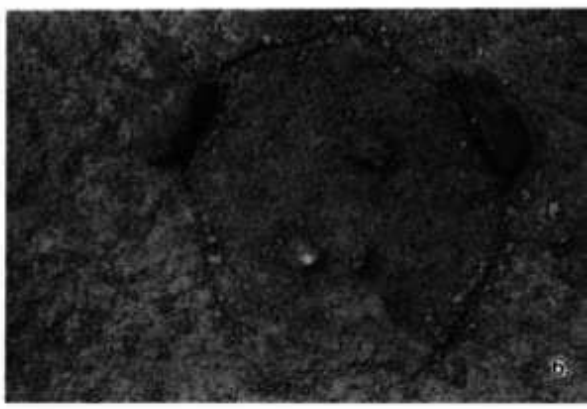




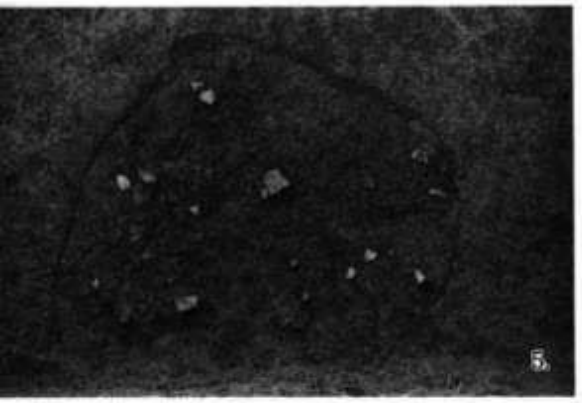
1. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態



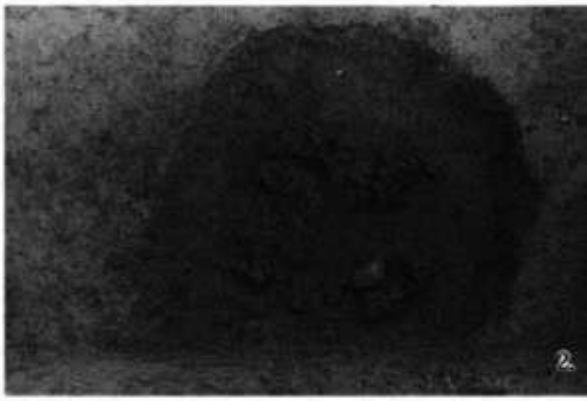


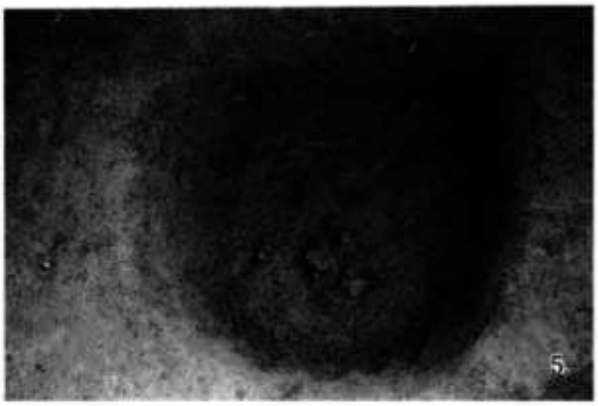


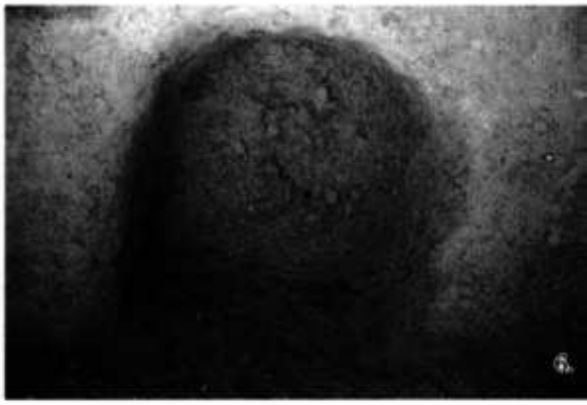
1. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態



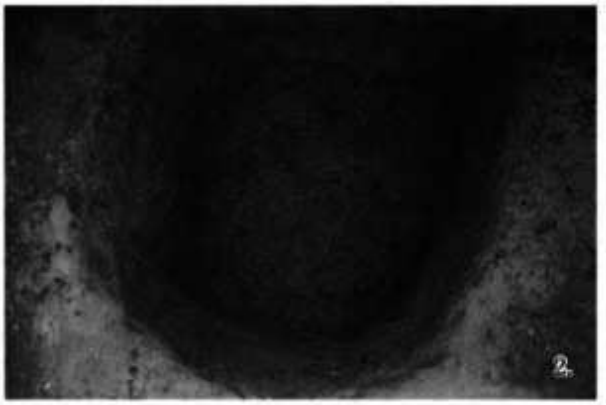
1. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK001 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態（５Ｆ８）
6. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態（５Ｆ８）

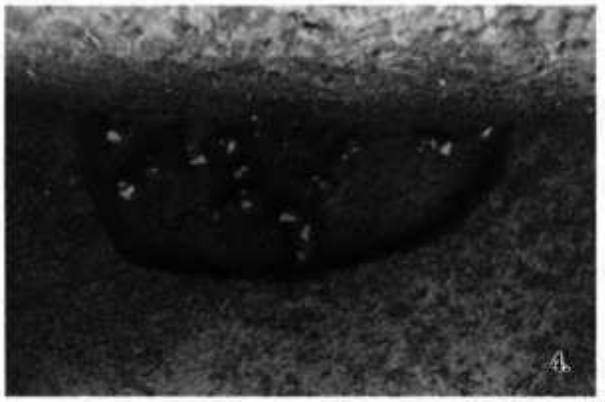






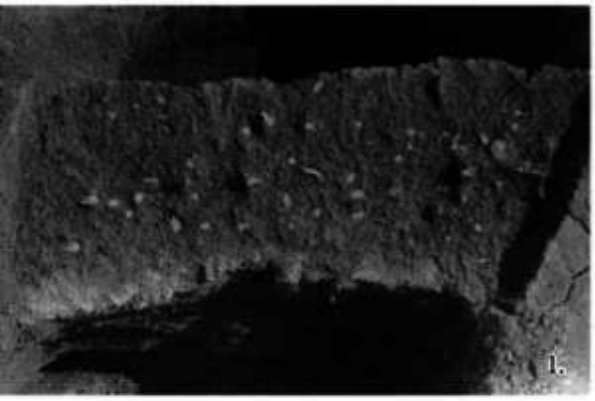
1. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態（５Ｆ８）
2. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態



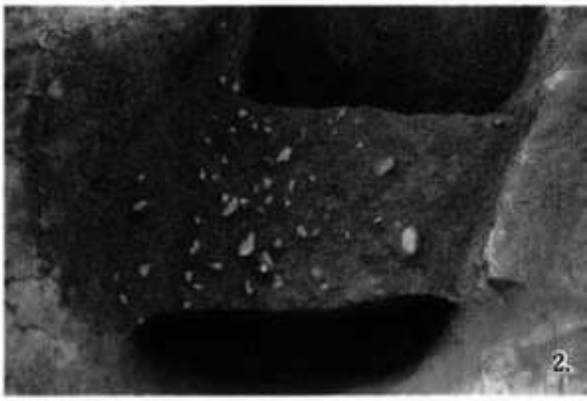


1. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態（５Ｆ８）
2. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態（５Ｆ９）
4. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態

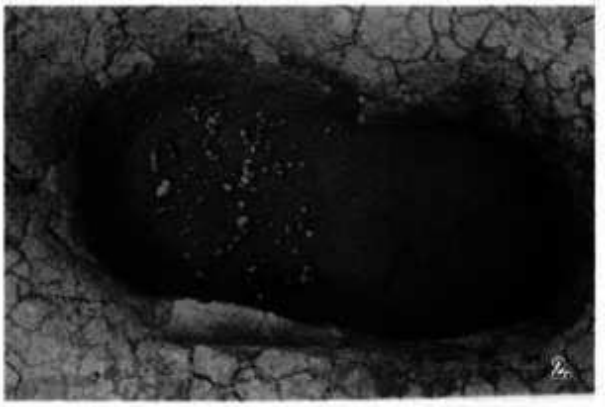
1. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態

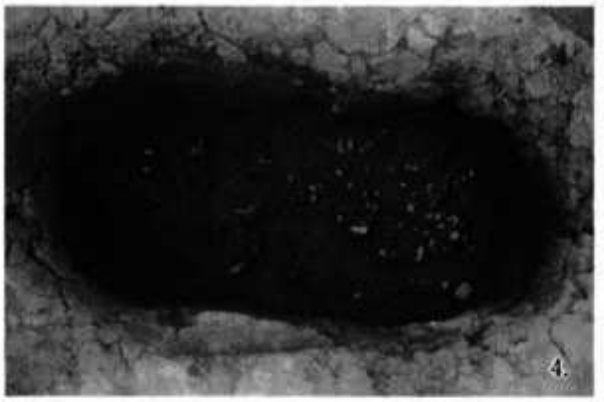


1. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態

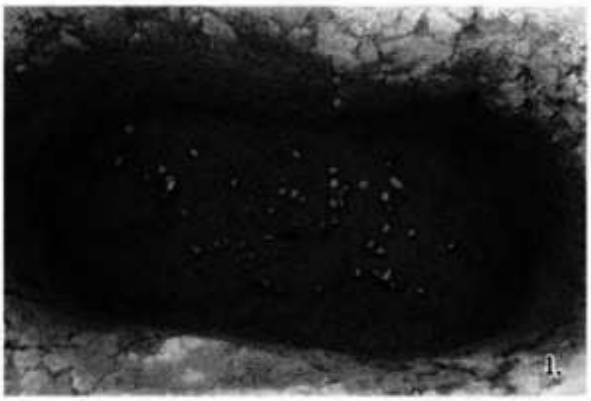


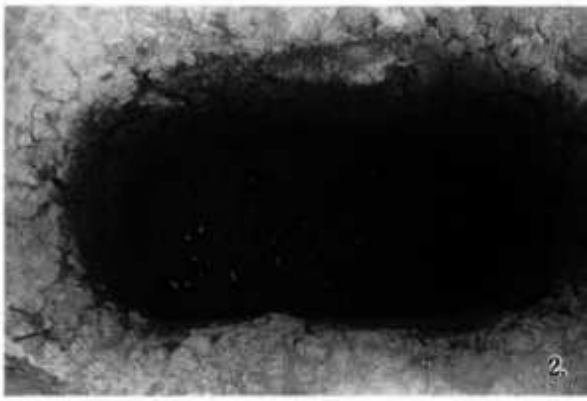
1. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態

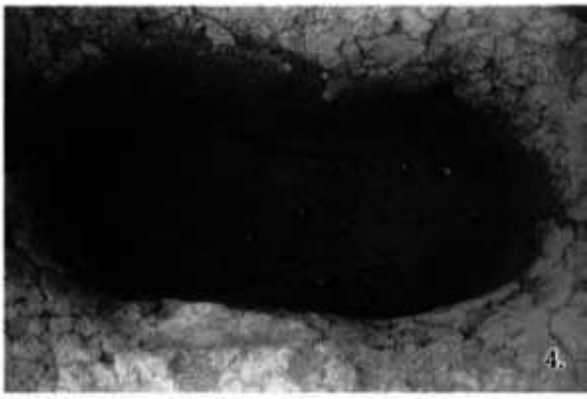


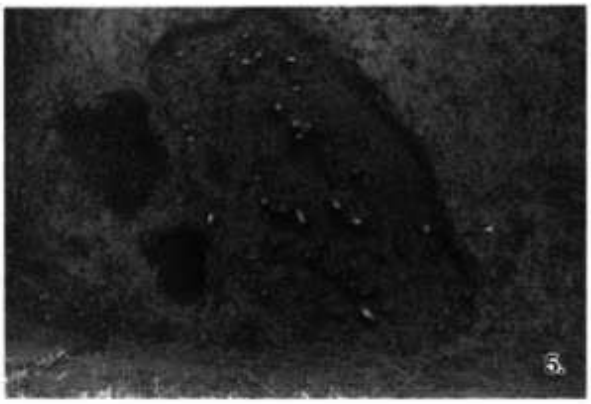


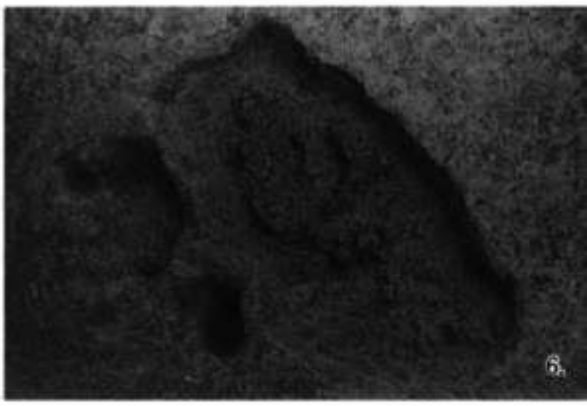
1. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態



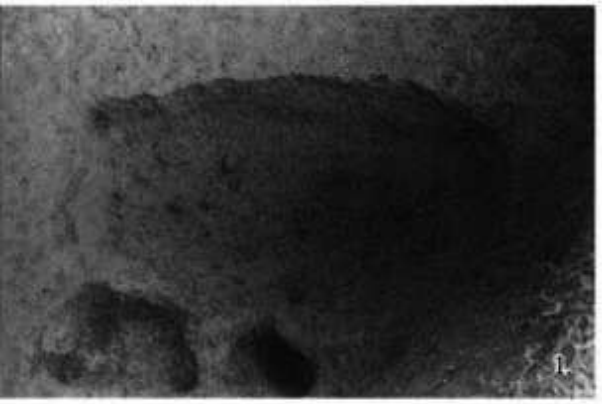


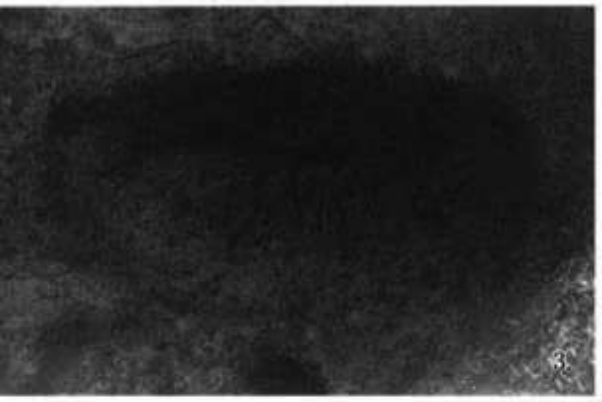




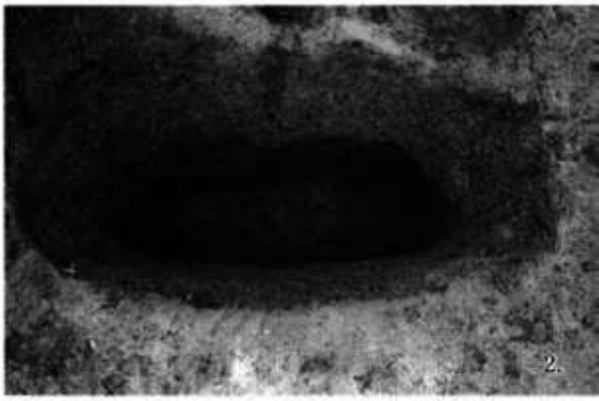


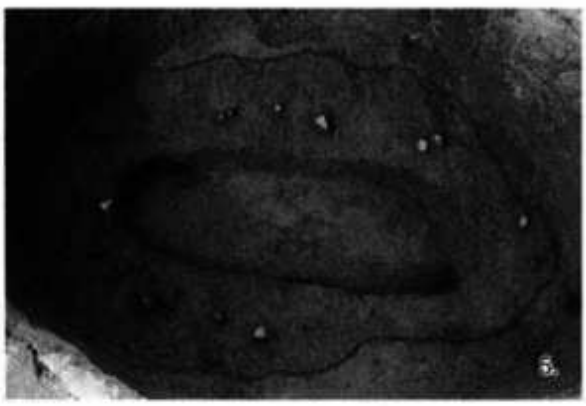
1. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK002 土壙ベルト部分遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK002 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態

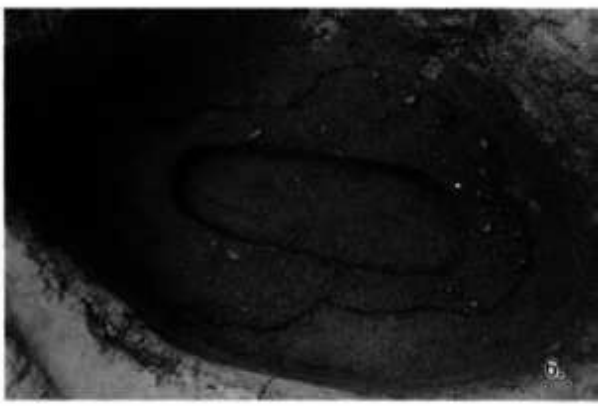




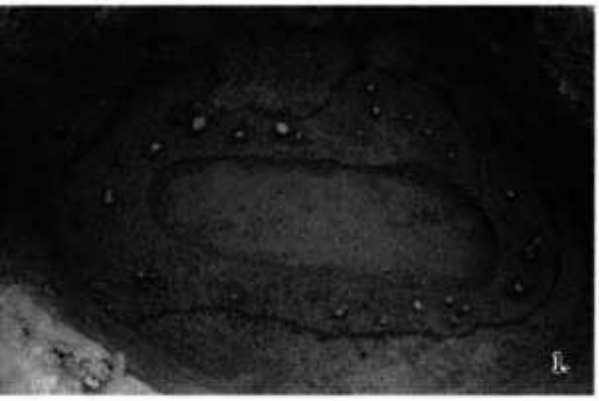
1. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態

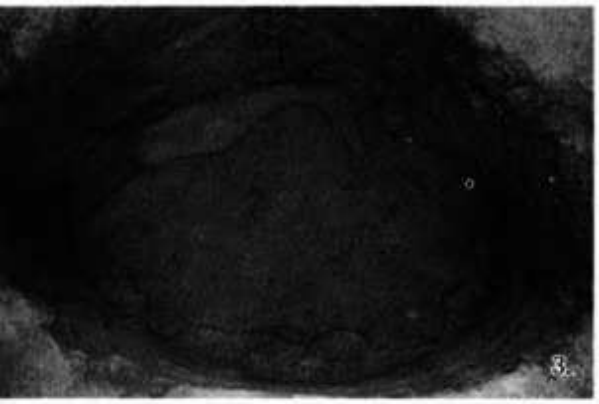


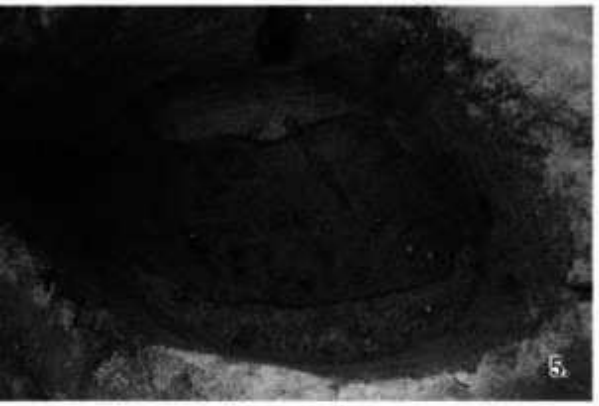


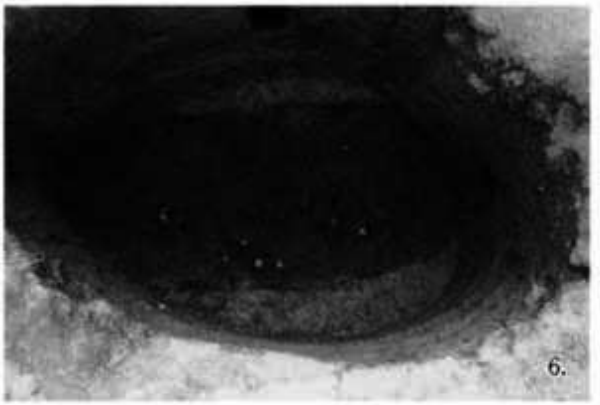


1. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態

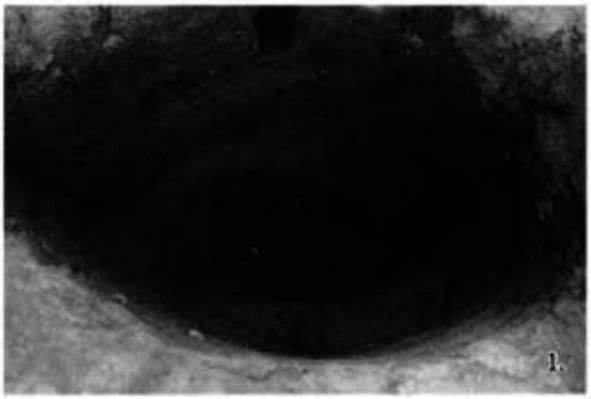


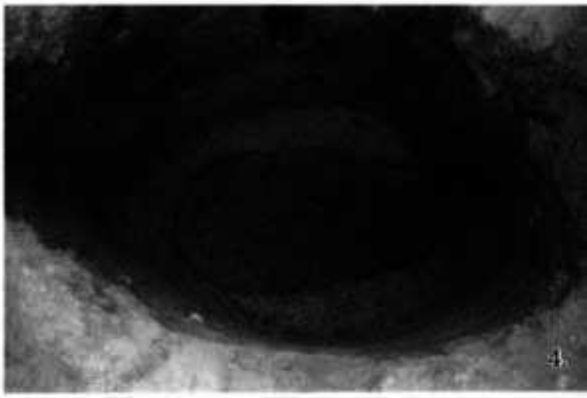






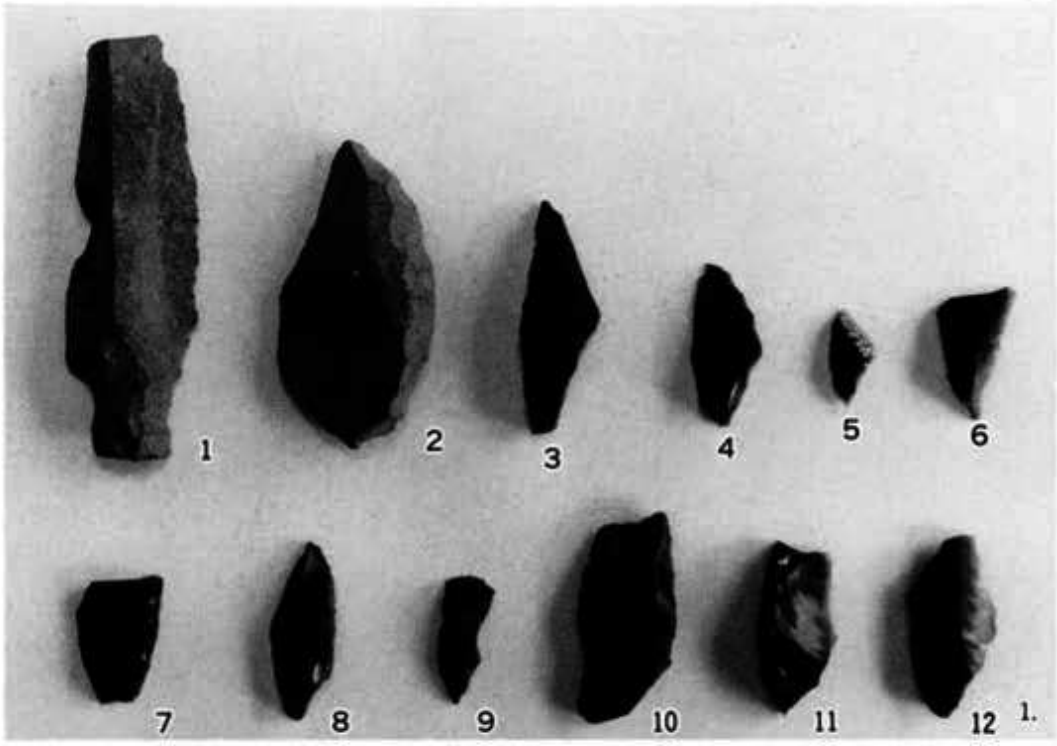
1. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
6. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態

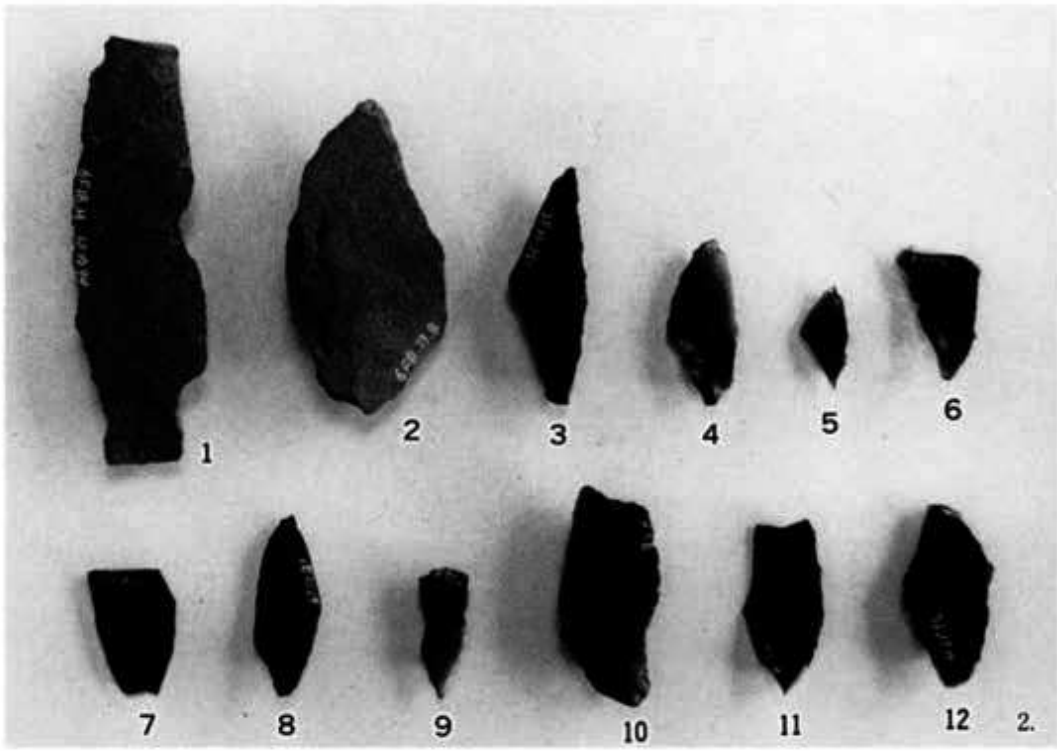




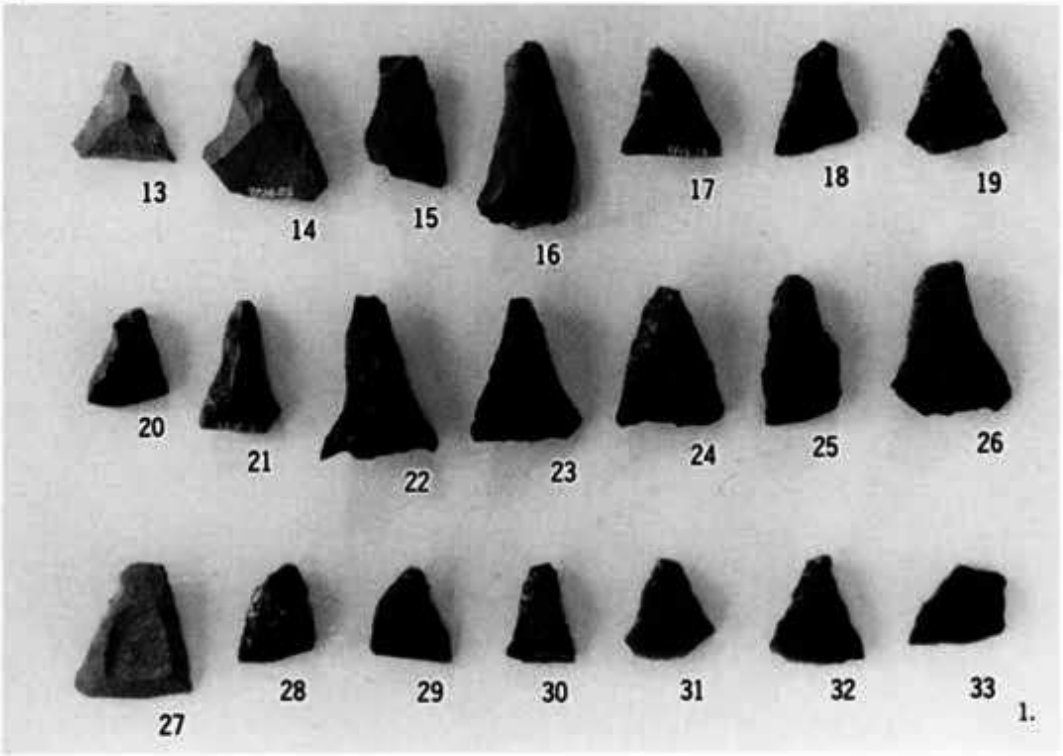
1. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
2. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
3. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
4. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態
5. 山王遺跡 SK003 土壙遺物出土状態

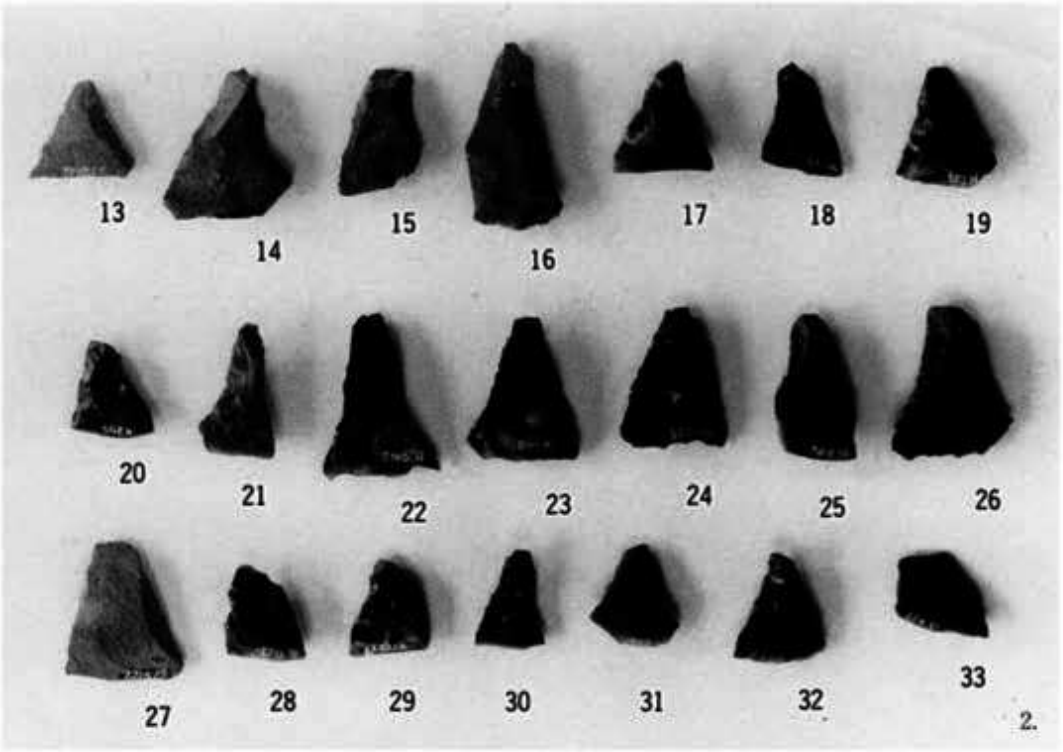
1. 山王遺跡　5F8 IId層　遺物出土状態
2. 山王遺跡　5F4 IIIc層　遺物出土状態





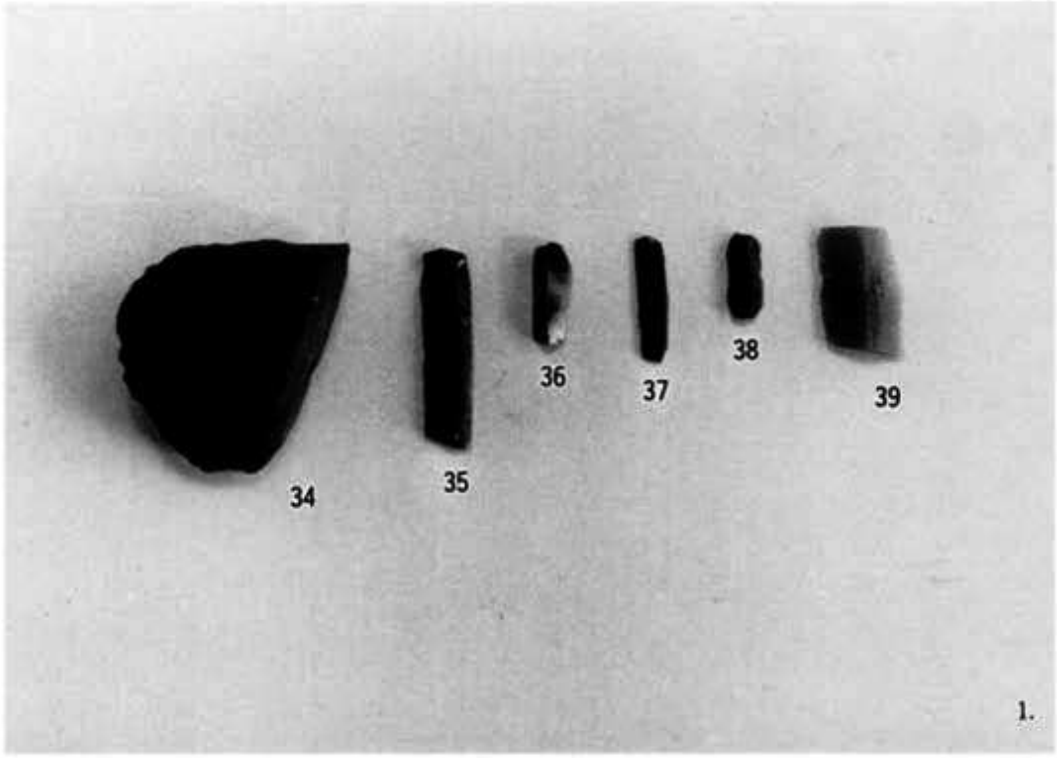
1. 山王遺跡出土剝片尖頭器・ナイフ形石器
2. 山王遺跡出土剝片尖頭器・ナイフ形石器

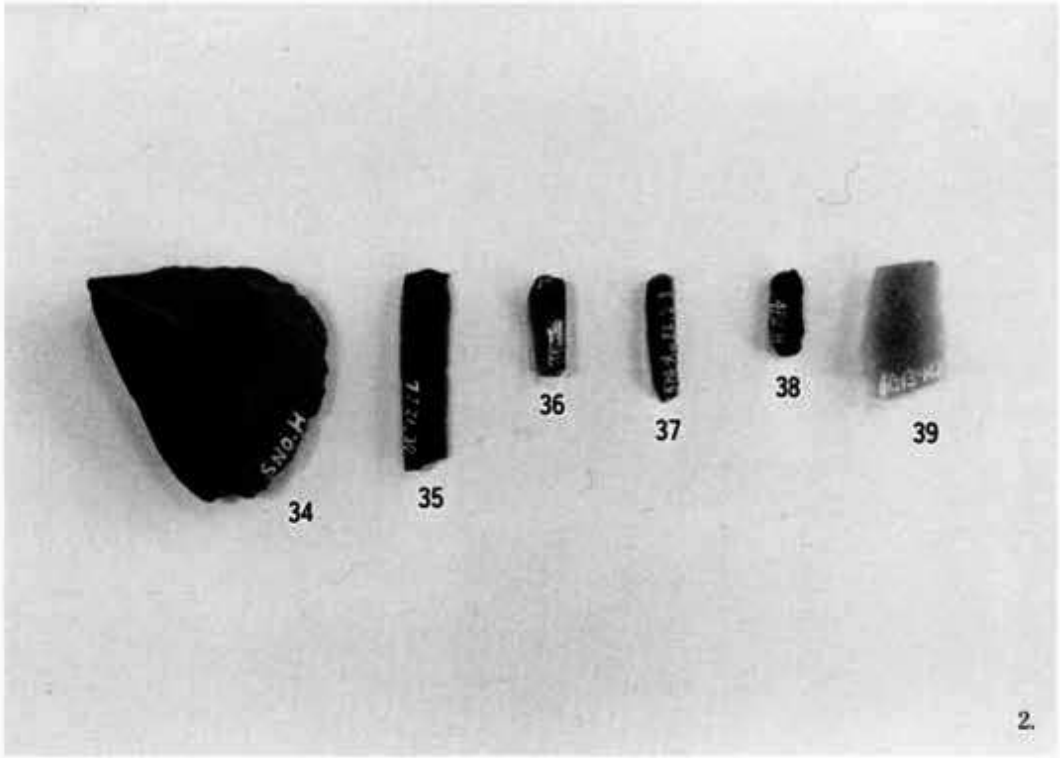




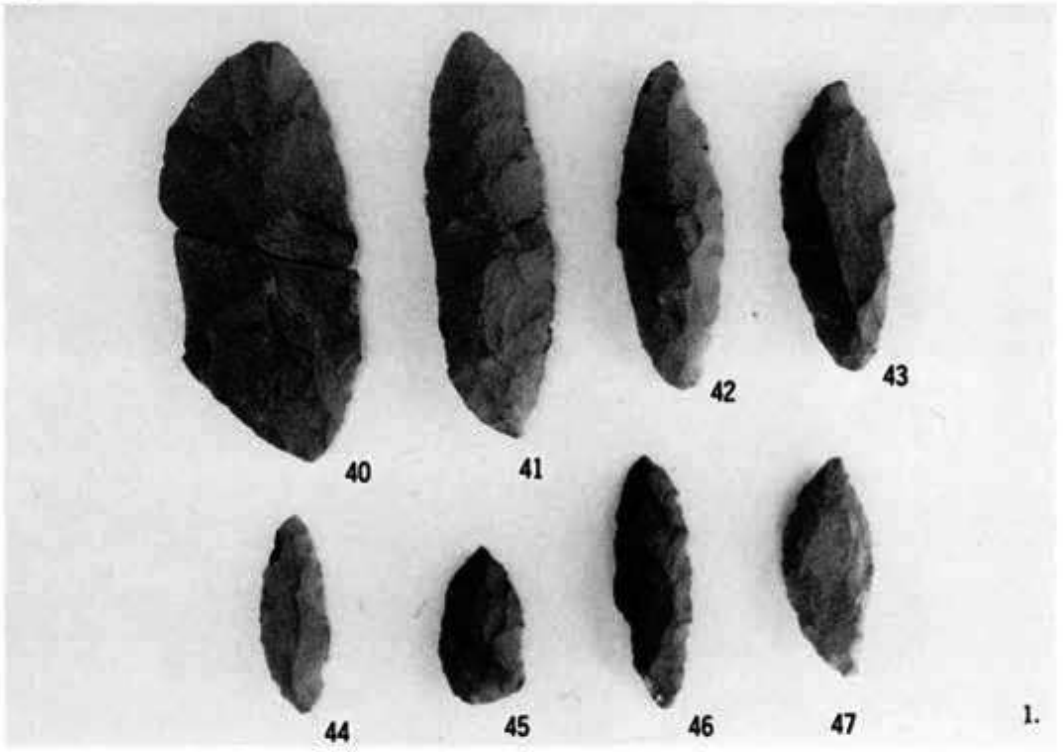
1. 山王遺跡出土台形様石器

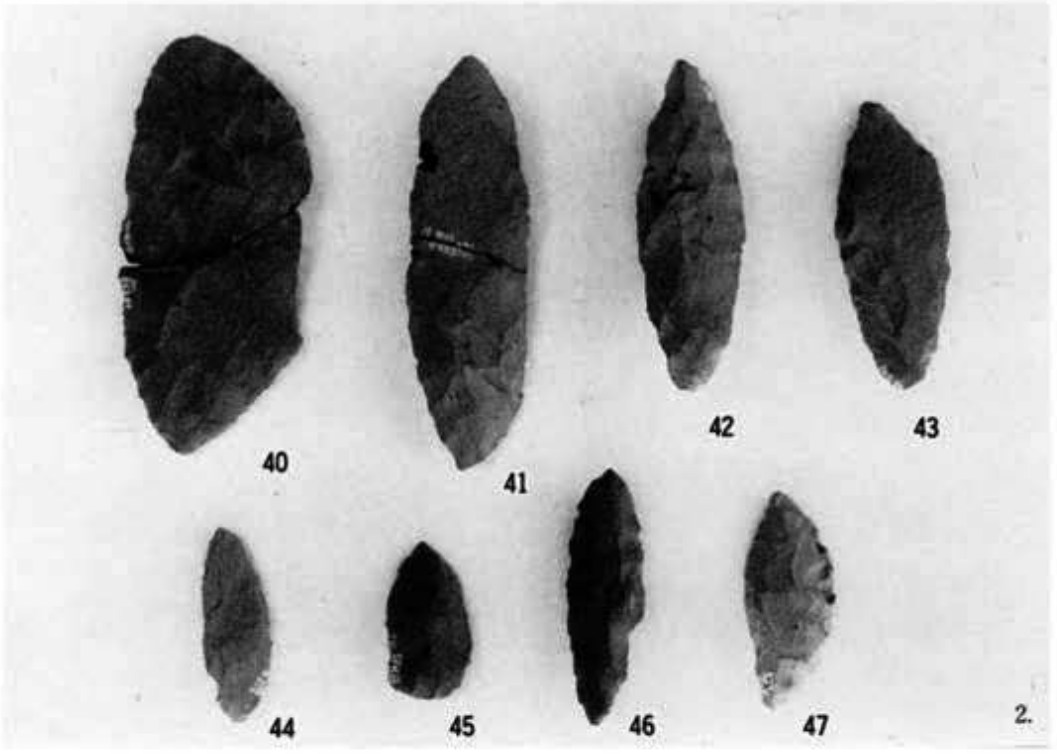
2. 山王遺跡出土台形様石器





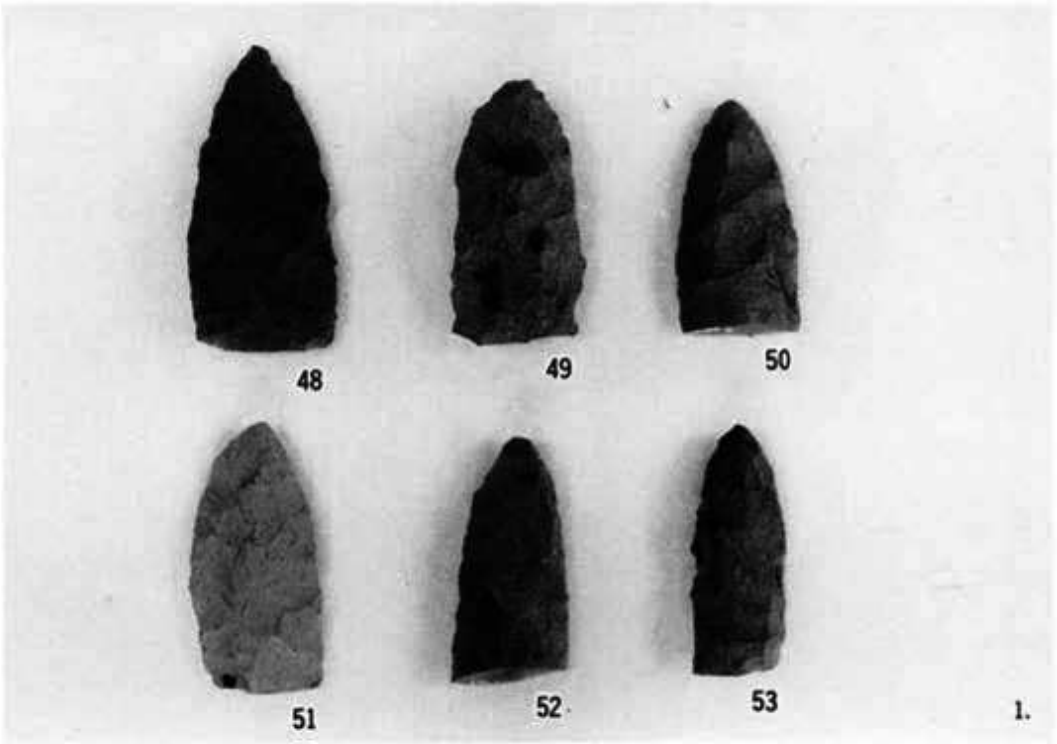
1. 山王遺跡出土細石核・細石刃
2. 山王遺跡出土細石核・細石刃

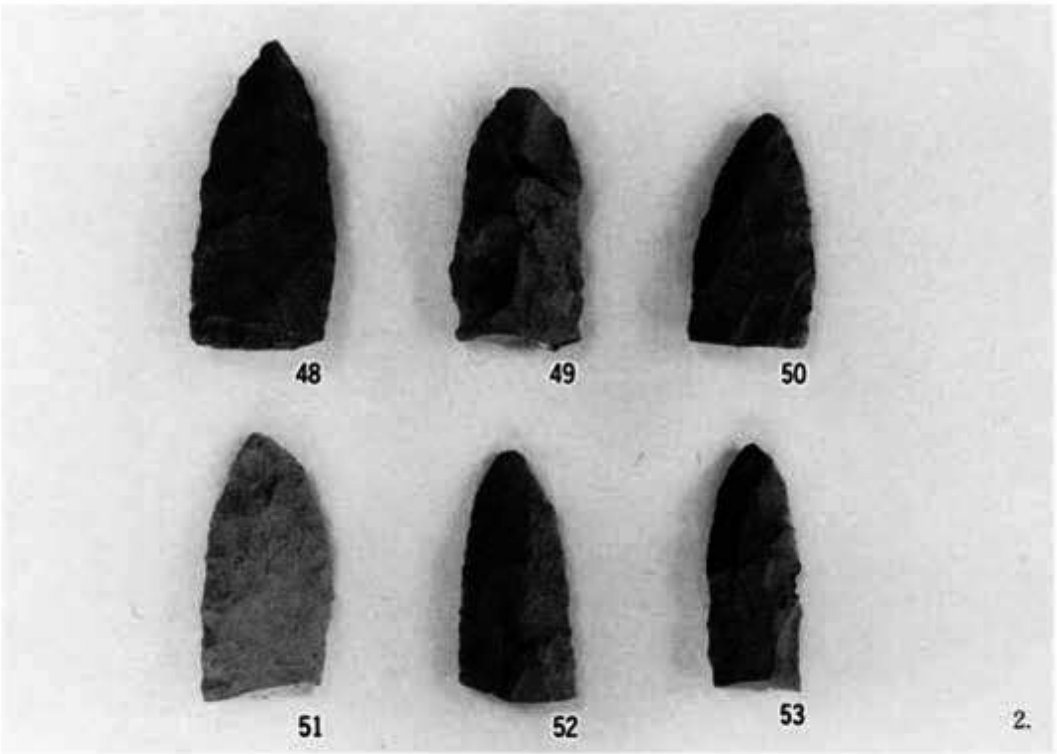




1. 山王遺跡出土尖頭器

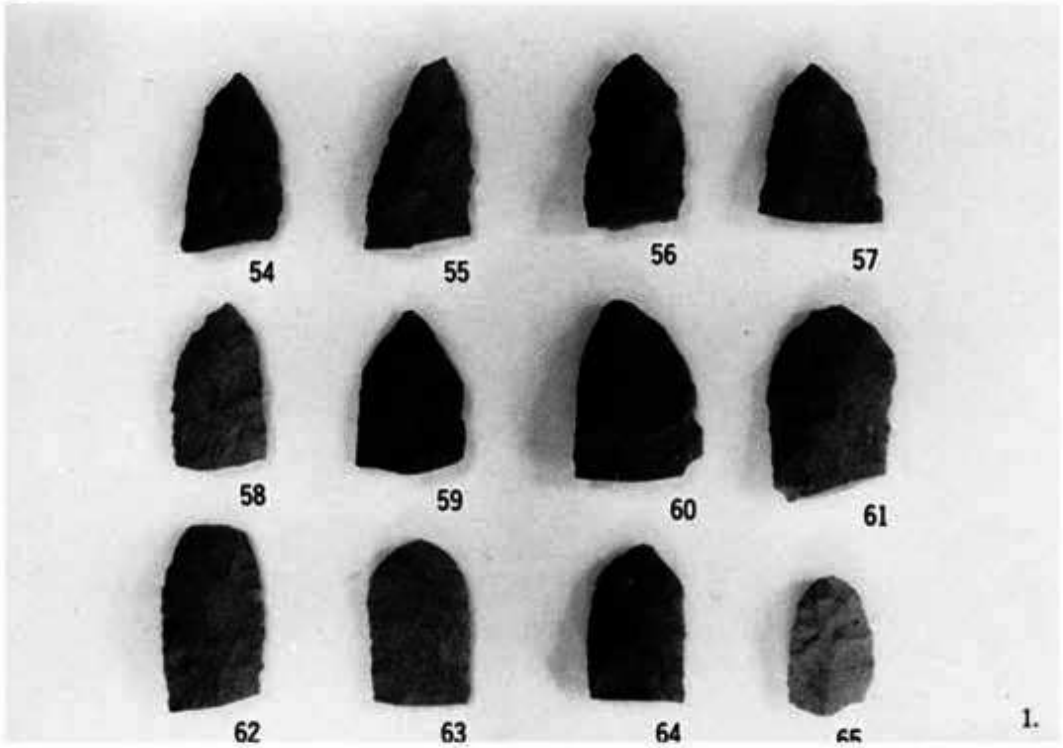
2. 山王遺跡出土尖頭器

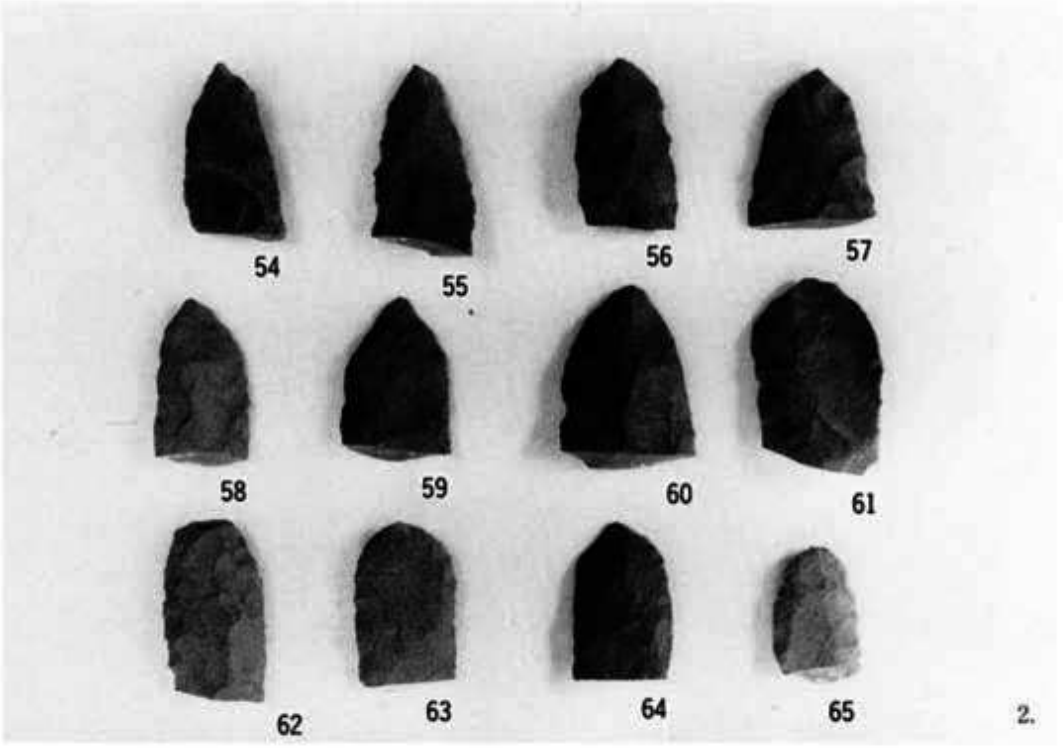




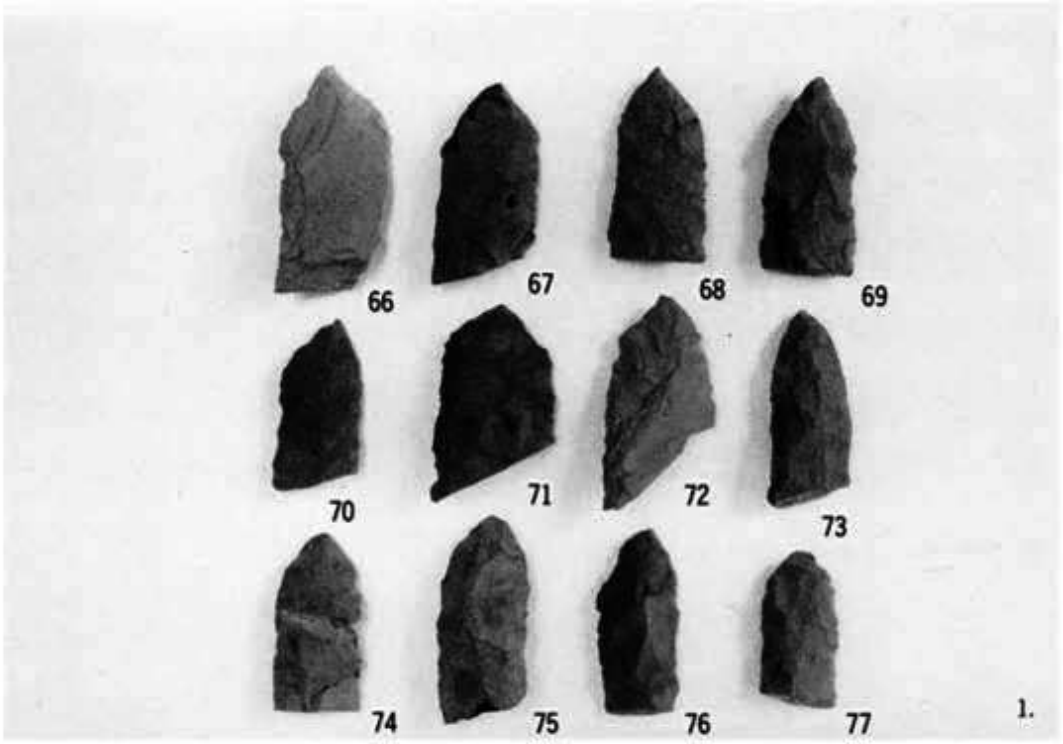
1. 山王遺跡出土尖頭器

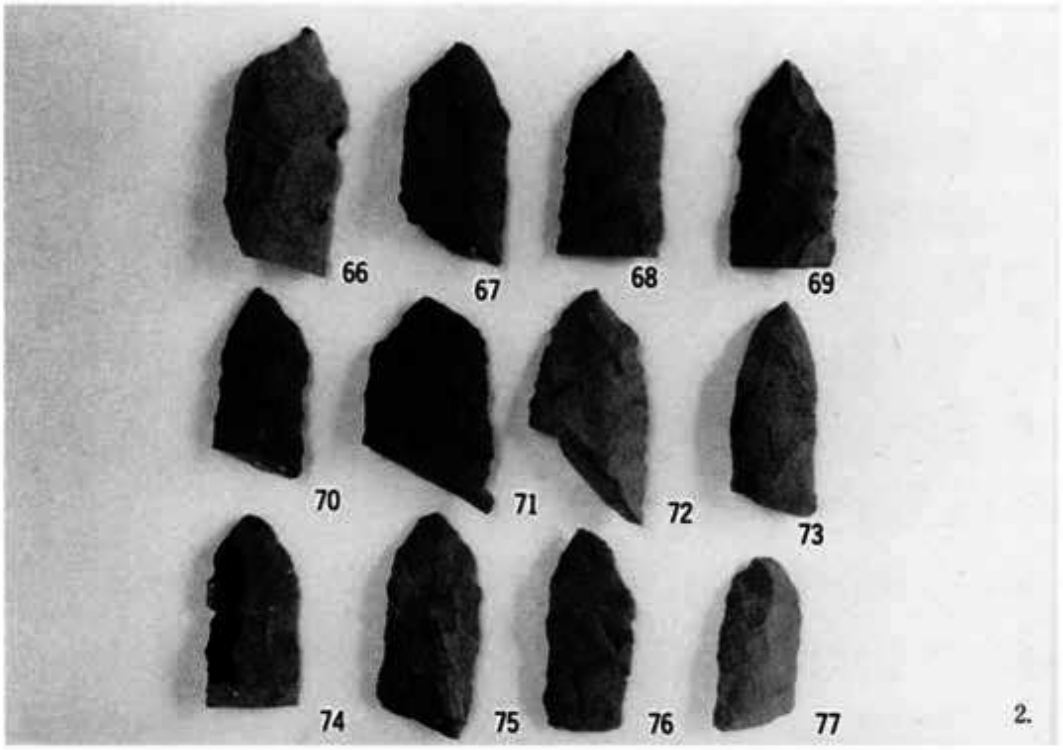
2. 山王遺跡出土尖頭器





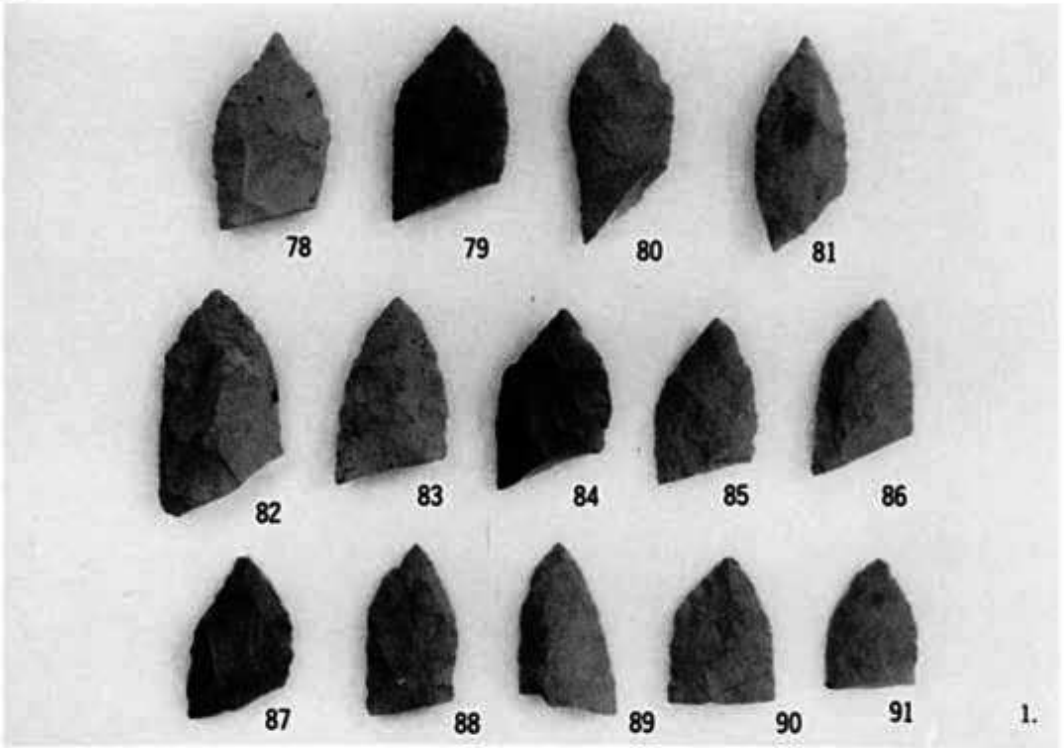
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器

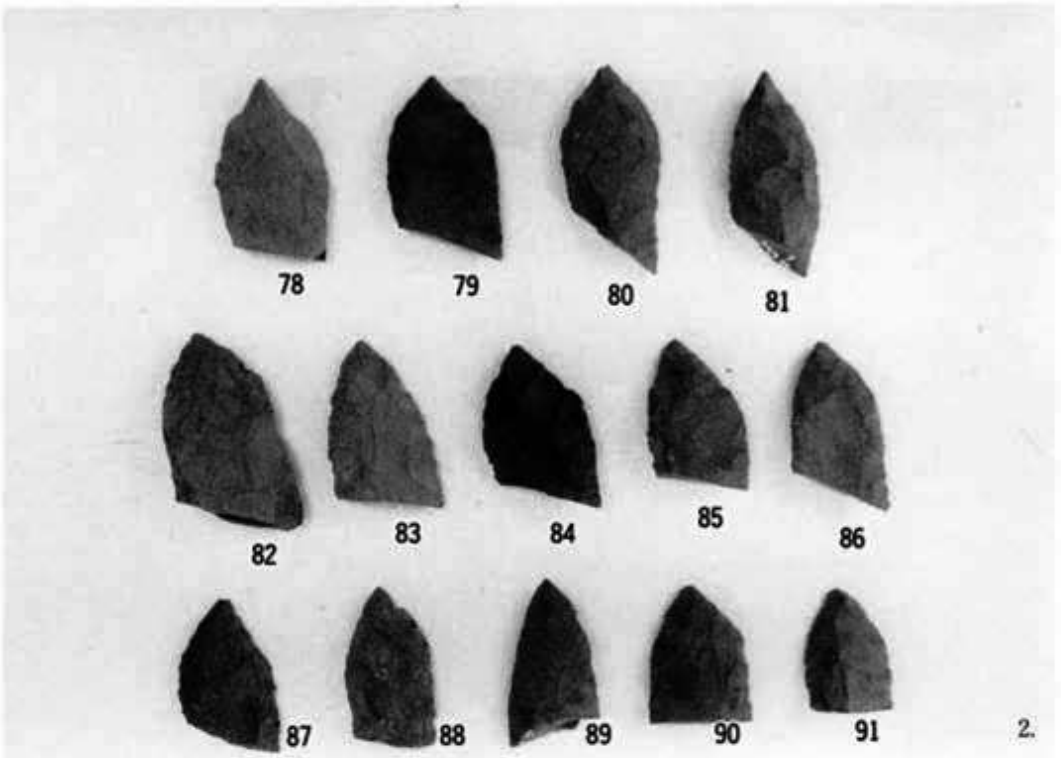




1. 山王遺跡出土尖頭器

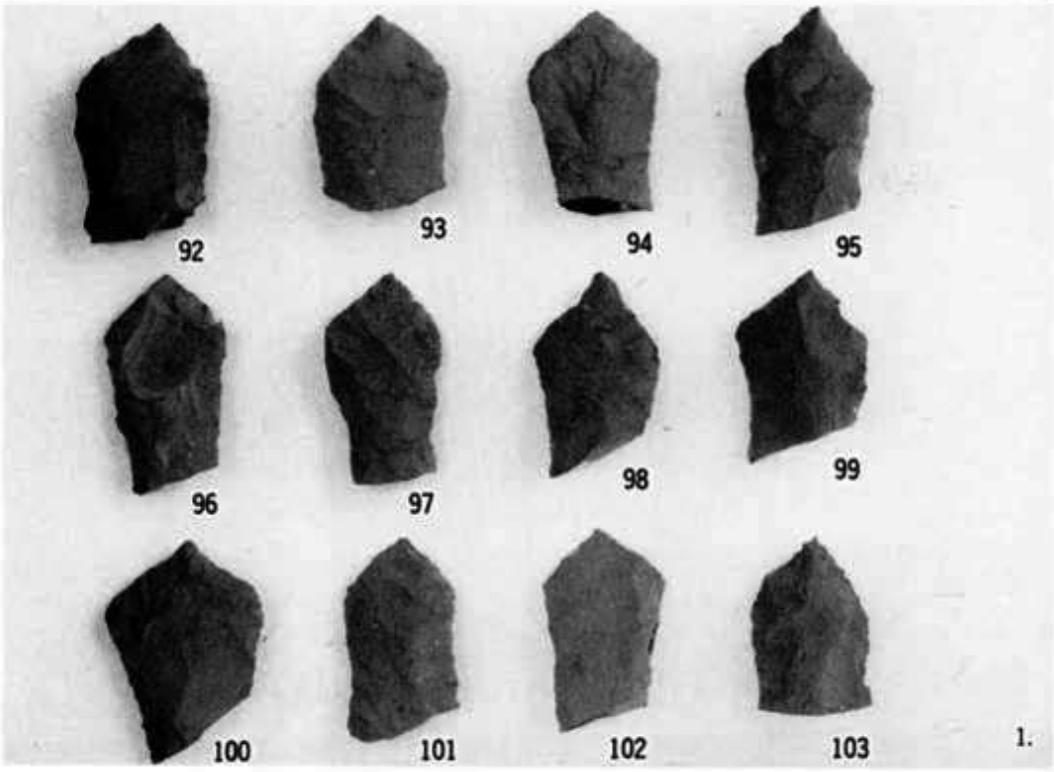
2. 山王遺跡出土尖頭器

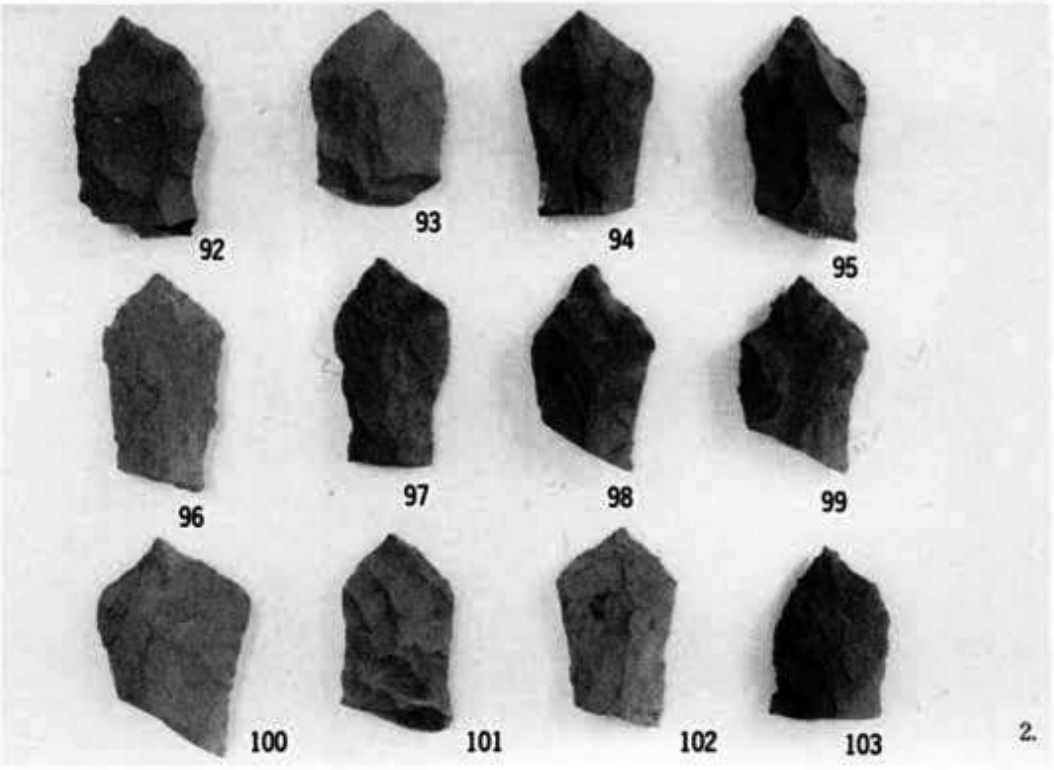




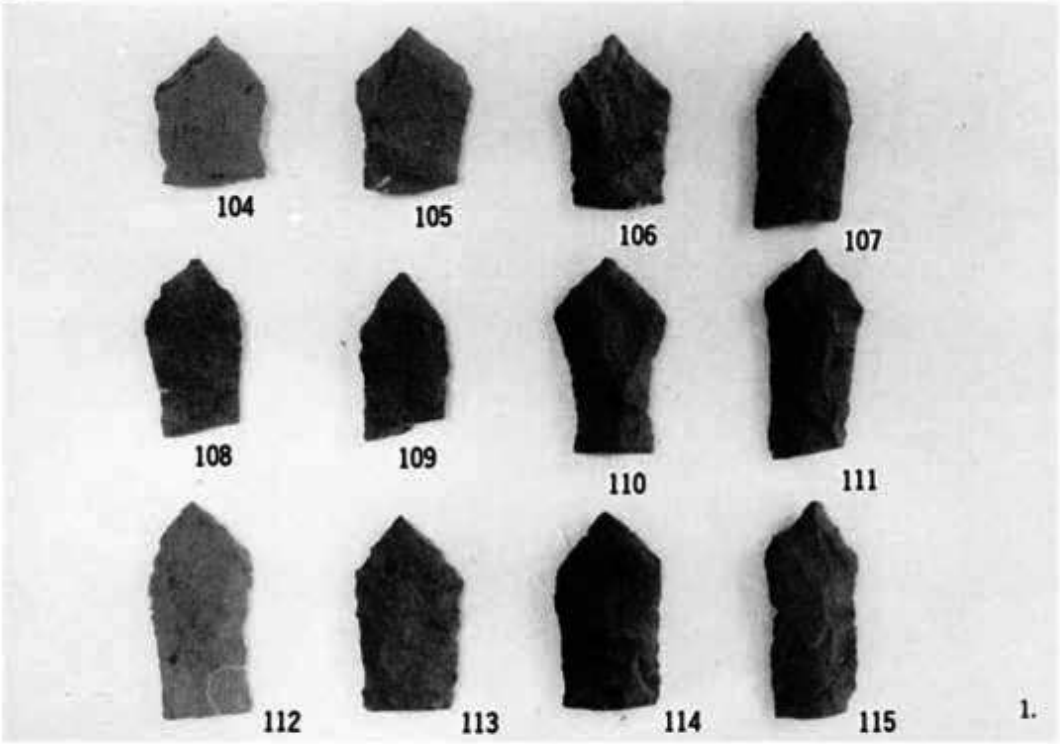
1. 山王遺跡出土尖頭器

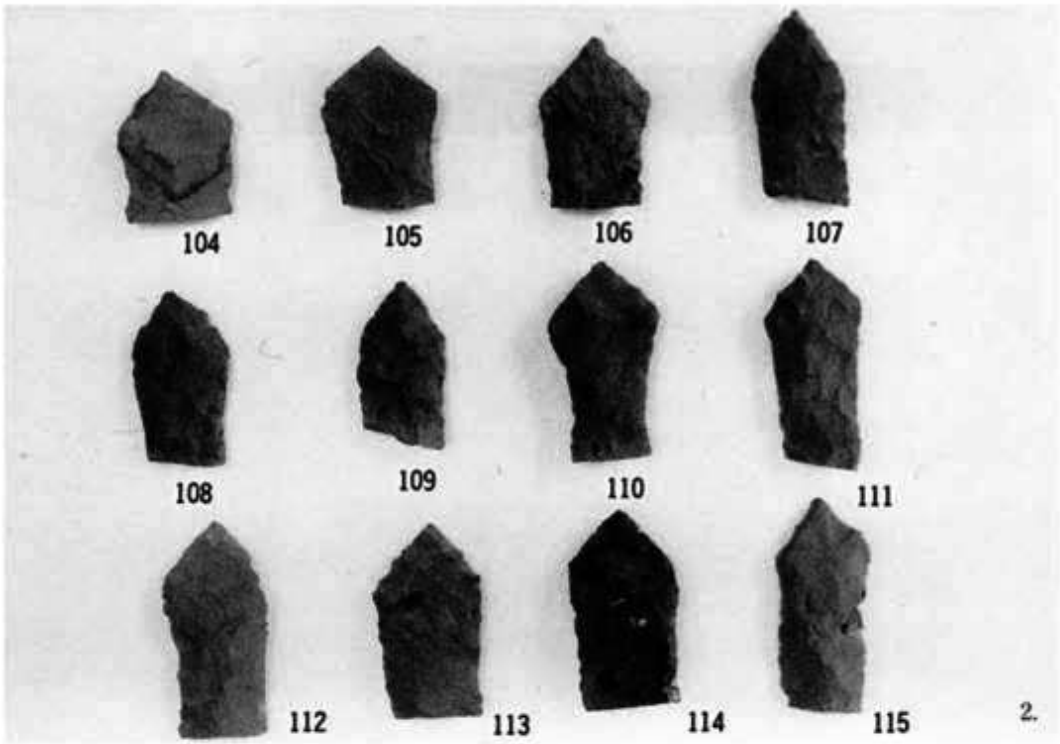
2. 山王遺跡出土尖頭器



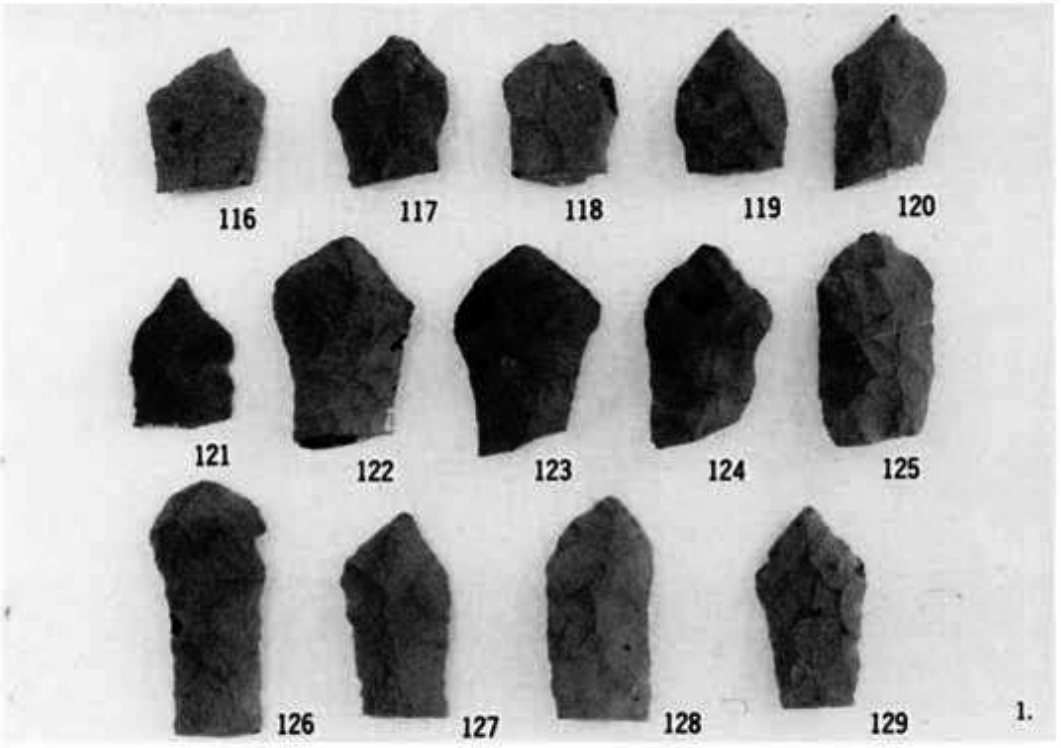


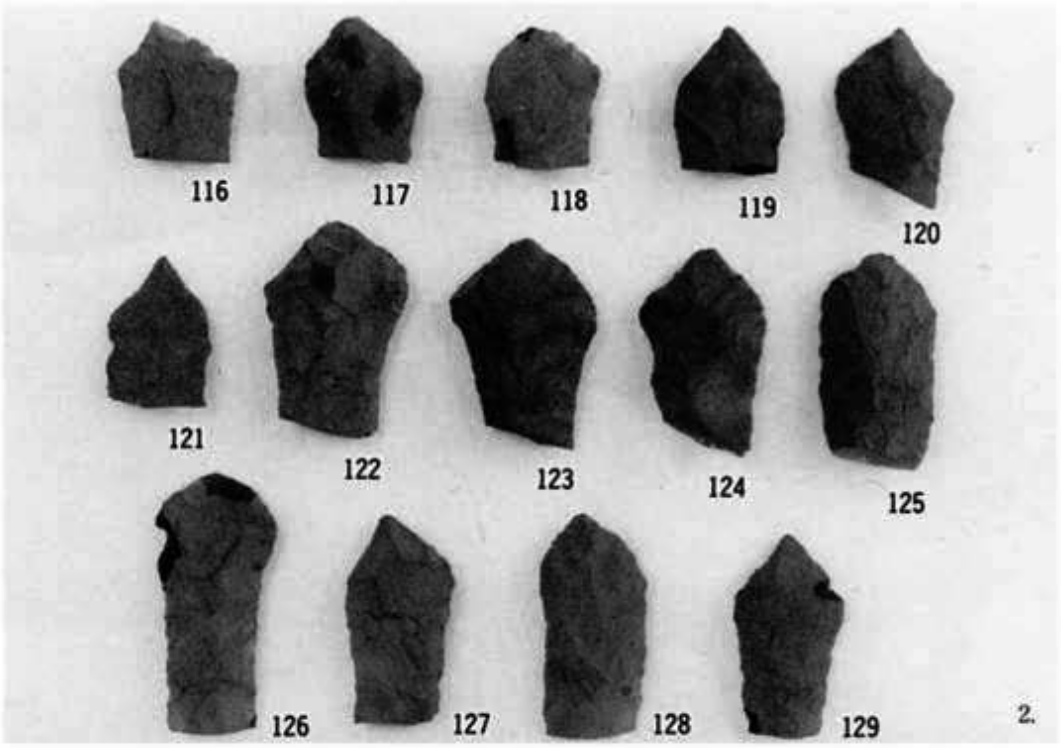
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器



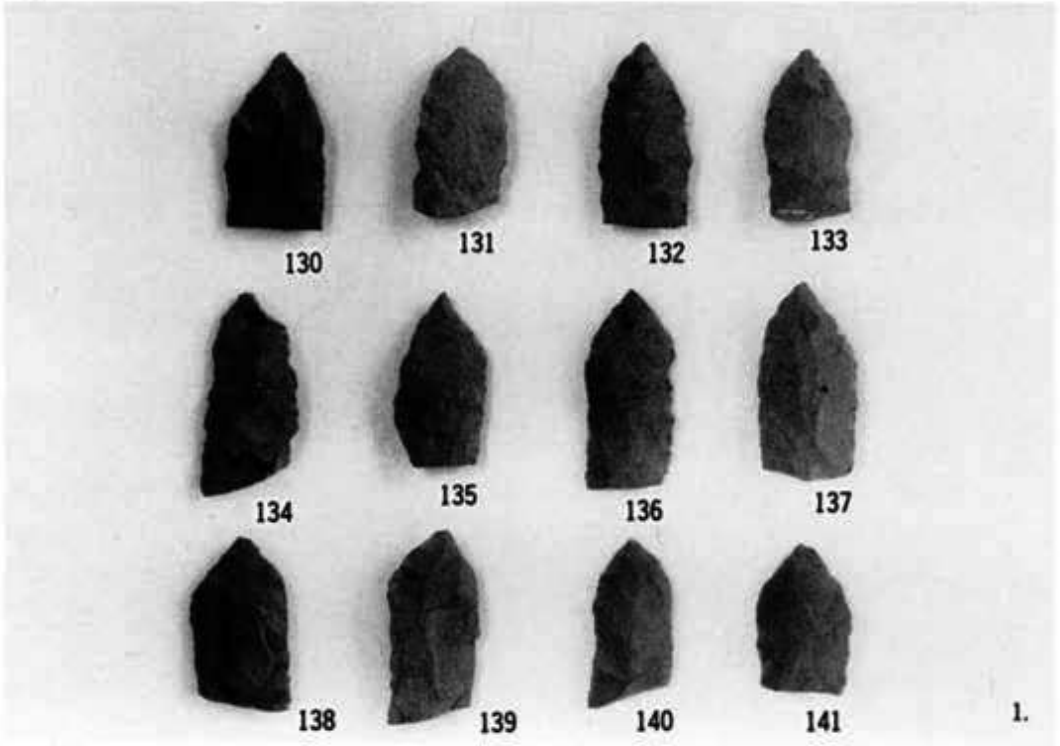


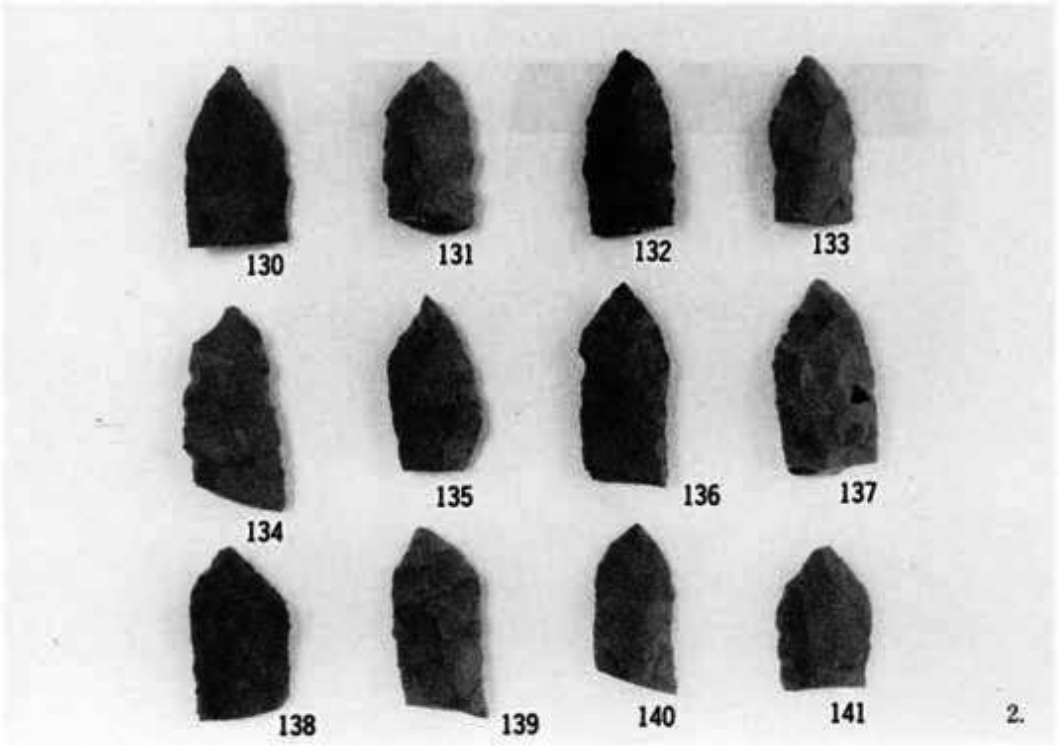
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器



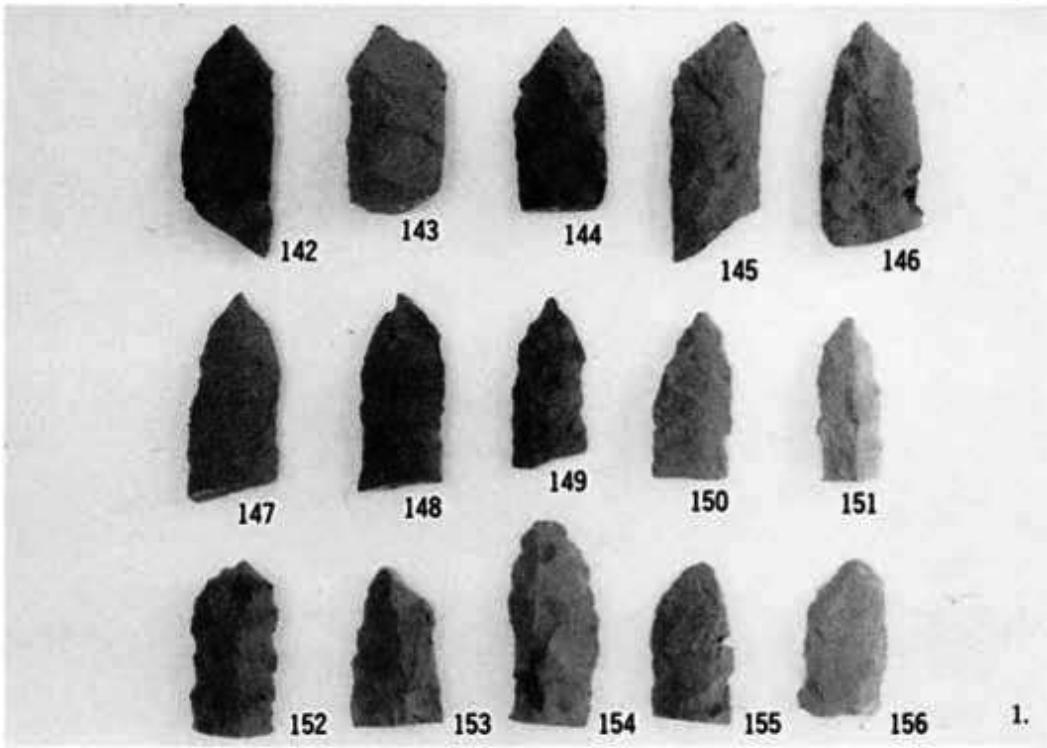


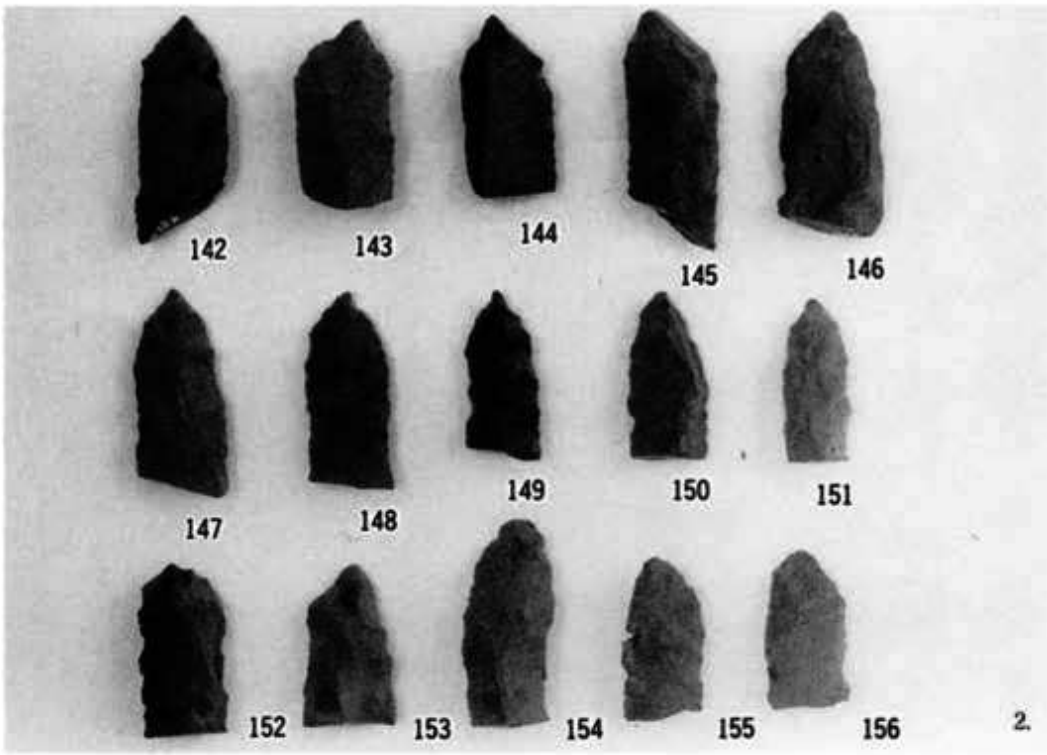
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器





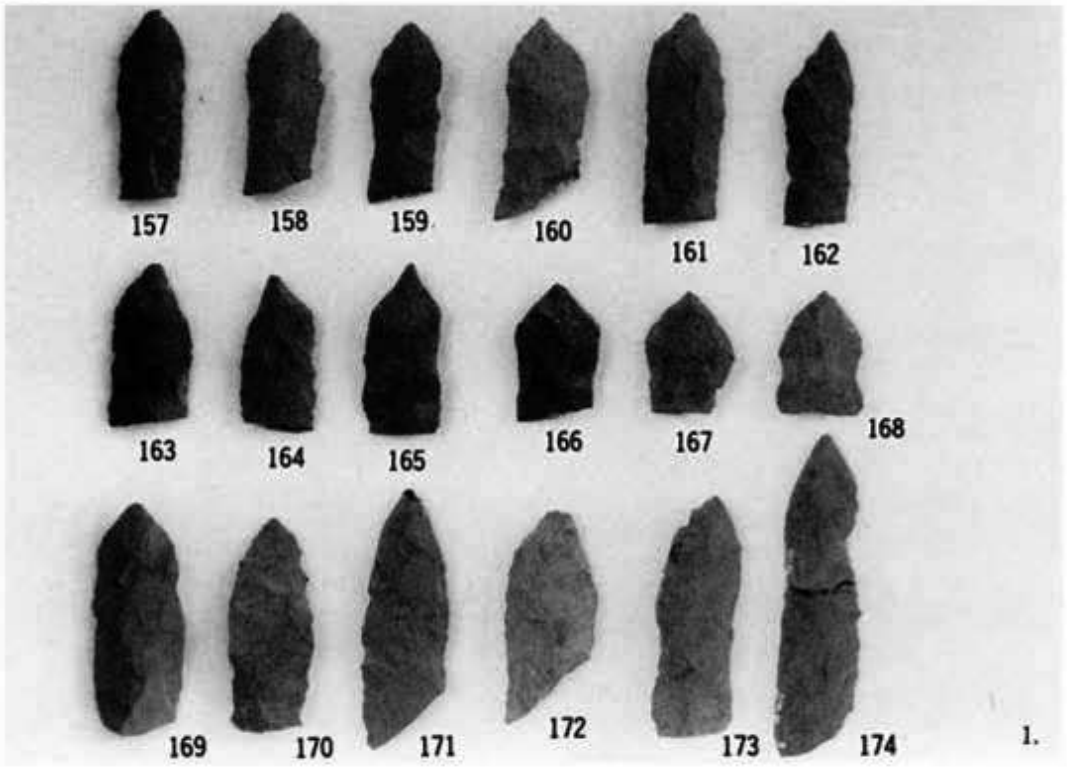
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器

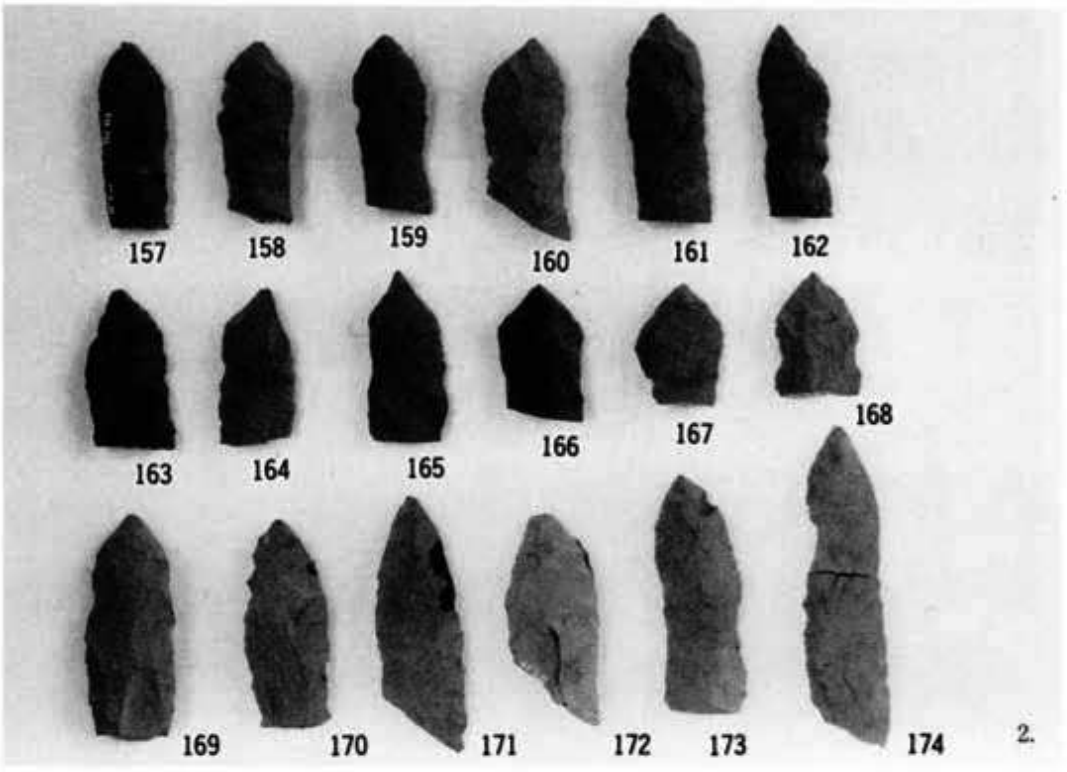




1. 山王遺跡出土尖頭器

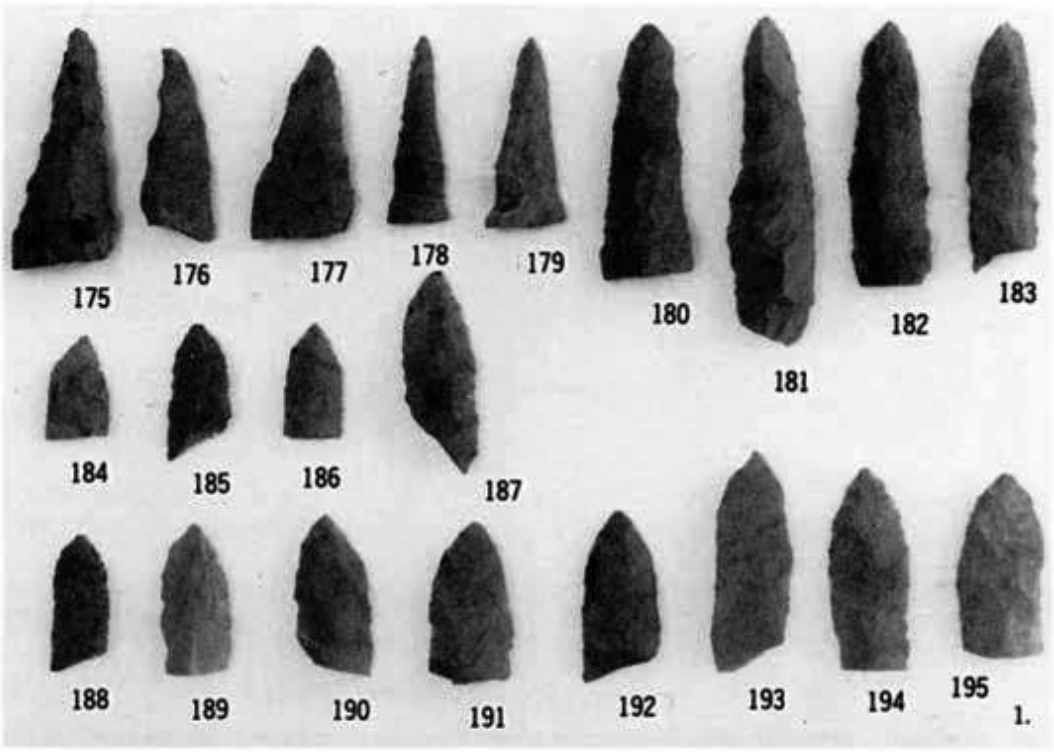
2. 山王遺跡出土尖頭器

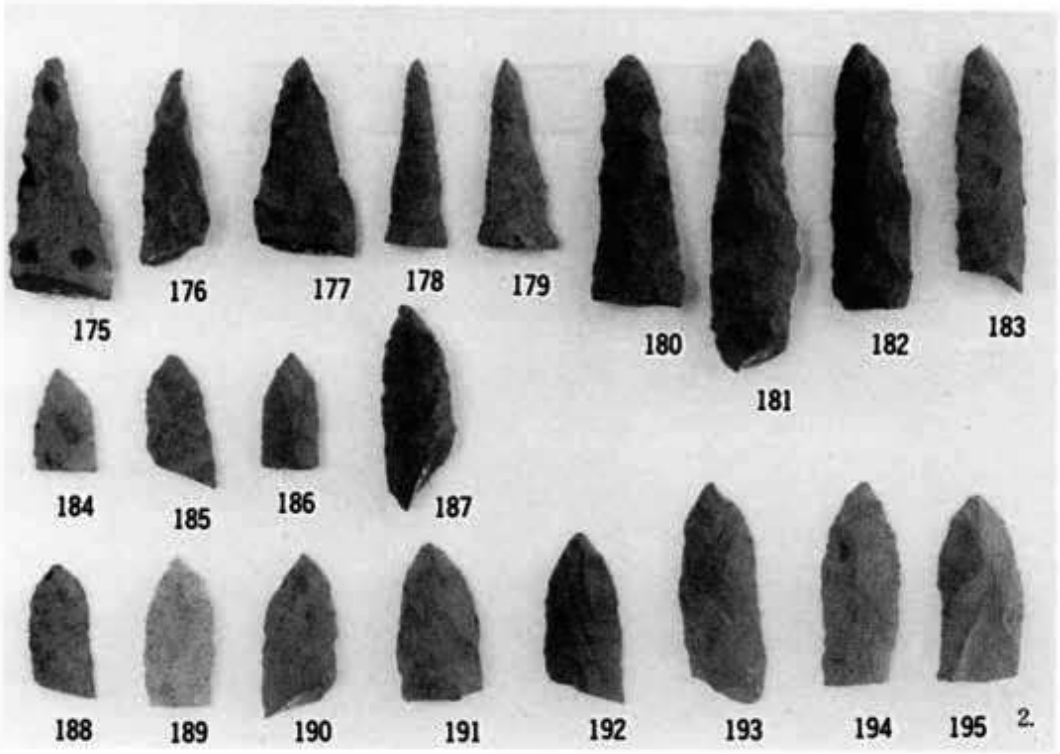




1. 山王遺跡出土尖頭器

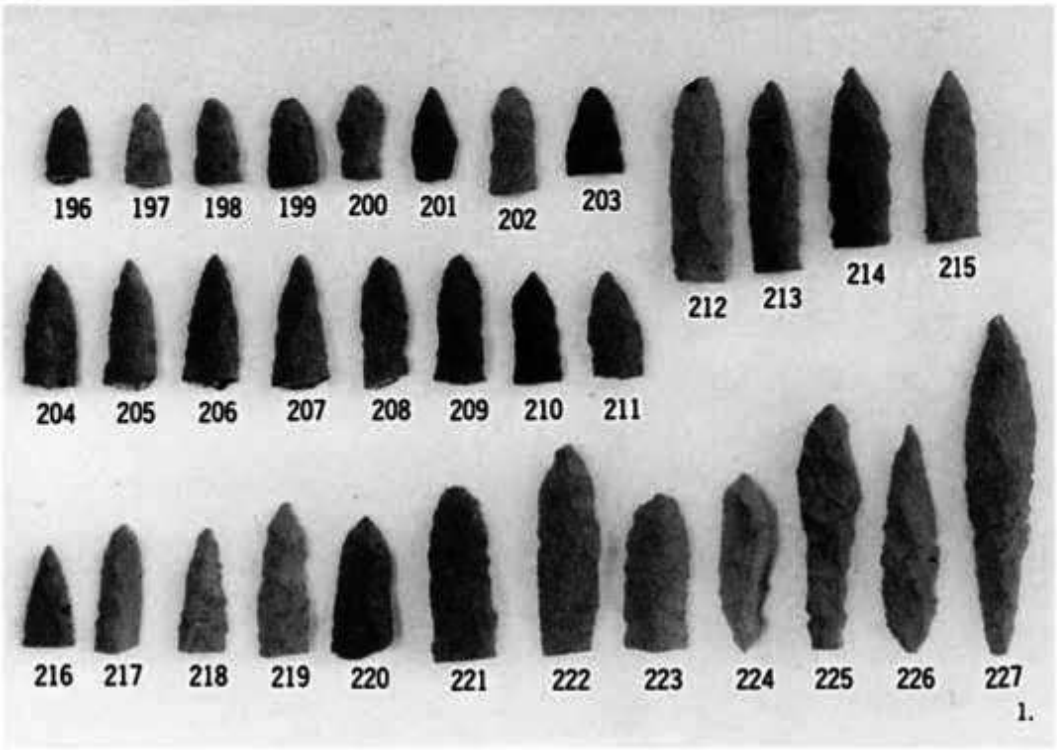
2. 山王遺跡出土尖頭器

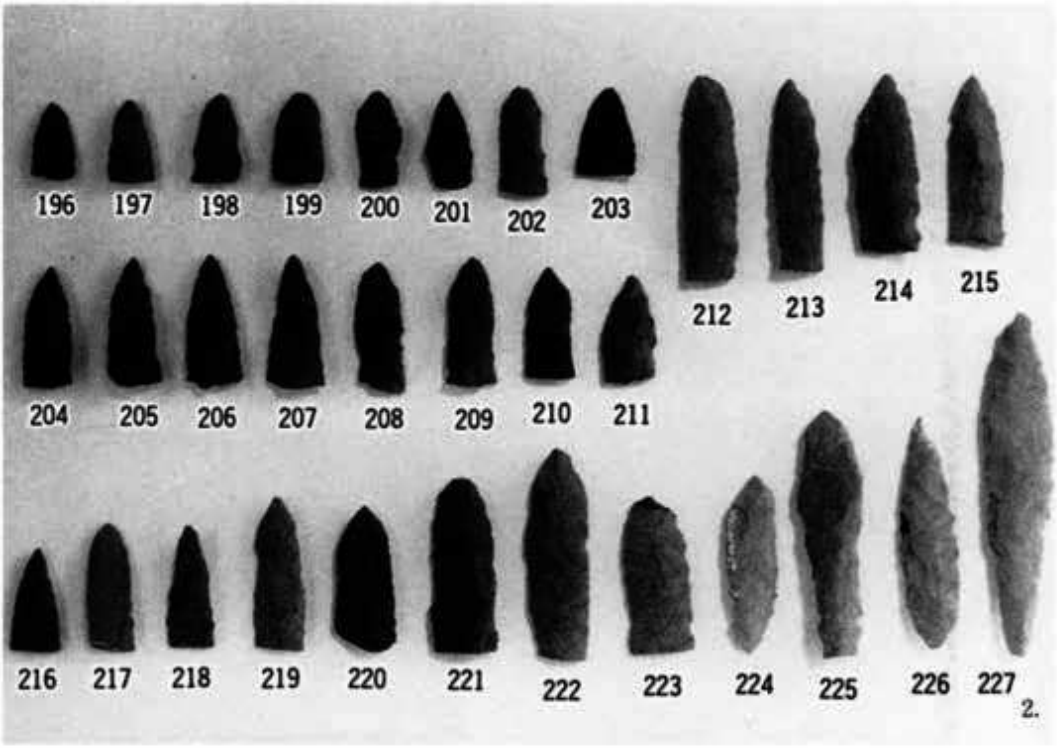




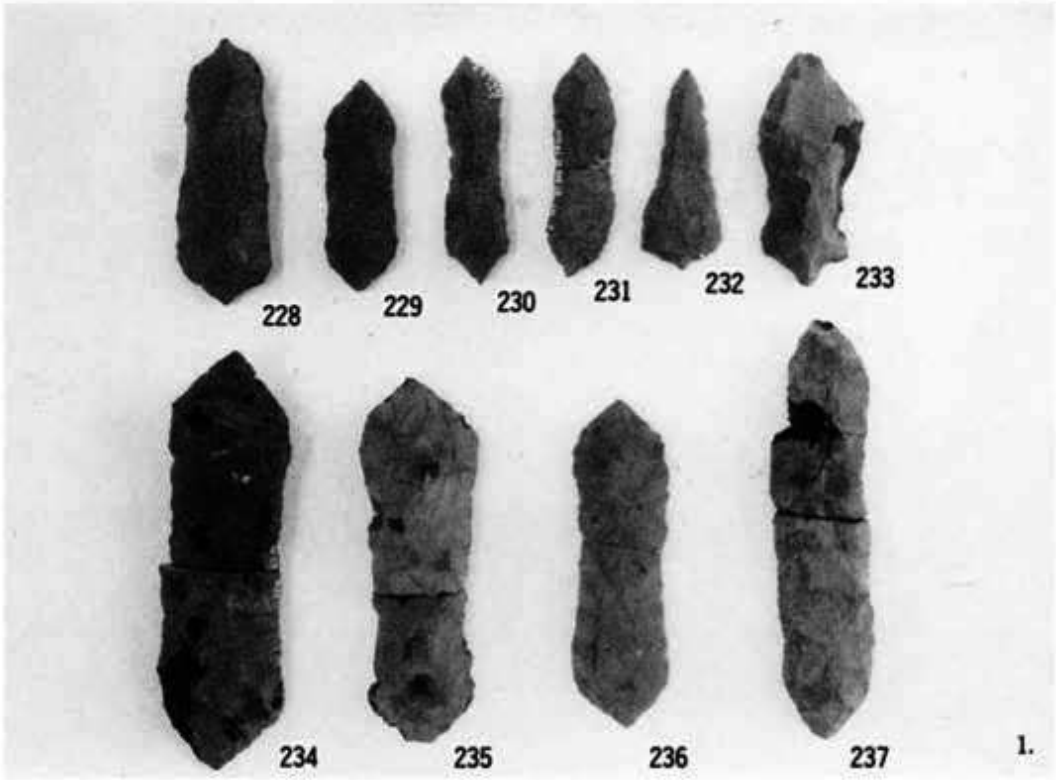
1. 山王遺跡出土尖頭器

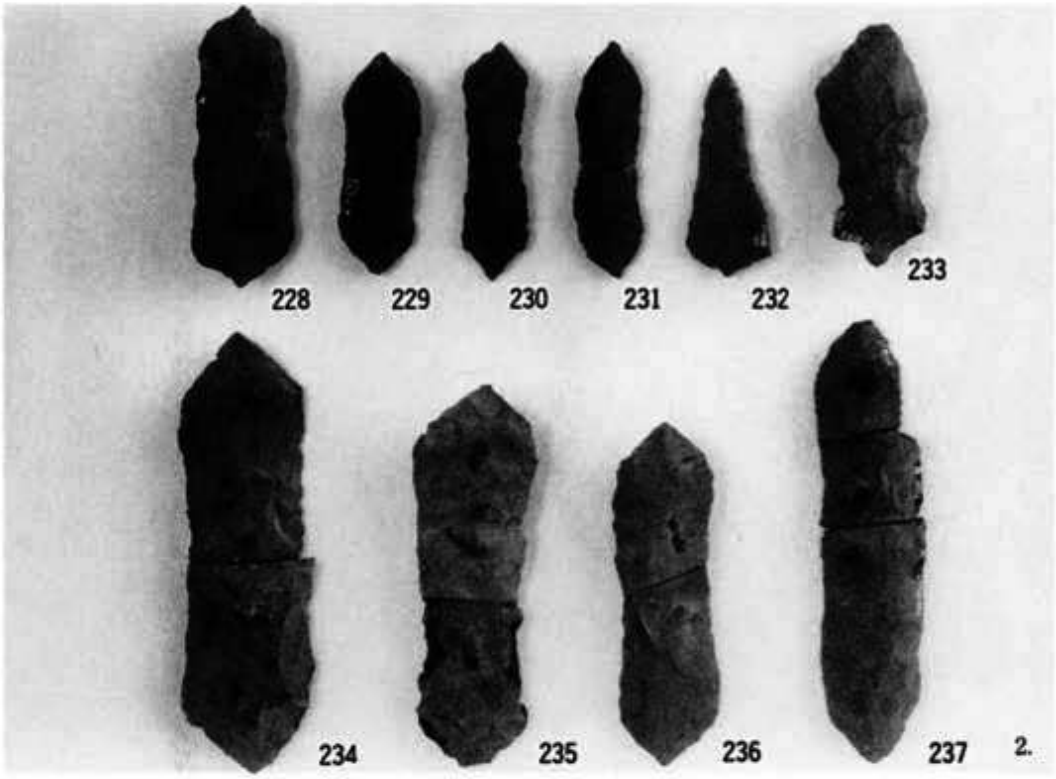
2. 山王遺跡出土尖頭器





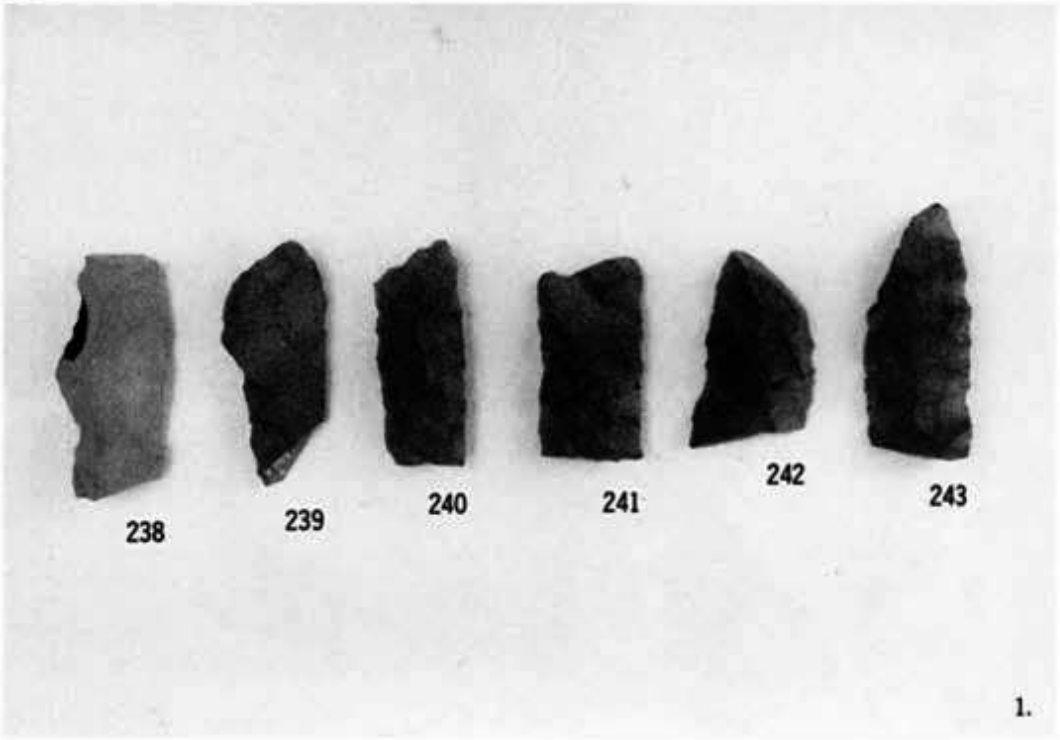
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器

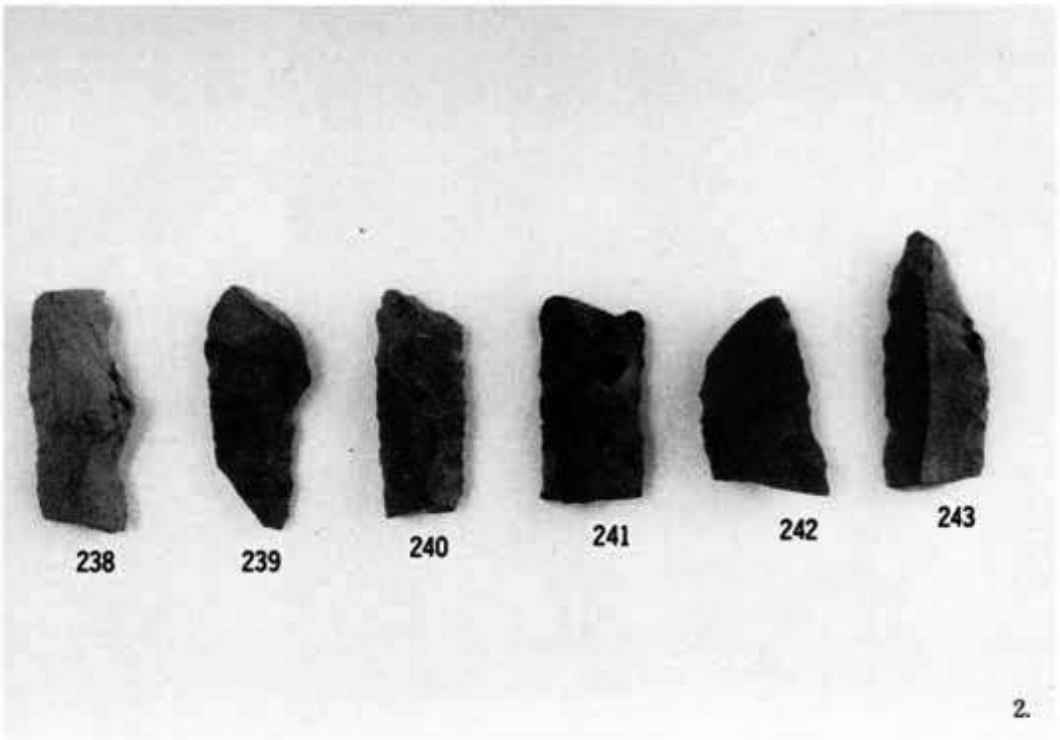




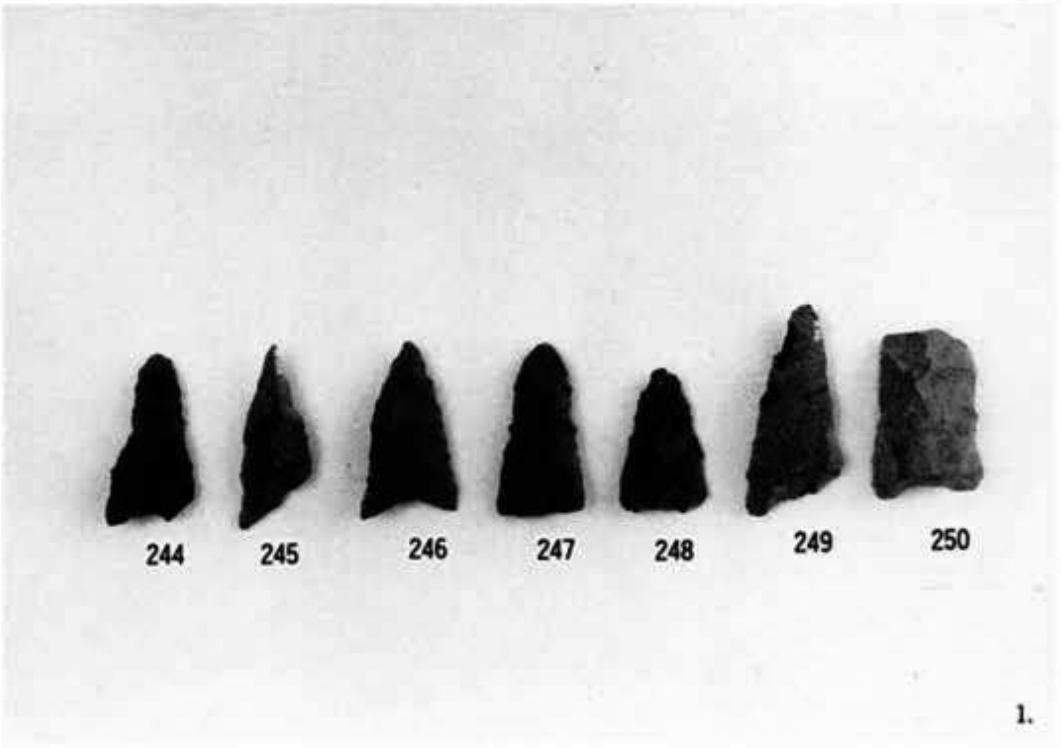
1. 山王遺跡出土尖頭器

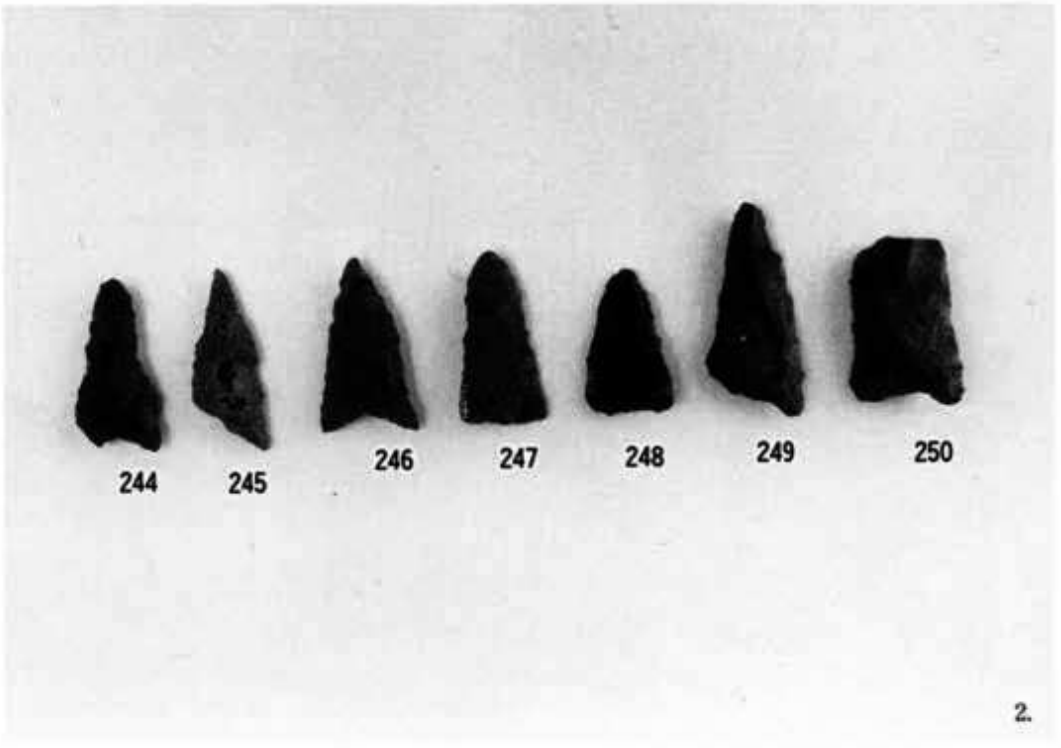
2. 山王遺跡出土尖頭器



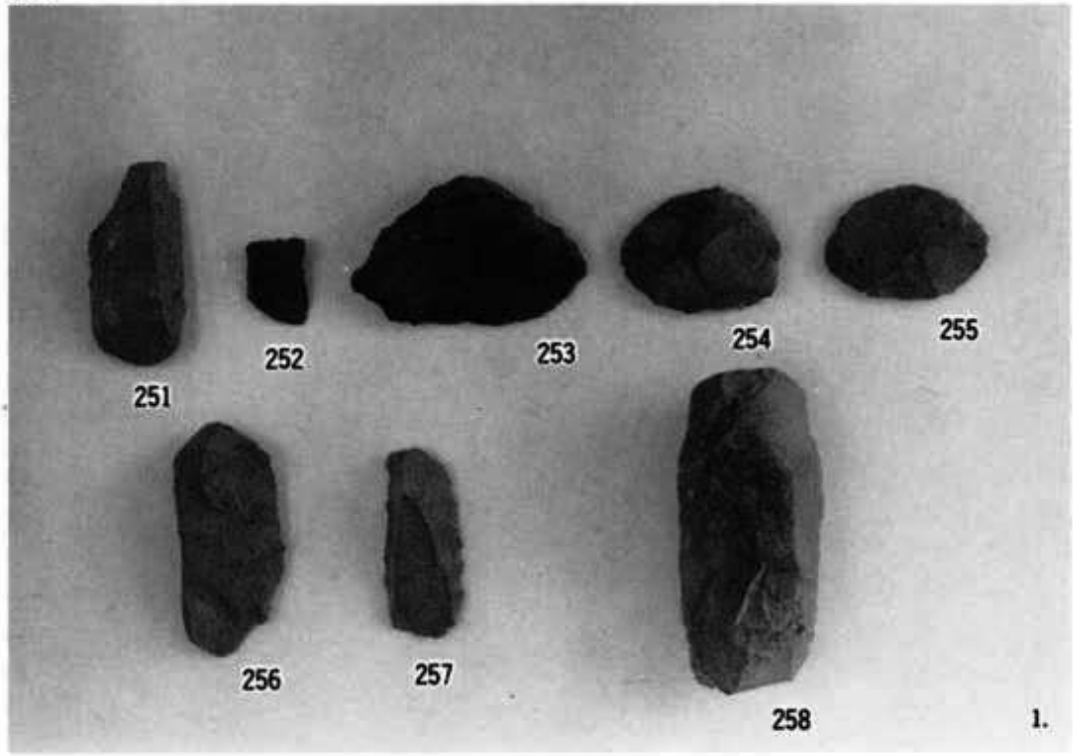


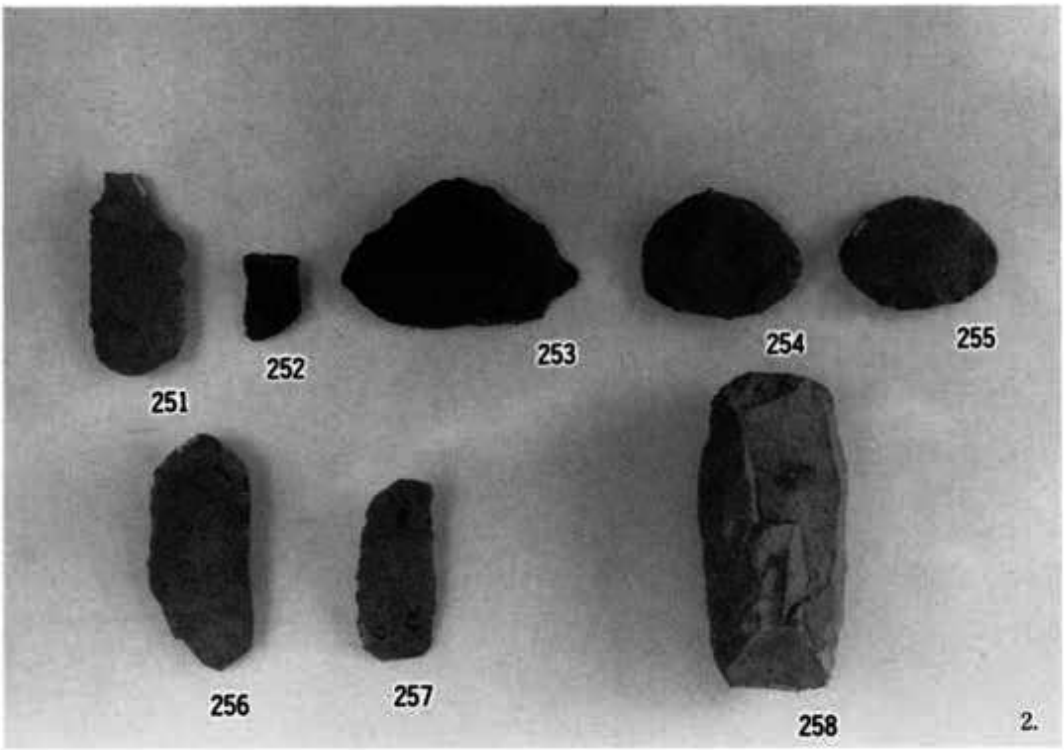
1. 山王遺跡出土尖頭器
2. 山王遺跡出土尖頭器



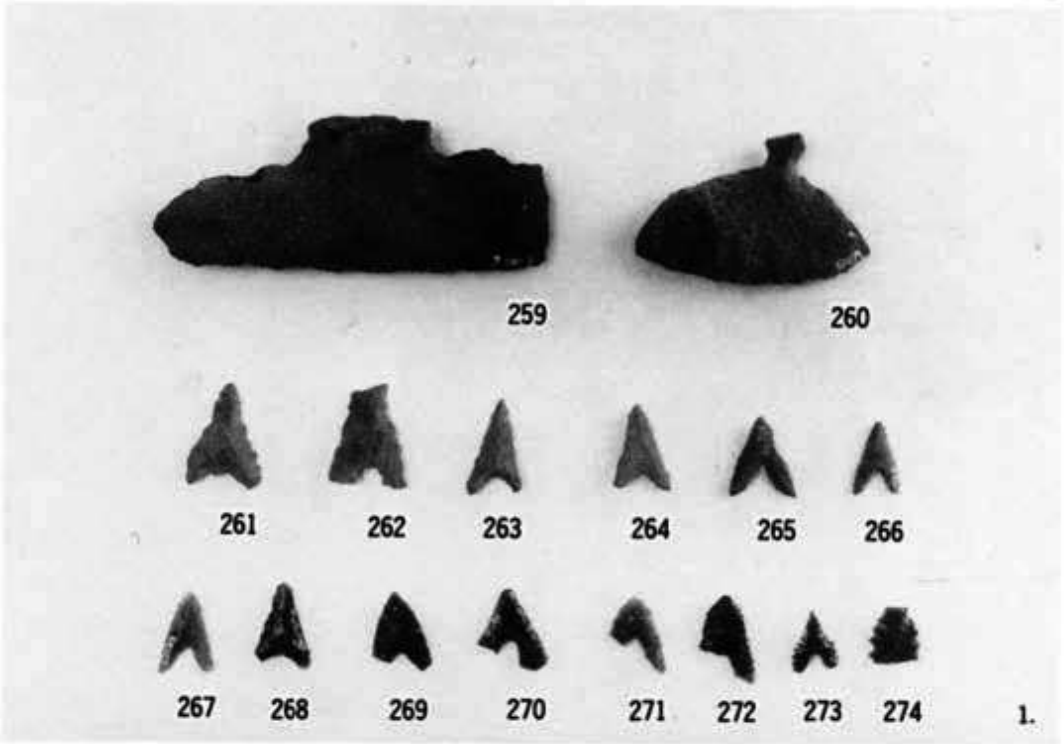


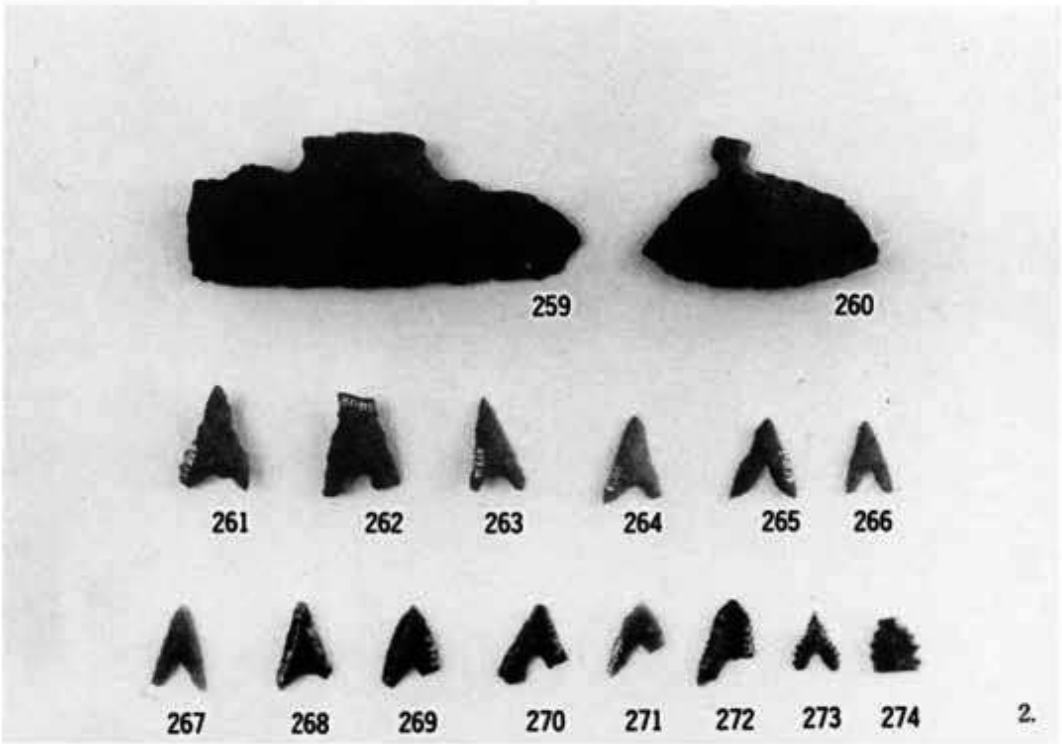
1. 山王遺跡出土鏃形石器
2. 山王遺跡出土鏃形石器





1. 山王遺跡出土掻器・円形掻器・削器・局部磨製石斧
2. 山王遺跡出土掻器・円形掻器・削器・局部磨製石斧

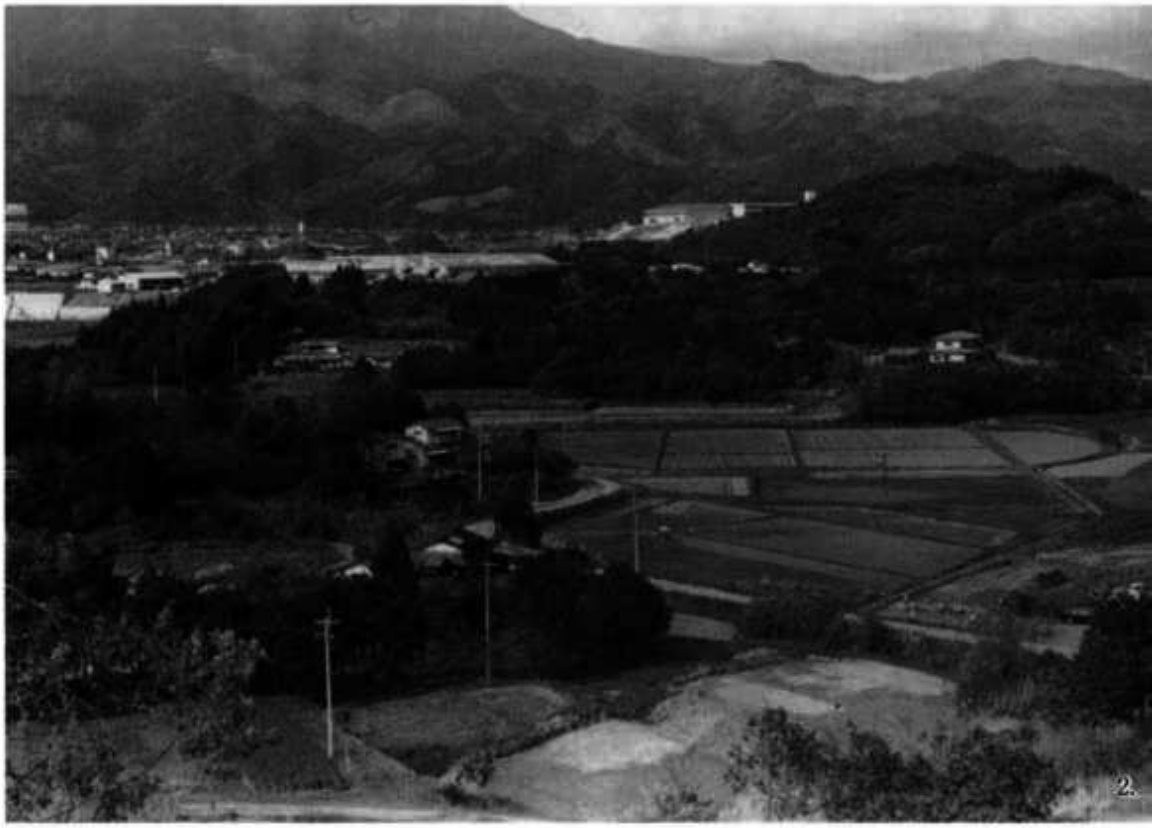




1. 山王遺跡出土石鏃・石匙

2. 山王遺跡出土石鏃・石匙

長尾開拓遺跡



1. 長尾開拓遺跡遠景〈北から〉
2. 長尾開拓遺跡遠景〈南から〉

1. 長尾開拓遺跡　第1調査区全景〈東から〉
2. 長尾開拓遺跡　第1調査区全景〈西から〉

1. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区　２D・２Eグリット付近遺物出土状態
2. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区　３E・２Eグリット付近遺物出土状態

1. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区　3 E23付近遺物出土状態

2. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区　2 E付近遺物出土状態

1. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区土層（北壁）
2. 長尾開拓遺跡　第Ⅰ調査区土層（南壁）

1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　7D・8D付近遺物出土状態上面（昭和58年）
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　7D・8D付近遺物出土状態下面（昭和58年）

1. 長尾開拓遺跡　第II調査区尖頭器製作工房跡遺構（西から）
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区尖頭器製作工房跡遺構（東から）

1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態

1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構下層遺物出土状態
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構尖頭器出土状態

1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　尖頭器製作工房跡遺構遺物出土状態

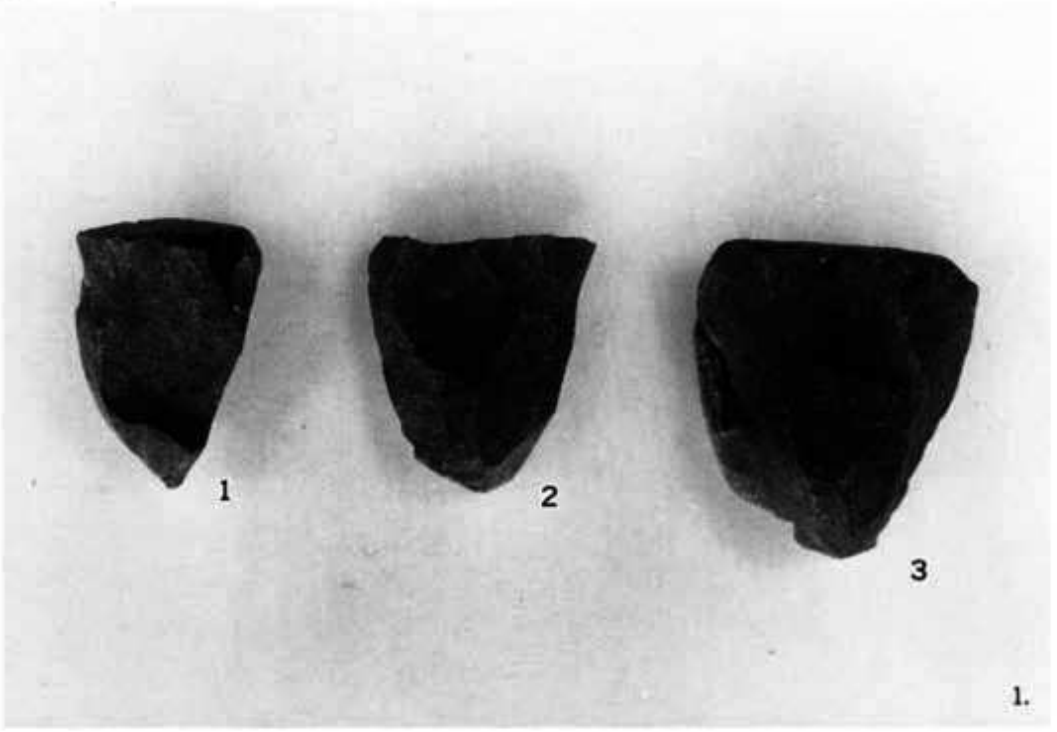
1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　13F・13G付近トレンチ完掘状態（北から）
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　13F・13G付近トレンチ完掘状態（東から）

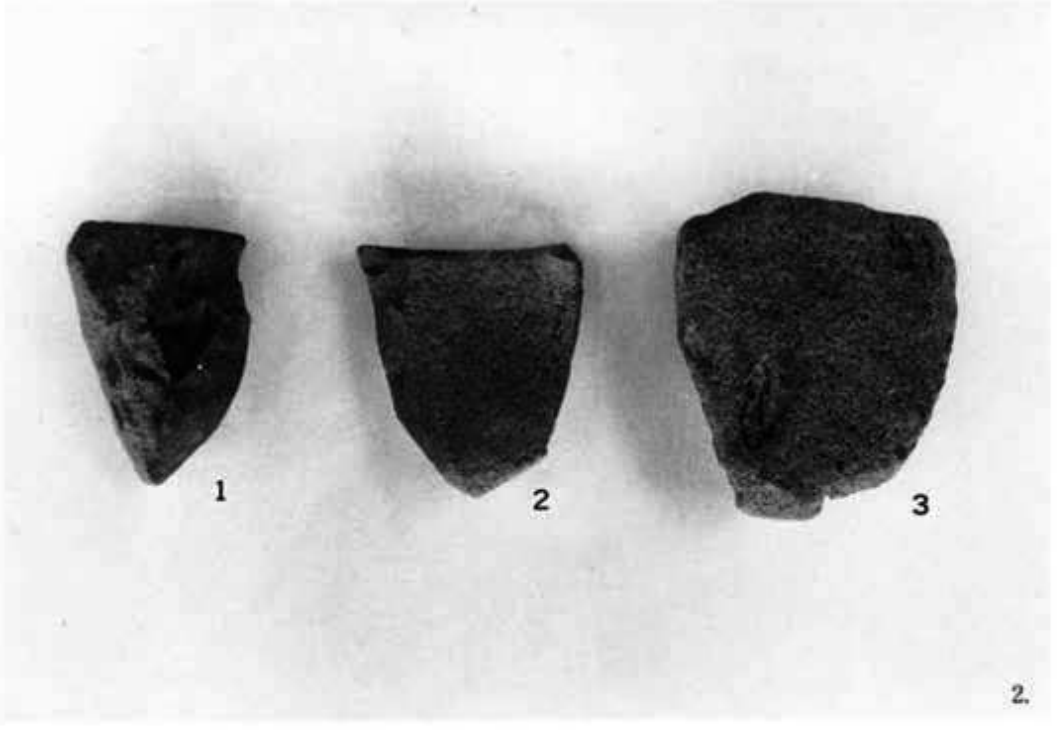
1. 長尾開拓遺跡　第II調査区　13F～14F地層（北壁）
2. 長尾開拓遺跡　第II調査区　13F～14F地層（北壁）

1. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　上面遺物出土状態（南東部）
2. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　上面遺物出土状態（北西部）

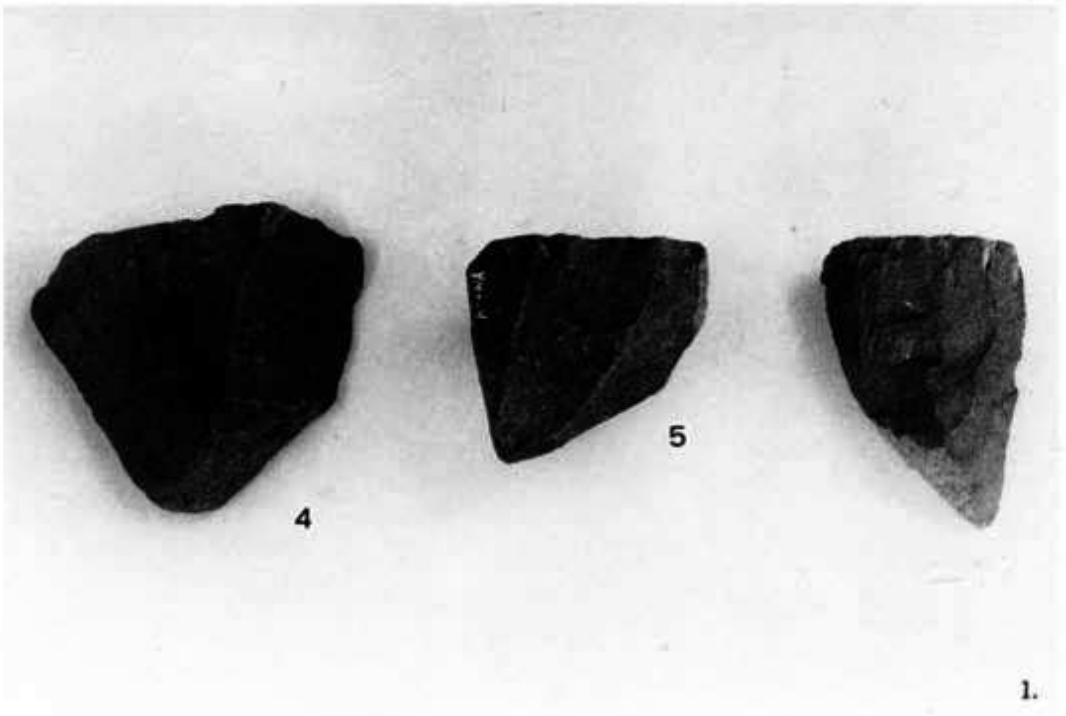
1. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　16H～16Ⅰ土層
2. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　16H～16Ⅰ土層
3. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　17H～17Ⅰ土層
4. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　17H～17Ⅰ土層
5. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　16H～17H土層
6. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　16H～17H土層

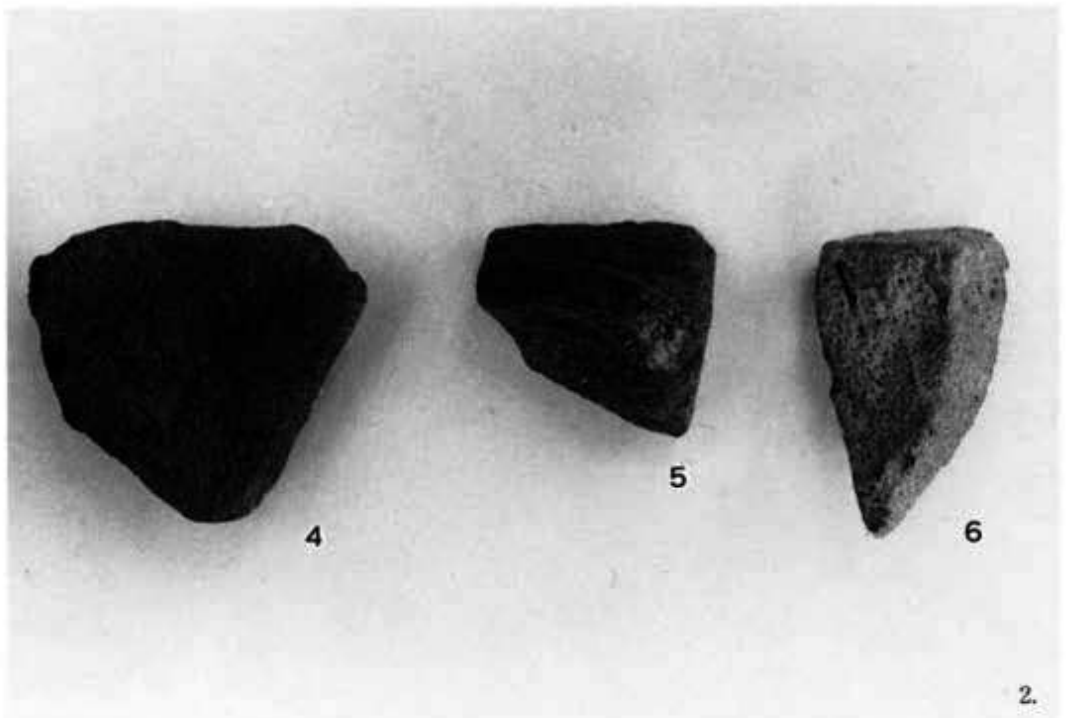
1. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　土層（工事中）
2. 長尾開拓遺跡　第Ⅲ調査区　第Ⅲ調査区南側台地土層



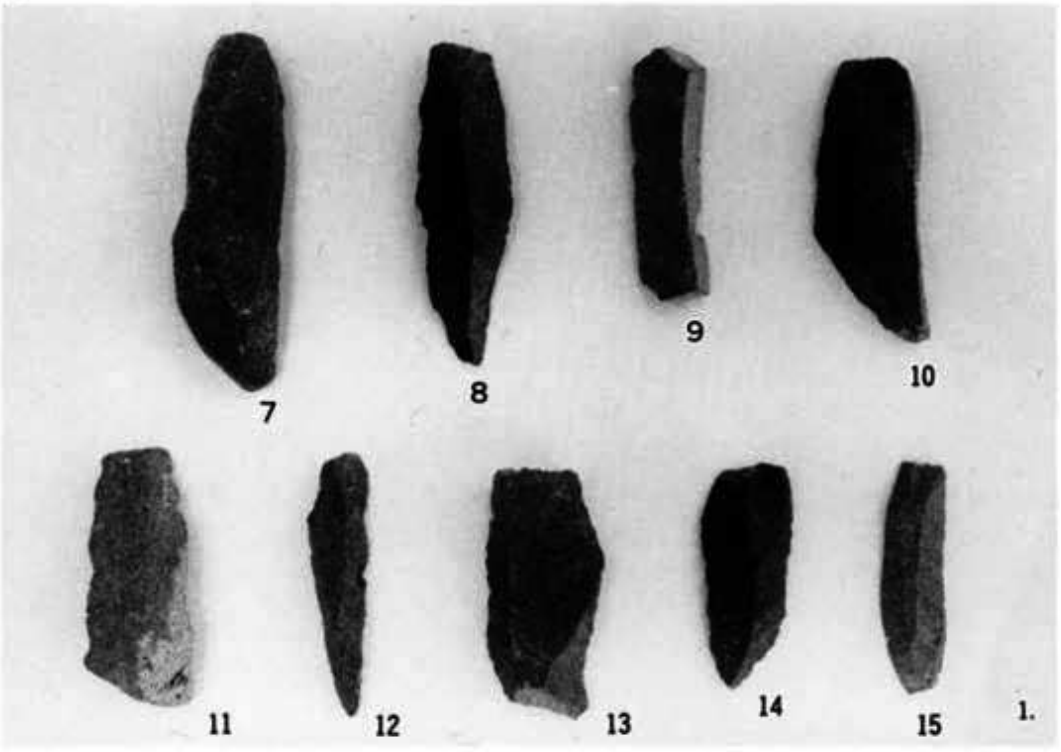


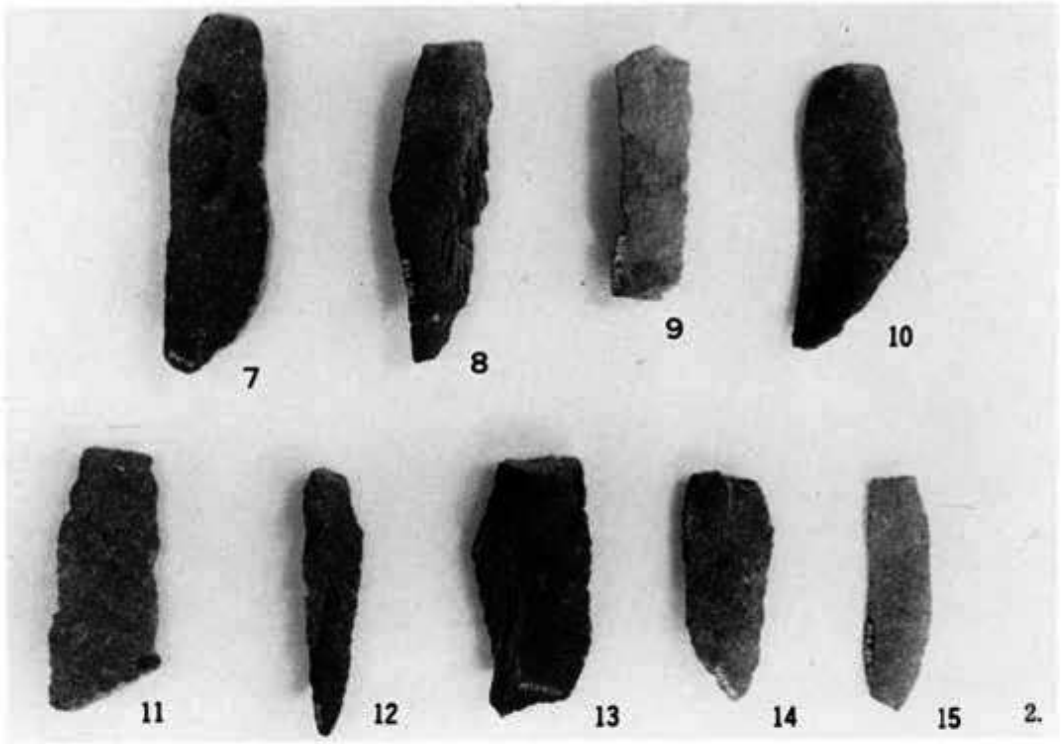
1. 長尾開拓遺跡出土半円錐形石核
2. 長尾開拓遺跡出土半円錐形石核



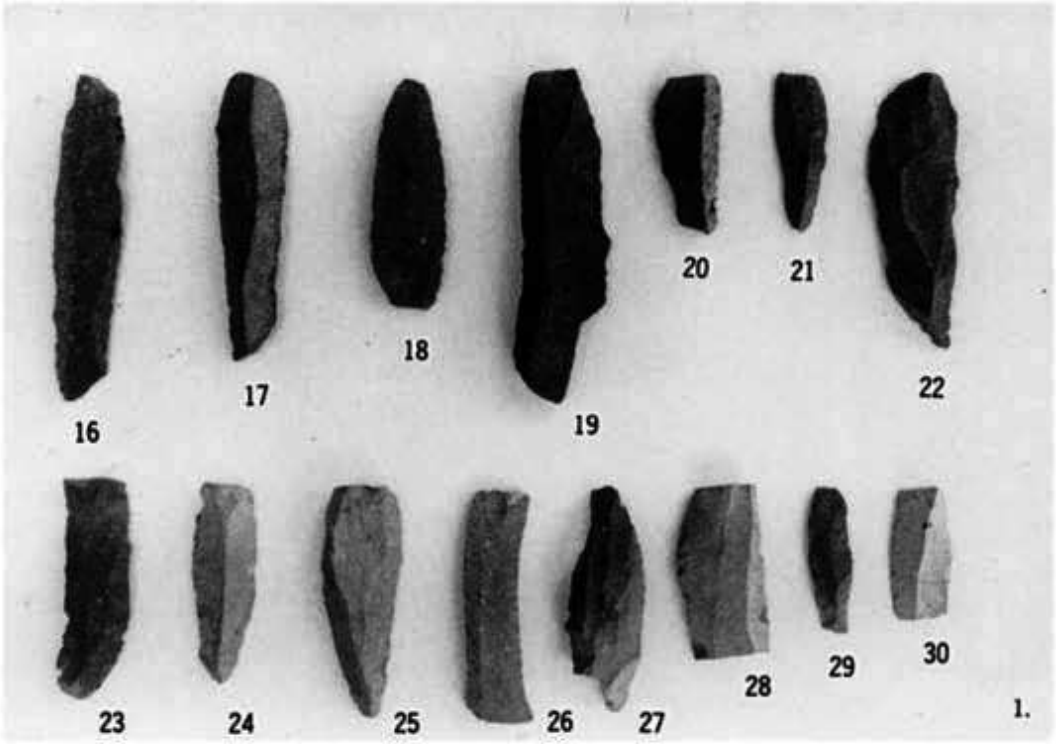


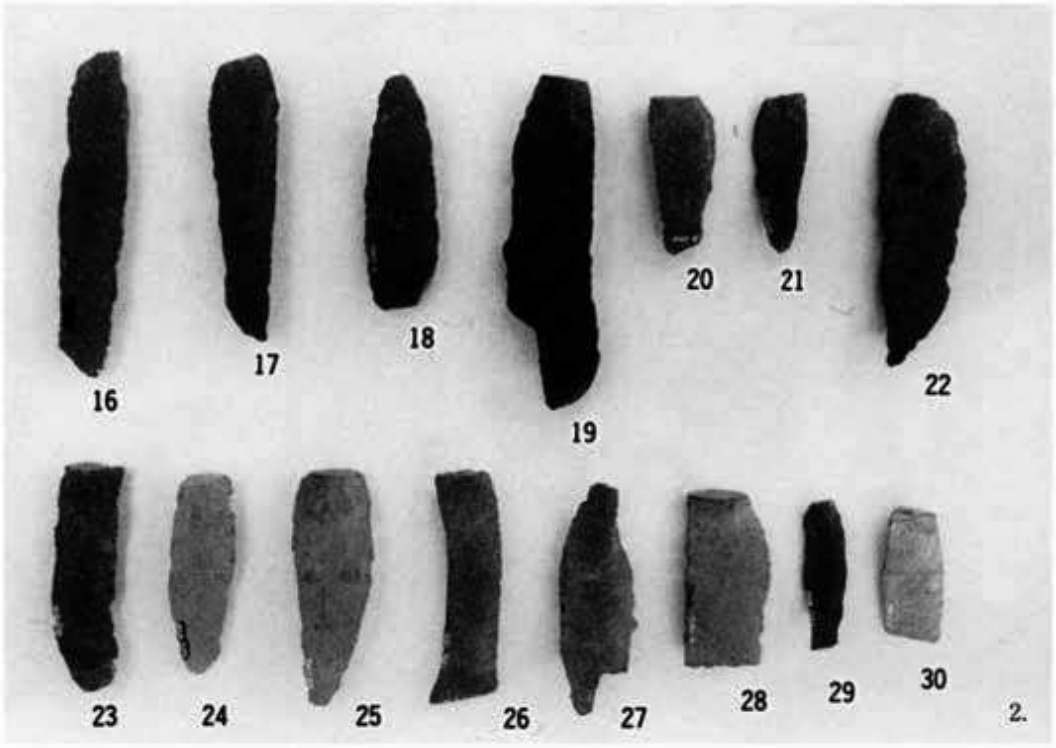
1. 長尾開拓遺跡出土半円錐形石核
2. 長尾開拓遺跡出土半円錐形石核





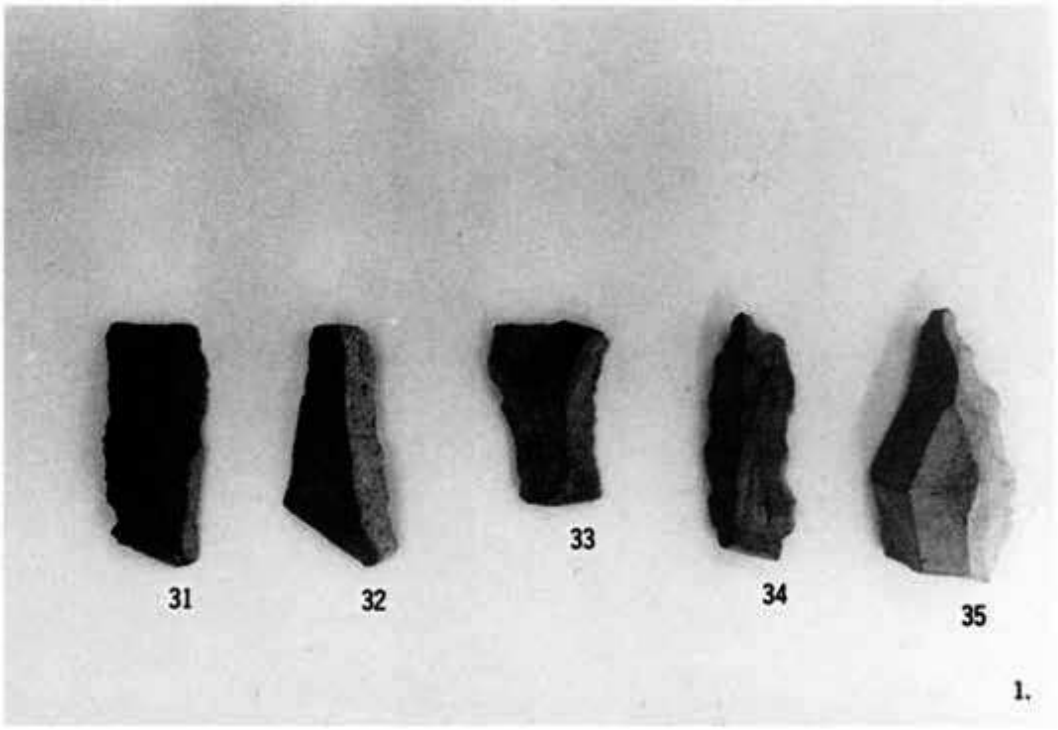
1. 長尾開拓遺跡出土縦長剝片
2. 長尾開拓遺跡出土縦長剝片

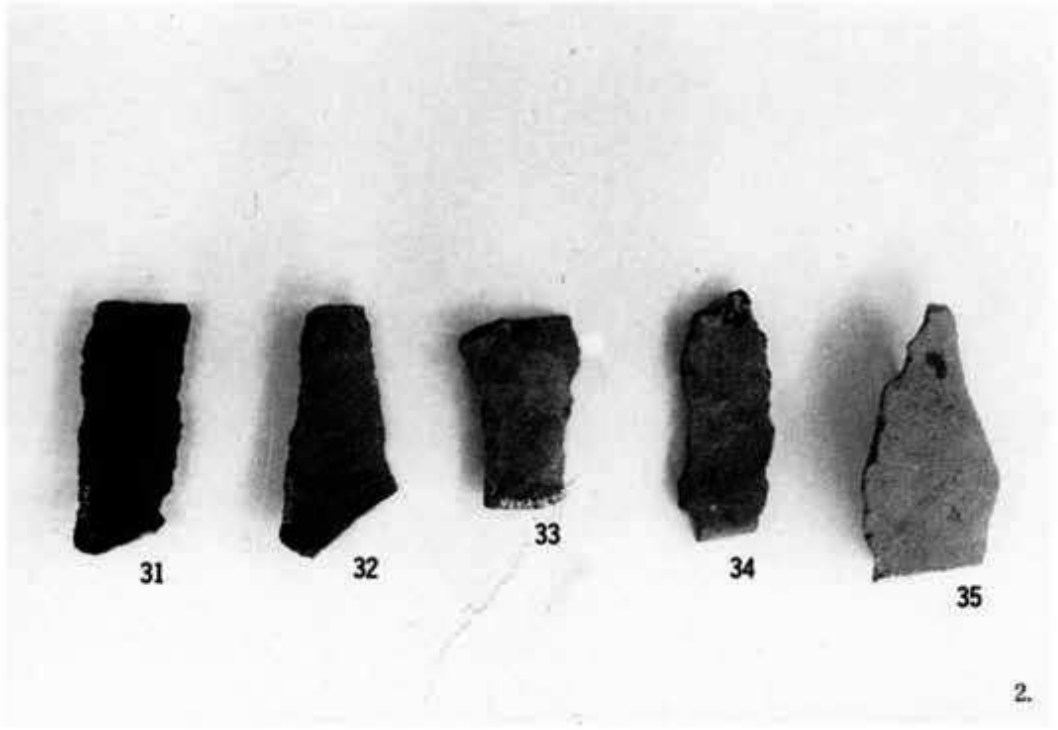




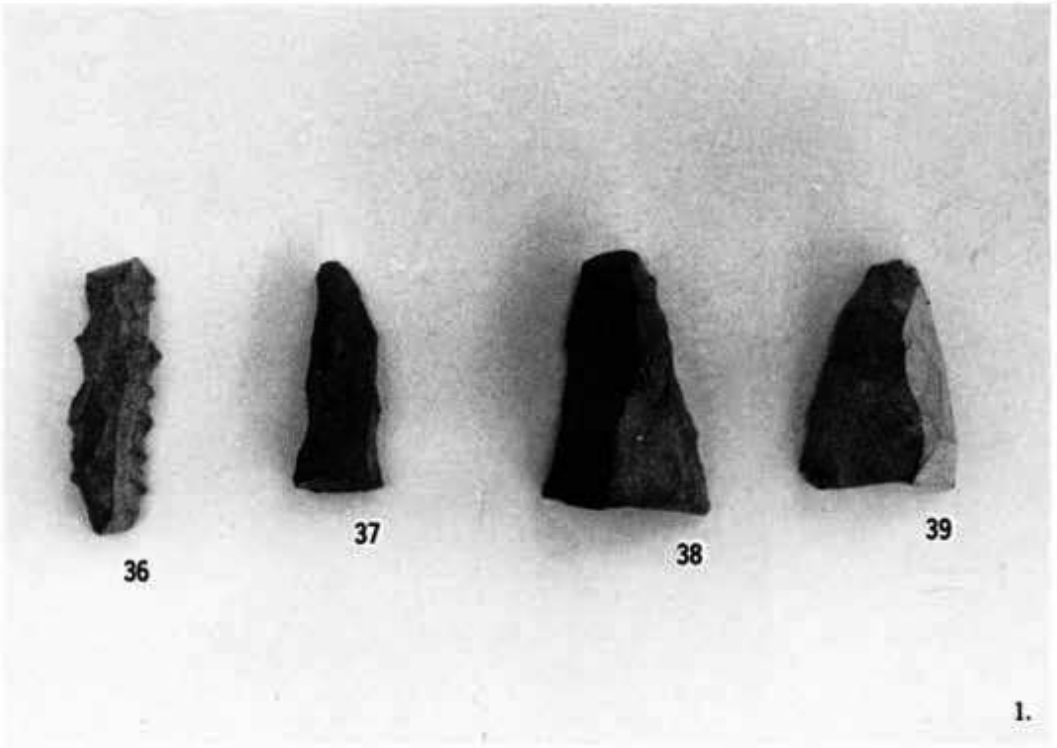
1.長尾開拓遺跡出土縦長剝片

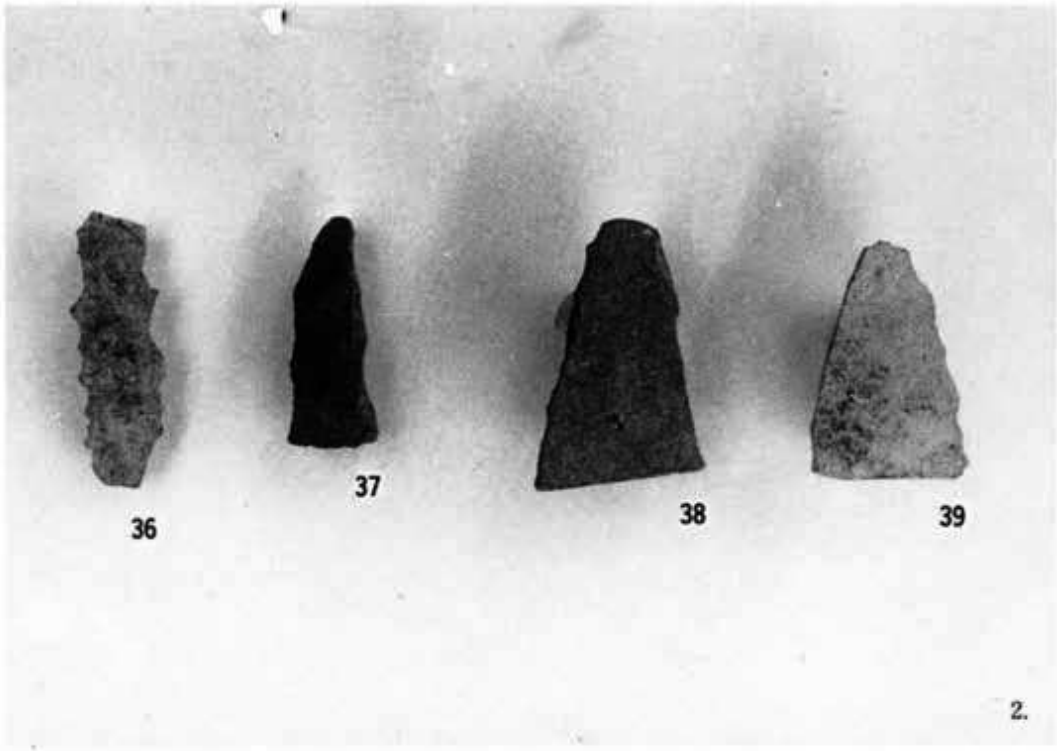
2.長尾開拓遺跡出土縦長剝片



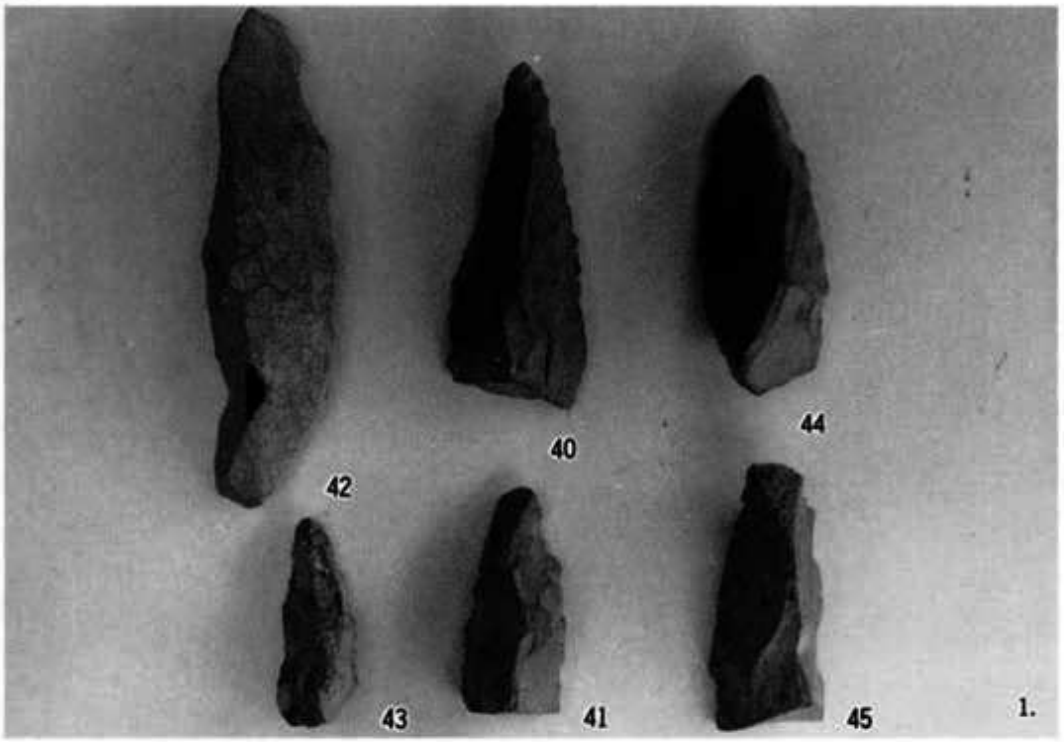


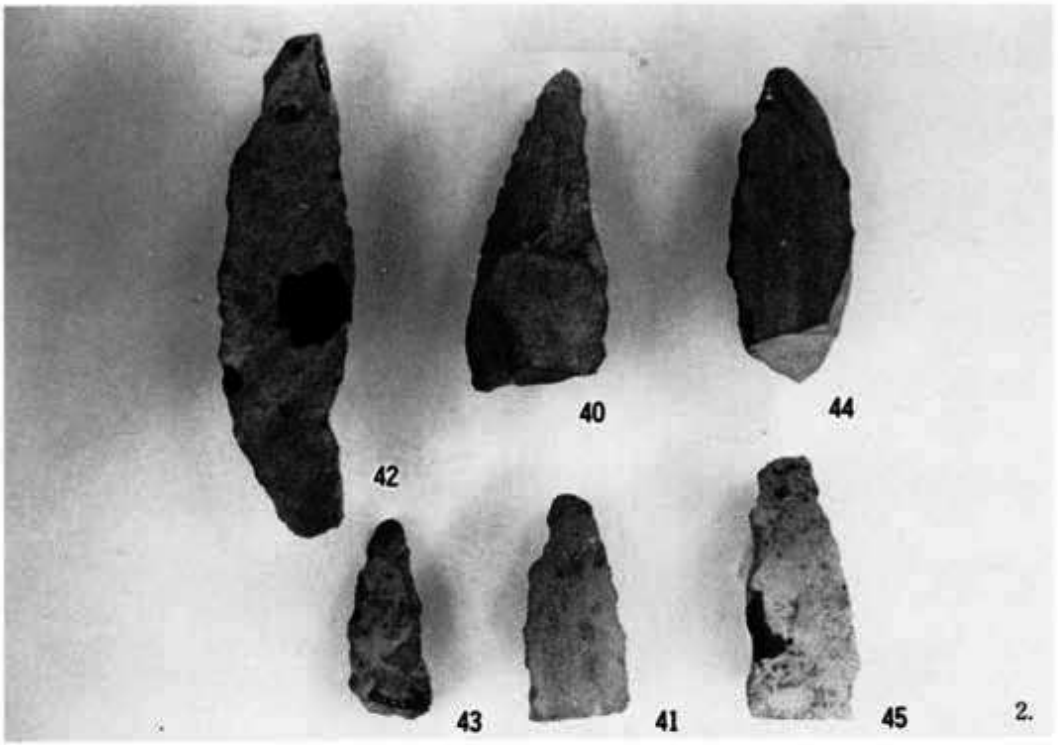
1. 長尾開拓遺跡出土縦長剝片・ナイフ形石器
2. 長尾開拓遺跡出土縦長剝片・ナイフ形石器



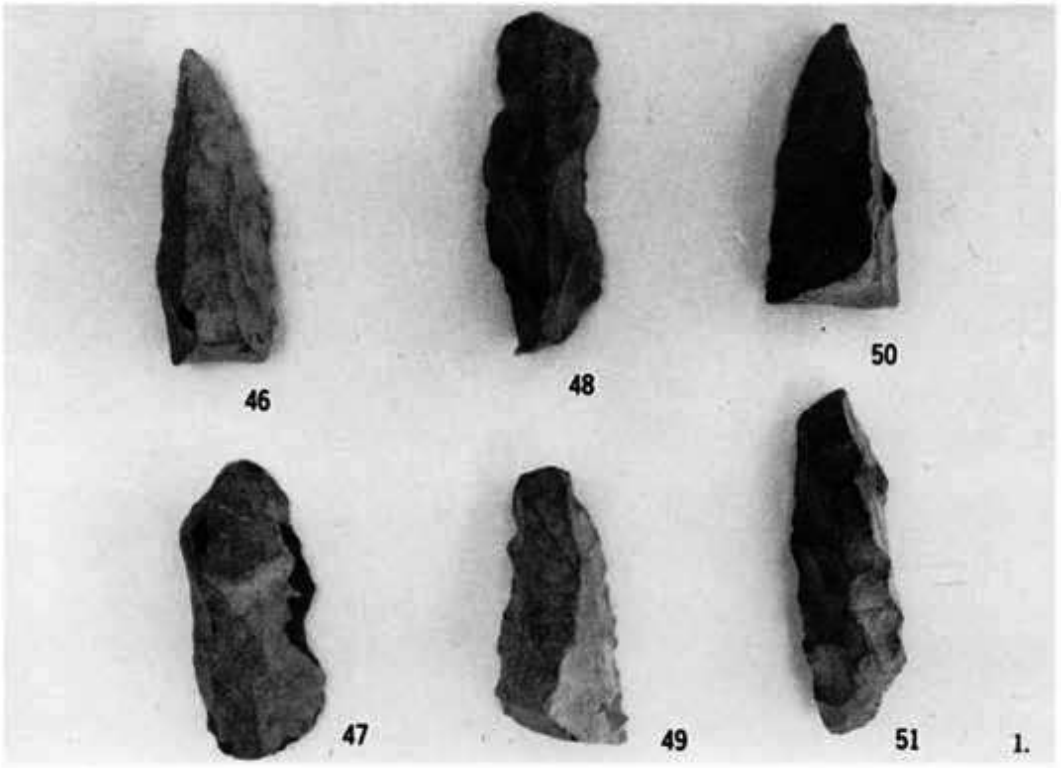


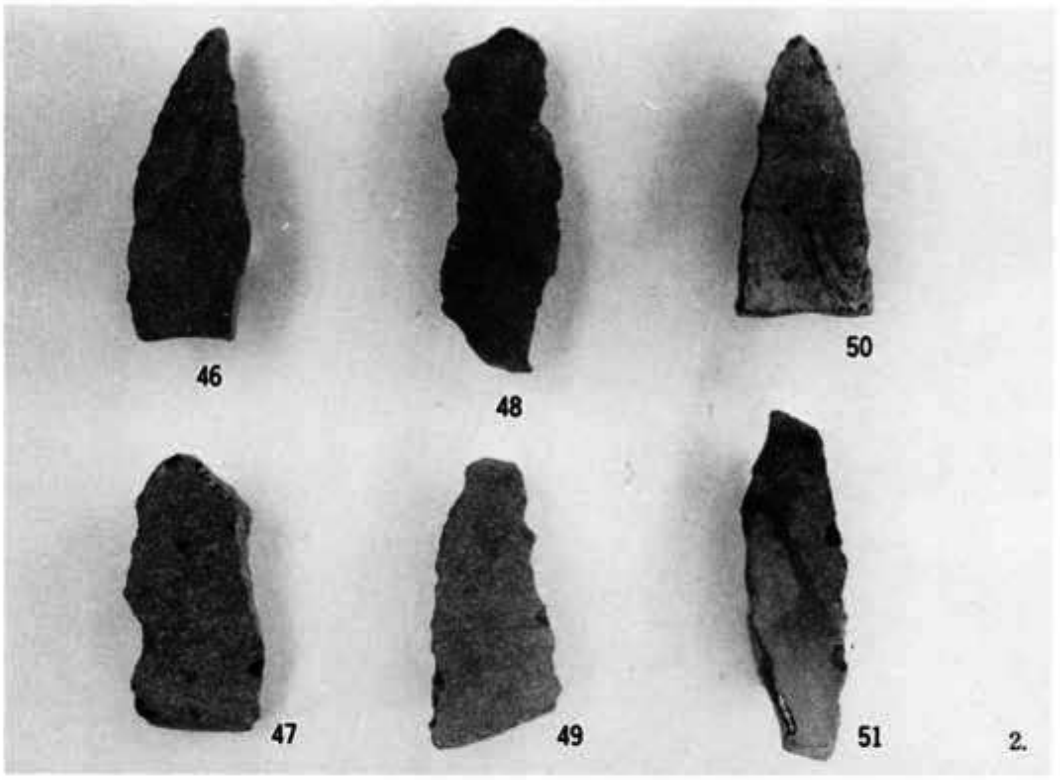
1. 長尾開拓遺跡出土三稜尖頭器・船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土三稜尖頭器・船底形石器



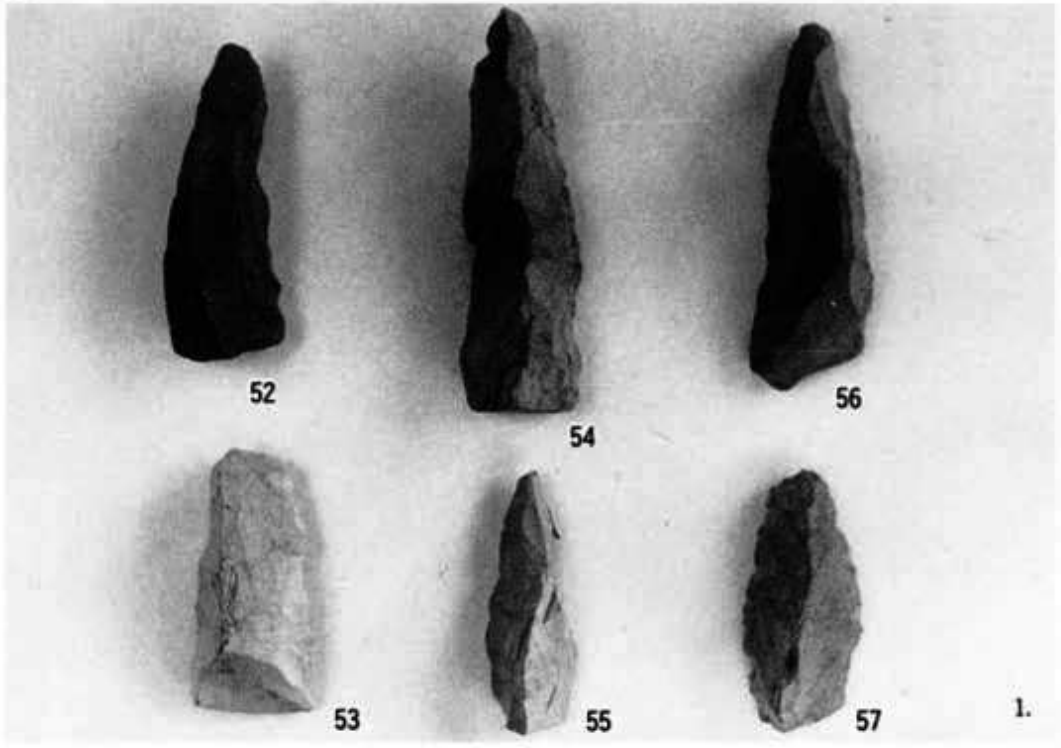


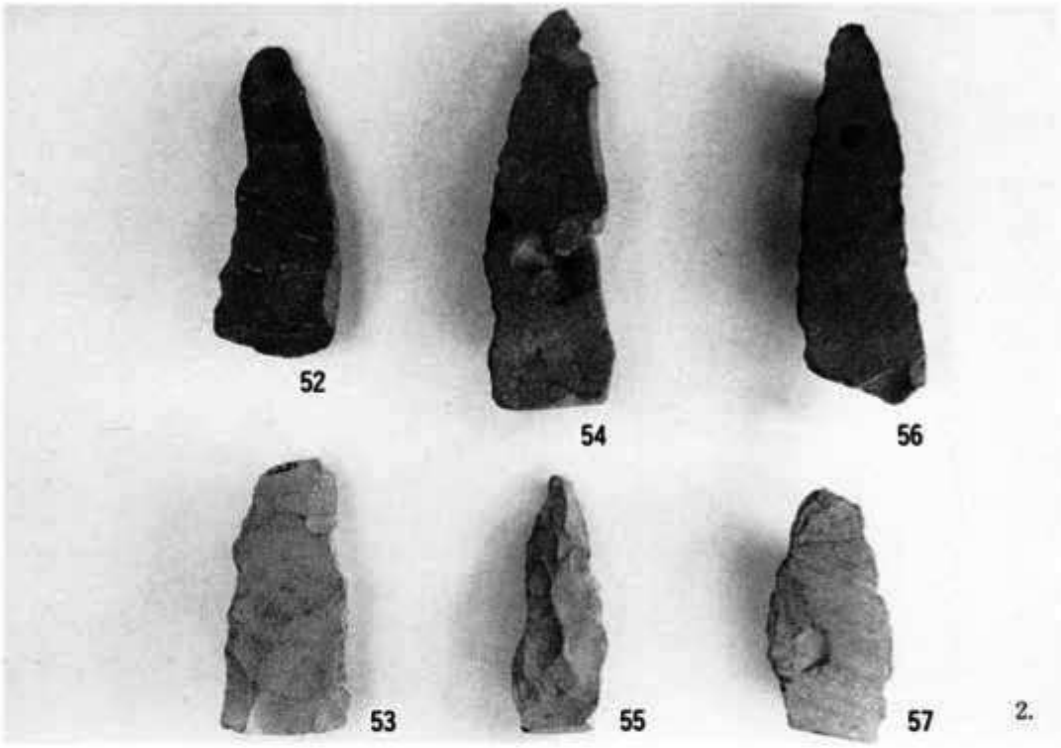
1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器



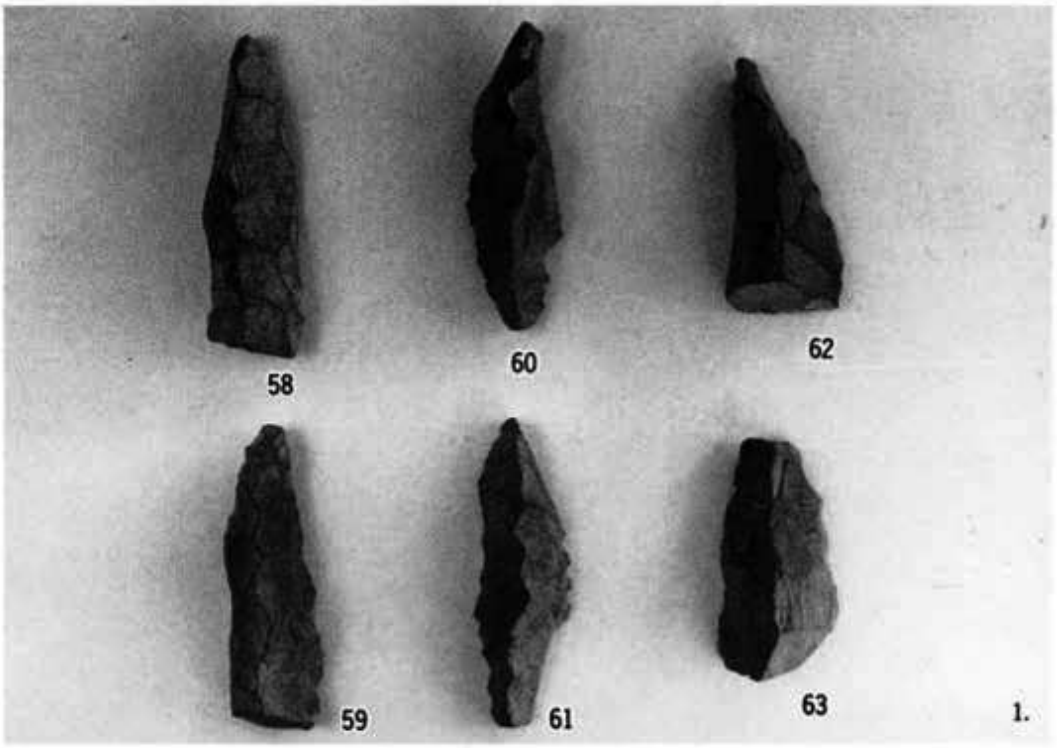


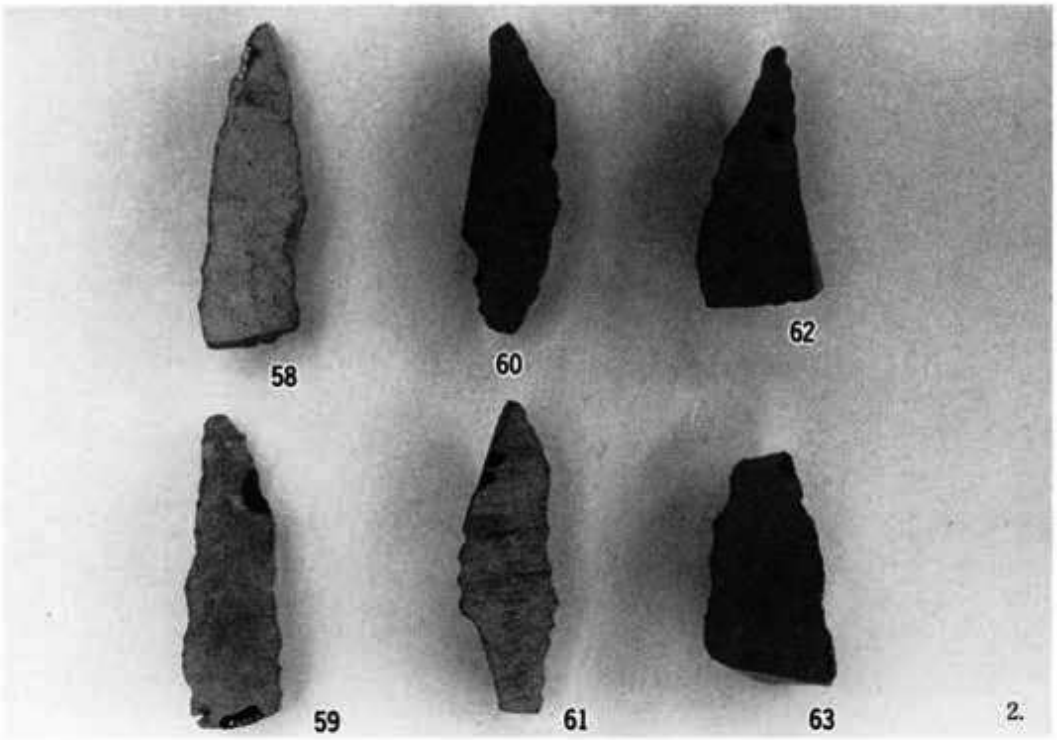
1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器



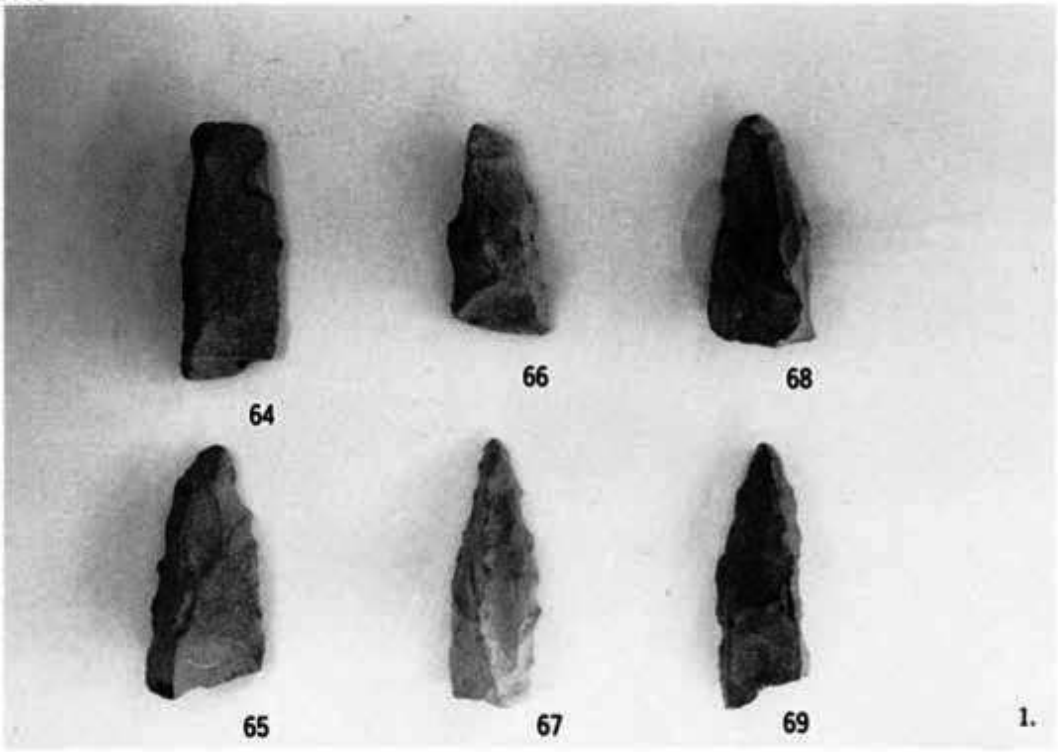


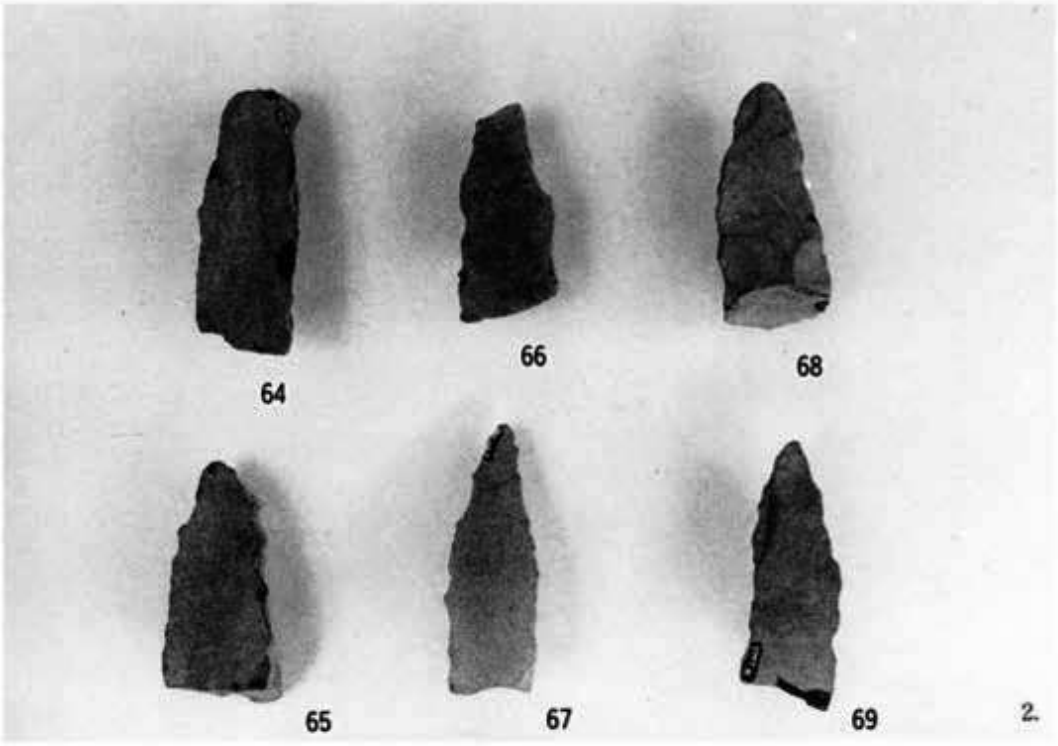
1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器



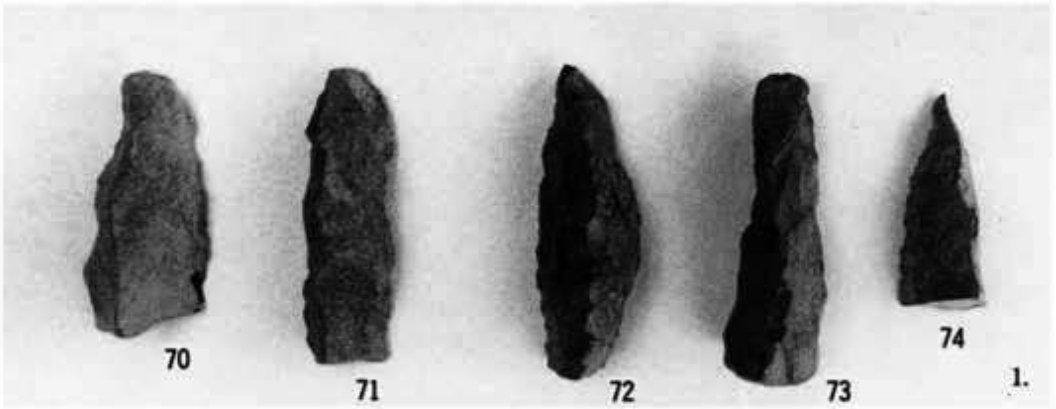


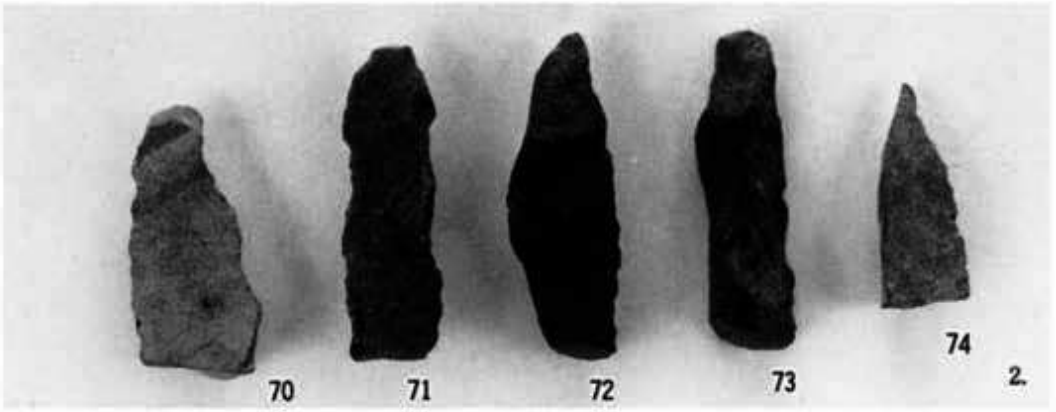
1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器



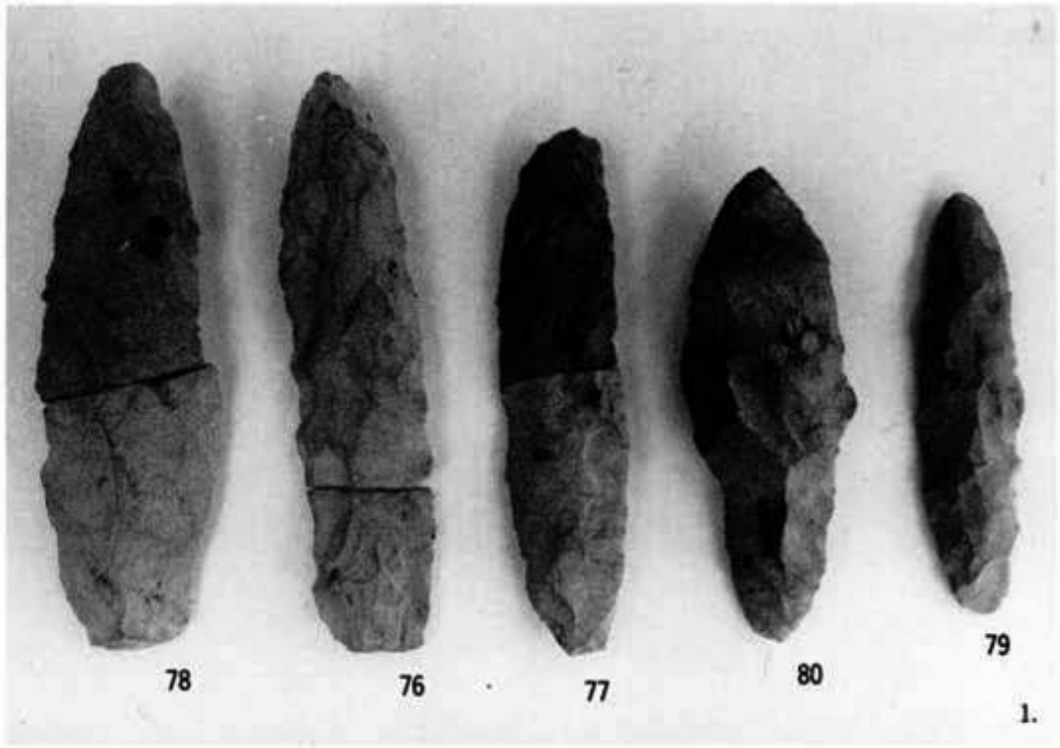


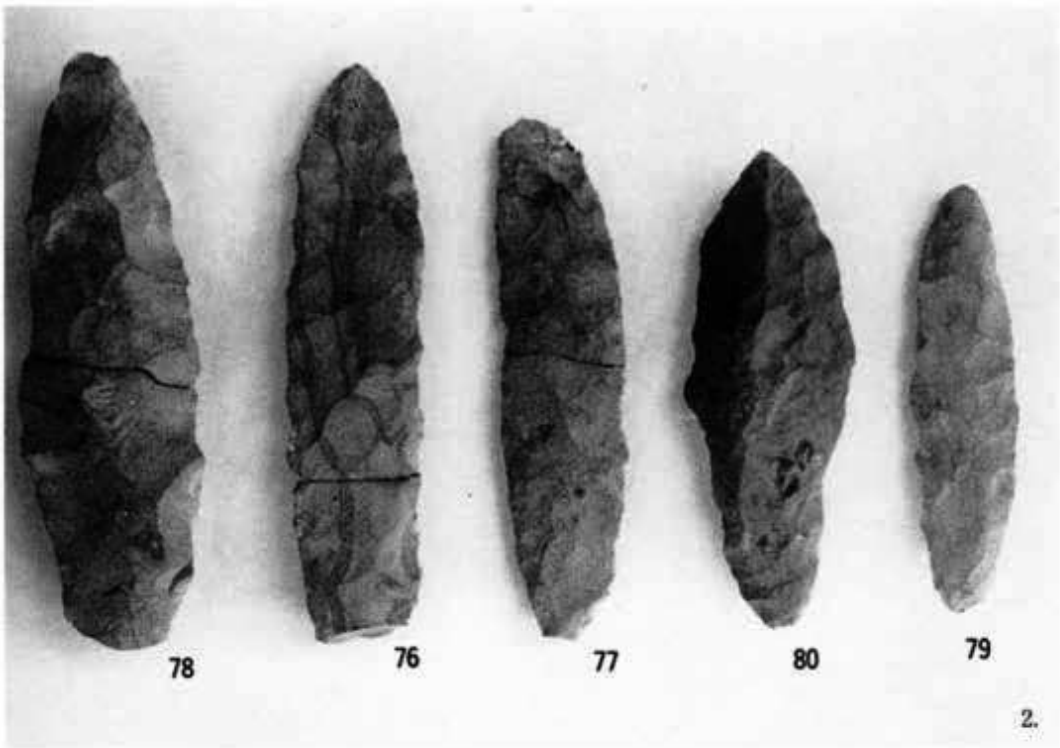
1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器



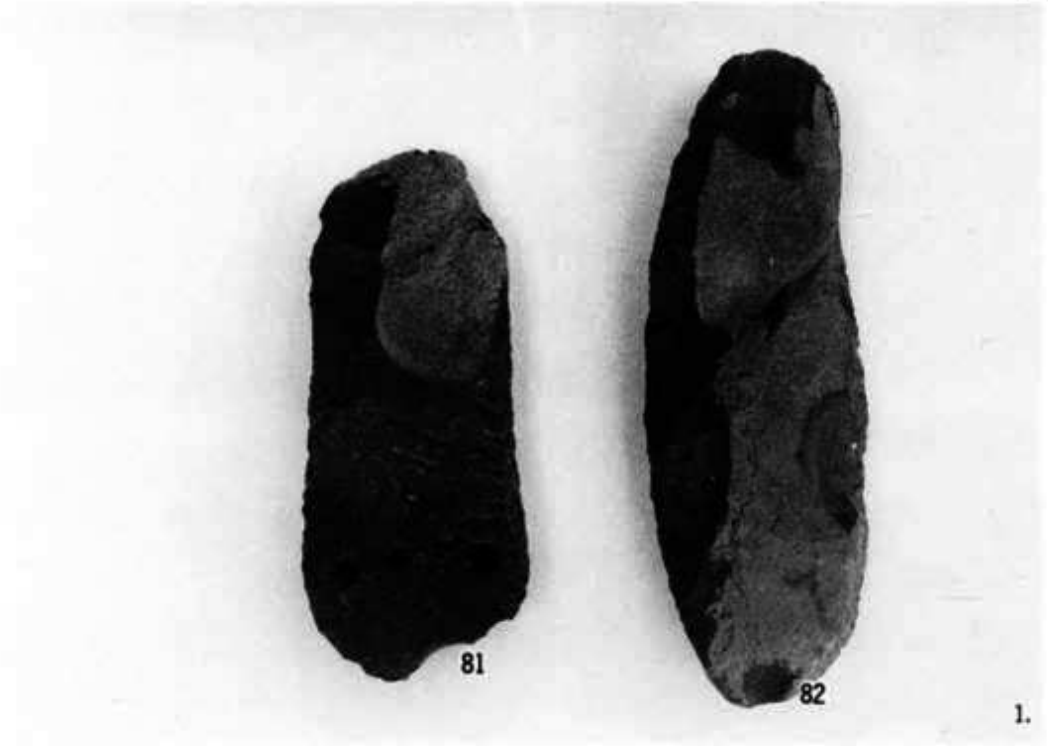


1. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
2. 長尾開拓遺跡出土船底形石器
3. 長尾開拓遺跡出土台形様石器
4. 長尾開拓遺跡出土台形様石器

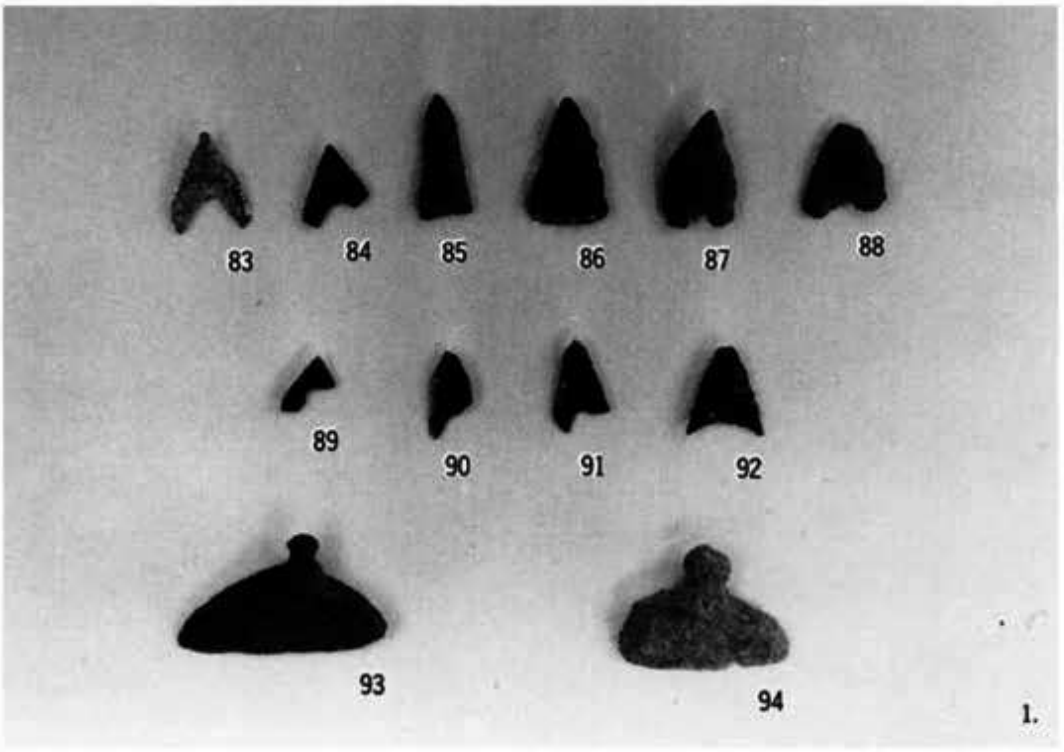


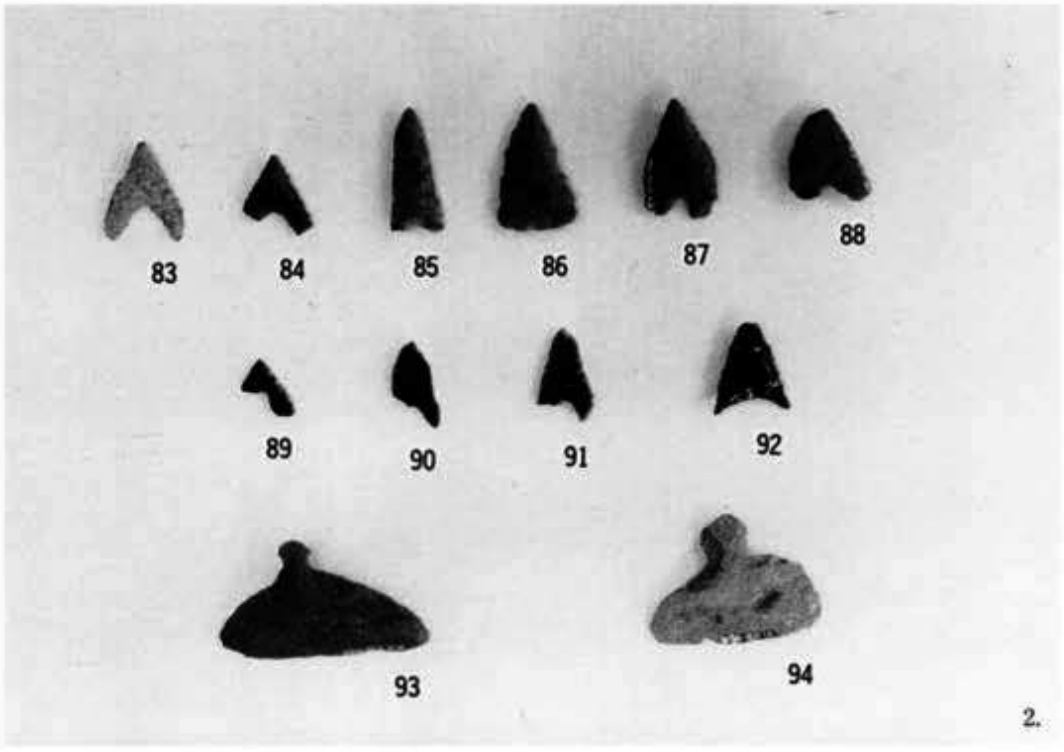


1. 長尾開拓遺跡出土尖頭器
2. 長尾開拓遺跡出土尖頭器



1. 長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧
2. 長尾開拓遺跡出土扁平打製石斧





1. 長尾開拓遺跡出土石鏃·石匙
2. 長尾開拓遺跡出土石鏃·石匙

佐賀県文化財調査報告書第88集

長尾開拓遺跡

九州横断自動車道関係
埋蔵文化財発掘調査報告書 8

昭和63年3月31日印刷
昭和63年3月31日発行

編集
発行 佐賀県教育庁文化課
佐賀市城内1丁目

印刷 福博印刷株式会社
佐賀市兵庫町修理田